

静岡県立美術館

第三者評価委員会評価報告書

令和5年11月

静岡県立美術館第三者評価委員会

目次

はじめに	1
------------	---

【報告編】

1 静岡県立美術館第三者評価委員会について	2
2 令和4年度 静岡県立美術館第三者評価委員会評価総括表	5
2-1 基本方針別自己評価	6

【資料編】

1 展覧会に関する自己点検評価表（令和4年度）	13
2 調査・研究に関する自己点検評価報告書（令和4年度）	17
3 定性評価の状況（令和4年度）	27
4 第三者評価委員会での意見と対応状況	42
5 設置者の取組状況	49

別添資料 静岡県立美術館評価業務報告書（令和5年3月）

静岡県立美術館5ヵ年計画

東アジア文化都市2023静岡県ガイド

ふじのくに文化教育プログラム

はじめに

本委員会は、評価を通じて静岡県立美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進することを目的として、平成18年9月に発足しました。

本委員会の使命は三つあります。第一は、県立美術館が自ら行う自己評価（一次評価）に対して、外部の視点から二次評価することです。第二には、美術館に対する県庁（本庁）の支援体制を委員会が独自の視点に立って評価することです。第三は、美術館の運営及び評価の方法について、次年度の改善に向けた提言をすることです。

本年度の活動としては、令和5年7月に第三者評価委員会を開催し、令和4年度の美術館自己評価に対する二次評価、設置者の取組に対する意見、今後の改善課題について討議しました。この報告書はその結果に基づき作成したものです。

本報告書が県庁と県立美術館のますますの発展と充実に資することを願います。

令和5年11月

静岡県立美術館第三者評価委員会

委員長 松本 透

1 静岡県立美術館第三者評価委員会について

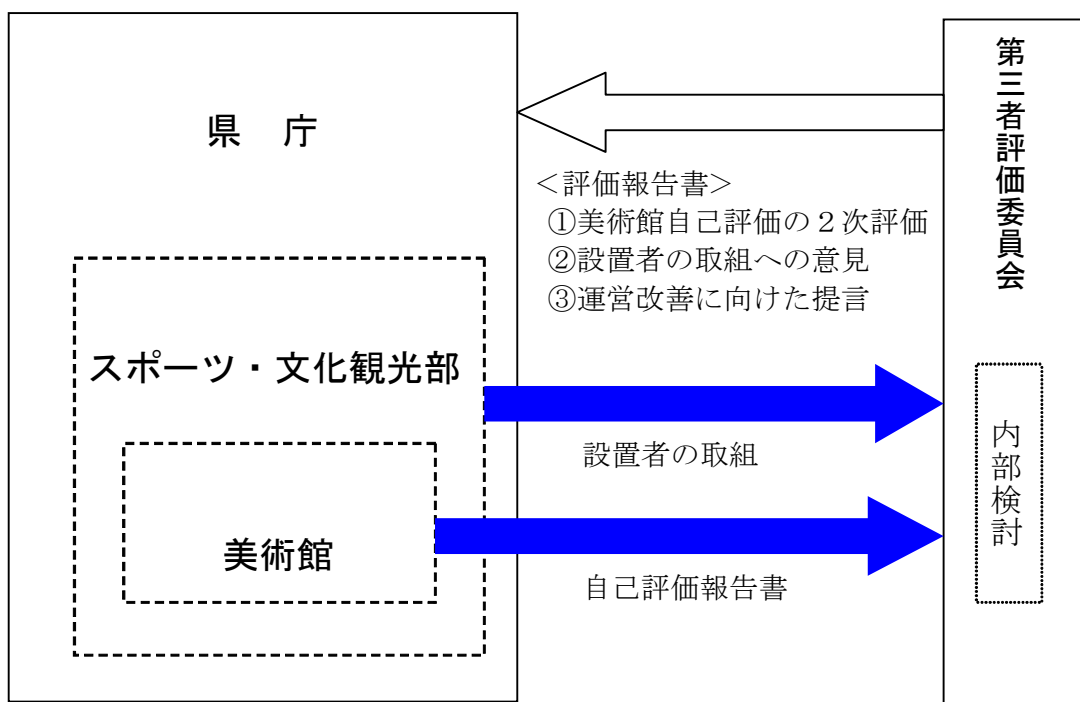
静岡県立美術館第三者評価委員会委員名簿（敬称略、五十音順）

	候補者	役 職
委員長	まつもと とおる 松本 透	長野県立美術館 館長
委員	いなにわ さわ こ 稲庭 佐和子	独立行政法人国立美術館本部 主任研究員
〃	おぎわら やすこ 荻原 康子	公益財団法人墨田区文化振興財団 専門員
〃	かいづか つよし 貝塚 健	千葉県立美術館 館長
〃	こいずみ まさや 小泉 順也	一橋大学 言語社会研究科 教授
〃	さくらい とおる 櫻井 透	静岡銀行株式会社 元会長
〃	たなか ひらき 田中 啓	静岡文化芸術大学文化政策学部 教授
〃	なかむら みほ 中村 美帆	青山学院大学 総合文化政策学部 総合文化政策学科 准教授
〃	まえだ しのぶ 前田 忍	サンクスループ株式会社 代表取締役

令和5年度の活動

会議名等	内容等
静岡県立美術館 第三者評価委員会	日時：令和5年7月28日（金）14:00～16:00 会場：静岡県立美術館 講座室 内容：（1）美術館自己評価結果について （2）設置者の取組みについて

評価システム全体図（第三者評価委員会の位置付け）



静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所管する。

- (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
- (2) 県庁の支援体制等に関する評価
- (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること

(委員)

第3条 委員は、知事が委嘱する。

2 委員の人数は、10名以内とする。

3 委員の任期は2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長1人を置く。

2 委員長は、知事が指名する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。

4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課内に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。

2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

(最終改正 令和2年9月30日)

【使命】＝基本理念(美術館のめざす姿)
 静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

基本方針	重点目標	計画(P)		実施状況(D)		評価(C)	
		評価指標	目標	実績	自己評価	第三者評価	
A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	1 収集方針に従い持続的に作品を収集します	1 作品購入件数・価格(件・千円)	— 千円	0 千円	【成果】 ・76点の作品をご寄贈いただき、コレクションを充実させることができました。 ・このうち70点の現代美術作品を寄贈くださった太田正樹氏(令和4年度没)からは、15年に及ぶ継続的なご寄贈により計106点の作品を頂戴しており、太田正樹コレクションは当館を特色づける重要な一画を占めることとなった。これまでの美術館および担当学芸員との信頼関係の賜物と考える。	・静岡県立美術館がコレクションを貸し出した展覧会を見たが、展覧会会場でとても目立っていた。広報とも関わるが、コレクションを他の展覧会に貸し出す時と、戻ってきた時の2回広報すると、それを見た人は、作品に対する印象が変わることはあるのかと思う。(小泉委員) ・大展示室展のような企画を10年後にも開催するために、備品を一気に捨てないで、古いものを片端でもとっておきたい。美術館活動をアーカイブ化していくという意識を持ち、何からそれがストックしていくことで、一つの展覧会につながっていく可能性はあると思う。(小泉委員)	
		2 作品寄贈件数・価格(件・千円)	— 千円	76 千円	1,099,050 千円		
	2 コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	3 収蔵品の公開件数(件)	380 件	393 件	・収蔵品による企画展を2本開催し(「絶景を描く 江戸時代の風景表現」、「近代の誘惑—日本画の実践」)、企画展を通したコレクションの魅力発信を重点的に行った。		
		4 収蔵品展のみの観覧者数(人)	10,000 人	8,296 人	・特集展示「綱川図と蘭亭曲水図」にあわせて関連シンポジウムを開催した。発端となった《綱川図巻》は、企画展開催を機にご寄贈いただいたもので、3年に渡る修理を経て適切な状態で展示ができるようになり、修理後の初公開を記念してシンポジウム開催に至ったものである。さらにこの成果は記録集として刊行する。調査研究・収集・保存・公開という美術館の根幹をなす活動を高いレベルで結びつけ、大きな成果を挙げたものといえる。		
		5 ロダン館の観覧者数(人)	60,000 人	51,380 人	【課題】 ・収集方針に則った継続的な収集活動のために、購入予算の確保が切実な課題である。 ・予算逼迫は修復予算の縮減にも表れているが、コレクションの適切な保存管理、後世への継承のために、メリハリの効いた予算の確保・執行の仕組みを整える必要がある。		
		6 収蔵品に関する調査研究の発表回数(回)	10 回	6 回			
		7 コレクションを活用した教育普及プログラム数(件)	15 件	16 件			
		8 修復したコレクションの件数・費用(件・千円)	4,000 千円	6 千円	496 千円		
		9 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—	—	別添		
B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	10 展覧会の来館者数(人)	118,000 人	98,861 人	【成果】 ・改修工事後の枯らし期間(化学物質の換気期間)を利用して、美術館の隠れた諸機能を紹介する「大展示室展」を開催。作品が一切無い変化する展覧会であったが、担当者の工夫と努力により美術館の知られざる一面を分かりやすく効果的に示し、好評を得た。 ・兵馬俑を中心とする中国古代の歴史・文化を紹介する展覧会を開催、中国文明に関心を持つ人々の期待に応えることができ、多くの観覧者数に結び付いた。全日時間制予約を導入することで、安全に来場者を迎えることができた。 ・先鋭的な現代美術作家鴻池朋子の展覧会を開催、展示室だけでなく美術館裏山をも活用した新たな視点に基づく展示によって、美術および美術館を問い直す刺激的な内容となった。 ・学芸員による調査研究の発表回数は増加傾向にある。	・コレクションを企画展で見せるというのは、素晴らしいことだと思う。日頃倉庫に眠っているものを、新しい光の下に見せるのはとても重要なことだし、そのお宝を持っている県立美術館なので、ぜひ今後とも有効にみせていただきたいと思う。(松本委員長) ・鴻池朋子展は、かなり美術館業界の中で話題になって、たくさんの方がSNSなどですごく良かったという発信がされていた。こういうタイプの現代作家と、ほぼこのためにこの場所のために作った展覧会みたいなものは、やっぱり新しい関心層を耕していくことになると思うので、毎年は大変だと思うのですが、必ず3年に1回ぐらいのペースでやってくるとすると、確実にその層のファンがこの美術館に関心を持つようになるのではないかなと思う。(稲庭委員)	
		11 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	4 回	4 回			
		12 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	90.0 %	91.8 %			
	2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	13 展覧会に対する外部評価【定性】	—	—	別添		
		14 調査研究の発表回数(回)	20 回	26 回	【課題】 ・予算削減のなか、魅力的な展覧会をいかに作っていくかは工夫のしどころであるが、充実した展示のためには適切な予算確保はどうしても必要である。本庁と連携してこの点の改善に努める。 ・コレクションを活用した企画展を2本開催できたことは当館のこれまでの収集活動の成果であるが、他機関からの借用に基づく展覧会を継続して開催し、そのノウハウを蓄積していくことも充実した展覧会企画のためには必須であり、そうした機会を作る必要がある。 ・企画力の強化のための研修・発表機会を今後とも積極的に作っていく。		
		15 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	12 回	11 回			
		16 他の美術館や大学と連携した取組件数(回)	3 回	3 回			
17 調査研究に関する外部評価【定性】	—	—	別添				
C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	18 学校教育と連携した取組数(件) うち特別支援学校と連携した取組数(件)	100 件	91 件	【成果】 ・感染症への対策をとりつつ、当初予定していた教育普及事業についてはすべてを無事に実施することができた。 ・一旦中止していた事業についても感染状況を注意深く見ながら少しずつ再開させることができた。 ・アーティストによるトークや専門性の高いシンポジウム、障害のある方を対象としたプログラムなど、多様な普及事業を工夫して実施した。 ・デジタルアーカイブを活用した学校向けオンラインプログラムについて、小中学校と連携して開発、試行を行い、5年度当初の本格稼働に結び付けた。	・静岡県は今年度、県立夜間中学を、磐田と三島で開学されたと思います。美術館から距離はあると思いますが、開学直後から落ち着くまでまだちょっと時間がかかると思いますが、今回開学したのは県立の夜間中学なので、ぜひ将来的に何かやれるといいなと思いました。(中村委員) ・ボランティアの仕組みを、1年単位での更新制にしたり、年齢を18歳から引き下げて、若い人が参加しやすいようにしたことは、すごくいいことだと思う。若い方にとっても美術館が自分たちの居場所であったり、自分たちの力が発揮できる場になるといいと思います。(萩原委員) ・学校教育との連携で、特別支援学校との連携の割合が高い事は良いことだと思う。特別支援学校は、普通学校より美術・図工の先生の配置が多いが、美術館に行くこと自体が選択肢にあまり入っていないので、それは選択肢に入りますよというのを美術館側が発信してあげると、結構行きたい先生はいると思う。特別支援学校の先生には、パブリックの場所の経験をさせたいということがあり、館内のレストランやショップなど社会体験として使われることが結構あり、美術館はすごく安全に社会を体験できるような場所として、もっと広がってほしいと思う。(稲庭委員)	
		19 鑑賞系プログラム数(件)	15 件	17 件			
		20 webを活用したプログラム数(件)	2 件	2 件			
		21 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	—	別添		
		22 講演会等の開催件数(回)	80 回	79 回	【課題】 ・アフターコロナにおける学校との連携について、元に戻すだけでなく、ウェブの導入や新たな実施方法での活用の促進など、学校とコミュニケーションを取りつつ推進していく。 ・学校向けオンラインプログラムの拡充を図るとともに、一般向けのプログラムについても整備し、代替手段としてではなくwebを積極的に活用した普及事業を進める。 ・合理的な配慮のもと幅広い利用者に安心して利用してもらえるよう、研修等で受入側の準備を整える。		
	2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	23 学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	50 回	67 回			
		24 館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	10 件	8 件			
		25 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を実施します	4 件	7 件			
	D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます	26 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	—		別添
			27 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	80.0 %	75.5 %		【成果】 ・本年度からデジタルアーカイブの公開を始め、コレクションおよび美術館の所蔵資料に関する情報公開について大きく前進させることができました。コンテンツが増えたためかウェブサイト全体のアクセス数も前年度より増加した。 ・県内大学への大学事務局を通したメール配信を行った。また大学への出講機会の増加に伴い展覧会情報の発信の機会を得た。
28 デジタルアーカイブによる情報発信 作品作家情報の公開・更新件数(件) 現代美術関連資料の公開件数(件) 図書情報の公開件数(件)			3,200 件 9,000 件 23,150 件	3,222 件 9,534 件 23,293 件	【課題】 ・デジタルアーカイブにおける図書情報の公開が一部に留まるため、データの整備と公開のための予算確保が課題である。現代美術関連情報については、ボランティアの尽力によりデータベースへの入力作業が進められており、今後とも連携を強化して推進していきたい。作品作家情報の更新も含めて、公開後のデジタルアーカイブの充実を日常業務に落とし込みながら継続的に進めていく必要がある。 ・SNSについては効果的な発信のための体制づくりが課題である。 ・広報体制の拡充は手つかずであり、各職員が業務の一部として実施している。戦略的に広報を行うには、専門的な知識を有した人材の活用が求められる。 ・コロナ禍で滞っていた観光業界等との連携について、観光需要の回復にあわせて推進していく必要がある。		
29 ホームページのアクセス件数(件)			1,000,000 件	1,240,277 件			
30 facebook、インスタグラム、ツイッターのビュー数(件)			1,000,000 件	719,846 件			
31 facebook、インスタグラム、ツイッターのエンゲージメント等の件数(件)			30,000 件	24,556 件			
2 観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組めます		32 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数(件)	7 件	7 件			
		33 教育機関への情報発信数(件)	7 件	3 件			
		34 広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	—	—	別添		
		1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	35 美術館利用者数(人)	200,000 人	167,009 人	【成果】 ・大勢の来館者を迎えた「兵馬俑と古代中国」展においても、全日時間制予約を導入し来館者の分散を図ることで、安全、快適な鑑賞環境を提供することができた。 ・中期維持保全計画に基づいて施設の改修・整備を適切に行った。 ・レストラン、ミュージアムショップに対する満足度は高い数値を維持している。 ・タカシマヤ文化基金の助成を獲得し、シンポジウムの成果を元にした記録集を刊行することができた。	・資料の中に、5ヵ年計画の内容について、令和4年度の実績がどう位置付けだったかという評価が見当たらないので、委員の方々が分かる形でこの評価委員会にも出した方がいい。5年後のこうあるべきだという姿形を皆さんでお決めになったわけですから、それに対して令和4年度の段階ではどこまで行ったのかという自己評価をして、分かるような形で表現していただけた方がいいと思う。(櫻井委員) ・5ヵ年計画は、今年が2年目で、来年度は中間年度になる。中間年度に向かって何か不具合はないかと、足りないことはないかというあたりは、来年度に向けて検討して欲しい。(田中委員) ・太田正樹さんのコレクションというのが、これまでにない規模の寄贈であったということで、そういったものに対してプレートを作成するなど、館内に明示をしないかというところが気になる問題。今後企業との連携も深まっていく中で、何かしらご協力いただいた企業に対して、その社の名前をどう出すか出さないかということも問題になってくると思う。(小泉委員)
			36 鑑賞環境に対する満足度(%)	90.0 %	85.3 %		
			37 レストランに対する満足度(%)	92.0 %	94.4 %		
38 ミュージアムショップに対する満足度(%)	97.0 %		97.1 %	【課題】 ・開館から35年が経過し、施設の老朽化が進行している。引き続き、施設の適切な維持管理に努めるとともに、中期維持保全計画に基づく改修を計画的に進める。 ・県内企業との関係強化のため、県経営者協会との連携を進め、館長および学芸員による会員向け講座を計画していたが、感染状況の悪化により中止となった。引き続き連携の維持・強化のための働きかけを行っていく必要がある。			
2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます	39 来館者のアクセス満足度 上段:公共交通機関利用 下段:自家用車利用	70.0 % 70.0 %	80.9 % 60.3 %				
	3 運営基盤を強化します	40 運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】	—	別添			

設置者の取組	取組の状況	第三者評価委員意見
・静岡県は、令和5年の東アジア文化都市として選定され、県立美術館の企画展やイベントについて、東アジア文化都市の祝祭プログラム(コア事業)として実施する。 ・県立美術館を初めとした県の文化機関が行う学校向け文化体験プログラムを「ふじのくに文化教育プログラム」としてまとめて冊子化して、学校現場に配布するとともに、校長会等の場で説明し周知している。 ・中期維持保全計画に基づいた改修工事(本館ファンコイルユニット更新など)を行っている。	・第1回の東アジア文化都市である横浜市は、その後も、日中韓の都市間交流事業をずっと継続している。東アジア文化都市を1年やって終わりにするのではなく、その先も見据えたことを、ぜひ美術館で考えていただけたらと思う。(中村委員) ・観光庁の直近の動きを言うと、インバウンドに特化した観光再始動という補助金が出ていて、300件ぐらい全国で採択がされている。国内のリストを見ると地域で協議会みたいなものを作って、普段見せることができないようなものを見せるというツアーを造成したり、高付加価値になるような企画を立てて、海外の人たちに1回来てもらったら多くのお金を支払っていただくような仕組みに対して国は今かなりお金を費やしている。静岡県でも、コンソーシアムを形成したりしながら、そういった国の申請をしたり、仕組みづくりなどを検討してみたいかがか。(前田委員)	

基本方針	A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します
------	----------------------------

計画(P)			実施状況(D) R5.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1	1 収集方針に従い持続的に作品を収集します	— 千円	0 件 0 千円		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度については、条例上の基金残高の制限もあり、作品購入は行わなかった。 寄贈によって76点の作品がコレクションに加わった。美術館および担当学芸員の日頃の真摯な活動が所蔵者の信頼を得、寄贈に結び付いたものと考えられる。 現代美術70点を寄贈いただいた太田正樹氏(令和4年没)からは、平成20年度以降、継続して作品を頂戴しており、受入総数は106点に及ぶ。近年は当館コレクションに欠けた部分を補うように作品を購入、寄贈くださっており、共にコレクションを育てることを通して美術館を支えてくださる稀有な存在であった。令和5年度収蔵品展のひと枠において「太田正樹コレクション」展を開催予定である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収集方針に則った作品の購入を継続していくことは、コレクションを基盤とした館運営のために必須であり、購入予算の確保が切実な課題である。 購入・寄贈いずれにおいても、作品の収集は、調査研究、保存、公開等、美術館の基礎的活動の積み重ねが結実してなされるものであり、日頃の活動を堅実に充実させていくことが重要である。
	2 作品寄贈件数・価格(件・千円)	— 件 — 千円	76 件 1,099,050 千円		
2	3 収蔵品の公開件数(件)	380 件	393 件	指標3 収蔵品展(155)・企画展(147)・移動美術展(45)+貸出(46)	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 所蔵品・寄託品を中心とした企画展を2本開催し、コレクションの価値の発見と発信を重点的に行った。 3年に渡る修理が完了した《綱川図巻》を公開し、あわせて本作にかかるシンポジウムを開催した。適切な修理を施すことにより貴重な文化財を後世へ継承し、その価値を広く発信する活動につなげられたことは大きな成果である。 教育普及プログラムにおいても、コレクションの活用を進めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品の保存・継承のために、メリハリのある修復予算の確保・執行が課題である。 コレクションにまつわる展示、保存、教育普及、調査研究といった諸活動は県立美術館の基盤を成すものである。重点目標2の充実を図り、継続的、効果的にコレクションの魅力を発信していくことで、作品収集の理解へとつなげていく。
	4 収蔵品展のみの観覧者数(人)	10,000 人	8,296 人	指標7 内訳は別紙	
	5 ロダン館の観覧者数(人)	60,000 人	51,380 人		
	6 収蔵品に関する調査研究の発表回数(回)	10 回	6 回		
	7 コレクションを活用した教育普及プログラム数(件)	15 件	16 件		
	8 修復したコレクションの件数・費用(件・千円)	4,000 千円	6 件 496 千円		
	9 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—	別添		

基本方針	B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します
------	--

計画(P)			実施状況(D) R5.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	10 展覧会の来館者数(人)	118,000 人	98,861 人	◆は、自主企画・企画参加型展覧会	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大展示室展」 通常、作品鑑賞に集中出来るよう隠してある、作品保全に関わる美術館の諸機能を、あえて前面に打ち出した展覧会であった。一般的には見ることが出来ないバックヤードやケースの裏側、様々な道具類や照明器具等は、多くのお客様に関心を以て迎えられた。展示の準備として、この美術館の設立経緯を当時の資料から探ることで、創設時の模型や文書等を再発掘、整理することが出来、これらの一部もご覧頂くことが出来た。美術館の機能、そして美術館建設に携わった先人が求めていたものを示すことで、美術館とは一体何であるのかという、根源的な問いを提示することとなった。美術作品が1点も無い展覧会であったが、来館したお客様には十分にお楽しみ頂けたと思われる。 ・「兵馬俑と古代中国」 古代中国の文化、歴史について、兵馬俑を中心とする様々な文物により紹介することができた。中国の考古をテーマとする企画は、当館にとっては18年ぶりの機会である。コロナ禍のため、全日予約優先制を導入し、来場者が集中することを避けたため来場者数に懸念があったが、幅広い年代層の約6万3千人の来場があった。 ・「絶景を描く—江戸時代の風景表現」 館藏品と寄託品の中から風景を題材とした日本画作品を選び、時代を追って展示することで、その魅力や歴史的意義を改めて紹介することができた。また、展示室では、出品作品の一部について、描かれた景勝地の写真と比較を交えて解説し、風景がどのように絵画化されているのか明らかにすることを試みた。 ・「みる誕生 鴻池朋子展」 研究活動評価委員によるレポート、アンケート結果を見ると裏山での展示が高く評価されている。入場者を分析すると、高齢者の割合が、当館の一般的な展覧会に比べ少なく、その影響からか平日の来館者数がいまひとつ伸びていない。逆に休日は家族や親子づれの来館者が多く、ロダンウィークのマルシェと重なった開幕初日ははじめ週末、祝日は200人を超えにぎわった。『美術手帖』2023年1月号で鴻池朋子特集が生まれ、同号が発行になってからの入館者増が追い風となって、目標観覧者数の8000人を超えることができた。 ・「近代の誘惑—日本画の実践」 所蔵品および寄託品によって幕末から昭和にいたる日本画の変遷を紹介した。作品本位に語ることを重視しつつ、ポイントとなる用語の解説を丁寧に加えることで、美術や絵画の仕組みが作られるのに伴いめまぐるしく変化していく近代の日本画界の様相を分かりやすく示した。これまで公開機会の少なかった寄託品を努めて取り上げ、広く紹介する機会とした。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大展示室展」 前年度工事後の枯らし期間(化学物質の換気期間)を活用した展覧会であり、同様の機会を持つことは困難かと思われるが、より小規模な展示であれば、美術館機能の周知という点で、意義があると思われる。美術館建設時の資料は、今回展示に関わる部分のみ整理に着手出来たものの、更なる調査と資料保存の対策が望まれる。 ・「兵馬俑と古代中国」 収支は最終的には黒字となったが、予算が非常にタイトに組まれており、執行時には多大な努力を要した。多額の支出と収入を伴う大規模な企画展については、十分に精査して予算組みを行う必要があるだろう。また、静岡会場の実行委員会立ち上げのための会合から5ヶ月後に開幕という準備期間は短く、広報や展示プランを検討する時間は余裕を持たせた方がよいと考えられる。 ・「絶景を描く—江戸時代の風景表現」 入館者数が伸び悩んだ。現在も観光地として親しまれている場所を描いた作品も展示されることから、県内の関係する観光施設などを中心に、広報物を追加送付していたが、想定していたほどの効果はなかったとみられる。県外からの来館の割合が少なかったことから、SNSをはじめインターネットを介した周知方法を積極的に活用すべきだった。 ・「みる誕生 鴻池朋子展」 鴻池朋子は美術に詳しいコア層には良く知られているが、静岡の一般の美術館来館者にはまだ広く知られていないとは言えない。コアなファン層をひきつけながら、潜在的に関心を持ってもらえそうな層にむけて、美術館がどのような手段で情報を届けるのかは永遠の課題である。今後、鴻池のような先鋭的な作家の展覧会を行い安定した来館者数を獲得するためには、新聞、雑誌とともに、SNSの発信力やロコミの影響力の大きさを再認識して、未来館者への訴求力を高める戦略を練る必要がある。 ・「近代の誘惑—日本画の実践」 予算上の問題により図録の作成ができなかった。展示機会の稀な作品も多く含まれたことから図録購入の希望も多く寄せられており、この点は大きな課題である。
	◆大展示室展(39日間)		7,116 人		
	兵馬俑と古代中国(64日間)		63,254 人		
	◆絶景を描く—江戸時代の風景表現(39日間)		4,721 人		
	◆みる誕生 鴻池朋子展(54日間)		8,642 人		
	◆近代の誘惑—日本画の実践(32日間)		5,461 人		
	収藏品展(235日間)		8,296 人		
	移動美術展 (富士市文化会館ロゼシアター 9日間)		1,371 人		
	11 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	4 回	4 回		
	12 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	90.0 %	91.8 %		
13 展覧会に対する外部評価【定性】	—	別添			
2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	14 調査研究の発表回数(回)	20 回	26 回	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標14は、論文発表等のほか大学や他館への出講を含む。前年度に比して増加しており、他機関と連携しながら学芸員の調査研究の成果について広く発表の機会を作ることができた。 ・指標16は、①特集展示「綱川図と蘭亭曲水図」関連シンポジウムの開催、②静岡県博物館協会事務局としての活動、③静岡県立大学の展覧会見学事業の実施を計上した。①について、当館におけるシンポジウム開催は数年ぶりのこととなるが、大学や他館の第一線の研究者を招聘した充実した内容となり、多くの聴講者を得て、成果を挙げた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部セミナー・研修等の実績は横ばいが続いている。対外的な発表の機会だけでなく、企画力の底上げのためにも、多様な研修の機会を増やしたい。 ・他の美術館や大学と連携した取組み件数については、例年の活動だけでなく、シンポジウム開催のように新たな取組みを継続して実施していくための日頃の継続的な連携推進が必要である。 	
	15 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	12 回	11 回		
	16 他の美術館や大学と連携した取組み件数(回)	3 回	3 回		
	17 調査研究に関する外部評価【定性】	—	別添		

基本方針	C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します
------	--------------------------------------

計画(P)			実施状況(D) R5.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	18 学校教育と連携した取り組み数(件) うち特別支援学校と連携した取り組み数(件)	100 件 10 件	91 件 10 件		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の対策を行い、全ての事業を予定どおり実施できた。 当初計画にはなかった展覧会関連普及事業や、館外でのちよこつと体験が加わり、一般向けのプログラム数と参加者数が当初の計画、見込みより多くなった。幅の広いプログラムを提供することで、展覧会の理解にもつながったと思われる。 昨年度実施のなかったロダンウィークのコンサートも開催し、他のイベントもあわせ、以前のような活気あるロダンウィークとなった。 webを活用したプログラムとして、オンライン鑑賞教育プログラムを2本開発した。来館が容易ではない遠方の学校においても利用が望まれる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般向けの事業は参加者数が多かったが、学校・園向けの事業は、人数で言えば振るわなかった。コロナ禍により、美術館が対応可能な人数が制限され、学校・園の利用にとって障壁となっていたのかもしれない。再び利用を促進し、連携の接点を生み出すよう、様々な機会を活用する必要がある。 粘土貸出の利用人数は予定の2倍を超えたが、アートカードの貸出が急減している。コロナウイルスの5類移行に伴い、貸出の間隔をあける必要がなくなるため、利用を呼びかけていきたい。 webを活用したプログラムについては、これからも要望はあると考えられ、引き続き拡充できるよう体験講座や教材作成のための予算獲得が必要である。
	19 鑑賞系プログラム数	15 件	17 件		
	20 webを活用したプログラム数(件)	2 件	2 件		
	21 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	別添		
2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	22 講演会等の開催件数(回)	80 回	79 回	<p>指標22 指標23(67)+特別講演会・シンポジウム(4)+ボランティア等によるギャラリーツアー(6)+演奏会等(2)</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座等のイベントについては、各担当が様々な立案し、当初予定より実施回数が増加し、参加者数も多かったと言える。企画展ごとに館長による美術講座を開催したほか、アーティストを呼んでのトークや、専門性の高いシンポジウムなど、さまざまな事業が開催された。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるイベント中止はなかった。また、コロナ禍における講師のオンライン対応が実施方法の一つとして定着しており、1本はオンライン対応となった。 フロアレクチャーが全館で再開され、混雑が予想される兵馬備展を除く展覧会で実施された。 ギャラリーツアーが2月より再開され、6回の実施があった。 館内空間を活かした催事では、ちよこつと体験をはじめ、C-1でも述べたロダンウィークでのコンサートや、展示関連普及事業の「筆談ダンス」、本年度より開設された情報コーナーでの茶会などを実施することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も様々なターゲットに向けた企画立案が求められ、幅広いイベントがバランス良く配されるよう、検討、実施する必要がある。 コロナ禍という外的な要因とはいえ、オンライン対応のノウハウを得た。今後はポジティブな実施手段として、オンラインを利用する。 ボランティアの任期を1年、更新制としたため、今後ギャラリーツアー担当ボランティアのノウハウや知見の蓄積が保持されるか、注視したい。
	23 学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	50 回	67 回	<p>指標23 美術講座(13)+フロアレクチャー(24)+オリエンテーション(19)+出張美術講座(6)+展示関連普及事業(5)</p>	
	24 館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	10 件 1,000 人	8 件 1,598 人	<p>指標24 ちよこつと体験(2件908人)+ロダン館コンサート(2件230人)+ロダンウィーク・絶景考Ⅱクイズラリー(1件320人)+鴻池朋子展・筆談ダンス(1件40人)+ボランティアによる情報コーナーのお茶会(2件100人)</p>	
3 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	25 地域住民等と連携した取組数	4 件	7 件	<p>指標25 ・ボランティア活動 ・館内レストランとの連携 ・「文化の丘フェスタ」クイズラリー ・県立大学と連携した「ムセイオン静岡」の講義 ・草薙商店会との連携 ・一般社団法人「草薙カルテッド」との連携 ・美術館ボランティア「地域連携・草薙ツアー」グループとのイベント企画</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動については、コロナ禍で活動を休止していたギャラリーツアーグループ、学校グループは、日本博物館協会による9月の予防ガイドラインの変更を受け、活動が可能となった。 館内レストラン「ロダンテラス」と連携し、県産食材を使用したメニューの提供や料理教室を行った。 地域に密着したイベントとして、草薙商店会が作成する動画作成に参加し、協力した。 「草薙カルテッド」の会員向けニュースレターへの美術館情報を掲載した。 美術館ボランティア「地域連携・草薙ツアー」グループと連携し、美術館の茶畑で採れたお茶を使用したお茶会を開催した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> アフターコロナを見据えて、観光業界やアーツカウンシルしずおかとの連携など、地域連携の在り方を引き続き検討していく必要がある。
	26 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添		

基本方針	D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます
------	---------------------------------

計画(P)			実施状況(D) R5.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1 広報戦略を策定し、 広報の質を高めます	27 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合	80.0 %	75.5 %		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度当初からデジタルアーカイブを公開し、大きなトラブルもなく運用することができている。新収蔵品の数が多かったものの、一括登録機能を用いて、迅速に作品情報を公開することができた。管理面でも新項目を設けるなどの微調整を行い、作業のしやすい環境を整備している。 新たに受け入れた図書についても、速やかに登録・公開を行い、順調にデータ数を増やしている。管理面では、雑誌やその他の定期刊行物の目録を新たに登録し、書庫内の資料を一元的に管理するシステムが構築できた。 前年度から始まったボランティアによる現代美術関連資料の選及入力作業が進み、前年度末から約1.5倍に増加し、10,000件の大台に迫っている。 ウェブサイト全体のアクセス数は、デジタルアーカイブが公開され、コンテンツも増えたため、前年度よりも増加した。 SNS別にみるとfacebookとこれに連動するInstagramのリーチ数は増加し、後者はエンゲージメント数も増加している。一方、Twitterはインプレッション数、エンゲージメント数どちらも減少している。ただし、前年度の数字の多くは、エジプト展開催期間中、混雑状況や当日整理券配布告知を頻りにツイートしたことが要因とみられる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、図書情報の追加校正や、現代美術関連資料の選及入力が課題となっている。後者については進展があったが、全件の入力が完了するまで数年を要するとみられる。 多角的な情報発信のため、収蔵品等検索システムは当館だけでなく、他機関のシステムと横断検索を可能とするなど、外部との連携体制を模索する必要がある。 広報については、広報アドバイザー等の専門的な知識を有した方々からの助言等を積極的に取り入れ、個々の職員の広報スキルを底上げし、効果的な広報を行っていく必要がある。また、高度に情報化された現代社会において効果的な広報を行うには専門的な人材が不可欠であり、その適切な配置について県庁と連携して取り組んでいく。
	28 デジタルアーカイブによる情報発信 作品作家情報の公開・更新件数(件) 現代美術関連資料の公開件数(件) 図書情報の公開件数(件)	3,200 件 9,000 件 23,150 件	3,222 件 9,534 件 23,293 件	公開・更新件数 作品作家 288件 現代美術関連資料 3,230件 図書 642件	
	29 ホームページのアクセス件数	1,000,000 件	1,240,277 件		
	30 facebook、Instagram、Twitterのビュー数(件)	1,000,000 件	719,846 件	facebook ページリーチ数 79,338 インスタ ページリーチ数 10,046 Twitter インプレッション数 630,462	
	31 facebook、Instagram、Twitterのエンゲージメント等の件数(件)	30,000 件	24,556 件	facebook エンゲージメント数 2,373 インスタ エンゲージメント数 4,723 Twitter エンゲージメント数 17,460	
2 観光業界等と連携した 新たな広報チャン ネルの開拓に取り組 みます	32 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数	7 件	7 件	<p>指標32</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターにおける講座で紹介 大学の講義内で紹介 旅行会社による美術館めぐりツアーへの協力 出品作品をモチーフとした創作和菓子を用いたイベント実施 館内レストランにおける展覧会関連メニューの提供3件 <p>指標33</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学の講義内で紹介 事務局を通じた県内4大学の学生への広報2件 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響により県観光協会主催の教育旅行説明会等のイベントの実施が困難となり、来館者増加に向けた積極的な広報連携取組を行うことが難しかったが、静岡文化芸術大学、静岡大学等での講義内で展覧会の紹介をした。 指標33については、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、静岡産業大学、常葉大学の学生に対し、事務局を通じて一斉メールで企画展の内容を広報した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> アフターコロナを見据えて地域連携及び観光業界との連携を模索し、来館者増加に向けた美術館の発信力を更に高めることが必要である。
	33 教育機関への情報発信数(件)	7 件	3 件		
	34 広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	—	別添		

基本方針	E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。
------	--------------------------

計画(P)			実施状況(D) R5.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	35 美術館利用者数	200,000 人	167,009 人	令和4年度は次の工事(小規模を除く)を行った。 ・監視カメラ設備更新工事 ・トイレ洋式改修工事 ・本館外壁タイル(南面)修繕工事 ・本館軒天井修繕工事 ・本館石畳歩道修繕工事 ・本館プロムナード柵修繕工事 ・本館プロムナード屋外照明更新工事 ・本館整流器盤他更新工事 ・本館ファンコイルユニット更新工事 ・本館レストラン冷凍冷蔵庫更新工事 ・本館レストラン給水配管更新工事 ・ロダン館天井漏水修繕工事 ・ロダン館遊歩道外灯設置工事 ・ロダン館1階ホール照明更新工事	【成果】 ・新型コロナウイルスの影響などにより、「美術館利用者数」は目標を達成することができなかったが、令和4年6月から令和5年1月までの間の時間制予約の導入により来館者の分散を図るなど、感染防止対策の徹底と鑑賞環境の改善に努めた。 ・令和4年度は1ヶ月間休館して中期維持保全計画に基づく工事を行った。監視カメラの更新で館内をより鮮明に監視できるようになり、防犯体制が強化された。トイレ洋式改修工事を行い、館内の全てのトイレが洋式化された。ロダン館1階天井ホールの照明をLED化し、より快適な鑑賞空間となった。また、老朽化していたレストランの給水配管及びバックヤードのファンコイルユニット等を更新した。 その他、遊歩道の街灯や石畳、プロムナードの柵等、屋外設備の修繕等も行った。 ・レストランの満足度は、令和3年度の92.4%から94.4%に上がり、目標を上回った。食材の高騰やコロナによる人員不足もある中、ガストロノミー・ツーリズム事業により県産材を使用した特別メニューを提供するなど工夫を図った。 ・ミュージアムショップの満足度も令和3年度と同様97.1%であり、目標を上回った。これは、企画展に合わせて商品の品揃えやレイアウトを工夫していることの成果であると考えられる。 【課題】 ・開館から35年が経過し、施設の老朽化が進行している。引き続き、施設の適切な維持管理に努めるとともに、令和2年度に策定した中期維持保全計画に基づく改修を計画的に進めていく必要がある。 ・今後も安心して来館していただける環境を整備する必要がある。 ・レストラン、ミュージアムショップの運営は、業者に委託しているが、美術館としても、来館者のニーズの把握に努め、引き続き高い満足度を維持していく必要がある。
	展覧会観覧者数		98,861 人		
	教育普及プログラム参加者数		9,433 人		
	ミュージアムコンサート入場者数		230 人		
	県民ギャラリー入場者数		27,447 人		
	講堂入場者数		4,063 人		
	レストラン利用者数		9,216 人		
	ミュージアムショップ利用者数		16,655 人		
	図書閲覧室利用者数		1,104 人		
	36 鑑賞環境に対する満足度	90.0 %	85.3 %		
37 レストランに対する満足度	92.0 %	94.4 %			
38 ミュージアムショップに対する満足度	97.0 %	97.1 %			
2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます	39 来館者のアクセス満足度 ※上段: 公共交通機関利用 下段: 自家用車利用	70.0 % 70.0 %	80.9 % 60.3 %	【成果】 ・当館への利用交通機関で最も多い自家用車でのアクセス満足度は、60.3%と目標の70.0%には達しなかったものの、昨年度の55.7%から約5%向上した。 ・来館者が多く見込まれた「兵馬俑展」では、駐車場待ちによる交通渋滞を招かないよう、交通誘導員の配置や隣接する県立大学の職員駐車場の借用などの対応を行った。 ・公共交通機関を利用する来館者の問い合わせには、「JR草薙駅から運行する100円バスを利用するのが便利であること」の周知に務めた。 【課題】 ・自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの収容台数が約400台と限られていること、近くの駐車場から満車になるため、離れた駐車場になると美術館までの徒歩区間が長く、登り坂であることがアクセスに満足できない要因になっている。 ・自転車、バイクなどの交通手段への対応が十分とは言えず、駐輪場の整備が望まれる。	
40 運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】	—	別添			
3 運営基盤を強化します	40 運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】	—	別添	【成果】 ・令和4年3月から、県内企業との関係強化を目的として、静岡県経営者協会と企業連携について協議を開始し、美術館の年間スケジュールや企画展のちらしを全会員に配布した。秋に予定されていた館長および学芸員による会員向け講演会は感染状況の悪化により中止となったが、令和5年度は館長がビジネスとアートに関する講演を行う予定である(計3回)。 ・「鞆川図と蘭亭曲水図」関連シンポジウムおよび記録集の刊行は、助成金の獲得により充実を図ることができた。 【課題】 ・国や財団法人からの補助金、民間企業からの協賛金、ふるさと納税を活用した企業や個人からの寄附金など外部資金の確保に向け、積極的に動いていく必要がある。 ・県内企業に社員教育や複利厚生、顧客へのサービス向上のために、美術館を活用してもらい、企業の企画展チケット購入や寄附に繋げていく必要がある。	

評価指標7、18、19内訳 教育普及プログラムの実績

事業名	評価指標7	評価指標18			評価指標19
	コレクション活用プログラム	学校教育と連携した取組数	人数	うち特支と連携した取組数	鑑賞系プログラム
特別講演会			370		○
美術講座	○		682		○
フロアレクチャー	○		340		○
ギャラリーツアー	(中止)→○		45		(中止)→○
オリエンテーション ※人数は学校以外団体も含む			735		○
ちよこつと体験	○		1240		
創作週間			392		
実技講座	○		41		○
えのぐ開放日			186		
ねんど開放日			341		
わくわくアトリエ	○		28		○
夏休み子どもWS			10		
ロダン館デッサン会	○		339		○
ロダン館普及事業	○		481		○
タッチツアー	(中止)		-		(中止)
地域連携事業			100		
展覧会関連普及事業(コンサート等)		1	424		○
出張美術講座	○	5	305	0	○
展覧会・収蔵品関連普及事業及び美術館活用事業、他館連携事業(フェス)	○		-		
ねんど教室		13	322	1	
えのぐ教室		23	474	3	
音のかけら	○	0	0	0	○
ロダン館デッサン実習	○	5	87	0	○
ロダン館鑑賞、ななふしぎクイズ	○	7	175	2	○
美術館の秘密を探れ		2	35	0	
学校向けボランティアスタッフとの鑑賞	(中止)→実施無		0		(中止)→実施無
職場体験、インターンシップ ※延べ人数		1	3	0	
粘土貸出		14	1218	3	
レプリカ貸出	○	10	665	1	○
アートカード貸出	○	6	337	0	○
教員研修	○	4	58	0	○
	16	91	9433	10	17

資料編

展覧会に関する自己点検評価表（令和 4 年度）

- 1 絶景を描く－江戸時代の風景表現－
- 2 みる誕生 鴻池朋子展
- 3 近代の誘惑－日本画の実践

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	絶景を描く—江戸時代の風景表現—
------	------------------

期 間	9月10日(土)～10月23日(日) (38日間)
場 所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	浦澤倫太郎
------	-------

学芸員の企画への参加の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
マスコミ等による共催の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無	巡回の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無

記入日	企画	令和4年4月1日
	実績	令和5年12月20日

企画		実績・検証	
目的・内容	<p>【内容】 古くから和歌に詠まれてきた名所を題材にした作例、関西の南画家たちによって試みられた各地の名勝を理想化する表現、関東の画家たちが中心となって追究した迫真的表現など、時代を追いながら、風景表現の多様な展開を辿る。</p> <p>【目的】 江戸時代の風景表現の特色を、時期や画派などによる特色を検証する。そして、静岡県各地の景勝地が、世に広く浸透し、絵画の題材となっていた歴史をひも解く。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示された富士山を題材にした絵画の種類が少ない。画面形状が縦長の富士山図をもっと展示していたら、非常にワイドな画面を持つ原在正の《富士山図巻》の特色がより際立ったのではないか。 ・江戸時代の風景表現に絞った展示は貴重。在正の《富士山図巻》の展示はよかった。 ・小冊子をもっとページ数を増やし、内容を充実させた方がよかった。 	
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 江戸時代に育まれた豊かな風景表現の諸相を提示する。更に、「東西の風景」という収集方針に基づいて形成されてきた、当館コレクションの意義を改めて紹介する。そして、絵画の題材となった静岡県の景勝地の歴史と魅力を広く知らしめる。</p> <p>【ターゲット】 江戸時代の絵画作品が中心となるので、日本美術愛好家がメイン層となる。また描かれた題材から、旅行や登山を好む人なども興味を持つ可能性がある。</p>	<p>【アンケートにみる特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答の総数が少ないが、展覧会に対する満足度は86%程度であった。 ・来館者の居住地は、静岡市内を中心とした県内が80%、②回目以上の人々も概ね80%であり、更に来館契機では「当館にいつも来ているから」という選択肢が50パーセント弱を占め、リピーターの観覧が多かったことがうかがわれる。 ・展示についてはパネルで示した現代の風景との比較を評価する意見があった。 ・解説の文字を大きくしてほしいという声に加え、画中の賛文等についても書き起こしたうえで、読み下し文を添えてほしいという要望があった。 ・環境に関する感想が多く、作品保護のため照明を絞ったこともあり、作品の細部が見にくいという意見もあった。また館内が静かであったためか、空調音が気になるという声が散見された。 	
指標(数値目標)	観覧者数見込8,000人	観覧者数4,721人	
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 8,800千円 ・歳入 2,794千円 ・特財率 31.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 4,355千円 ・歳入 1,590千円 ・特財率 36.5% 	
広報戦略 主な取組	県内の景勝地や観光施設や、富士山登山口など、描かれた風景に興味を持ちそうな人々が訪れそうな場所にポスター、チラシ類を集中的に送付した。	観覧者数は目標には届かなかった。広報に使える予算には限りがあったものの、ほとんど手が回らなかったSNSをはじめとしたオンラインでの情報発信に、もっと力を入れるべきであった。	
自己評価 今後の課題	<p>コレクションの特色もあり、富士山を題材とした作品の比重が増えてしまった。もっと幅広く、日本各地の風景を取り上げたほうが、風景表現の展開をより客観的に見せることができるのはもちろんのこと、更に広範な地域の人々に、風景表現への興味を喚起できたのではないかと感じる。また、作品によっては、展示に向けた調査研究があまり進められなかったものもあった。事前により長い時間をかけて準備を行い、作品に対する基礎的な知見を深めてから展示に臨むべきであった。またそうすれば、小冊子もより充実した内容にすることができたと思われる。解説文をはじめ、文字が小さくて読みにくいという意見も聞かれ、読みやすいよう、大きなパネル類を用意するなど、幅広い客層にとって快適に鑑賞できる環境の実現にも注意を払った方がよかった。</p>		

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	みる誕生 鴻池朋子展
------	------------

期 間	令和4年11月3日(木・祝)～令和5年1月9日(月・祝) (54日間)
-----	-------------------------------------

場 所	静岡県立美術館第1～6展示室
-----	----------------

担当者名	川谷承子
------	------

学芸員の企画への参加の有無	有・無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有・無
---------------	-----	-------------------------------	-----

マスコミ等による共催の有無	有・無	巡回の有無	有・無
---------------	-----	-------	-----

記入日	企画	令和4年4月1日
	実績	令和5年3月31日

企画		実績・検証	
目的・内容	<p>【内容】 鴻池朋子は、絵画、彫刻、パフォーマンス、絵本、手芸、アニメーションなど多様なメディアと、動物の毛皮や皮など有機的な素材を画材として取り込み、インスタレーションを発表してきた。海や厳冬の山においては、天候や時間をも巻き込んだサイトスペシフィックな作品を展開し、近現代における芸術の根源的な問い直しを続けてきた。2020年の大規模個展「ちゅうがえり」(アーティゾン美術館/東京)では、作品を触る、匂いを嗅ぐ、音を聞く、そして、語らうことにより、お互いに眠っていた細胞を呼び起こし、“生まれたての体”のように、全感覚で美術館という仕組み、鑑賞という体験を大きく拡張させようと試みた。初めて世界と出会う驚きを「みる誕生」と名付け、重層的な感覚で「みる」実験空間を出現させた。本展では、鴻池自身の過去作品と新作、さらには美術館のコレクションを総合したインスタレーションによって、現代の視点から新たな鑑賞体験を提案する。</p> <p>【目的】本展は、一般的な巡回展ではなく、立ち上がりの高松市美術館の展示から静岡県立美術館、次会場の青森県立美術館へとリレーする展覧会であると位置づけ、アーティストも、コレクションも、開催館やそこで働く者、あるいは土地の気候や暮らす人々との関係性の中で変化していくことを目指す。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】野外展示を実現するための調整作業も大変だっただろうが、作家の意図を満ちし、結果として観客に美術館の違う顔を見せるとも良い機会になっていたと思う。出品作品も作家の世界観を様々な観点から反映した充実したものになっており、多少の驚きを含め観客として十分に楽しめたと言える。今後の課題として、従来の形式から逸脱した現代美術の展覧会の場合、仲介者としての学芸の役割に気を配らないと一般の観客にこっちを向いてもらえないままになる。作品に対する観客への入り方への設定、入り方を納得してもらおう説明は、違うレベルにいる作家の発想とは別の次元に立つしかないと思うが、どこまでなすべきかという点は、これからも問い続ける問題である。(潮江)</p> <p>「みる誕生」展が既存の枠組みを離れ、五感を総動員してものを見る経験を提供できたとすれば、その原因のひとつに、これまで静岡県立美術館が従来型的美術館としての相当高い質を獲得していたことが挙げられる。それによって美術館の裏山での展示の意義が鮮やかになったと言える。この展覧会は、従来のテンプル型的美術館からフォーラム型的美術館へと展開するひとつの試みとも位置づけられる。記録集に担当学芸員が書いているように、このたびの展覧会での経験が、コロナ禍などを経て変わっていく時代に依じていく美術館の糧となるよう期待する。(山梨)</p>	
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 地域の美術館で最先端の現代の表現に触れることができる機会を提供する。県外の来館者へは、リレー展を追いかけってもらうことによりこれまで静岡県立美術館に来たことがないひとにも、この美術館を広く知ってもらうきっかけになればよい。また、新しい視点をもった現代作家を招いた展示を行うことにより、美術館のコレクションや施設の可能性を探り、拡張する機会にもなる。</p> <p>【ターゲット】静岡県内、東海、関東地方に住む10代～50代の男女。静岡市近郊のファミリー層</p>	<p>【アンケートにみる特徴】 県外からの来館者が30.8%と多く、そのうち新規来館者が90%であった。1人で来館した人が69.2%で最も多かった。自由回答欄では、裏山の展示について高く評価している人が多くみられた。展覧会に来たきっかけで最も多かったのは、WEBおよびSNS、その次にチラシの順であった。新規来館者では、1番が一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた、2番が新聞を見て(静岡新聞社が共催)であった。</p>	
指標(数値目標)	観覧者数見込 8,000人	観覧者数 8,642人	
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 14,298千円 ・歳入 5,424千円 ・特財率 37.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 16,021千円 ・歳入 4,787千円 ・特財率 29.9% 	
広報戦略 主な取組	SNSを通じての発信を積極的に行う。現代美術に通じ、展覧会の評価や広報に影響のある関係者へのチラシ、ポスターの発送、案内をおこなう。リレー展の巡回館を通じて広報協力を依頼する。	広報委員会のメンバーが作品の見どころを、SNSを通じて順番に発信した。目が見えない方や見えにくい方向けのワークショップおよび展覧会告知のため、静岡県視覚障害者情報支援センターをはじめとした機関へのチラシの発送、および静岡視覚特別学校へは直接訪問しての広報活動を行った。『美術手帖』の鴻池朋子特集号への取材協力は会期終了間際の来場者数大幅増につながった。	
自己評価 今後の課題	研究活動評価委員会によるレポート、アンケート結果を見ると裏山での展示が高く評価されている。入場者を分析すると、一般観覧者数43%、70歳以上7.4%、高校生・大学生8.8%、小中学生10.8%、招待19.3%という結果で、高齢者の割合が、通常の一般的な展覧会に比べ少なく、その影響からか平日の来館者数がいまひとつ伸びていない。逆に休日は家族や親子づれの来館者が多く、ロダンウィークのマルシェと重なった開幕初日ははじめ週末、祝日は200人を超えにぎわった。『美術手帖』2023年1月号で鴻池朋子特集が生まれ、同誌が発行になってからの、特に1月2～9日は、連日300人～500人を超える日が続いた。それが追い風となって、目標観覧者数の8000人を超えることができた。鴻池朋子は美術に詳しいコア層には良く知られているが、静岡の一般の美術館来館者にはまだ広く知られているとは言えない。コアなファン層をひきつけながら、潜在的に関心を持ってもらえそうな層にむけて、美術館がどのような手段で情報を届けるのかは永遠の課題である。今後、鴻池のような先鋭的な作家の展覧会を行い安定した来館者数を獲得するためには、新聞、雑誌とともに、SNSの発信力やロコミの影響力の大きさを再認識して、未来館者への訴求力を高める戦略を練る必要がある。		

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	近代の誘惑—日本画の実践
------	--------------

期 間	令和5年2月18日(土)～3月26日(日) (32日間)
場 所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	石上充代
------	------

学芸員の企画への参加の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
マスコミ等による共催の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	巡回の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>

記入日	企画	令和4年4月1日
	実績	令和5年5月20日

企画		実績・検証	
目的・内容	<p>【内容】 当館の所蔵品・寄託品を中心として、幕末から昭和にいたる日本画作品を陳列する。所蔵品・寄託品による展示であり系統立てて日本画史を示すことはできないが、作品本位でご覧いただきつつ、解説を適切に挟むことで、めまぐるしく移り変わる近代日本画の流れを分かりやすく紹介する。</p> <p>【目的】 ・幕末から昭和に至る日本画を概観することで、近代の日本美術の流れに触れ、今日の日本画への関心・理解につなげる。 ・コレクションの研究を進め、公開・活用を通してその価値を広く伝える。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見】 館蔵品と寄託品による展覧会だと云う点で、自ずから限界があるのは仕方ないが、その上で総論(ごあいさつ)と各章各節の内容を的確かつ要領よくまとめた一文を提示し、そこに手元にある作品を落とし込むことで近代の日本画の歩みを構成した展示は見事。高く評価したい。担当学芸員の日ごろの研鑽の賜物だろう。と同時に徳岡神泉、福田平八郎の作品まである静岡県立美術館のコレクションと、長谷川玉峰、鈴木松年、下条桂谷、山内多門、吉川靈華などの作品まで含む充実した寄託品には驚きを禁じ得ない。今後ともそうした作品の紹介を期待する。(榎原委員)</p> <p>近代日本画への誘い”ということであろうが、作品には心に引きつけるものが幾らかでもなければならぬ。この展覧会ではキャプションに注目してみた。目測でたて14.5×よこ20.5cmの寸法であったが、観衆が見るのにはほぼ適当であると思われた。文体はですます調であり、丁寧な感じがして好ましく思われた。(金原委員)</p>	
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 ・近代日本画への理解を深める。 ・コレクションの効果的な活用によりその価値と魅力を広く示し、美術館の基礎的な活動への理解を促す。</p> <p>【ターゲット】 ・日本の文化・美術に関心のある方</p>	<p>【アンケートにみる特徴】 ※アンケート実施無し</p>	
指標(数値目標)	観覧者数見込 7,000人	観覧者数 5,461人	
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 4,718千円 ・歳入 3,284千円 ・特財率 69.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 3,000千円 ・歳入 1,977千円 ・特財率 65.9% 	
広報戦略 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・日本美術を取り上げる機会が多い美術館博物館をピックアップして重点的に広報物を送付した。 ・会期中に2月23日「富士山の日」を含むことから、富士山の日ポスターなどに使用され認知度の高い横山大観《群青富士》を広報に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「富士山の日」記念として当日来場者に横山大観《群青富士》のカードを配布した。 ・同時期に静岡市美術館で開催した近世絵画の展覧会とあわせて、県外からの訪れた観覧者が一定数あったようであり、思わぬ収穫だった。 	
自己評価 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・所蔵品、寄託品を多数出品し、これまでほとんど展示機会がなかった作品についても公開することができた。公開にあわせて基礎的な作品調査を進めることができ、コレクション研究および活用において進展を見た。また、当館コレクションの厚みと幅の広がりについて広く周知する機会となった。 ・主に予算上の理由から図録を作成することができなかったが、会期中、図録購入の希望が多く寄せられた。来館者サービスの一環として、また展覧会出品の記録を形に残して作品を価値つけていくうえで、やはり図録は作成するべきであり、この点は大きな課題である。 ・子ども向け鑑賞ガイドを2種作成(大きい子用、小さい子用)、配布、大人も含めて多くの利用者があった。 ・来館者数は見込みに届かなかった。広報の取組は通常の範囲にとどまっておき、この点で工夫ができるとよかった。 		

令和4年度
調査・研究に関する自己点検評価報告書

令和5年7月
静岡県立美術館

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和5年4月1日

職・氏名 学芸課長・石上充代

- 専門分野 日本美術史
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 近代日本画

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

小計 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・企画展「近代の誘惑—日本画の実践」展主担当
- ・同展 スライドトーク 1回
- ・同展 フロアレクチャー 3回
- ・同展 子どものためのガイド作成 2種
- ・企画展「絶景を描く—江戸時代の風景表現」展副担当
- ・収蔵品展「綱川図と蘭亭曲水図」副担当
- ・同展 シンポジウム副担当

小計 7 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・ふじのくに芸術祭 企画委員会委員、美術部門美術展審査員
- ・ふじのくに子ども芸術大学実行委員会委員

小計 2 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計 () 本

合計 9 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和5年4月20日

職・氏名 上席学芸員 南 美幸

- 専門分野 美学・美術史
- 所属学会 美術史学会、日仏美術学会
- 主要研究テーマ 西洋美術史

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

1 論文「資料紹介 ジョヴァンニ・ピエトロ・ピナローリ『現存する、古今ローマの最も記念すべき事柄の論文について』(《静岡県立美術館ニュース アマリリス》第147号、令和4年10月)

小計 1 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- 1 「新収蔵品展」
- 2 「新収蔵品展」フロアレクチャー 1回
- 3 移動美術展「富士から世界へ、風景を巡る」(11月19日～11月27日) 担当
- 4 移動美術展フロアレクチャー 計4回

小計 4 本

5. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- 1 静岡文化芸術大学「美術史(西洋) I 特別講義」講師

小計 1 本

6. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

1 論文「資料紹介 ジョヴァンニ・ピエトロ・ピナローリ『現存する、古今ローマの最も記念すべき事柄の論文について』(《静岡県立美術館ニュース アマリリス》第147号、令和4年10月)

小計 (1) 本

合計 6 (1) 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和5年4月1日

職・氏名 上席学芸員 新田建史

- 専門分野 美学美術史
- 所属学会 地中海学会、保存修復学会
- 主要研究テーマ 西洋 16～18 世紀美術、東西美術交流史、東西版画史、文化財保存

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・「ピラネージの版画技法について」、『静岡県立美術館紀要』、第 38 号、2023 年 3 月

小計 1 本

2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・「大展示室展」4月2日（土）～5月15日（日）
- ・「大展示室展ボランティア講座」4月2日（土）
- ・「大展示室展フロアレクチャー」4月3日（日）、13日（月祝）
- ・大展示室展学芸員美術講座「静岡県立美術館の記憶について」4月9日（土）
- ・「大展示室展静岡県博物館協会会員向けフロアレクチャー」4月11日（月）、13日（水）
- ・大展示室展館長美術講座「美術館とは壁である」5月3日（火祝）
- ・大展示室展関連ワークショップ「展示室の秘密を探れ！」5月4日（水祝）、5日（木祝）
- ・「兵馬俑と古代中国展」6月18日（土）～8月28日（日）

小計 11 本

7. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・ポスター発表「エアタイトキャビネットを用いた収蔵庫内の 有害ガス濃度対策」（6月、文化財保存修復学会第 44 回大会、山崎正彦氏(光明理化学工業株式会社)との共同発表)
- ・「LED 照明の現在 2022」12月20日（火）、静岡県博物館協会講習会
- ・「博物館の防災を考える歴史資料編」、2023年3月19日（日）、静岡県博物館協会講習会

小計 3 本

8. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計 0 本

合計 15 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和5年 4月 1日

職・氏名 上席学芸員 川谷承子

- 専門分野 現代美術
- 所属学会
- 主要研究テーマ 戦後美術

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

「高松市美術館「みる誕生 鴻池朋子展」の開幕に寄せて」、記録集 高松編
「みる誕生 鴻池朋子展」は美術館に何をもたらしたのか。」、記録集 静岡編
「宮脇愛子《作品》と光をめぐる考察」『アマリリス No. 149』研究ノート

小計 3本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- 新収蔵品展
- 企画展「みる誕生 鴻池朋子展」主担当
- 収蔵品展「光—The Light」展主担当
- 収蔵品展「新収蔵品展」フロアレクチャー 6月12日
- 企画展「みる誕生 鴻池朋子展」関連イベント トーク2「裏山が抜け道になる」
- 企画展「みる誕生 鴻池朋子展」フロアレクチャー 12月18日
- 収蔵品展「光—The Light」フロアレクチャー 2月6日、3月26日

小計 7本

9. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・太田正樹氏からの寄贈作品（作品70点）の受け入れに伴う調書の作成

小計 1本

10. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

「宮脇愛子《作品》と光をめぐる考察」『アマリリス No. 149』研究ノート

小計 (1) 本

合計 11 (1) 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和5年4月4日

職・氏名 主任学芸員 喜寿孝臣

- 専門分野 日本近代美術史
- 所属学会 明治美術学会 文化資源学会
- 主要研究テーマ 1920年代から30年代の日本社会と美術の関わり

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・「命令する労働者から動員される労働者へープロレタリア漫画と芸術学院」(『もやもや日本近代美術—境界を揺るがす視覚イメージ』勉誠出版、令和4年12月)
- ・「日本近代デスマスク小史—石膏型取りと彫刻のあいだをめぐって」(『静岡県立美術館紀要』38号、令和5年3月)

小計 2 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・「大展示室展」
- ・「みる誕生 鴻池朋子展」
- ・「移動美術展」

小計 3 本

11. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・講演会「洋画家としての津田青楓—図案から洋画断筆まで」【笛吹市青楓美術館】11月12日
- ・授業「日本近代美術史特講 b」実践女子大学

小計 2 本

12. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計 () 本

合計 7 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和5年4月25日

職・氏名 上席学芸員 植松篤

- 専門分野 現代美術
- 所属学会 美学会、広島芸術学会
- 主要研究テーマ 戦後美術

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・論文「無題」(増田将大個展「Scattered and Connected」配布物、MARUEIDO JAPAN、令和4年10月)

小計 1本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・企画展「兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～」主担当
- ・同展特別講演会主担当
- ・同展館長美術講座主担当
- ・同展スライドトーク(2回)
- ・企画展「みる誕生 鴻池朋子展」副担当
- ・同展トーク1副担当
- ・同展トーク2副担当
- ・同展館長美術講座副担当
- ・同展筆談ダンス副担当
- ・収蔵品展「光-The Light」副担当

小計 11本

13. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・静岡大学 思想と芸術 B 講師「地方の美術館の現状について」(1コマ)12月14日
- ・静岡文化芸術大学 博物館学概論 講師「静岡のアートシーンと天地耕作展の立案について」(1コマ)1月20日

小計 2本

14. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計 (0)本

合計 14本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和5年4月16日

職・氏名 上席学芸員・野田麻美

- 専門分野 日本美術
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 近世絵画（狩野派）

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・(美術史学会東支部大会発表)「美しい模写の探求—狩野探幽、栄信を中心とする江戸狩野派の模本、直模作品、倣古図についての考察—」(シンポジウム「模写・模本とその新しい価値—アーカイヴから記録、鑑賞まで—」於東京藝術大学、2022年4月3日(日))
- ・(講演)「江戸狩野派を知ると浮世絵はもっと楽しくなる」(中山道広重美術館、2022年4月9日(土))
- ・(論文)「江戸狩野派による雪舟『山水長巻(四季山水図)』(毛利博物館)の学習」(『雪舟と狩野派』展図録、山口県立美術館、2022年9月)
- ・(発表)「久隅守景『蘭亭曲水図屏風』試論—江戸狩野派の蘭亭曲水図にみる遊宴図像の展開」(「輞川図と蘭亭曲水図」展シンポジウム、静岡県立美術館、2022年12月3日(土))

小計 4本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- 「絶景を描く」展副担当
- 「近代の誘惑」展副担当

小計 2本

15. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

小計 本

16. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

- ・(美術史学会東支部大会発表)「美しい模写の探求—狩野探幽、栄信を中心とする江戸狩野派の模本、直模作品、倣古図についての考察—」(シンポジウム「模写・模本とその新しい価値—アーカイヴから記録、鑑賞まで—」於東京藝術大学、2022年4月3日(日))
- ・(発表)「久隅守景『蘭亭曲水図屏風』試論—江戸狩野派の蘭亭曲水図にみる遊宴図像の展開」(「輞川図と蘭亭曲水図」展シンポジウム、静岡県立美術館、2022年12月3日(土))

小計 (2)本

合計 6 (2)本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和5年4月26日

職・氏名 上席学芸員 貴家映子

- 専門分野 西洋美術史
- 所属学会 日仏美術学会
- 主要研究テーマ フランス近代美術、風景画

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・論文『古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅：オーヴェルニュ編』におけるウジェーヌ・イザベイの挿絵成立背景について『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第148号、令和5年1月1日
- ・「突撃！となりのミュージアム！Vol.2-『どうしてる？多様なミュージアムの運営状況』篇-(報告)』『静岡県博物館協会研究紀要』第46号、2023年3月31日

小計 2本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・企画展「大展示室展」(4月2日～5月15日)副担当
- ・企画展「兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～」(6月18日～8月28日)副担当
- ・企画展「糸で描く物語」(令和5年度開催 準備)
- ・収蔵品展「絶景考Ⅰ」(7月20日～9月19日)
同展フロアレクチャー 9月3日
- ・収蔵品展「絶景考Ⅱ」(9月21日～11月20日)
同展フロアレクチャー 10月22日
同展関連美術講座 企画・実施「農村を描く印象派画家ーカミーユ・ピサロとポントワーズ」
講師：深尾茅奈美氏(静岡市美術館)11月6日
- ・ロダンウィーク 11月3日～6日

小計 9本

17. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・静岡県立大学 国際関係学部特別講座「近代フランスの風景画から考える『絶景』」11月24日
- ・「《地獄の門》VR オンライン鑑賞教育プログラム」の開発および試行実施
(清水第7中学校/1月14日、1月27日)

小計 2本

18. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

- ・論文『古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅：オーヴェルニュ編』におけるウジェーヌ・イザベイの挿絵成立背景について『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第148号、令和5年1月1日

小計 (1)本

合計 13 (1)本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和5年4月25日

職・氏名 主任学芸員 浦澤倫太郎

- 専門分野 日本
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 日本近世絵画

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

「絶景を描く ―江戸時代の風景表現―」展 小冊子

小計 1 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

「絶景を描く ―江戸時代の風景表現―」展フロアレクチャー 3本
 「絶景を描く ―江戸時代の風景表現―」展スライドトーク
 出張講座【富士宮市立富士根南小学校】、10月11日
 出張講座【御前崎市浜岡北小学校】、11月17日
 出張講座【富士市立丘小学校】、11月22日
 出張講座【富士市立丘小学校】、11月30日
 オンライン鑑賞教育プログラム「《地獄の門》VR」試行【静岡市立清水第七中学校】1月14日（美術部）、1月27日

小計 9 本

19. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

講義「小杉文庫について」【静岡大学講義】「地域の人と文字文化」全2回)、5月23日、30日
 講演「江戸絵画で巡る静岡の絶景」(静岡県富士山世界遺産センター主催 世界遺産登録10周年記念特別企画「富士山 芸術の源泉」)【東京美術倶楽部】2月4日

小計 3 本

20. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

「絶景を描く ―江戸時代の風景表現―」展 小冊子

小計 (1) 本

合計 13 (1) 本

定性評価の状況（令和4年度）

【日本画】

14本の展覧会に計31点の作品を出品した。

「歌枕 あなたの知らない心の風景」(サントリー美術館、4点出品)、「雪舟と狩野派」(山口県立美術館、3点出品)、「江戸狩野派と馬」(馬の博物館 3点出品)、「東海道的美 駿河への旅」(静岡市美術館 4点出品)など、風景表現、静岡ゆかり、狩野派、といった当館収集方針に関連するテーマ展に複数点を出品した。当館の特色あるコレクションが注目され、活用されていることをよく示すものといえる。

個展では、「速水御舟展」(茨城県近代美術館)に2点を出品、特に《鍋島の皿に柘榴》についてはメインビジュアルとしてポスター・チラシ、図録表紙等に掲載され、展覧会を象徴する作品として大きな注目を集めた。「建部凌岱展」(板橋区立美術館)、「岡田米山人・半江展」(三重県立美術館)、「横山大観展」(名都美術館)、「椿椿山展」(板橋区立美術館)等個展にも所蔵品・寄託品を出品、内容の充実に貢献した。

【日本洋画】

日本洋画では3つの展覧会に計8点の作品を出品した。

昨年度から巡回の「生誕110年 香月泰男展」展(足利市立美術館)には、香月泰男の《冬鳥》を、引き続き出品した。

「杉浦非水 時代をひらくデザイン」(静岡市美術館)に、黒田清輝の《富士之図》6点を出品した。黒田がフランスから持ち帰ったアール・ヌーヴォーの図案に出会い、デザインの道へと進んだ杉浦の軌跡が本作により鮮明に浮き上がった。

また、「佐伯祐三—自画像としての風景」展(東京ステーションギャラリー)に佐伯祐三《ラ・クロッシュ》を出品した。佐伯の大規模な回顧展として東京では18年ぶりとなる本展では、制作年代ではなく制作場所ごとに章立てをおこない、佐伯の2度のパリ滞在時の作品の相違を比較しやすい構成であった。本展は、翌年度、大阪中之島美術館に巡回し、2度目のパリ滞在期の制作である《ラ・クロッシュ》も引き続き出品を予定している。

【西洋】

4点の作品を、それぞれ異なる展覧会に貸出・出品した。

コロナウイルス感染症の収束傾向に伴い、海外への貸出も復活し、クロード・モネ《ルーアンのセヌ川》を、フランスのリュクサンブル美術館で開催された「レオン・モネ、芸術家の兄弟にして収集家」展に出品した。印象派の画家クロード・モネの兄で、コレクター、印象派の擁護者、兄弟ゆかりの土地ルーアンの実業家であったレオン・モネに焦点を当て、モネとその周辺の印象派の絵画、レオンのコレクション、モネ家のドキュメントや家族写真等で構成するフランスでも初の展覧会で、当館作品はルーアンを描いた作品の一つとして紹介された。本作が海外展に出品されるのは5度目(フランスでは2度目の展覧)かつ当館所蔵品では最多の海外公開であり、当館の存在とコレクションをさらに知らしめる機会となった。

国内では、「モディリアーニ—愛と創作に捧げた35年」展にモディリアーニと交流したジャック・リブシッツの《母と子》を、ミロと日本との関係を紐解いた「ミロ展—日本を夢見て」展にジョアン・ミロ《シウラナの教会》を、また19世紀後半から20世紀初めにかけてフランスのブルターニュ地方を表象した

西洋および日本人作家の作品を一堂に会した「憧憬の地ブルターニュモネ、ゴーガン、黒田清輝らが見た異郷」展にポール・ゴーギャン《家畜番の少女》を貸し出した。

【現代】

昨年度に引き続き、カール・アンドレ《鉛と亜鉛のスクエア》を「ミニマル／コンセプチュアル ドロテ&コンラート・フィッシャーと1960-70年代美術」に貸し出した。展覧会は、DIC川村記念美術館、愛知県美術館、兵庫県美術館の順に巡回し、昨年度末から今年度にかけて兵庫県美術館にて開催された。作品に加え、フィッシャーが運営した画廊の資料も豊富に紹介されており、当館所蔵作品の評価にもつながる、良企画であった。

【絶景を描く—江戸時代の風景表現】

・名所絵、山水画、真景図、風景画—景色を描いた絵画を呼ぶのにさまざまな言葉があるように、そこで実現された風景表現も実に多様だ。本展では、とりわけ多彩な風景表現が試みられた江戸時代・18世紀後半以降のそれらを取上げ、その魅力、面白さを探ろうとする。なかでも静岡県と云う地の利もあり、富士山を描いた館藏品、寄託品も多いことから、問題を富士図に収束させたあたりは、常套的ではあるが、うまい。但し、提示された富士図は余りに少ない。コロナ下でもあり、他処からの借用が困難であったにしても、である。わたしのごく個人的な興味からすれば、タテ長画面の富士図（三幅対形式をとったものも含めて）があってもよかったのではないかと思う。原在正の富士山図巻の面白さを際立たせるためにも、である。とは云え、江戸絵画史を記述する上で最も重要な問題たる風景表現に絞った展示は貴重で学界、鑑賞界に裨益するところ極めて大きい。在正の富士山図巻の展示は衝撃的でさえある。

（榊原委員）

・まず、絶景というものをどんなものか定義を試み、そこから第1章、名所をめぐる絵画、第2章、南画家たちの試み、第3章、刷新される風景表現、第4章、富士山を描き分ける、第5章、富士山を取り巻く景観の変化と5つに分類したのは、よく考えられたもので、賞賛に価する。作品がよく吟味されており、数もまずまずであった。県立美術館が“東西の風景”を収集してきたのであるから風景表現をテーマにして、こうした展示がもっと（切り口を工夫して）行われるべきであろう。正統派の美術館としてこうした方針を今後とも貫いてもらいたい。

（金原委員）

【みる誕生 鴻池朋子展】

・「みる誕生 鴻池朋子」展は、コンセプト、展示方法を含め、作家の個性と考え方が色濃く、投影された展覧会になっていた。作家と入念なディスカッションをし、作家の意向を反映しながら展示する作業は大変だったろうが、巡回会場の空間的条件に合わせた展示方法のそれぞれのヴァリエーションは、学芸にとっても創造力を発揮する絶好の機会になったことがひしひしと感じられる展示になっていた。静岡県立美術館の場合のプロムナードにおける野外展示を実現するための調整作業も大変だっただろうが、作家のチョイスを満たし、結果としてだが、観客にも美術館の違う顔も見せるとてもいい機会になっていたと思う。また、出品作品も作家の世界観を様々な観点から反映した充実したものになっており、自分自身肉薄できたかについてはあまり自信がないが、多少の驚きを含め観客として十分に楽しめたと言える。ただ、美術館へは、額縁に入った絵が壁に並んでいることを前提に訪れる一般の観客には、学芸の相当の努力にもかかわらず、やはり最後まで困惑の感覚が続いたままであったのではないかと懸念する。

（潮江委員）

・鴻池朋子は、日本美術の中に確立されている「絵画」というジャンルでの個々の作品制作から創作活動を開始し、大原美術館での「鴻池朋子 第0章 世界はいつも密やかで 素晴らしく 謎めいている」（2006年4月28日—5月28日）においてホワイトキューブとは異なる同館内の歴史的建物に平面、立体を含む自作を展示して空間全体を構成して以降、個々の作品を自らのコンテクストで相互に関連させて構成することに興味を移してきたように思われる。「鴻池朋子 インタートラベラー 死者と

遊ぶ人」(東京オペラシティ・ギャラリー 2007年7月18日-9月27日)、「鴻池朋子 根源的暴力」(神奈川県民ホールギャラリー 2015年10月24日-11月28日)などがその例である。

作品を相互に関連させて表現する方法は、初期の刊行となる絵本『みみお』(2001年)にすでに見られたもので、目のないみみおが自然界で多くのものに出会うこの物語は鴻池のこれまでの表現活動の根底を流れており、このたびの展覧会「みる誕生」にも通う。

特に静岡県立美術館での展示は、美術館という建物、制度に揺さぶりをかけるとともに、そうした制度に寄らずに物を見る体験を提供する意図が随所に表れていた。その例として、静岡県立美術館の裏山における作品の露出展示、同館所蔵品と国立療養所菊池恵楓園絵画クラブの作品を展示ケースに並べて展示した構成などが挙げられる。リレー展と鴻池が名付けたこの展覧会の静岡県立美術館でのハイライトは裏山での展示であったと思う。これまで鴻池が美術館の空間の中で表現してきた美術館という枠組みへの問いが、美術館を抜け出した空間と対比されることでより明確に感じられた。(山梨委員)

【近代の誘惑—日本画の実践】

・館蔵品と寄託品による展覧会だと云う点で、自ずから限界があるのは仕方ないが、その上で総論(ごあいさつ)と各章各節の内容を的確かつ要領よくまとめた一文を提示し、そこに手元にある作品を落とし込むことで近代の日本画の歩みを構成した展示は見事。高く評価したい。担当学芸員の日ごろの研鑽の賜物だろう。と同時に徳岡神泉、福田平八郎の作品まである静岡県立美術館のコレクションと、長谷川玉峰、鈴木松年、下条桂谷、山内多門、吉川靈華などの作品まで含む充実した寄託品とには驚きを禁じ得ない。今後ともそうした作品の紹介を期待する。(榊原委員)

・近代日本画への誘い”ということであろうが、作品には心に引きつけるものが幾らかでもなければならぬ。この展覧会ではキャプションに注目してみた。目測でたて14.5×よこ20.5cmの寸法であったが、観衆が見るのにはほぼ適当であると思われた。文体はですます調であり、丁寧な感じがして好ましく思われた。(金原委員)

『静岡県立美術館紀要』No. 38（令和5年3月31日刊行）掲載論文について

新田建史「ピラネージの版画技法について」

・論者が「腐蝕液描法」と名付けた技法が、ピラネージの銅版画の表現の展開にとってどのような功罪が生じたかについて、作品の細部拡大図を活用しながら細かく論じられた論考であり、独自の着眼点で作品制作に肉薄しようとする姿勢は評価に値する。しかも、その検討評価をまとめた結論とも言うべき分析部分の、ことにその技法を用いることと制作のめざすべき方向性との間に生じる乖離や矛盾、あるいは新たな展開についての可能性について触れた個所もその論点は首肯し得る。ただ、視点がミニマムに絞り込まれ過ぎているため、ピラネージの版画技法全体の脈絡の中で、理解できたかと言うとしっくりしていない感覚が少し残る。
(潮江委員)

・ピラネージ研究に長年取り組んでいる筆者による本論文は、技法の側面からピラネージ芸術における初期の変化の解明に取り組み、筆者は「腐蝕液描法」と名付けた技法の導入によって何を失ったのかを明らかにしようとして記している。作品観察と考察の結果、ハッチングに用いられた腐蝕液描法は分業を容易にするためだったが、ピラネージの体質には必ずしも合わない描法を不定形なものを精密に描くべく突き詰めることで作家独自の濃密な画風が展開したと結論づけている。

ピラネージの技法研究は必ずしも多くなく、独自性と説得力のあるある貴重な研究である。気になったのは「腐蝕液描法」は欧文ではどのように表現されているである。また、文献が2008年で止まっており、最近の研究が踏まえていない点では研究ノートの論考と言わざるを得ない。先行研究と問題の所在についての導入部があるとよかったか。直接関係があるか不明であるが、次のような論考もある。

Myra Nan Rosenfeld, “Picturesque to Sublime: Piranesi’s Stylistic and Technical Development from 1740 to 1761” in *Memoirs of the American Academy in Rome. Supplementary Volumes. Vol. 4, The Serpent and the Stylus: Essays on G. B. Piranesi* (2006): 5591.

(栗田委員)

喜寿孝臣「日本近代デスマスク小史—石膏型取りと彫刻のあいだ」

・これまで日本のデスマスクについての論文を見たことがなかったので、大変興味深く読む事が出来た。特に新海竹太郎が、夏目漱石のデスマスクをどのように制作する（とる）か思案にくれているところが面白い。まず古田亮は藤田文蔵が、工部美術学校でラグーザからデスマスクのとり方を学んだと推定し、藤田は関連技術として、油土の原形から石膏型をとる技法を修得していたとしている。美校塑造科新設まで、石膏型取り方法が理解出来ていなかったが、塑像科以降、大きく発展し、今日の隆盛を見ることになった。その初期プロセスが理解出来る好論文である。
(金原委員)

・本稿は、日本では近代になって西洋文化が流入した後に制作されるようになったデスマスクの歴史と日本の彫刻家との関わりを、現存最古のデスマスクと思われる藤田文蔵作狩野芳崖のデスマスク（1888年）から1930年代の作例まで跡づけ、第2章で複製と彫刻教育、第3章で皮膚と髭の表現、第4章では死の直後の表情の証拠という視点から論じている。日本では、西洋美術の写実性が江戸期から高く評価され、受容されてきた。立体造形における人形と彫刻の境界については明治期から問題となったとこ

ろで、本稿が引用しているように、高村光雲、光太郎父子の作品と言説は、この論点においても重要な位置を占める。興味深いのは、フランスに留学しロダンに傾倒し、1909年に帰国した高村光太郎が、おそらく西洋のアカデミックな彫刻製作法の一つとして人体から直接に石膏型をとる方法を学び、それを彫刻としては否定的にとらえていながら自身で将来したベートーヴェンのデスマスクが佐藤朝山の手に入り、日本で1910年代以降にデスマスク製作法が普及した点、また、「生々しさ」に対する評価と、デスマスクを美術作品の一ジャンルをなす彫刻としてとらえるかという点に時代の変遷が認められることである。それまで美術品として展覧会に出品されることがなかったデスマスクが第2回プロレタリア美術大展览会（1929年）では美術作品として展示されたという点も、プロレタリア美術の性格を考える上で興味深い。

複製の販売への言及は、一般需要者側の造形思考を考える一助ともなる。

喜多氏はこれまでプロレタリア美術について調査研究を進めておられ、これまでの研究蓄積がこの度の論考にも活かされている。デスマスクして、日本近代における彫刻概念の形成や、写実性と理想化などを考察するという視点に独自性があり、今後の立体造形に関する考察に新たな切り口を提案している。

（山梨委員）

新型コロナウイルス感染症の状況には変動があったが、令和4年度は予定のプログラムを全て実施することができた。感染症対策のノウハウが蓄積され、定員の削減などの状況は続いたが、どの事業も中止の判断とはならなかった。

【一般向け】

小学3年生以上を対象とする「わくわくアトリエ」と中学生以上を対象とする「実技講座」は、各企画展の関連事業として行い、実施に際して担当学芸員からのフロアレクチャーをプログラムの一部に組み込んだ。この取り組みは参加者が展覧会の鑑賞のポイントをつかむことにつながり、制作にも役立つと考えられる。今後も続けることで、参加者のより深い鑑賞や、豊かな制作につなげたい。

令和3年度は中止が多くあった「ねんど開放日」「えのぐ開放日」は、応募倍率が高い人気の事業である。後者は2年ぶりに実施することができた。参加人数は最大40名と定員を絞っていたが、参加者の事後アンケートではそのことに対して不満が述べられることはなく、満足したとのご意見を数多くいただくことができた。

「ちょこっと体験」や「創作週間」、「ロダン館デッサン会」についても、昨年度と同様のコロナ対策を講じて中止なく実施することができた。参加者層について述べると、後半になるにつれ新規の参加者が毎回来られる状況が続いた。「ちょこっと体験」は好評で、準備した材料が時間内に尽きてしまう状況であった。また、館外の活動として、エスパルスドリームプラザで企画展の宣伝とアウトリーチを兼ねて、「ちょこっと体験」（インクを使わない銅版画体験）を実施した。こちらにも多めに準備した材料が両日とも時間内に尽きてしまうほど好評であった。館内で行っている「ちょこっと体験」とは異なり、偶然制作に参加された人々が、気軽に作れる作品の出来に感動している姿が印象的であった。

【学校向け】

昨年度中止であった「ボランティアスタッフとの鑑賞」は年度途中から実施可能となった。しかしながら、周知のための郵送費を捻出できず、広報は当館ウェブサイトしか手段が無く、申込はなかった。昨年度中止であった県総合教育センターや各地区の図工美術会の教員向け鑑賞教育研修も実施することができ、鑑賞教育を中心に学校教育との連携を深めることができた。また、校外学習の一環として「ロダン館ななふしぎ」を希望する学校が、昨年度との開館期間の差をふまえても増加した。学校側の需要が回復してきたことによるのかもしれない。

「ねんど教室」や「えのぐ教室」も昨年度より多くの募集が集まり、台風の影響による1校、新型コロナウイルスの感染が確認された幼稚園1園を除き、それ以外の申し込み団体は全て実施することができた。加えて、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきた年度後半になるにつれて、活動後に展覧会の観覧を希望する施設が増えていった。

「ロダン館デッサン・スケッチ・クロッキー」は、5つの学校が行った。美術科がある高校や中学校の美術部が主になるが、県東部や西部の地域からも参加があった。また、単学級の中学校が「ロダン館ななふしぎ」とスケッチを行うなど、他の実技室プログラムを連続して受ける学校や、他の美術館が休館をしていることから、当館へデッサン会を希望する学校もあった。

普及・教育プログラムの新たな試みとして、オンライン鑑賞教育プログラムを2本開発した。内容は

当館ウェブサイトのデジタルアーカイブのコンテンツを活用したもので、小学生けと中学生向けとがある。開発にあたっては教員の協力を得て、意見の聴取、学校現場での試行実施を行った。このことによって、プログラムに学校側の視点を取り入れることができ、利便性の高いものとなったと考えている。

今後は、コロナ禍の影響により様々な制限が加えられた活動をいかに現在のニーズに合った教育プログラムへと変えて実施していく必要性があり、対応が急がれると思われる。

これまでの地域等の連携をさらに深め、地域をパートナーと考える経営を推進した。

地域・企業等

(1) 県立美術館ボランティア

・令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、年度当初、学校グループ、ギャラリーツアーグループ、タッチツアーグループの活動は休止となっていた。しかし、日本博物館協会による9月の予防のガイドライン変更を受け、学校グループ、ギャラリーツアーグループについては、感染対策を行いつつ、実施可能とした。実際の活動については、学校グループは申込がなかったため活動はなく、ギャラリーツアーグループは研修の都合から2月に再開した。

また、昨年度はボランティアの任期3年目にあたっていたが募集を実施せず、希望者の任期を1年延長し、引き続き活動いただくという対応をとった。任期4年目にあたる本年度は、ボランティアの募集を行った。昨今の状況を鑑み、ボランティア体制を更新して、任期を1年とし、更新可能なものとした。加えて、資格年齢を20歳から18歳に引き下げ、学生等の若者層にも参加しやすいものとした。

選考と研修の結果、令和5年度4月より125名の方をボランティアとして登録し、活動していただいている。

・活動方針：「来館者サービスの充実、美術館運営支援、地域連携推進」

(2) 有度山地域に立地する5施設、県立美術館、SPAC、日本平ホテル、日本平動物園久能山東照宮による「有度山フレンドシップ協定」による協働

・コロナが第5類に移行したことをふまえ、今後、企画展との連携事業を検討していく。

(3) 草薙商店会等との協働

・草薙地域で活動しているグループと連携して美術館前の広場でロダン・ウィーク「丘の上のマルシェ」を毎年開催している。

(4) ロダン・ウィーク

平成26年度、開館20周年を契機に開始した「ロダン・ウィーク」。工事休館中であった令和3年度を除いて毎年実施している。

(5) 企画展における企業等との連携による効果

館内レストラン「ロダンテラス」で県産品を使用した特別メニューを3種類提供した。

ムセイオン静岡

谷田地域の文化教育7機関（県立大学、美術館、中央図書館、埋蔵文化財センター、SPAC、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム）は、谷田の丘陵地帯及びその周辺地域の文化振興やまちづくりに貢献する目的で、「ムセイオン静岡」として相互協力し、文化の丘づくりを推進してきた。

令和4年度は、県立大学と連携し、当館学芸員の解説を聞きながら展示を観覧する企画を行った。（みる誕生 鴻池朋子展）。また、毎年秋に開催している「文化の丘フェスタ」では、他機関と連携して「スタンプラリー」を実施した。

昨年度に引き続き、様々な広報手段を活用し、県内外への広報を推進した。

新たな取組

- ①「みる誕生 鴻池朋子展」では、目が見えない方や見えにくい方向けのワークショップおよび展覧会告知のため、静岡県視覚障害者情報支援センターをはじめとした機関へのチラシの発送、および静岡視覚特別学校へは直接訪問しての広報活動を行った。
- ②「近代の誘惑」展では、旅行会社による美術館めぐりツアーへの協力を行った。
- ③「近代の誘惑」展においては、ボランティア（地域連携・草薙ツアーグループ）と協力し、出品作品をモチーフとした和菓子の創作とそれを活用したイベントを実施した。
- ④「ガストロノミーツーリズム」事業として、館内レストランで県産品を活用したメニューを提供した。

引き続き実施した広報

- ①ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、YouTube による情報発信
- ②展覧会等イベント情報のマスコミへの資料提供（記者投げ込み、プレスリリースの利用）
- ③ポスター、チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ④県広聴広報課との連携（県民だより）
- ⑤広報サポーターへの情報提供
- ⑥展覧会共催者（新聞社・テレビ局）等との連携
- ⑦企画展に関連する講演会・イベントを館内で行い集客を図った。
- ⑧美術館ニュース「アマリリス」の発行
- ⑨インターネットミュージアム等の美術館・博物館情報サイトで展覧会をPRした。
- ⑩事務局を通じた県内4大学の学生への広報

県有文化施設と協働した広報

- ・毎年秋に谷田地域の文化教育7機関が「ムセイオン静岡」として連携して取り組んでいる「文化の丘フェスタ」で「スタンプラリー」を実施した。

県立美術館は、令和4年3月に「5ヵ年計画」を策定した。

計画では、美術館の基本理念（美術館の目指す姿）を実現するため、8つの実施方針を定めている。その一つが「運営」であり、運営基盤の強化を目指すこととしている。

計画期間は令和4年度から8年度までの5年間であり、今までの主な取り組みは以下のとおり。（一部令和3年度に前倒し実施）。

（1）運営基盤の拡充（収入の確保）

- ・令和3年度の古代エジプト展では、当初予定になかった文化庁の令和2年度第3次補正予算事業「ARTS for the future!（コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業）」の補助金交付を受け事業を実施した。
- ・令和4年度の「鞆川図と蘭亭曲水図」展では、タカシマヤ文化基金の助成を受けてシンポジウムを実施し報告書を作成した。
- ・予算外部資金の確保に向けて関係部局と調整し、ふじのくに応援寄附金（個人版ふるさと納税）を美術館基金への積立金とする仕組みを整えた。

（2）企業との連携強化による運営の充実

- ・静岡県経営者協会の全会員に令和4年度の美術館年間スケジュールや企画展のちらしを配布した。
- ・静岡県経営者協会会員の交流会に参加し、館長および学芸員による会員向け講座を計画していたが、新型コロナウイルス感染状況の悪化により中止となった。
- ・令和5年度は館長および学芸員がセミナー講師として講演を行う予定である。

歳入予算

一般会計

執行状況調査

(令和4年度)
(令和5年5月31日現在)

区分	調定額 A 円	収入内訳		納期後 C 円	決算額	不納欠損額 D 円	収入未済額 計	納入経過 円	納期限未到来 円	収入歩合	
		納期内 B 円	A-B							$\frac{B+C}{A-D-F}$	$\frac{B}{A-D-F}$
款 08 使用材料及び手数料	14,436,790	14,080,740		356,050		0	0	0	0	100.0	97.5
項 01 使用料	14,436,790	14,080,740		356,050		0	0	0	0	100.0	97.5
目 04 スポーツ・文化観光便 用料	14,436,790	14,080,740		356,050		0	0	0	0	100.0	97.5
01 美術館観覧料	10,718,400	10,619,400		99,000		0	0	0	0	100.0	99.0
02 美術館使用料	3,614,300	3,357,250		257,050		0	0	0	0	100.0	92.8
06 庁舎等使用料	104,090	104,090		0		0	0	0	0	100.0	100.0
款 10 財産収入	416,967	416,967		0		0	0	0	0	100.0	100.0
項 02 財産売却収入	416,967	416,967		0		0	0	0	0	100.0	100.0
目 04 その他財産売却収入	416,967	416,967		0		0	0	0	0	100.0	100.0
01 美術館図録売却収入	416,967	416,967		0		0	0	0	0	100.0	100.0
款 14 諸収入	29,855,538	29,855,538		0		0	0	0	0	100.0	100.0
項 07 雑入	29,855,538	29,855,538		0		0	0	0	0	100.0	100.0
目 02 雑入	29,855,538	29,855,538		0		0	0	0	0	100.0	100.0
23 美術館特別展共催収入	27,826,386	27,826,386		0		0	0	0	0	100.0	100.0
81 保険料負担金	730,045	730,045		0		0	0	0	0	100.0	100.0
非常勤職員	730,045	730,045		0		0	0	0	0	100.0	100.0
84 雑収	1,299,107	1,299,107		0		0	0	0	0	100.0	100.0
雑収	1,295,202	1,295,202		0		0	0	0	0	100.0	100.0
古新聞・雑誌	3,905	3,905		0		0	0	0	0	100.0	100.0
計	44,709,295	44,353,245		356,050		0	0	0	0	100.0	99.2

歳出予算執行状況調

(令和4年度)
(令和5年5月31日現在)

区	分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘要
		円	円	円	
款 04 経営管理費					
項 01 経営管理費		2,723,829	2,723,829	0	
目 01 一般経費		2,723,829	2,723,829	0	
04 非済費		146,469	146,469	0	
02 報酬、給料及び資金に係る社会保険料		146,469	146,469	0	
目 03 行政経費		146,470	146,470	0	
08 旅費		146,470	146,470	0	
02 普通旅費		146,470	146,470	0	
目 05 資産経営費		2,430,890	2,430,890	0	
10 需用費		824,890	824,890	0	
01 その他の需用費		824,890	824,890	0	
14 工事請負費		1,606,000	1,606,000	0	
款 06 スポーツ・文化観光費		376,909,160	361,420,345	15,488,815	
項 03 文化費		376,909,160	361,420,345	15,488,815	
目 01 文化事業費		11,413,000	10,534,464	878,536	
07 報償費		540,000	220,000	320,000	
01 その他の報償費		540,000	220,000	320,000	
08 旅費		119,000	79,780	39,220	
01 その他の旅費		92,000	52,860	39,140	
02 普通旅費		27,000	26,920	80	
10 需用費		2,272,000	1,886,661	385,339	
01 その他の需用費		2,268,000	1,886,661	381,339	
02 食糧費		4,000	0	4,000	
11 役務費		2,090,000	1,986,994	103,006	
12 委託料		6,362,000	6,361,029	971	
13 使用料及び賃借料		39,000	0	39,000	
14 T.事請負費		0	0	0	
17 備品購入費		0	0	0	

スガ文化観光部 県立美術館

ZIR80030
ZIR80030

1

(令和4年度)
(令和5年5月31日現在)

区	分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘要
		円	円	円	
目 04 美術館費		365,496,160	350,885,881	14,610,279	
01 報酬		12,606,000	12,372,144	233,856	
02 多員報酬		158,000	67,500	90,500	
03 非常勤職員報酬		12,460,000	12,304,644	145,356	
03 職員手当等		904,000	903,345	655	
01 その他の職員手当等		904,000	903,345	655	
04 非済費		1,717,000	1,673,258	43,742	
01 地方公務員非済組合に対する負担金		168,000	147,019	20,981	
02 報酬、給料及び資金に係る社会保険料		1,549,000	1,526,239	22,761	
07 報償費		3,652,000	3,469,800	182,200	
01 その他の報償費		3,642,000	3,469,800	172,200	
02 買上金		20,000	0	20,000	
08 旅費		2,798,000	2,638,061	159,939	
01 その他の旅費		1,487,000	1,451,881	35,119	
02 普通旅費		1,311,000	1,186,180	124,820	
10 需用費		88,666,000	83,753,895	4,912,105	
01 その他の需用費		88,641,000	83,738,595	4,902,405	
02 食糧費		25,000	15,300	9,700	
11 役務費		20,561,000	16,302,400	4,258,600	
12 委託料		199,904,000	196,064,409	3,839,591	
13 使用料及び賃借料		1,979,160	1,924,298	54,862	
14 工事請負費		6,663,000	5,901,500	761,500	
17 備品購入費		2,328,000	2,178,791	149,209	
18 負担金、補助及び交付金		23,663,000	23,661,680	1,320	
24 積立金		0	0	0	
26 公課費		13,000	12,300	700	
款 11 教育費		1,327,903	1,327,903	0	
項 09 社会教育費		1,327,903	1,327,903	0	

スガ文化観光部 県立美術館

ZIR80030
ZIR80030

2

(令和4年度)
(令和5年5月31日現在)

区分	令進予算額 円	支出済額 円	支出未済額 円	摘要
目 02 図書館費	1,327,903	1,327,903	0	
12 委託料	1,327,903	1,327,903	0	
計	380,960,892	365,472,077	15,488,815	

一般会計

第三者評価委員会での主な意見と対応状況

基本方針A：特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。

1 前回の委員からの意見										
コレクションの購入にあたり、毎年度で予算化するのが厳しいのならば、基金のようなものを考える等、対応策は考えているのか。(荻原委員)										
2 これまでの対応状況										
<ul style="list-style-type: none"> ・昭和54年3月に美術博物館の建設や館蔵品の取得に要する経費に充てる目的で「静岡県立美術博物館建設基金」を設置している。館蔵品の取得は、原則「静岡県立美術博物館建設基金」を取崩して購入している。 ・平成8年9月に、基金条例を改正して「資金積立基金」から「定額運用基金」とし、館蔵品の基金による直接購入を可能としている。現在、基金約15億円の内、約10億4,400万円を基金保有美術品として運用している。 ・令和4年度末時点の基金残高は約15億184万円となっており、基金条例により、基金の額は15億円を下回る事ができないため、基金を取崩しての館蔵品の取得は困難な状況である。 ・ただし、基金の内、現金約4億5,700万円については、基金保有美術品（自主企画展の目玉となるような高額作品）として館蔵品を取得することは可能。 <p>基金種類</p> <table border="1"> <tr> <td>資金積立基金</td> <td>財産の維持、資金の積立のために設置する基金</td> </tr> <tr> <td>定額運用基金</td> <td>定額の資金運用のために設置する基金 運用基金の現金を基金の事業目的に運用することが可能</td> </tr> </table> <p>基金内訳</p> <table border="1"> <tr> <td>R4年度末基金残高</td> <td>うち現金</td> <td>うち基金保有美術品</td> </tr> <tr> <td>15億184万9,516円</td> <td>4億5,741万8,486円</td> <td>10億4,443万1,030円</td> </tr> </table>	資金積立基金	財産の維持、資金の積立のために設置する基金	定額運用基金	定額の資金運用のために設置する基金 運用基金の現金を基金の事業目的に運用することが可能	R4年度末基金残高	うち現金	うち基金保有美術品	15億184万9,516円	4億5,741万8,486円	10億4,443万1,030円
資金積立基金	財産の維持、資金の積立のために設置する基金									
定額運用基金	定額の資金運用のために設置する基金 運用基金の現金を基金の事業目的に運用することが可能									
R4年度末基金残高	うち現金	うち基金保有美術品								
15億184万9,516円	4億5,741万8,486円	10億4,443万1,030円								
3 今後の展開										
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度から静岡県の「企業版ふるさと納税」の寄付活用重点メニューに、「静岡らしい美術コレクションの形成、活用」というテーマでエントリーをしている。今後、企業版ふるさと納税のリーフレット等を活用し、対象となる企業に積極的に働きかける。 ・個人版ふるさと納税でも、寄付を募り、基金財源として活用する。 ・このほか、現金の寄付だけでなく、美術品の寄贈依頼もあるので、依頼のあった美術品を適切に評価し、美術館の収集方針に沿う美術品の寄贈を受け入れていく。 ・そのため、これまでの寄贈者の顕彰に努めるとともに、望ましい寄贈例（令和4年度の太田正樹氏による寄贈など）の、積極的な情報発信を行う。 										

基本方針A：特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。

1 前回の委員からの意見
・江戸期から明治へとか、転換期における日本画とか版画といった県立美術館のコレクションの特色を踏まえたテーマによる展覧会が、美術館の特色や長所を生かしていく手立てになるのではないかと思う。(松本委員長)
2 これまでの対応状況
・江戸から近代への転換期の日本画というテーマは、令和4年度末の収蔵品企画展「近代の誘惑」展において取り扱った。
3 今後の展開
・東西の版画コレクションを活用した収蔵品企画展の開催を検討している。 ・今後、コレクションを活用した展覧会のテーマ立てや枠組みについて工夫を凝らし、発展させていく。

基本方針B：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します。

1 前回の委員からの意見
・「ストーリーズ」展のコンセプトは高く評価でき、美術館が長く続く中で、本来だったら遠くにあった作品が、なぜ今静岡県にあるのかという観点から、面白い展開ができるのではないか。(小泉委員)
2 これまでの対応状況
・「ストーリーズ」展は、コレクションの新たな魅力を発掘、提示できたという点で意義深いものと考えている。 ・同展は当館のこれまでの収集活動の検証にもつながった。
3 今後の展開
・委員からの御意見などを参考にしながら、さらに作品の来歴やコレクション形成の歴史等に関する調査・分析を深め、展覧会等へと展開させていきたい。 ・毎月開催する館内の学芸員の研究会でも、館蔵品の履歴や評価の変遷などを調査・分析し、情報を共有することで展示につなげたい。

基本方針B：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します。

1 前回の委員からの意見
・移動美術展をきっかけに、そこにプラスして様々なプログラムを実施して、県の東部と西部でつながりを作っていくという活動を積極的に展開すると、県立美術館としての存在価値が県央地域以外でも広がるのではないか。(中村委員)
2 今後の展開
・作品展示の充実とともに、関連プログラムの展開についても、会場と相談しながら積極的進めていく。

基本方針C：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。

1 前回の委員からの意見
・学校の授業で学んだ子どもたちが、美術館に興味を持ち、将来の来館につながるという流れもあるので、デジタルアーカイブを使った学校向けのコンテンツを充実していくのが良い。(稲庭委員)
2 これまでの対応状況
・デジタルアーカイブのコンテンツ、《地獄の門》VR および池大雅《蘭亭曲水・龍山勝会 図屏風》高精細画像を活用して、小学生向けと中学生向けの2種のオンライン鑑賞教育プログラムを作成した。試行版を学校現場で実施、学校側の視点を取り入れて改善するとともに、実施のための手順書やワークシートを作成し、令和5年4月からウェブにて公開している。
3 今後の展開
・実施校の意見を聴取して現在のプログラムをブラッシュアップしていくとともに、新たなプログラム開発についても検討する。

基本方針C：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。

1 前回の委員からの意見
・SDGsに取り組む企業と連携し、美術館の景観整備とか、外の空間づくりみたいなものが一緒にできるきっかけがちょうど今から始まるのではないか（前田委員）
2 これまでの対応状況
・令和4年度に静岡県経営者協会等を窓口企業との連携を模索し始めた。 ・「みる誕生 鴻池朋子展」では美術館の裏山も会場とすることで、「外の空間づくり」に対する新たな視野を開くことができた。
3 今後の展開
・今後は、景観整備、外の空間づくりという視点も含めて協議していく。

基本方針D：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます。

1 前回の委員からの意見
・似たようなデジタルアーカイブを抱えている他館と協働しながら、作家情報を共有して、より質のいいものを作って共有するような仕組みがないと、各館で頑張って作っても労力が重複してしまう。（小泉委員）
2 これまでの対応状況
・他館との協働は、展覧会の企画運営や図録の制作においては実績があるが、持続的な情報共有・提供までには展開していない。
3 今後の展開
・他館との連携・協働は重要と考える。デジタルアーカイブの将来像として意識しながら、まずは稼働したばかりの当館のデジタルアーカイブの整備と充実を図っていく。

基本方針D：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

1 前回の委員からの意見
・静岡文化芸術大学へのメール等の情報発信は、可能な範囲で続けてほしい。Twitter もあまり難しい内容ではなく、いろいろな準備の様子等、今こんな状況なのだということが分かって、臨場感があるので、今後も続けてほしい。(田中委員)
2 これまでの対応状況
・令和4年度は従来の静岡県立大学、静岡文化芸術大学に加え、静岡産業大学及び常葉大学にも協力をいただき、学生への情報発信に努めた。
3 今後の展開
・引き続き県内学生への積極的な情報発信に努め、新たな情報提供先を開拓していく。

基本方針E：環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。

1 前回の委員からの意見
・アクセスの問題を解消するにも限界がある。純粹に施設の全体の空間作りであったり、館内のコレクションであったり、接客であったり、来館者へのいろいろな周知の仕方というところに集中した方がいいのではないか。(前田委員)
2 これまでの対応状況
・エントランスホールやロダン館の環境改善は実施しており、より居心地のよい空間作りを進めている。 ・令和4年度途中から情報コーナー(旧カフェスペース)の運用を開始した。企画展にちなんだお茶会実施等にも活用し、好評を得た。 ・県内書店と協力し、展覧会関連書籍のコーナーを店舗に設置してもらった。
3 今後の展開
・情報コーナーの活用にあたっては、美術館の機能の拡充を目指して、来館者への情報発信や居心地のよい空間の提供、魅力あるイベントの実施を進めていく。美術館には賑わいのある空間も必要と考える。 ・書店との協力関係を継続し、館外における情報発信を進めていく。

基本方針E：環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。

1 前回の委員からの意見
・美術館へのアクセスに対して輸送にかかわる企業に協力を求めるのも一案である。館全体に対する要請だと具体性がなく埋もれてしまうので、教育普及活動をサポートしてくれませんかという美術館の課題を解決してくれる、強みに共感してくれる企業のサポートを得ていくということも考えられる。(前田委員)
2 これまでの対応状況
・令和3年度のエジプト展での臨時バス運行に関しては、委託という形であったが、静鉄ジャストラインとの連携により実現した。
3 今後の展開
・美術館の課題解決につながる企業との連携も企業との対話の中で探っていきたい。

○その他の意見に対する対応状況

1 前回の委員からの意見
・県立美術館の目指す姿が「基本理念」として明文化され、「多文化共生」「障害者への対応」「地域活性化」など、狭い意味での美術館行政・文化行政に限らない外部資金を取りに行く時の理由づけに使えるキーワードが多数含まれている。設置者である県は、そういった視点から美術館が申請できる外部資金を探すべくアンテナを張って、美術館に情報提供してほしい。(中村委員)
2 対応について
・内閣府が実施する「地方創生交付金事業」として、食の魅力を活用したガストロノミー(食・食文化)ツーリズム推進事業を、観光政策課、マーケティング推進課と協同で、令和5年度も引き続き実施の予定。 美術館としては、館内レストラン等で企画展に合わせ関連オリジナルメニューの提供や食に関するイベントを開催する予定。 ・「文化観光推進法」に基づく「地域計画(日本平文化ゾーン(アートヒルズ)構想)」を国に申請中。国に計画が認定された場合は、県立美術館も文化観光拠点施設の一つとして、その一翼を担う予定。 ・他にも美術館が申請できそうな外部資金については、積極的に情報提供を行う。

○その他の意見に対する対応状況

1 前回の委員からの意見
・ 5カ年計画で次に求められるのが、誰がいつまでに何をどうするかというアクションプランである。バックアップする県も、支えているボランティアも全部仲間に入ってもらって、日々の活動の中でアクションプランを徹底的にやってほしい。半期とか1年ごとの振り返りで反省して、また次に向かっていく。せつかく作られた5カ年計画をとことん問い詰めてやってほしい。(櫻井委員)
2 対応について
・ 5カ年計画内の年次計画について、1年ごとに実績と新たな取組みの追加をしていく。



令和4年度 設置者（県）の取組状況

1 東アジア文化都市事業の実施

「東アジア文化都市 2023 静岡県」は、令和5年1月から取組が始まり、5月2日には、中国梅州市や韓国全州市の各副市長をはじめ、関係者600人余りを招き春の式典を盛大に開催した。12月のフィナーレに向けて、世界に輝ける東アジア文化都市を県民総がかりで創造するとともに、目標とする過去最大の実績である事業数500本、来場者数360万人、経済波及効果100億円以上の達成に向け、全力で事業に取り組んでいる。

東アジア文化都市実行委員会の委員として、木下館長も文化施設の代表として名を連ねており、県立美術館で開催する企画展やイベントは、東アジア文化都市のコア事業として位置付けられ情報発信している。

10月に開催する企画展「^{スーパースター}大大名の名宝」展では、細川家所蔵の中国絵画も出品され、記念講演会「細川家の歴史と永世文庫」を開催する予定。

東アジア文化都市 2023 静岡県の事業構造

区 分	内 容
交流事業 広報事業	◎公式式典、交流プログラムの実施 ・中国・韓国の開幕/閉幕式典への参加、その他国際交流事業 ◎広報の積極的展開（SNS等を通じた情報発信など）
コア事業	◎本県独自の文化芸術事業を展開 ・富士山世界遺産登録10周年事業 ・伊豆文学祭 ・静岡国際オペラコンクール ・SPAC せかい演劇祭 ・県有文化施設（県立美術館など）による企画展・イベントの開催
協働 プログラム	◎文化の首都として、幅広い分野で魅力を発掘・発信 ・スポーツ ・歴史文化 ・食文化 ・茶文化 ・農業 ・ファッション ・サブカルチャー
地域連携 プログラム	◎市町、地域の様々な団体と連携した文化事業 ・各市町・各種団体主催事業 ・民間主催事業 ・認証プログラム

2 教育機関との連携(ふじのくに文化教育プログラム)

県では、「第5期静岡県文化振興基本計画」の重点施策の一つとして、「文化芸術に触れる機会の拡充と人材育成の促進」を位置付けている。

そうした中、令和4年度には、子ども向け事業の全てを1つのプログラムとして体系付け、各学校に「ふじのくに文化教育プログラム」として情報提供することとした。

県立美術館を初めとした県の文化機関が行う学校向け文化体感プログラムを「ふじのくに文化教育プログラム」としてまとめて冊子化して、学校現場に配布するとともに、県立学校・市立高等学校校長会、私学協会理事長校長会等の場で説明して周知している。

これにより、学校カリキュラムの選択肢が増え、より多くの子どもたちの鑑賞・体験機会の増加につながることを期待している。

なお、「ふじのくに文化教育プログラム」で県立美術館は、P16～P21に掲載されている。

3 美術館の修繕

県立美術館は1986年4月に開館し、令和4年度で36年目となった。そこで、文化政策課では、資産経営課と連携し、令和元年度に行った劣化診断業務委託の結果をもとに中期維持保全計画（5年間の修繕計画）を策定し、修繕工事などを計画的に進めている。

(1)劣化診断の結果 (R1)

区分	部材・設備機器	症状	対応方針	実施(予定)
建築	展示移動壁	穴・補修跡が相当数あり	改修	R3 済
	乗用・荷物用エレベータ	耐用年数超過	更新	R3 済
	外壁タイル剥離	外壁全面打診調査(R2)結果により実施	改修	R5
電気	ロダン館受変電設備	耐用年数超過、劣化	更新	R7
	監視カメラ設備	保守部品入手不可・機能低下	更新	R4 済
	展示室スポットライト	照明効率の低下	更新	R3 済
機械	吸収式冷凍機・スクリュウ冷凍機	故障頻発、劣化	更新	R5
	ハロゲン消火装置	耐用年数超過	更新	R3 済
	ファンコイルユニット	故障頻発	更新	R4 済
舞台	講堂舞台照明	保守部品入手不可、劣化	更新	R6
	講堂舞台音響設備	故障、保守部品入手不可	更新	R6

(2) 中期維持保全計画

(単位：千円)

	R2	R3	R4	R5	R6	合計
委託料	9,768	4,802	10,849	12,553	13,420	51,392
工事費	170,797	240,512	153,533	650,847	209,501	1,425,190
合計	180,565	245,314	164,382	663,400	222,921	1,476,582

(3) 令和4年度の美術館改修工事

項 目	内 容
工事期間	令和4年11月～令和5年2月（4ヶ月）
金 額	153,533 千円
改修工事 の内容	本館ファンコイルユニット更新、監視カメラ設備更新、 本館整流器盤更新など（工事期間中は休館）

令和4年度
静岡県立美術館評価業務
報告書

令和5年3月
静岡県立美術館

令和4年度 静岡県立美術館評価業務 報告書

目 次

I	調査概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 実施概要	1
	(3) 報告書内のデータ記述について	1
II	調査結果概要	2
	(1) 結果概要	2
	(2) 提言	2
III	美術館評価指標の現状値	3
IV	展覧会アンケート結果	4
	(1) 回収状況	4
	(2) 観覧者の属性	6
	1 性別	6
	2 年齢	8
	3 居住地	10
	(3) 観覧者の行動	12
	1 来館回数	12
	1-1 1年以内の来館回数（今回を除く）	14
	2 来館人数	16
	3 来館時の同行者（複数回答可）	18
	4 展覧会に来たきっかけ・理由（複数回答可）	22
	5 勧誘の手段（複数回答可）	28
	(4) 展覧会の評価	32
	1 作品やテーマへの興味・関心の深まり	32
	2 会場における観覧時の心地よさ	34
	3 スタッフの対応の適切さ	36
	4 展覧会のことを勧めたいか	38
	5 情報の入手しやすさ	40
	6 来館の際の主な交通手段	42
	7 公共交通機関の利用のスムーズさ	44
	8 満足度	46
	9 「風景とロダンの美術館」としての認知度	48
	(5) レストラン、ミュージアム・ショップアンケート結果	50

1	レストランの満足度.....	50
2	ミュージアムショップの満足度.....	54
V	自由意見.....	58
A	感想.....	58
B	要望.....	62
C	苦情.....	65

I 調査概要

(1) 調査目的

静岡県立美術館では、評価委員会提言「評価と経営の確立に向けて」（平成 17 年 3 月）を踏まえ、館長公約を柱とする自己評価システムの体系を構築している。

今般、館の全体像を把握する評価指標を整理するためアンケートを実施した。

(2) 実施概要

	兵馬俑と古代中国 ～秦漢文明の遺産～	絶景を描く －江戸時代の風景表 現－	みる誕生 鴻池朋子展			
会 期	令和 4 年 6 月 18 日 ～ 8 月 28 日	令和 4 年 9 月 10 日 ～ 10 月 23 日	令和 4 年 11 月 3 日 ～ 令和 5 年 1 月 9 日			
開催日数	63 日	38 日	54 日			
観覧者数	62,901 人	4,678 人	8,623 人			
1 日あたり平均観覧者数	998 人／日	123 人／日	160 人／日			
アンケート実施日	6 月 18 日 ～ 7 月 10 日	71 件	9 月 10 日 ～ 9 月 24 日	8 件	11 月 3 日 ～ 11 月 27 日	13 件
	7 月 12 日 ～ 8 月 7 日	77 件	9 月 25 日 ～ 10 月 9 日	7 件	11 月 29 日 ～ 12 月 18 日	7 件
	8 月 8 日 ～ 8 月 28 日	85 件	10 月 10 日 ～ 10 月 23 日	7 件	12 月 19 日 ～ 1 月 9 日	19 件
アンケート実施数	233 件	22 件	39 件			
回収率 ※観覧者数に占める実施の割合	0.4%	0.5%	0.5%			

令和 4 年度の今年度は展覧会開催中、調査票を出口付近に置き、来館者の自記式により調査を行った。

(3) 報告書内のデータ記述について

- ・ 比率は全て百分率で表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのために、比率の合計が 100% にならないことがある。
- ・ 基数とすべき実数は、表中に「件数」として記載した。比率はこの基数を 100% として算出している。
- ・ 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100% を超える場合がある。
- ・ 平成 27 年度以前の報告書は、無回答を除いて割合を算出している。平成 28 年度以降は無回答を含み集計している。また、本報告書中の表で無回答がないのは、無回答が 0% である。

II 調査結果概要

(1) 結果概要

	兵馬俑と古代中国 ～秦漢文明の遺産～		絶景を描く ～江戸時代の風景表現～		みる誕生 鴻池朋子展
①展覧会満足度（展覧会別）	87.1%		86.4%		77.0%
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
②展覧会満足度（経年）	89.4%	85.0%	84.4%	88.0%	85.7%
③レストラン満足度	71.1%	63.0%	11.7%	9.4%	9.2%
④ミュージアムショップ満足度	95.2%	94.0%	49.1%	39.2%	19.0%
⑤ホームページ満足度	70.0%	62.5%	71.8%	70.6%	-

(2) 提言

満足度と評価の相関係数

問	Q5①	Q5②	Q5③	Q5④	Q5⑤	Q5⑦
評 価	作品やテーマへの興味・関心の深まり	会場における観覧時の心地よさ	スタッフの対応の適切さ	展覧会のことを勧めたいか	情報の入手しやすさ	公共交通機関の利用のスムーズさ
兵馬俑と古代中国 ～秦漢文明の遺産～	0.423	0.614	0.406	0.449	0.315	0.307
絶景を描く ～江戸時代の風景 表現～	0.566	0.322	0.637	0.480	0.032	0.227
みる誕生 鴻池朋子展	0.646	0.738	0.409	0.774	0.331	0.023
全 体	0.476	0.614	0.414	0.512	0.303	0.247

※算出方法：展覧会の評価【Q5①～⑦】の5段階評価を1点～5点に置き換えて相関係数を算出した。ただし無回答については「どちらともいえない（3点）」と換算した。

※相関係数：-1～1をとる係数で、0に近いほど相関は薄い。1に近づくほど正の相関が、-1に近づくほど負の相関がある。（0.0～±0.2…ほとんど相関がない／±0.2～±0.4…やや相関がある／±0.4～±0.7…相関がある／±0.7～±0.9…強い相関がある／±0.9～±1.0…極めて強い相関がある）

相関係数をみると、評価が高いほど満足度も高い傾向にある項目は、下表のとおり。

兵馬俑と古代中国 ～秦漢文明の遺産～	1位	会場における観覧時の心地よさ	0.614
	2位	展覧会のことを勧めたいか	0.449
	3位	作品やテーマへの興味・関心の深まり	0.423
絶景を描く ～江戸時代の風景 表現～	1位	スタッフの対応の適切さ	0.637
	2位	作品やテーマへの興味・関心の深まり	0.566
	3位	展覧会のことを勧めたいか	0.480
みる誕生 鴻池朋子展	1位	展覧会のことを勧めたいか	0.774
	2位	会場における観覧時の心地よさ	0.738
	3位	作品やテーマへの興味・関心の深まり	0.646
全 体	1位	会場における観覧時の心地よさ	0.614
	2位	展覧会のことを勧めたいか	0.512
	3位	作品やテーマへの興味・関心の深まり	0.476

Ⅲ 美術館評価指標の現状値

		R3 実績	R4 実績	展覧会				
				A*	B*	C*		
A	2	展覧会リピート率	83.2%	77.2%	78.2%	77.2%	71.7%	
	3	展覧会満足度	88.0%	85.7%	87.1%	86.4%	77.0%	
	8	鑑賞環境満足度	90.3%	85.3%	85.0%	86.3%	87.1%	
B	23	風景美術館認知度	69.8%	68.0%	66.5%	77.3%	71.8%	
C	25	情報が「入手しやすい」	80.0%	75.5%	76.0%	86.4%	66.7%	
	26	公共交通機関アクセス満足度	67.8%	80.9%	78.2%	100.0%	82.4%	
	27	自家用車アクセス満足度	55.7%	-	-	-	-	
	29	スタッフ対応満足度	85.8%	84.0%	82.8%	86.3%	89.8%	
	34	レストラン満足度	52.0%	38.1%	35.5%	0.0%	71.4%	
	36	ミュージアムショップ満足度	67.5%	53.3%	50.7%	66.7%	56.3%	
D	46	ホームページ満足度	70.6%	-	-	-	-	
	51	展覧会での新規観覧者の割合	16.7%	22.4%	21.9%	22.7%	25.6%	
	52	展覧会での新規観覧者満足度	88.5%	87.8%	88.2%	100.0%	80.0%	
	53	地域別利用者割合	東部	17.7%	15.3%	17.6%	13.6%	2.6%
		中部	59.4%	55.1%	54.5%	59.1%	56.4%	
		西部	14.4%	17.0%	19.7%	9.1%	5.1%	
		県外	7.1%	11.6%	7.7%	18.2%	30.8%	
54	2・3世代観覧割合	50.0%	32.3%	36.9%	18.2%	12.8%		

※展覧会A・・・兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～

展覧会B・・・絶景を描く一江戸時代の風景表現一

展覧会C・・・みる誕生 鴻池朋子展

※公共交通機関アクセス満足度は、公共交通機関を利用した人を母数として集計をしています。

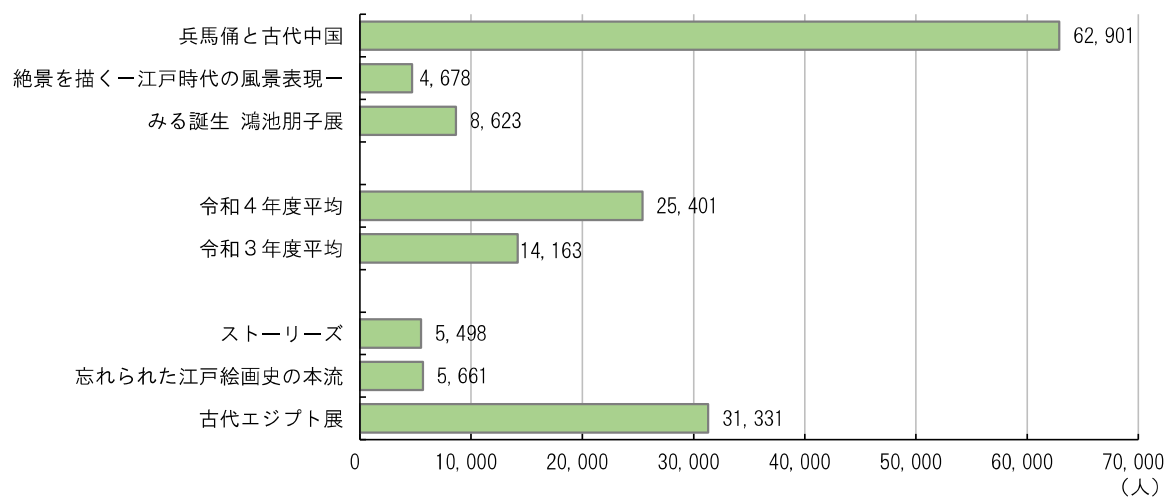
※レストラン満足度は、レストランを利用した人を母数として集計をしています。同様にミュージアムショップ満足度は、ミュージアムショップを利用した人を母数として集計をしています。

※2・3世代観覧割合は、2人以上で来館し、親、子ども、祖父母、孫と回答した該当者の割合として集計をしています。

IV 展覧会アンケート結果

(1) 回収状況

		観覧者数 (人)	回収数 (件)	回収率 (%)
令和 4 年度	兵馬俑と古代中国	62,901	233	0.4
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	4,678	22	0.5
	みる誕生 鴻池朋子展	8,623	39	0.5
経 年	令和4年度平均	25,401	98	0.4
	令和3年度平均	14,163	192	1.4
令和 3 年度	ストーリーズ	5,498	72	1.3
	忘れられた江戸絵画史の本流	5,661	107	1.9
	古代エジプト展	31,331	397	1.3



(2) 観覧者の属性

1 性別

全体

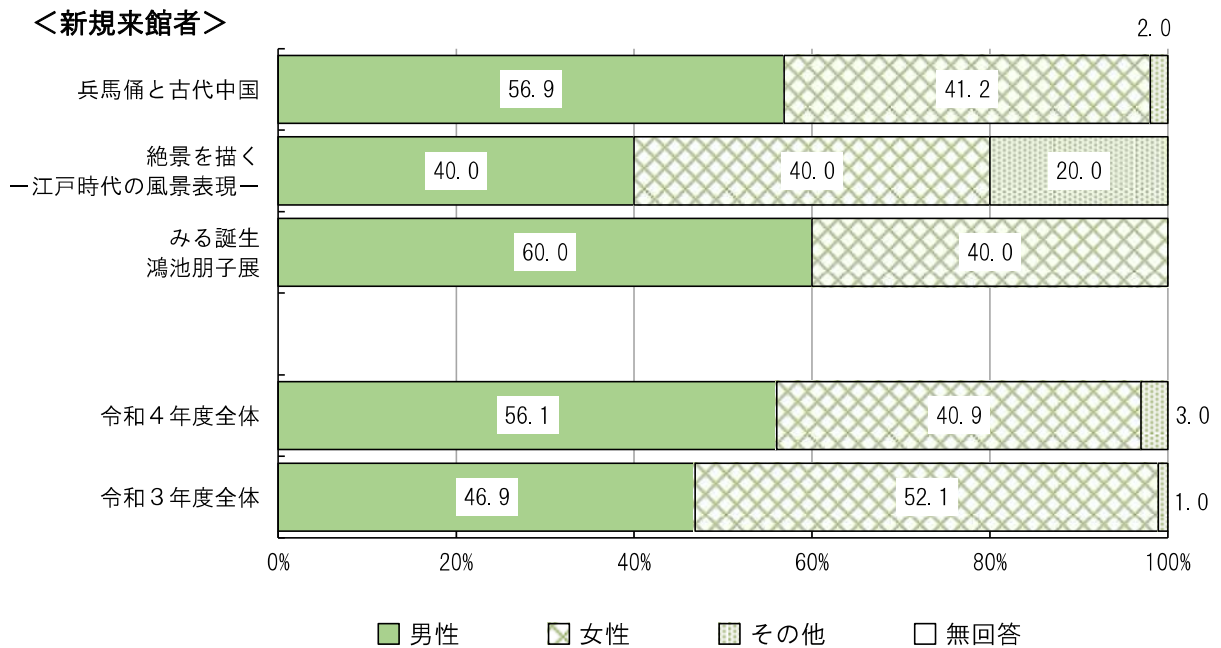
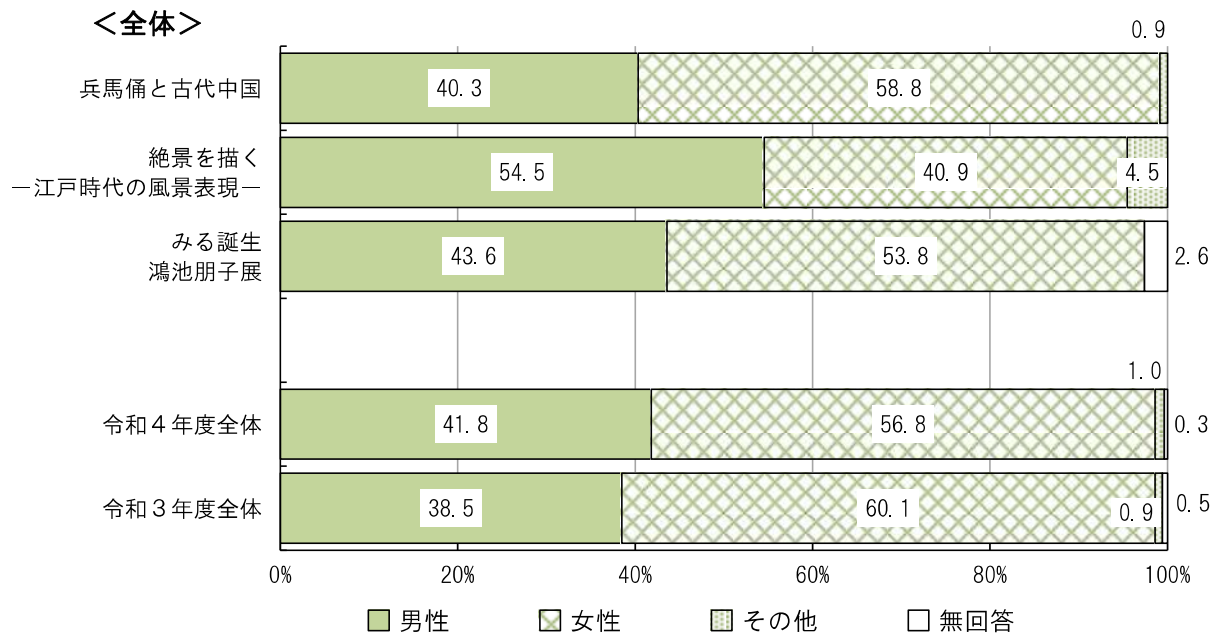
		件数 (件)	男性	女性	その他	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	40.3	58.8	0.9	0.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	54.5	40.9	4.5	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	43.6	53.8	0.0	2.6
経年	令和4年度全体	294	41.8	56.8	1.0	0.3
	令和3年度全体	576	38.5	60.1	0.9	0.5
令和3年度	ストーリーズ	72	43.1	55.6	-	1.4
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	46.7	53.3	0.0	0.0
	古代エジプト展	397	35.5	62.7	1.3	0.5

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	男性	女性	その他	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	56.9	41.2	2.0	0.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	40.0	40.0	20.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	60.0	40.0	0.0	0.0
経年	令和4年度全体	66	56.1	40.9	3.0	0.0
	令和3年度全体	96	46.9	52.1	1.0	0.0
令和3年度	ストーリーズ	9	88.9	11.1	-	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	46.2	53.8	0.0	0.0
	古代エジプト展	74	41.9	56.8	1.4	0.0

単位：％



性別について、令和4年度全体は、「男性」41.8%、「女性」56.8%、「その他」1.0%と、令和3年度全体より「男性」が3.3ポイント高くなり、「女性」が3.3ポイント低くなっている。

展覧会別にみると、『絶景を描くー江戸時代の風景表現ー』では「男性」54.5%と他の展覧会と比べ高く、『兵馬俑と古代中国』では「女性」58.8%と他の展覧会と比べ高くなっている。

新規来館者の令和4年度全体は、「男性」56.1%、「女性」40.9%、「その他」3.0%と、令和3年度全体より「男性」が9.2ポイント高くなり、「女性」が11.2ポイント低くなっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『みる誕生 鴻池朋子展』では「男性」60.0%と他の展覧会と比べ高く、『兵馬俑と古代中国』では「女性」41.2%と他の展覧会と比べ高くなっている。

2 年齢

全体

		件数 (件)	12 歳 以下	13 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上	無 回 答
令和 4 年度	兵馬俑と古代中国	233	10.3	8.6	11.6	11.6	14.2	18.9	13.7	11.2	0.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	9.1	9.1	13.6	4.5	9.1	27.3	18.2	9.1	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	5.1	0.0	12.8	12.8	12.8	12.8	23.1	17.9	2.6
経 年	令和4年度全体	294	9.5	7.5	11.9	11.2	13.6	18.7	15.3	11.9	0.3
	令和3年度全体	576	6.9	7.5	15.5	14.6	16.0	20.5	11.5	7.1	0.5
令和 3 年度	ストーリーズ	72	1.4	9.7	25.0	16.7	20.8	13.9	8.3	4.2	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	2.8	2.8	12.1	10.3	15.0	23.4	18.7	14.0	0.9
	古代エジプト展	397	9.1	8.3	14.6	15.4	15.4	20.9	10.1	5.8	0.5

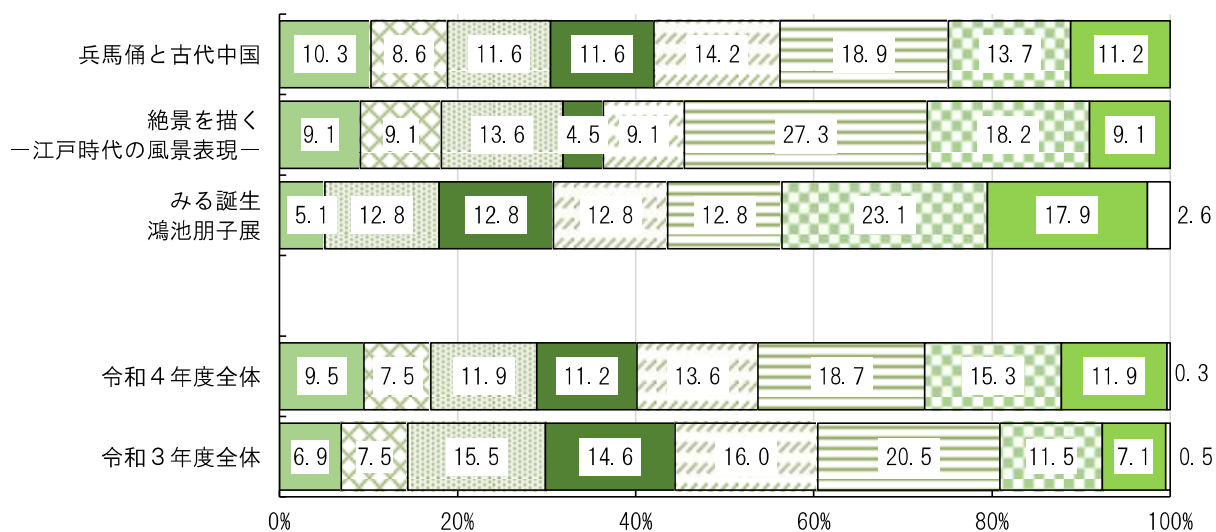
単位：％

新規来館者

		件数 (件)	12 歳 以下	13 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上	無 回 答
令和 4 年度	兵馬俑と古代中国	51	19.6	9.8	17.6	9.8	11.8	17.6	7.8	5.9	0.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	0.0	0.0	30.0	0.0	10.0	20.0	30.0	10.0	0.0
経 年	令和4年度全体	66	18.2	9.1	18.2	7.6	10.6	19.7	10.6	6.1	0.0
	令和3年度全体	96	17.7	13.5	13.5	12.5	12.5	15.6	8.3	5.2	1.0
令和 3 年度	ストーリーズ	9	0.0	11.1	22.2	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	7.7	7.7	0.0	15.4	23.1	15.4	23.1	7.7
	古代エジプト展	74	23.0	14.9	13.5	13.5	10.8	14.9	6.8	2.7	0.0

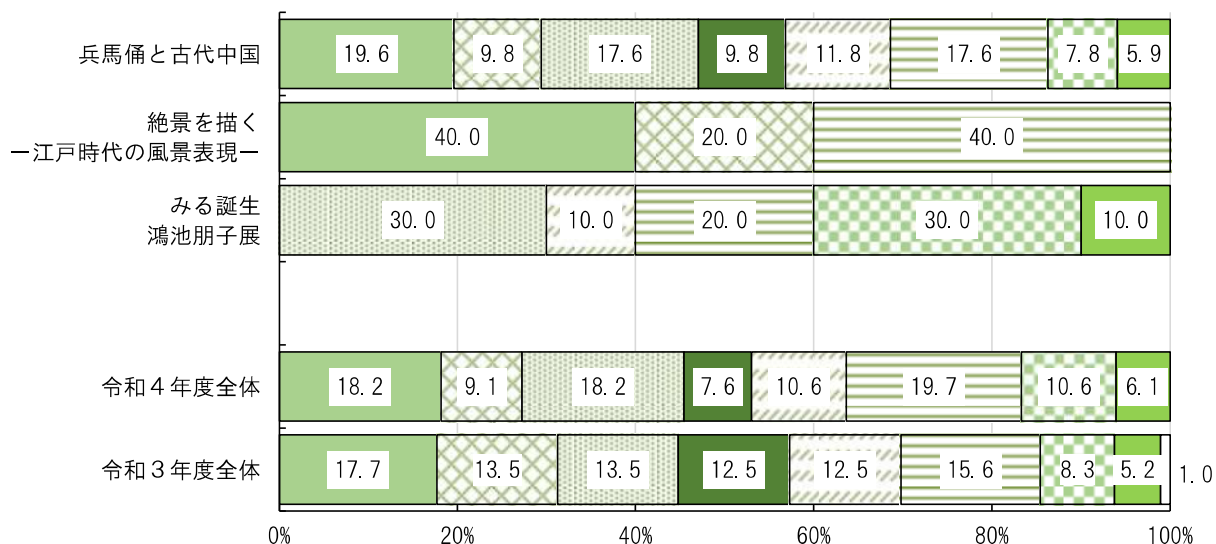
単位：％

<全体>



■ 12歳以下 □ 13~19歳 ▨ 20歳代 ■ 30歳代 ▩ 40歳代 ▪ 50歳代 ▫ 60歳代 ■ 70歳以上 □ 無回答

<新規来館者>



■ 12歳以下 □ 13~19歳 ▨ 20歳代 ■ 30歳代 ▩ 40歳代 ▪ 50歳代 ▫ 60歳代 ■ 70歳以上 □ 無回答

年齢について、令和4年度全体は、「50歳代」18.7%と最も高く、次いで「60歳代」15.3%、「40歳代」13.6%の順となっている。

展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「50歳代」18.9%と最も高く、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「50歳代」27.3%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「60歳代」23.1%と最も高くなっている。

新規来館者の令和4年度全体は、「50歳代」19.7%と最も高く、次いで「12歳以下」「20歳代」18.2%の順となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「12歳以下」19.6%と最も高く、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「12歳以下」「50歳代」40.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「20歳代」「60歳代」30.0%と最も高くなっている。

3 居住地

全体

		件数 (件)	静岡市	中部 (静岡市以外)	西部	東部	賀茂	県内 (詳細不明)	県外	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	46.8	7.7	19.7	16.7	0.9	0.0	7.7	0.4
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	50.0	9.1	9.1	13.6	0.0	0.0	18.2	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	43.6	12.8	5.1	2.6	0.0	0.0	30.8	5.1
経年	令和4年度全体	294	46.6	8.5	17.0	14.6	0.7	0.0	11.6	1.0
	令和3年度全体	576	48.8	10.6	14.4	17.5	0.2	0.7	7.1	0.7
令和3年度	ストーリーズ	72	51.4	12.5	16.7	18.1	0.0	0.0	1.4	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	47.7	7.5	12.1	12.1	0.0	0.9	18.7	0.9
	古代エジプト展	397	48.6	11.1	14.6	18.9	0.3	0.8	5.0	0.8

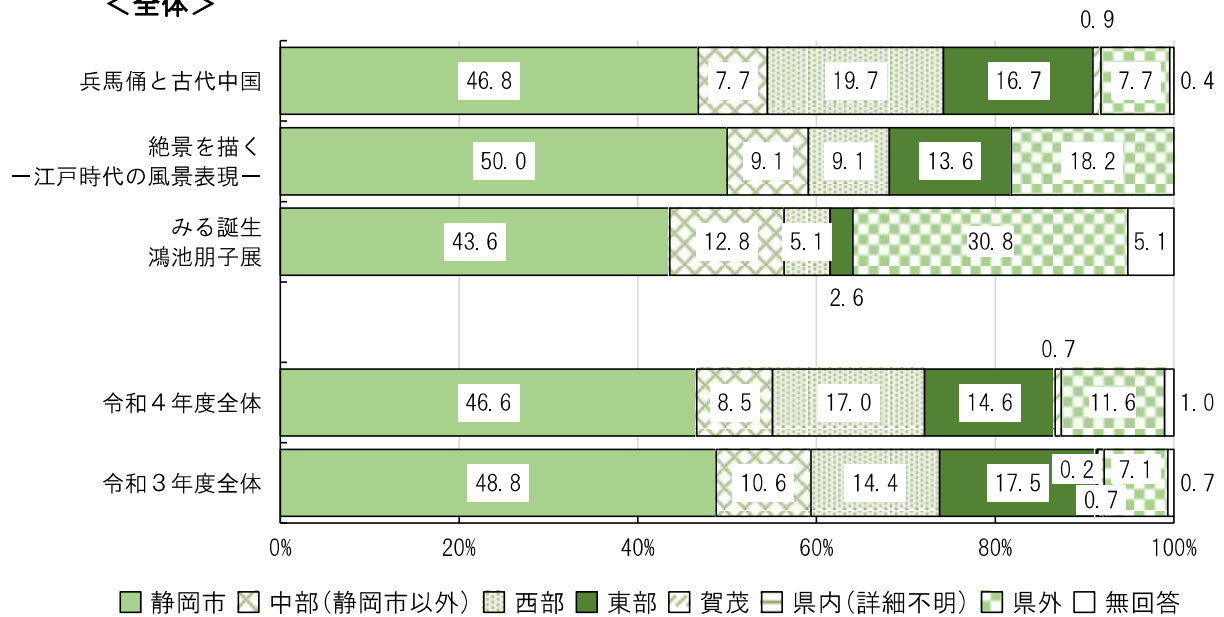
単位：％

新規来館者

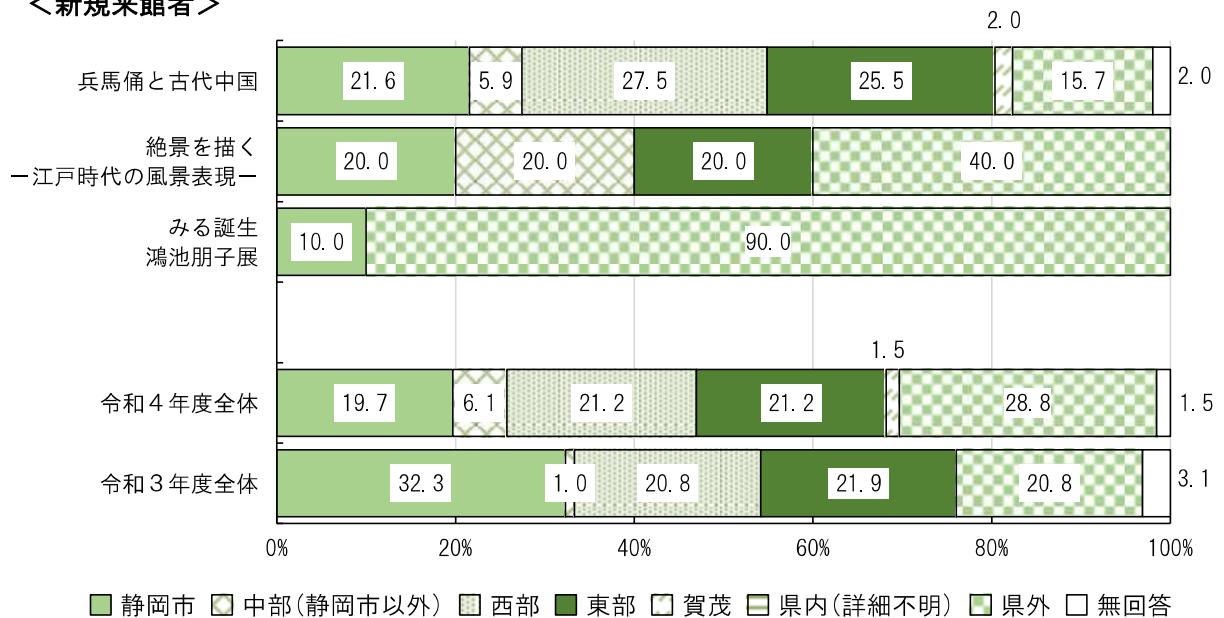
		件数 (件)	静岡市	中部 (静岡市以外)	西部	東部	賀茂	県内 (詳細不明)	県外	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	21.6	5.9	27.5	25.5	2.0	0.0	15.7	2.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0
経年	令和4年度全体	66	19.7	6.1	21.2	21.2	1.5	0.0	28.8	1.5
	令和3年度全体	96	32.3	1.0	20.8	21.9	0.0	0.0	20.8	3.1
令和3年度	ストーリーズ	9	22.2	11.1	33.3	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	15.4	0.0	15.4	30.8	0.0	0.0	30.8	7.7
	古代エジプト展	74	36.5	0.0	20.3	20.3	0.0	0.0	20.3	2.7

単位：％

<全体>



<新規来館者>



居住地について、令和4年度全体は、「静岡市」46.6%と最も高く、次いで「西部」17.0%、「東部」14.6%の順となっている。

展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「静岡市」46.8%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「静岡市」50.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「静岡市」43.6%といずれの展覧会でも「静岡市」が最も高くなっている。『みる誕生 鴻池朋子展』では「県外」30.8%と他の展覧会と比べ高くなっている。

新規来館者の令和4年度全体は、「県外」28.8%と最も高く、次いで「西部」「東部」21.2%となっている。令和3年度全体と比べると、「県外」は8.0ポイント高くなり、「静岡市」は12.6ポイント低くなっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「西部」27.5%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「県外」40.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「県外」90.0%と最も高くなっている。

(3) 観覧者の行動

1 来館回数

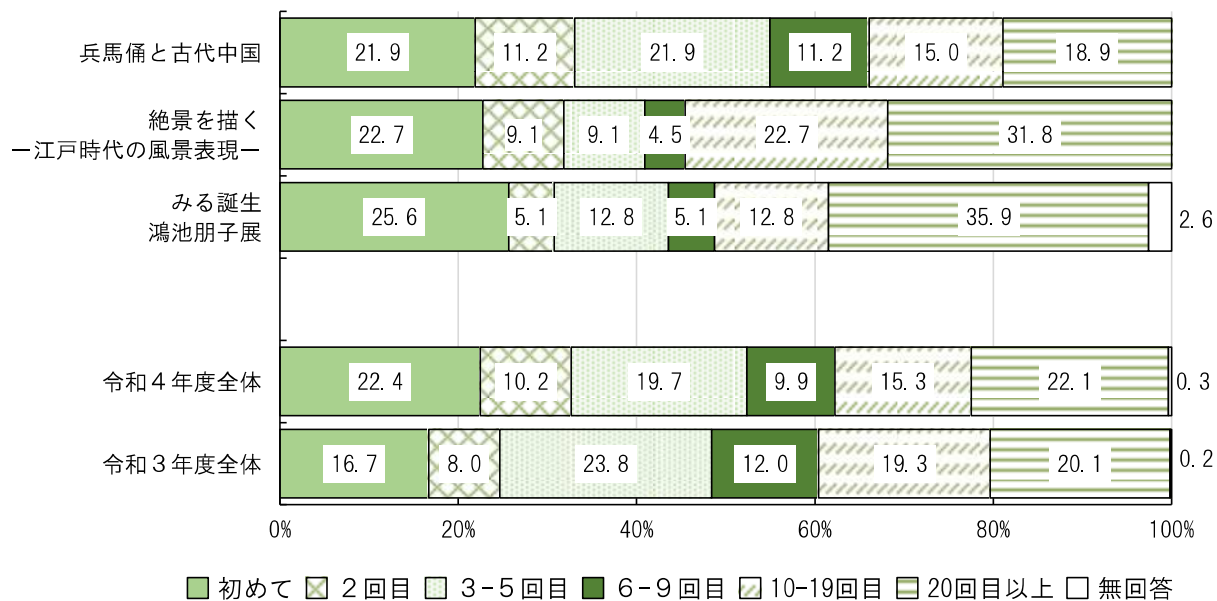
Q1 静岡県立美術館に来館するのは今日が何回目ですか。○を1つお付けください。

全体

		件数 (件)	初めて	2 回目	3 - 5 回目	6 - 9 回目	10 - 19 回目	20 回目 以上	無 回 答
令和 4 年度	兵馬俑と古代中国	233	21.9	11.2	21.9	11.2	15.0	18.9	0.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	22.7	9.1	9.1	4.5	22.7	31.8	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	25.6	5.1	12.8	5.1	12.8	35.9	2.6
経 年	令和4年度全体	294	22.4	10.2	19.7	9.9	15.3	22.1	0.3
	令和3年度全体	576	16.7	8.0	23.8	12.0	19.3	20.1	0.2
令和 3 年度	ストーリーズ	72	12.5	6.9	20.8	11.1	26.4	20.8	1.4
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	12.1	3.7	18.7	7.5	28.0	29.9	0.0
	古代エジプト展	397	18.6	9.3	25.7	13.4	15.6	17.4	0.0

単位：%

<全体>



来館回数について、令和4年度全体は、「初めて」22.4%と最も高く、次いで「20回目以上」22.1%、「3-5回目」19.7%の順となっている。令和3年度全体と比べると、「初めて」は5.7ポイント、「20回目以上」は2.0ポイント高くなり、「3-5回目」は4.1ポイント低くなっている。

展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「初めて」「3-5回目」21.9%と最も高く、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「20回目以上」31.8%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「20回目以上」35.9%と最も高くなっている。『みる誕生 鴻池朋子展』では「初めて」25.6%と他の展覧会と比べて高くなっている。

1-1 1年以内の来館回数（今回を除く）

来館回数で、2回目以降の来館と回答した方のみ

Q1で、「2～6」と回答した方（2回目以降の来館の方）にお尋ねします。

Q1-1 今日以外の、この1年間で当美術館に何回ご来館になりましたか。

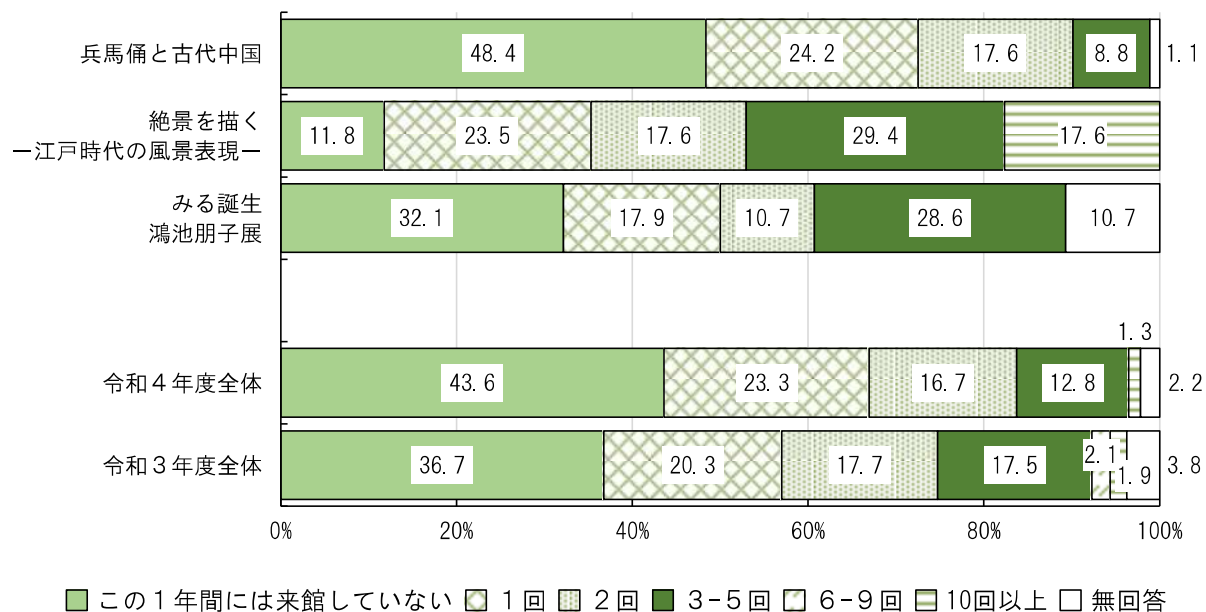
○を1つお付けください。

全体

		件数 (件)	てにこ いはの ない来1 館年 し間	1 回	2 回	3 - 5 回	6 - 9 回	10 回 以上	無 回 答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	182	48.4	24.2	17.6	8.8	0.0	0.0	1.1
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	17	11.8	23.5	17.6	29.4	0.0	17.6	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	28	32.1	17.9	10.7	28.6	0.0	0.0	10.7
経 年	令和4年度全体	227	43.6	23.3	16.7	12.8	0.0	1.3	2.2
	令和3年度全体	479	36.7	20.3	17.7	17.5	2.1	1.9	3.8
令和3年度	ストーリーズ	62	30.6	14.5	21.0	24.2	1.6	1.6	6.5
	忘れられた江戸絵画史の本流	94	27.7	17.0	17.0	24.5	5.3	4.3	4.3
	古代エジプト展	323	40.6	22.3	17.3	14.2	1.2	1.2	3.1

単位：%

<全体>



1年以内の来館回数について、令和4年度全体は、「この1年間には来館していない」43.6%と最も高く、次いで「1回」23.3%、「2回」16.7%の順となっている。令和3年度全体と比べると、「この1年間には来館していない」は6.9ポイント高くなり、「10回以上」は0.6ポイント低くなっている。

展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「この1年間には来館していない」48.4%、次いで「1回」24.2%、「2回」17.6%の順となっている。『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「3-5回」29.4%、「1回」23.5%、「2回」「10回以上」17.6%の順となっている。『みる誕生 鴻池朋子展』では「この1年間には来館していない」32.1%、「3-5回」28.6%、「1回」17.9%の順となっている。

2 来館人数

Q2 今日は何人でおいでになりましたか。数字を右づめでご記入ください。

全体

		件数 (件)	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	36.1	35.2	13.7	9.9	2.6	1.3	1.3
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	59.1	27.3	4.5	0.0	0.0	0.0	9.1
	みる誕生 鴻池朋子展	39	69.2	17.9	2.6	7.7	0.0	0.0	2.6
経年	令和4年度全体	294	42.2	32.3	11.6	8.8	2.0	1.0	2.0
	令和3年度全体	576	41.0	39.1	12.2	5.9	0.9	1.0	0.0
令和3年度	ストーリーズ	72	48.6	37.5	13.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	57.9	36.4	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	古代エジプト展	397	35.0	40.1	13.6	8.6	1.3	1.5	0.0

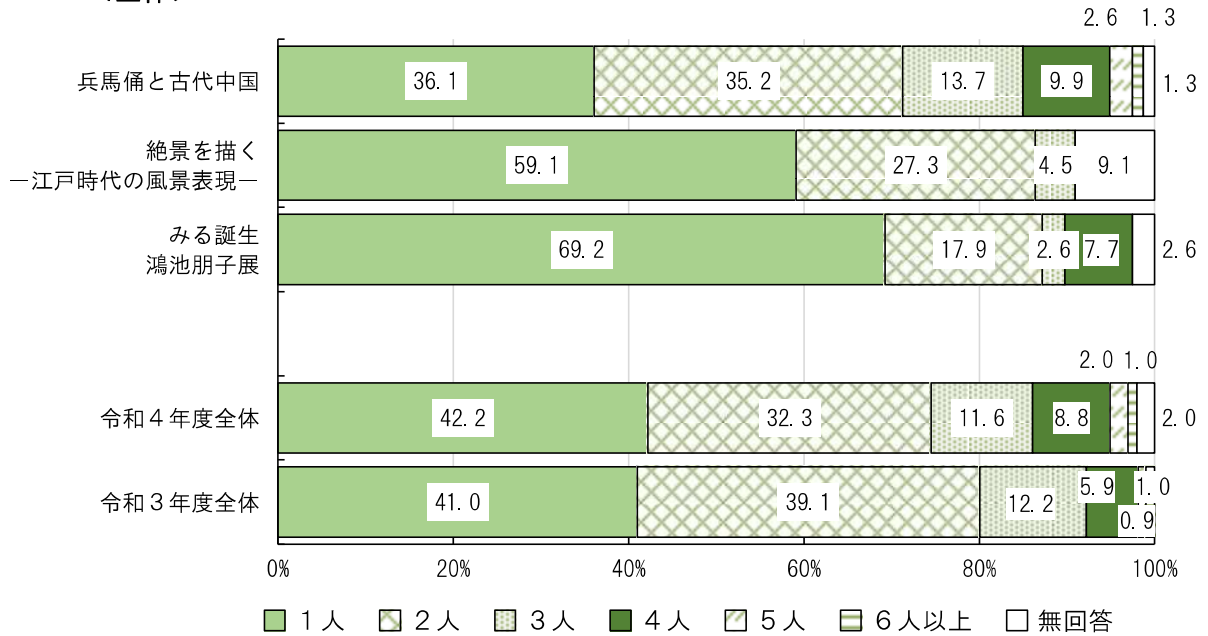
単位：％

新規来館者

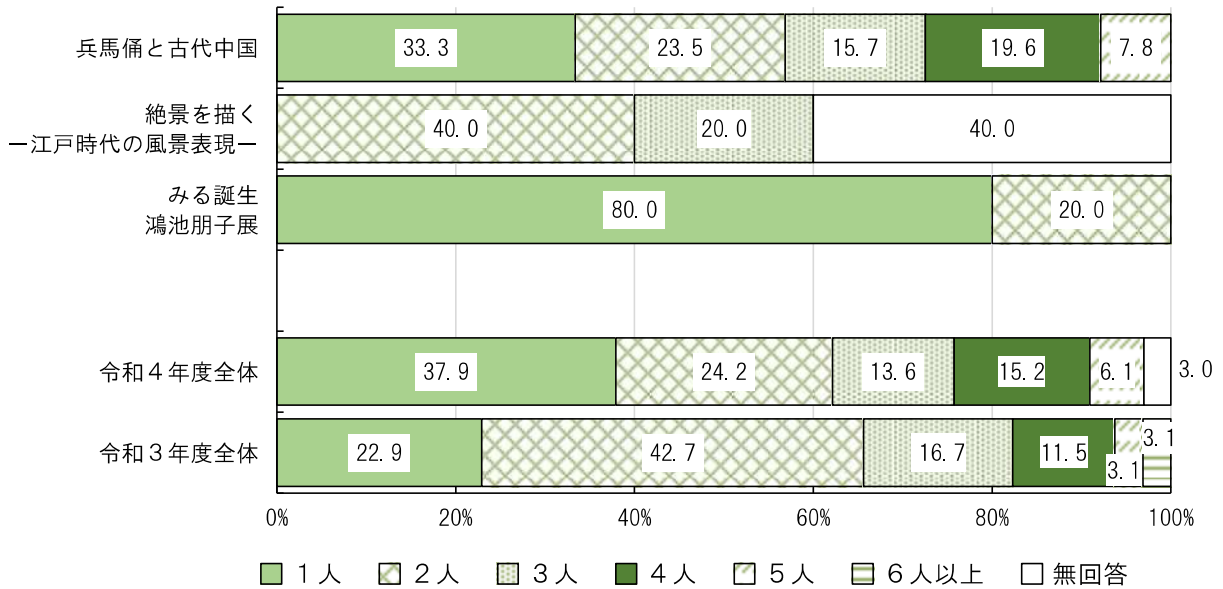
		件数 (件)	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	33.3	23.5	15.7	19.6	7.8	0.0	0.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
経年	令和4年度全体	66	37.9	24.2	13.6	15.2	6.1	0.0	3.0
	令和3年度全体	96	22.9	42.7	16.7	11.5	3.1	3.1	0.0
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	55.6	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	46.2	46.2	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	古代エジプト展	74	21.6	40.5	14.9	14.9	4.1	4.1	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



来館人数について、令和4年度全体は、「1人」42.2%と最も高く、次いで「2人」32.3%、「3人」11.6%の順となっている。

展覧会別にみると、どの展覧会でも「1人」が最も高く、『兵馬俑と古代中国』では「1人」36.1%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「1人」59.1%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「1人」69.2%となっている。『兵馬俑と古代中国』では「3人」13.7%と他の展覧会と比べて高くなっている。

新規来館者の令和4年度全体は、「1人」37.9%と最も高く、次いで「2人」24.2%、「4人」15.2%の順になっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「1人」33.3%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「2人」40.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「1人」80.0%が最も高くなっている。

3 来館時の同行者（複数回答可）

来館人数で、2人以上で来館したと回答した方のみ

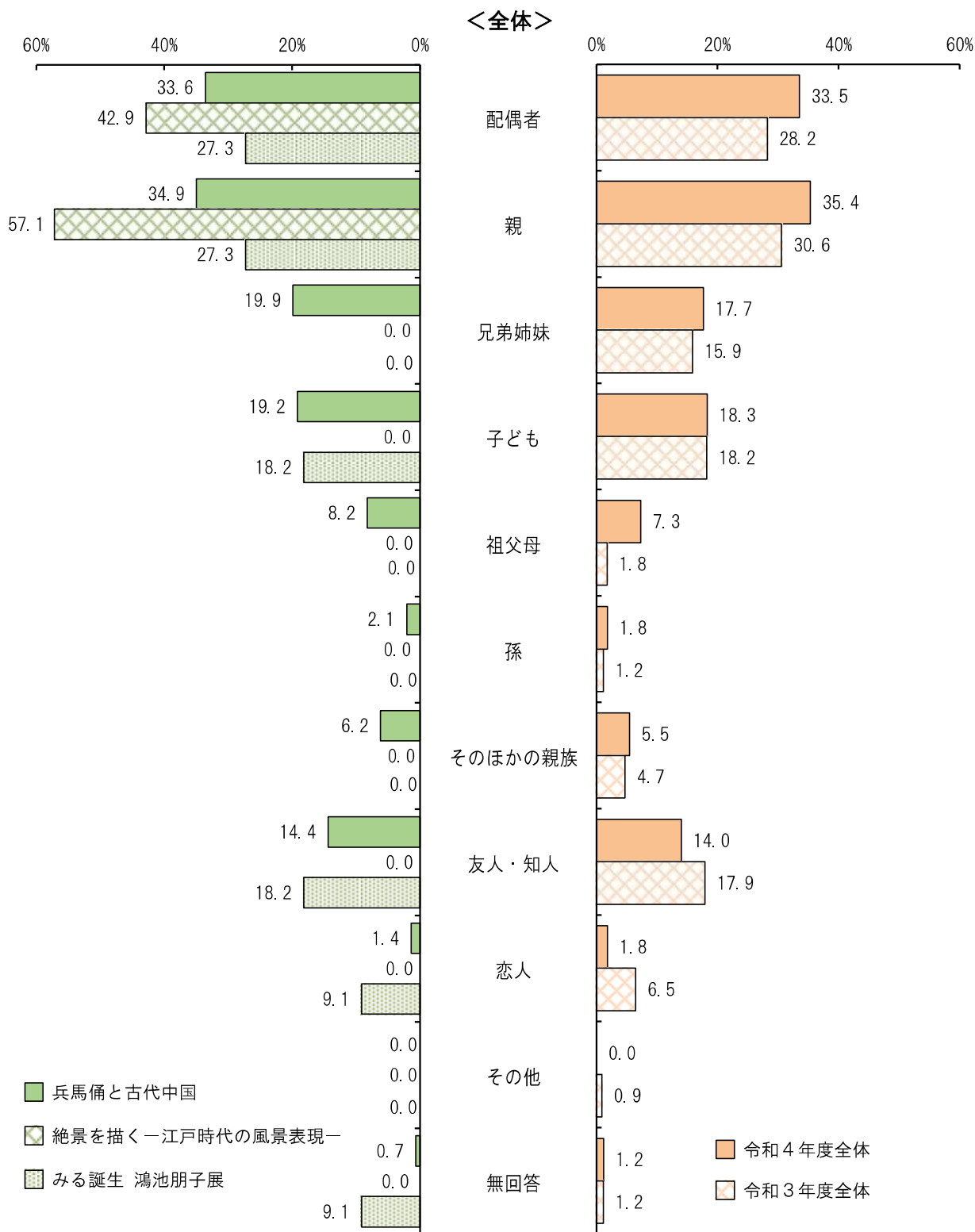
Q2で、「2人」以上と回答した方にお尋ねします。

Q2-1 今日は何人とおいでになりましたか。該当するものすべてに○をお付けください。

全体

		件数 (件)	配偶者	親	兄弟姉妹	子ども	祖父母	孫	親族 そのほかの	友人・知人	恋人	その他	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	146	33.6	34.9	19.9	19.2	8.2	2.1	6.2	14.4	1.4	0.0	0.7
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	7	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	11	27.3	27.3	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	18.2	9.1	0.0	9.1
経年	令和4年度全体	164	33.5	35.4	17.7	18.3	7.3	1.8	5.5	14.0	1.8	0.0	1.2
	令和3年度全体	340	28.2	30.6	15.9	18.2	1.8	1.2	4.7	17.9	6.5	0.9	1.2
令和3年度	ストーリーズ	37	35.1	21.6	5.4	13.5	0.0	0.0	0.0	32.4	0.0	0.0	2.7
	忘れられた江戸絵画史の本流	45	35.6	17.8	4.4	6.7	0.0	2.2	4.4	28.9	2.2	0.0	2.2
	古代エジプト展	258	26.0	34.1	19.4	20.9	2.3	1.2	5.4	14.0	8.1	1.2	0.8

単位：％



来館時の同行者について、令和4年度全体は、「親」35.4%と最も高く、次いで「配偶者」33.5%、「子ども」18.3%の順となっている。令和3年度全体と比べると、「親」は4.8ポイント高くなり、「配偶者」は5.3ポイント高くなっている。

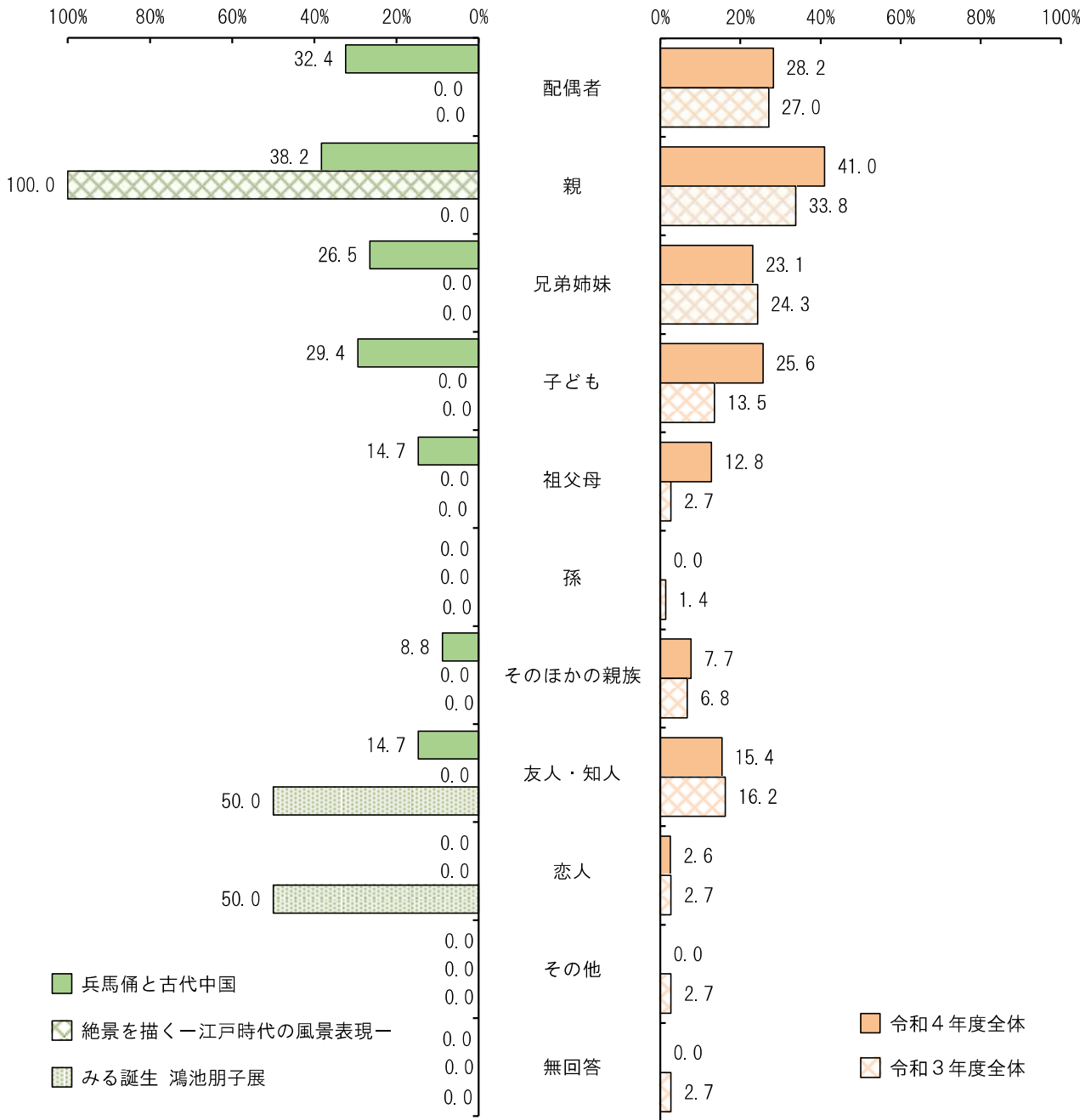
展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「親」34.9%、『絶景を描くー江戸時代の風景表現ー』では「親」57.1%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「配偶者」「親」27.3%が最も高くなっている。『絶景を描くー江戸時代の風景表現ー』では「配偶者」42.9%と他の展覧会と比べて高くなっている。

新規来館者

		件数 (件)	配偶者	親	兄弟姉妹	子ども	祖父母	孫	親族 そのほかの	友人・知人	恋人	その他	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	34	32.4	38.2	26.5	29.4	14.7	0.0	8.8	14.7	0.0	0.0	0.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
経年	令和4年度全体	39	28.2	41.0	23.1	25.6	12.8	0.0	7.7	15.4	2.6	0.0	0.0
	令和3年度全体	74	27.0	33.8	24.3	13.5	2.7	1.4	6.8	16.2	2.7	2.7	2.7
令和3年度	ストーリーズ	9	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	55.6	0.0	0.0	11.1
	忘れられた江戸絵画史の本流	7	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3
	古代エジプト展	58	25.9	43.1	31.0	12.1	3.4	1.7	6.9	10.3	3.4	3.4	0.0

単位：%

<新規来館者>



新規来館者の令和4年度全体は、「親」41.0%と最も高く、次いで「配偶者」28.2%、「子ども」25.6%の順となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「親」38.2%、『絶景を描くー江戸時代の風景表現ー』では「親」100.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「友人・知人」「恋人」50.0%が最も高くなっている。

4 展覧会に来たきっかけ・理由（複数回答可）

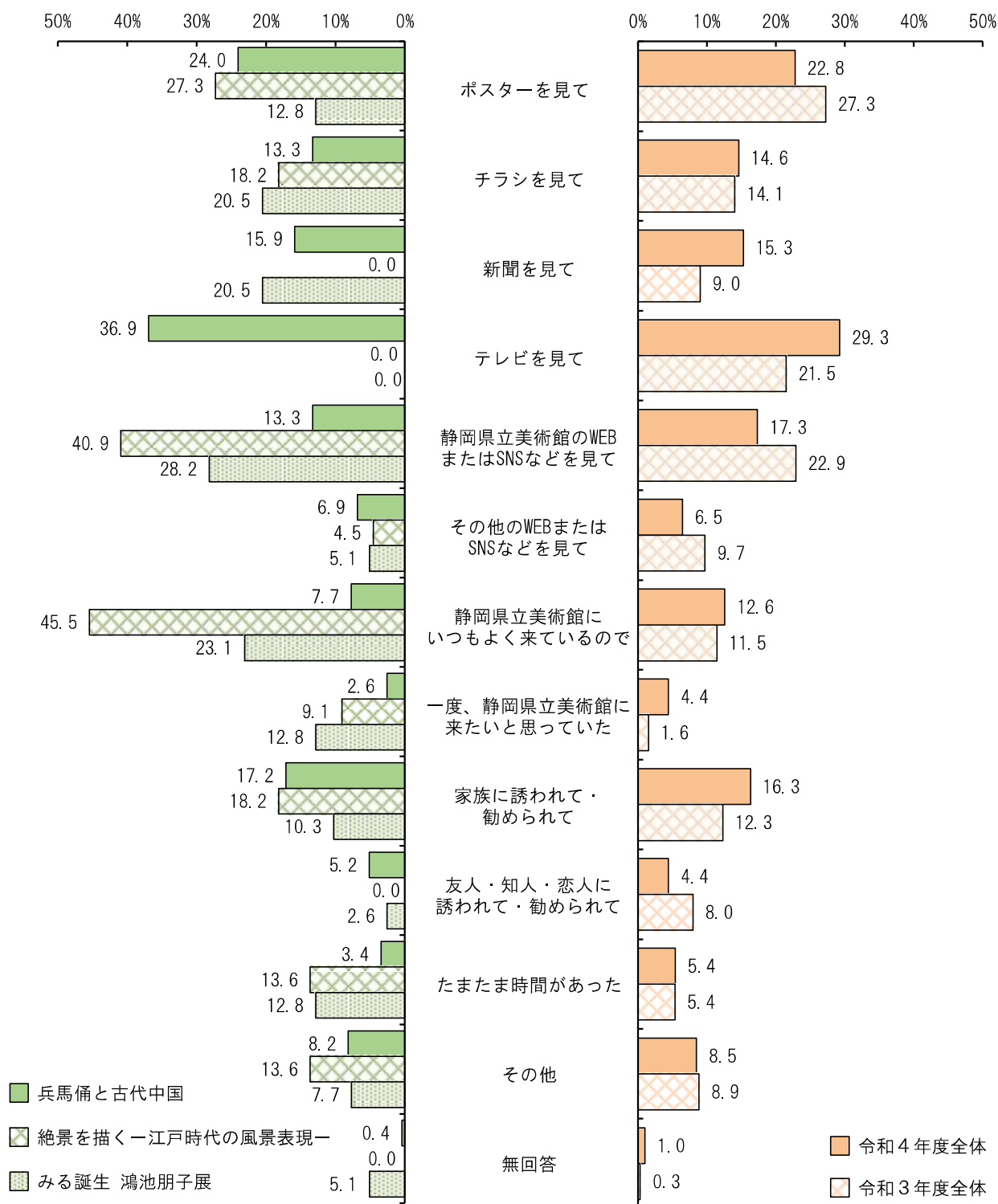
Q3 この展覧会に来た「きっかけ」、「理由」は何ですか。該当するものすべてに○をお付けください。

全体

		件数 (件)	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	静岡県立美術館のWEB またはSNSなどを見て	その他のWEBまたは SNSなどを見て	静岡県立美術館に いつもよく来ているので	一度、静岡県立美術館に 来たいと思っていた	家族に誘われて・ 勧められて	友人・知人・恋人に 誘われて・勧められて	たまたま時間があった	その他	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	24.0	13.3	15.9	36.9	13.3	6.9	7.7	2.6	17.2	5.2	3.4	8.2	0.4
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	27.3	18.2	0.0	0.0	40.9	4.5	45.5	9.1	18.2	0.0	13.6	13.6	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	12.8	20.5	20.5	0.0	28.2	5.1	23.1	12.8	10.3	2.6	12.8	7.7	5.1
経年	令和4年度全体	294	22.8	14.6	15.3	29.3	17.3	6.5	12.6	4.4	16.3	4.4	5.4	8.5	1.0
	令和3年度全体	576	27.3	14.1	9.0	21.5	22.9	9.7	11.5	1.6	12.3	8.0	5.4	8.9	0.3
令和3年度	ストーリーズ	72	26.4	18.1	1.4	0.0	25.0	4.2	16.7	2.8	8.3	18.1	15.3	9.7	2.8
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	27.1	22.4	9.3	12.1	29.9	12.1	16.8	1.9	3.7	4.7	5.6	7.5	0.0
	古代エジプト展	397	27.5	11.1	10.3	28.0	20.7	10.1	9.1	1.3	15.4	7.1	3.5	9.1	0.0

単位：%

<全体>



展覧会に来たきっかけ・理由について、令和4年度全体は、「テレビを見て」29.3%と最も高く、次いで「ポスターを見て」22.8%、「静岡県立美術館のWEB または SNS などを見て」17.3%の順となっている。

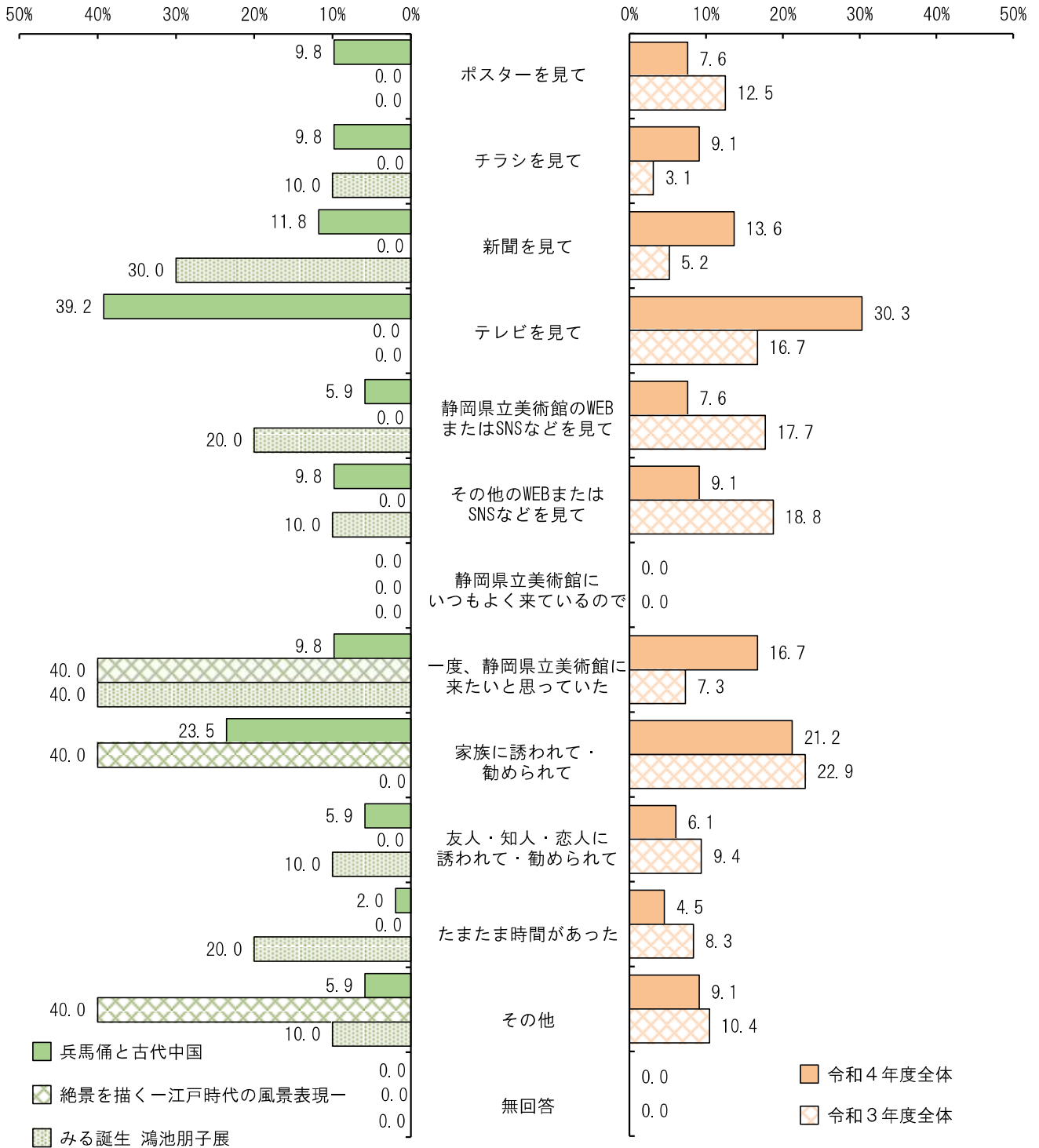
展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「テレビを見て」36.9%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「静岡県立美術館にいつもよく来ているので」45.5%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「静岡県立美術館のWEB または SNS などを見て」28.2%が最も高くなっている。

新規来館者

		件数 (件)	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	静岡県立美術館のWEB またはSNSなどを見て	SNSなどを見て	その他のWEBまたは SNSなどを見て	静岡県立美術館に いつもよく来ているので	一度、静岡県立美術館に 来たいと思っていた	家族に誘われて・ 勧められて	友人・知人・恋人に 誘われて・勧められて	たまたま時間があつた	その他	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	9.8	9.8	11.8	39.2	5.9	9.8	0.0	9.8	23.5	5.9	2.0	5.9	0.0	
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	40.0	0.0	
	みる誕生 鴻池朋子展	10	0.0	10.0	30.0	0.0	20.0	10.0	0.0	40.0	0.0	10.0	20.0	10.0	0.0	
経年	令和4年度全体	66	7.6	9.1	13.6	30.3	7.6	9.1	0.0	16.7	21.2	6.1	4.5	9.1	0.0	
	令和3年度全体	96	12.5	3.1	5.2	16.7	17.7	18.8	0.0	7.3	22.9	9.4	8.3	10.4	0.0	
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1	22.2	44.4	44.4	0.0	0.0	
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	15.4	15.4	7.7	7.7	30.8	15.4	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0	
	古代エジプト展	74	13.5	1.4	5.4	20.3	14.9	21.6	0.0	6.8	27.0	6.8	5.4	10.8	0.0	

単位：%

＜新規来館者＞



新規来館者の令和4年度全体は、「テレビを見て」30.3%と最も高く、次いで「家族に誘われて・勧められて」21.2%、「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」16.7%の順となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「テレビを見て」39.2%、『絶景を描くー江戸時代の風景表現ー』では「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」「家族に誘われて・勧められて」40.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」40.0%と最も高くなっている。

来館時期別 展覧会に来たきっかけ・理由

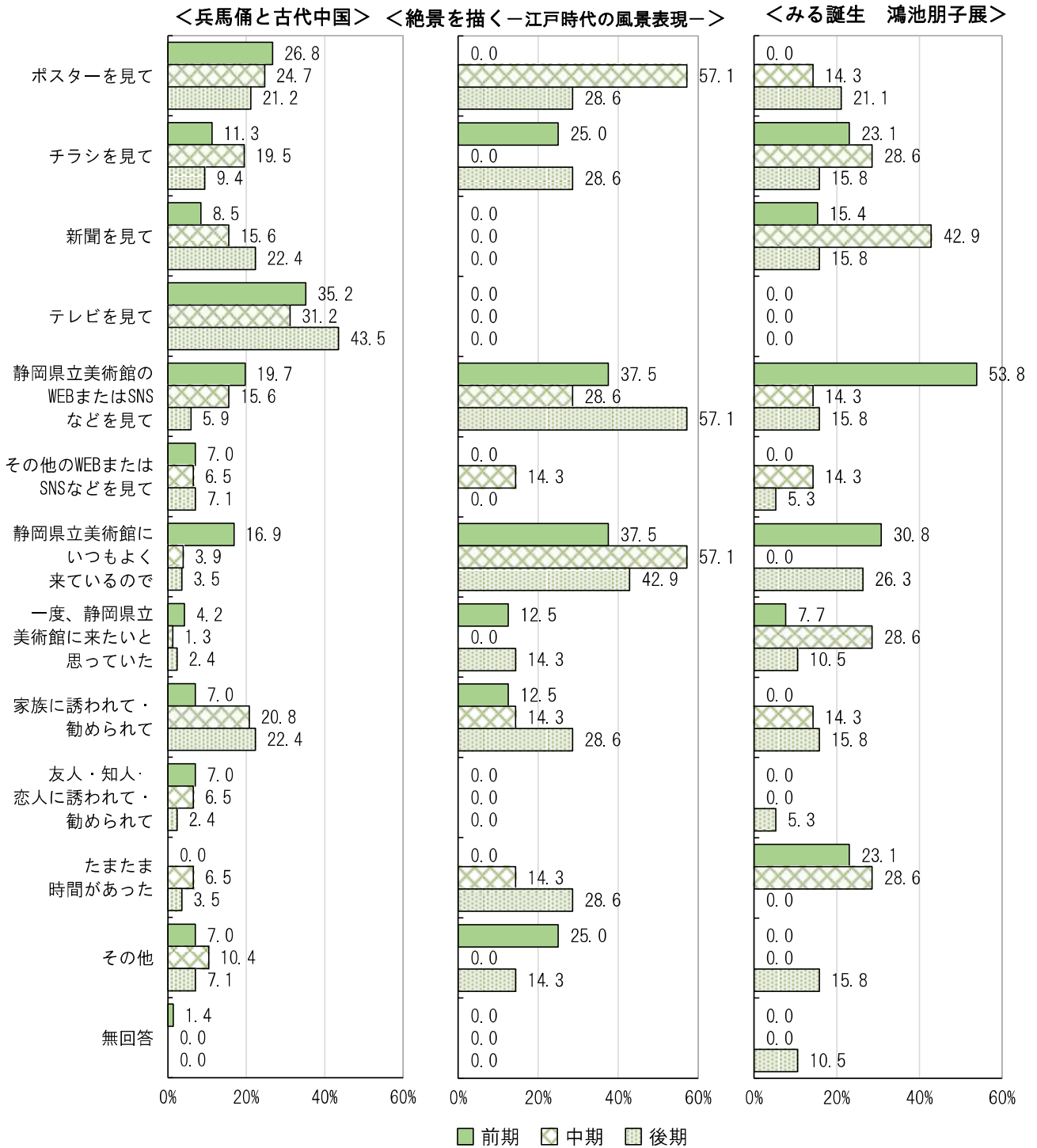
展覧会	件数(件)			ポスターを見て			チラシを見て			新聞を見て			テレビを見て		
	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*
全体	233	22	39	24.0	27.3	12.8	13.3	18.2	20.5	15.9	0.0	20.5	36.9	0.0	0.0
前期	71	8	13	26.8	0.0	0.0	11.3	25.0	23.1	8.5	0.0	15.4	35.2	0.0	0.0
中期	77	7	7	24.7	57.1	14.3	19.5	0.0	28.6	15.6	0.0	42.9	31.2	0.0	0.0
後期	85	7	19	21.2	28.6	21.1	9.4	28.6	15.8	22.4	0.0	15.8	43.5	0.0	0.0

展覧会	静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て			その他のWEBまたはSNSなどを見て			静岡県立美術館にいつもよく来ているので			一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた			家族に誘われて・勧められて		
	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*
全体	13.3	40.9	28.2	6.9	4.5	5.1	7.7	45.5	23.1	2.6	9.1	12.8	17.2	18.2	10.3
前期	19.7	37.5	53.8	7.0	0.0	0.0	16.9	37.5	30.8	4.2	12.5	7.7	7.0	12.5	0.0
中期	15.6	28.6	14.3	6.5	14.3	14.3	3.9	57.1	0.0	1.3	0.0	28.6	20.8	14.3	14.3
後期	5.9	57.1	15.8	7.1	0.0	5.3	3.5	42.9	26.3	2.4	14.3	10.5	22.4	28.6	15.8

展覧会	友人・知人・恋人に誘われて・勧められて			たまたま時間があつた			その他			無回答		
	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*
全体	5.2	0.0	2.6	3.4	13.6	12.8	8.2	13.6	7.7	0.4	0.0	5.1
前期	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	7.0	25.0	0.0	1.4	0.0	0.0
中期	6.5	0.0	0.0	6.5	14.3	28.6	10.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
後期	2.4	0.0	5.3	3.5	28.6	0.0	7.1	14.3	15.8	0.0	0.0	10.5

単位：％

※展覧会A・・・兵馬俑と古代中国
 展覧会B・・・絶景を描く―江戸時代の風景表現―
 展覧会C・・・みる誕生 鴻池朋子展



展覧会に来たきっかけ・理由を来館時期別にみると、『兵馬俑と古代中国』では、＜前期＞は「テレビを見て」35.2%、＜中期＞は「テレビを見て」31.2%、＜後期＞は「テレビを見て」43.5%が最も高くなっている。『絶景を描く－江戸時代の風景表現－』では、＜前期＞は「静岡県立美術館のWEB または SNS などを見て」「静岡県立美術館にいつもよく来ているので」37.5%、＜中期＞は「ポスターを見て」「静岡県立美術館にいつもよく来ているので」57.1%、＜後期＞は「静岡県立美術館のWEB または SNS などを見て」57.1%が最も高くなっている。『みる誕生 鴻池朋子展』では、＜前期＞は「静岡県立美術館のWEB または SNS などを見て」53.8%、＜中期＞は「新聞を見て」42.9%、＜後期＞は「静岡県立美術館にいつもよく来ているので」26.3%が最も高くなっている。

5 勧誘の手段（複数回答可）

展覧会に来たきっかけ・理由で、家族・友人・知人・恋人に誘われて・勧められてと回答した方のみ

Q3で、「9～10」と回答した方（家族や友人・知人・恋人に誘われた、勧められた方）にお尋ねします。

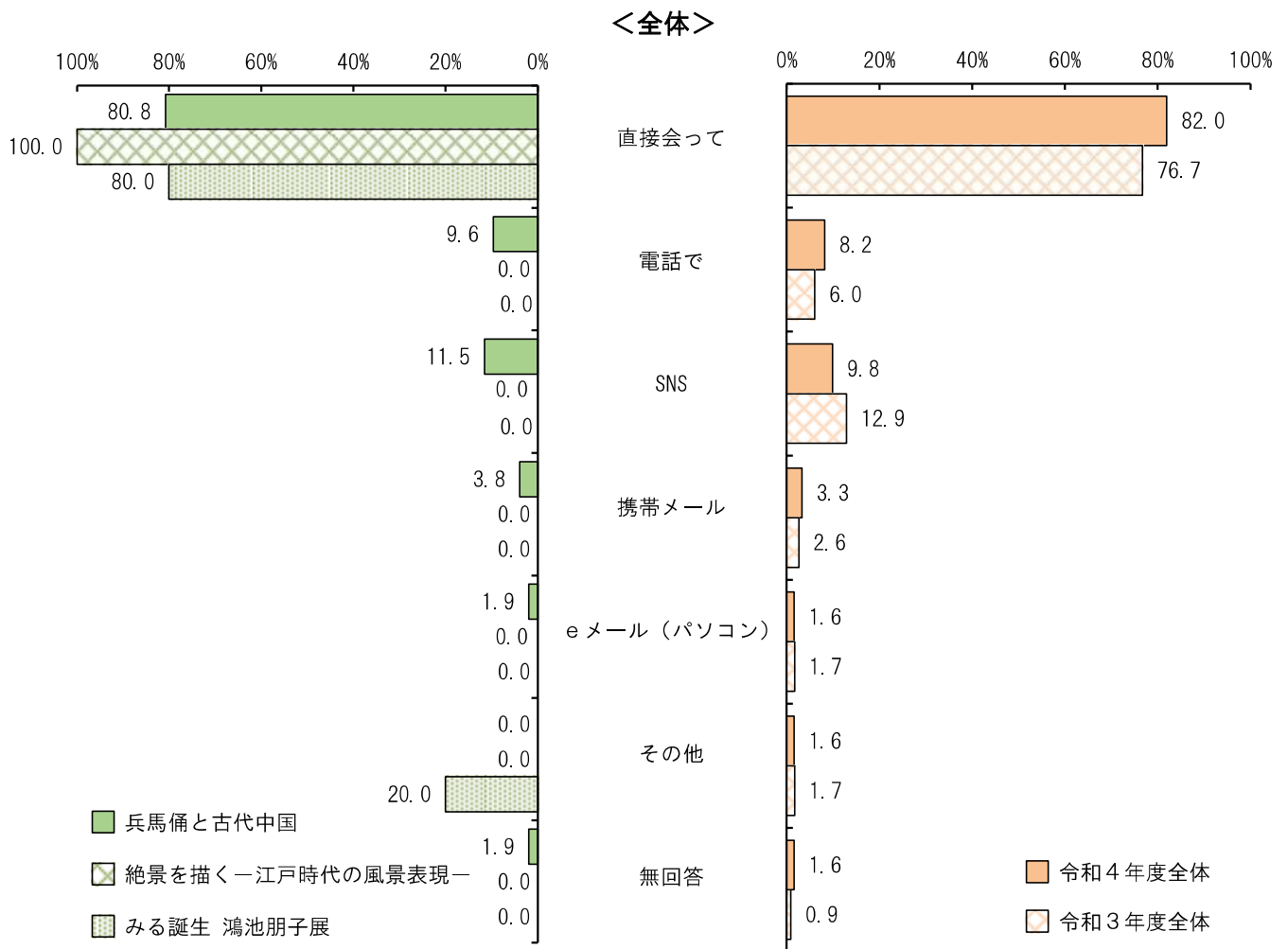
Q3-1 どのような手段で、誘われたり、勧められましたか。該当するものすべてに○をお付けください。

全体

		件数 (件)	直接会って	電話で	SNS	携帯メール	eメール (パソコン)	その他	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	52	80.8	9.6	11.5	3.8	1.9	0.0	1.9
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	5	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
経年	令和4年度全体	61	82.0	8.2	9.8	3.3	1.6	1.6	1.6
	令和3年度全体	116	76.7	6.0	12.9	2.6	1.7	1.7	0.9
令和3年度	ストーリーズ	19	68.4	10.5	21.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	9	44.4	22.2	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0
	古代エジプト展	88	81.8	3.4	11.4	3.4	1.1	1.1	1.1

単位：％

※SNSなどはSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）LINE・Facebook・Twitterなどを示す



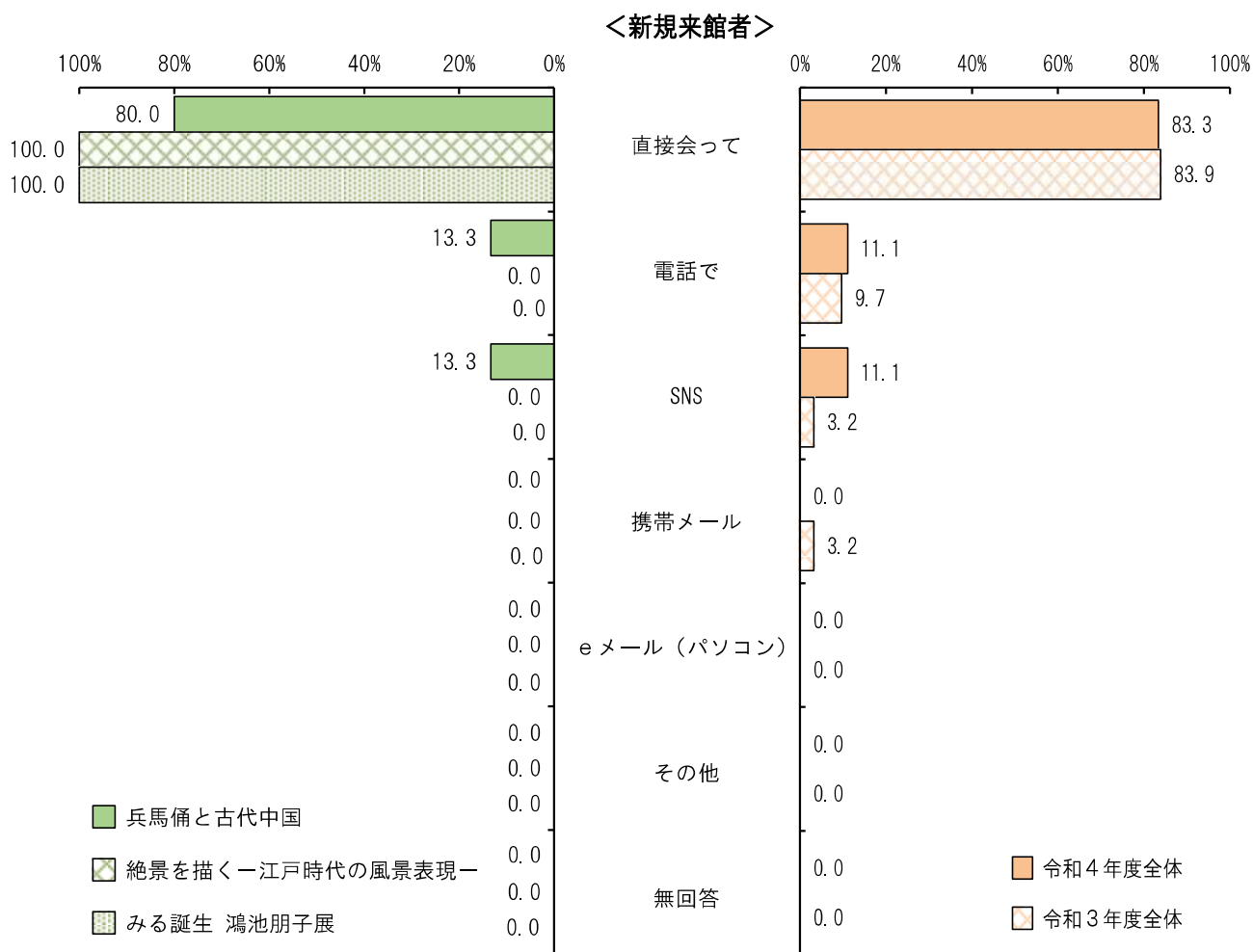
勧誘の手段について、令和4年度全体は、「直接会って」82.0%と最も高く、次いで「SNS」9.8%、「電話で」8.2%の順となっている。令和3年度全体と比べると、「直接会って」が5.3ポイント高くなり、「SNS」が3.1ポイント低くなっている。

展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「直接会って」80.8%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「直接会って」100.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「直接会って」80.0%といずれの展覧会でも「直接会って」が最も高くなっている。『兵馬俑と古代中国』では「SNS」11.5%と他の展覧会と比べて高くなっている。

新規来館者

		件数 (件)	直接会 って	電話 で	S N S	携 帯 メ ー ル	e メ ー ル (パ ソ コ ン)	そ の 他	無 回 答
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	15	80.0	13.3	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
経 年	令和4年度全体	18	83.3	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	令和3年度全体	31	83.9	9.7	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0
令 和 3 年 度	ストーリーズ	6	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古代エジプト展	25	88.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0

単位：％



新規来館者の令和4年度全体は、「直接会って」83.3%と最も高く、次いで「電話で」「SNS」11.1%となっている。令和3年度全体と比べると、「直接会って」が0.6ポイント低くなり、「SNS」が7.9ポイント高くなっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「直接会って」80.0%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「直接会って」100.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「直接会って」100.0%と最も高くなっている。

(4) 展覧会の評価

1 作品やテーマへの興味・関心の深まり

Q5 ①作品やテーマについての興味・関心が深まりましたか。

全体

		件数 (件)	いいえ	どちらかとい うとはいえ	ない どちらでも	どちらかとい うとはい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	0.9	0.9	3.9	23.2	70.8	0.4
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	4.5	4.5	4.5	31.8	54.5	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	7.7	2.6	5.1	23.1	59.0	2.6
経年	令和4年度全体	294	2.0	1.4	4.1	23.8	68.0	0.7
	令和3年度全体	576	0.7	1.2	4.3	19.6	72.2	1.9
令和3年度	ストーリーズ	72	0.0	0.0	1.4	26.4	72.2	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	0.9	0.9	1.9	27.1	65.4	3.7
	古代エジプト展	397	0.8	1.5	5.5	16.4	74.1	1.8

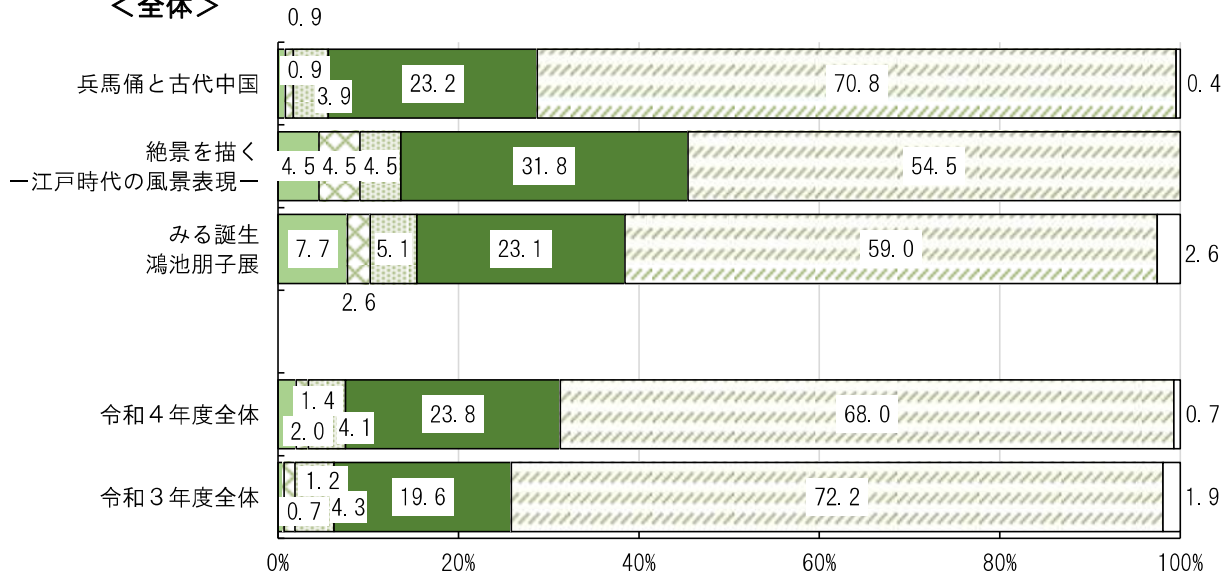
単位：％

新規来館者

		件数 (件)	いいえ	どちらかとい うとはいえ	ない どちらでも	どちらかとい うとはい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	0.0	0.0	3.9	25.5	68.6	2.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	0.0	20.0	0.0	40.0	40.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	10.0	0.0	0.0	50.0	40.0	0.0
経年	令和4年度全体	66	1.5	1.5	3.0	30.3	62.1	1.5
	令和3年度全体	96	0.0	1.0	3.1	13.5	79.2	3.1
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	0.0	44.4	55.6	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	0.0	0.0	7.7	84.6	7.7
	古代エジプト展	74	0.0	1.4	4.1	10.8	81.1	2.7

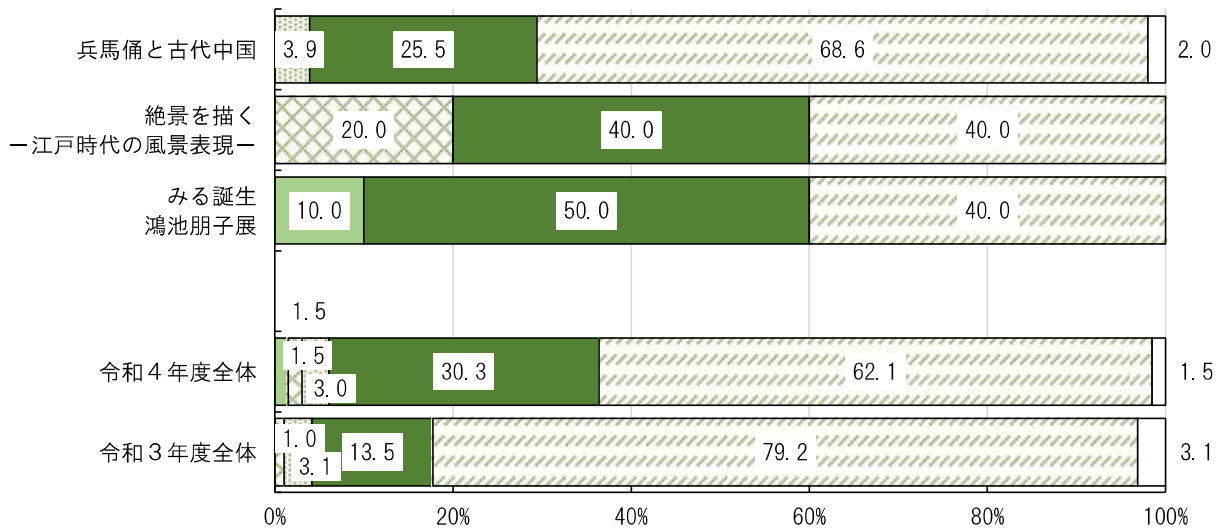
単位：％

<全体>



■ いいえ □ どちらかというといいえ ▨ どちらでもない ■ どちらかというとはい ▨ はい □ 無回答

<新規来館者>



■ いいえ □ どちらかというといいえ ▨ どちらでもない ■ どちらかというとはい ▨ はい □ 無回答

作品やテーマへの興味・関心の深まりについて、令和4年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が91.8%となっている。肯定的評価は『兵馬俑と古代中国』94.0%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』86.3%、『みる誕生 鴻池朋子展』82.1%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は3.4%となっている。

新規来館者の令和4年度全体は、肯定的評価が92.4%となっている。肯定的評価は『兵馬俑と古代中国』94.1%、『みる誕生 鴻池朋子展』90.0%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』80.0%の順となっている。

否定的評価は3.0%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

2 会場における観覧時の心地よさ

Q5 ②展覧会の会場では、心地よく観覧できましたか。

全体

		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうとはいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	3.9	6.0	4.7	25.3	59.7	0.4
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	0.0	9.1	4.5	31.8	54.5	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	7.7	0.0	2.6	17.9	69.2	2.6
経年	令和4年度全体	294	4.1	5.4	4.4	24.8	60.5	0.7
	令和3年度全体	576	2.6	2.4	3.8	20.3	70.0	0.9
令和3年度	ストーリーズ	72	0.0	2.8	1.4	19.4	75.0	1.4
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	4.7	1.9	2.8	25.2	64.5	0.9
	古代エジプト展	397	2.5	2.5	4.5	19.1	70.5	0.8

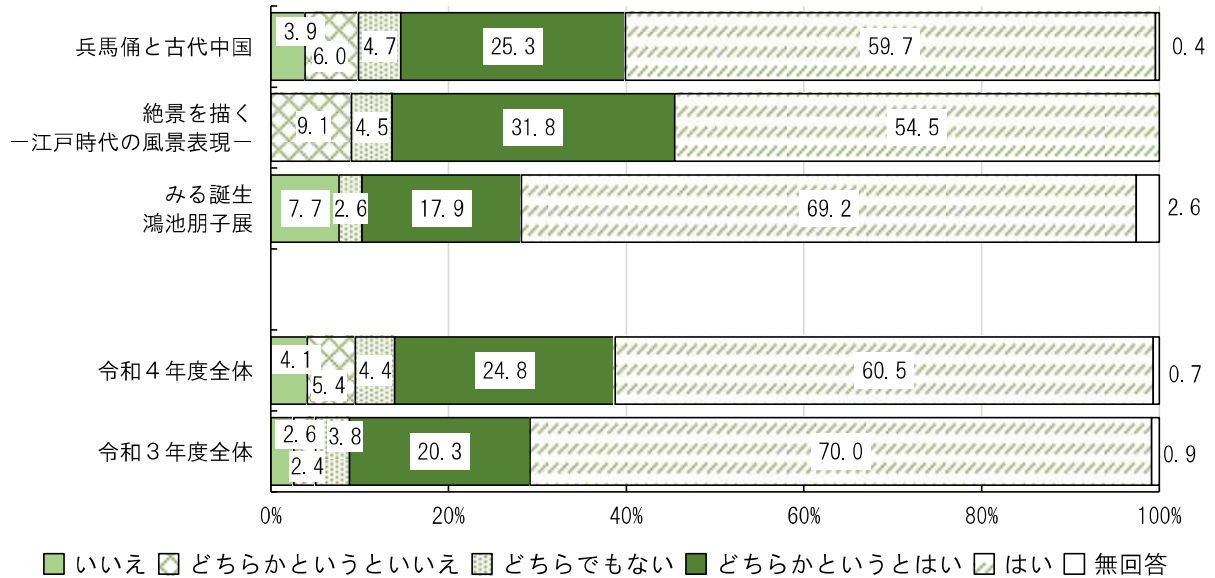
単位：％

新規来館者

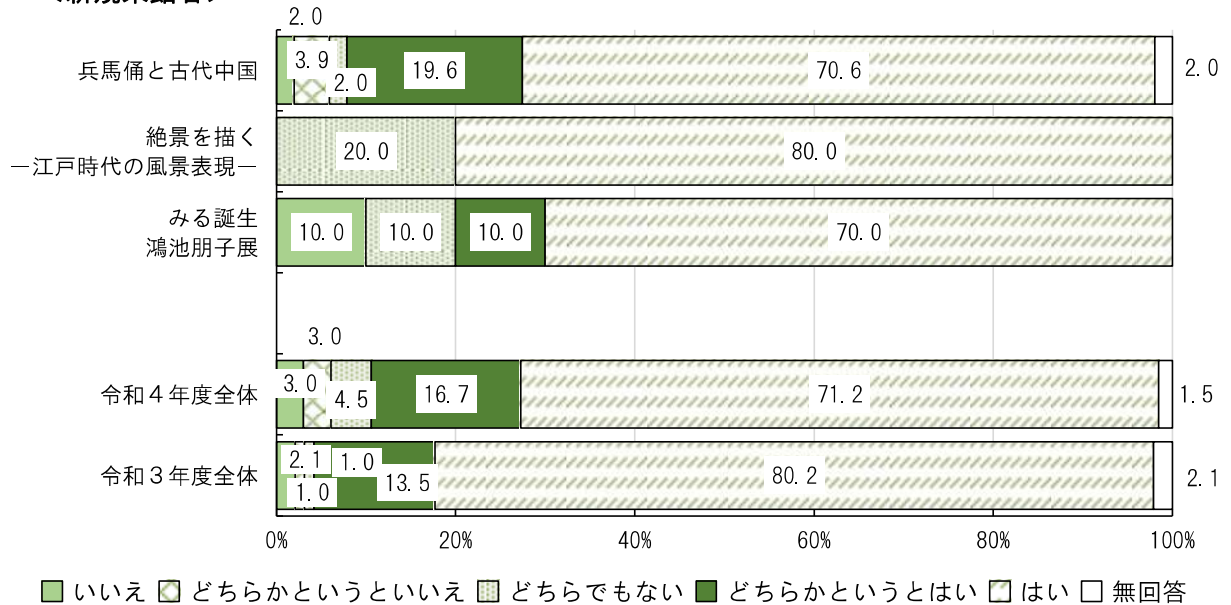
		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうとはいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	2.0	3.9	2.0	19.6	70.6	2.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	0.0	0.0	20.0	0.0	80.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	10.0	0.0	10.0	10.0	70.0	0.0
経年	令和4年度全体	66	3.0	3.0	4.5	16.7	71.2	1.5
	令和3年度全体	96	2.1	1.0	1.0	13.5	80.2	2.1
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	0.0	11.1	88.9	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	0.0	0.0	15.4	84.6	0.0
	古代エジプト展	74	2.7	1.4	1.4	13.5	78.4	2.7

単位：％

<全体>



<新規来館者>



会場における観覧時の心地よさについて、令和4年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が85.3%となっている。肯定的評価は『みる誕生 鴻池朋子展』87.1%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』86.3%、『兵馬俑と古代中国』85.0%の順となっている。一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は9.5%となっている。

新規来館者の令和4年度全体は、肯定的評価が87.9%となっている。肯定的評価は『兵馬俑と古代中国』90.2%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』『みる誕生 鴻池朋子展』80.0%の順となっている。否定的評価は6.0%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

3 スタッフの対応の適切さ

Q 5 ③美術館のスタッフの対応は適切でしたか。

全体

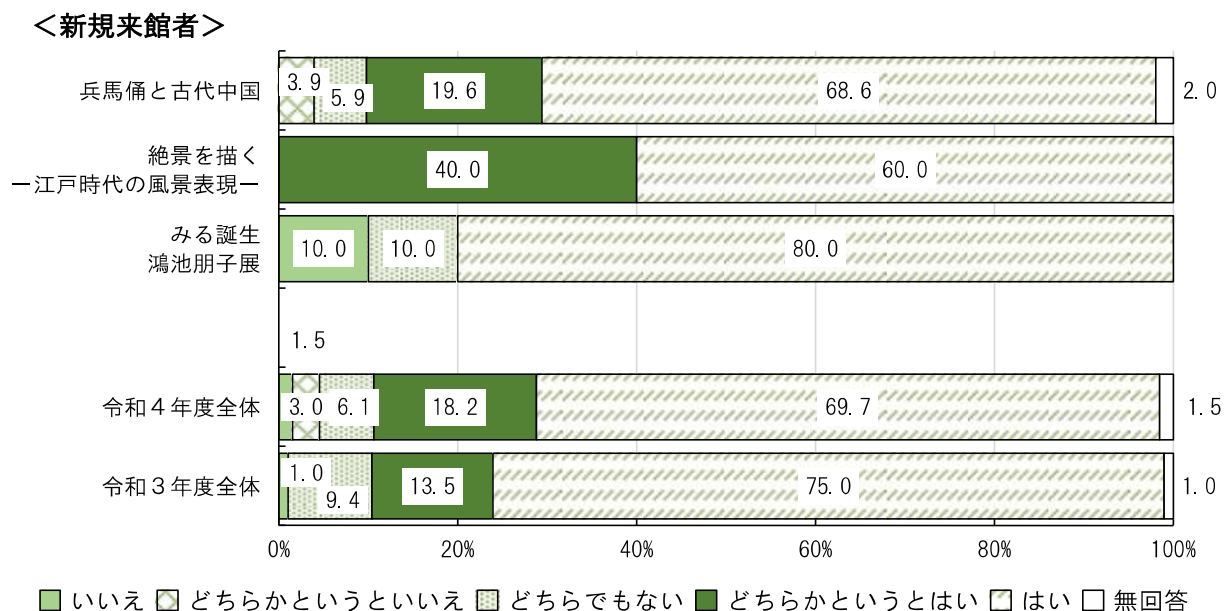
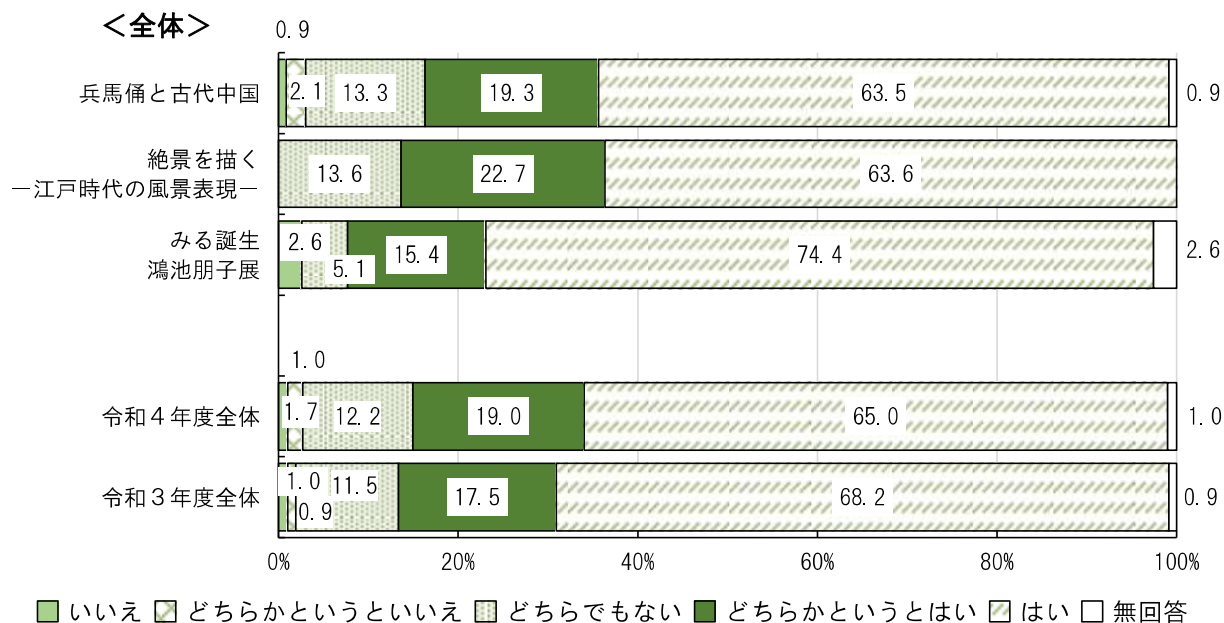
		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうとはいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	0.9	2.1	13.3	19.3	63.5	0.9
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	0.0	0.0	13.6	22.7	63.6	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	2.6	0.0	5.1	15.4	74.4	2.6
経年	令和4年度全体	294	1.0	1.7	12.2	19.0	65.0	1.0
	令和3年度全体	576	1.0	0.9	11.5	17.5	68.2	0.9
令和3年度	ストーリーズ	72	0.0	1.4	6.9	23.6	68.1	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	1.9	0.0	11.2	15.0	70.1	1.9
	古代エジプト展	397	1.0	1.0	12.3	17.1	67.8	0.8

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうとはいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	0.0	3.9	5.9	19.6	68.6	2.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	0.0	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	10.0	0.0	10.0	0.0	80.0	0.0
経年	令和4年度全体	66	1.5	3.0	6.1	18.2	69.7	1.5
	令和3年度全体	96	1.0	0.0	9.4	13.5	75.0	1.0
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	0.0	11.1	88.9	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	0.0	7.7	7.7	84.6	0.0
	古代エジプト展	74	1.4	0.0	10.8	14.9	71.6	1.4

単位：％



スタッフの対応の適切さについて、令和4年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が84.0%となっている。肯定的評価は『みる誕生 鴻池朋子展』89.8%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』86.3%、『兵馬俑と古代中国』82.8%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は2.7%となっている。

新規来館者の令和4年度全体は、肯定的評価が87.9%となっている。肯定的評価は『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』100.0%、『兵馬俑と古代中国』88.2%、『みる誕生 鴻池朋子展』80.0%の順となっている。

否定的評価は4.5%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

4 展覧会のことを勧めたいか

Q5 ④この展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいですか。

全体

		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうとはいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	3.0	1.3	11.6	25.3	57.5	1.3
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	9.1	0.0	18.2	18.2	54.5	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	7.7	7.7	5.1	23.1	53.8	2.6
経年	令和4年度全体	294	4.1	2.0	11.2	24.5	56.8	1.4
	令和3年度全体	576	2.1	1.2	15.3	24.3	56.3	0.9
令和3年度	ストーリーズ	72	1.4	1.4	12.5	29.2	55.6	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	3.7	0.9	22.4	18.7	53.3	0.9
	古代エジプト展	397	1.8	1.3	13.9	24.9	57.2	1.0

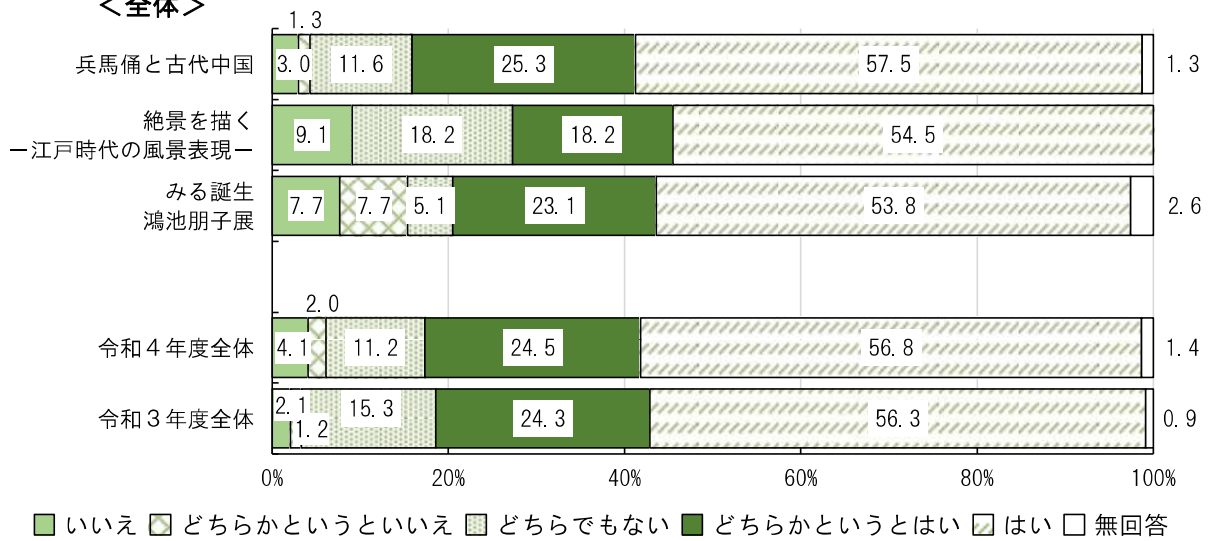
単位：％

新規来館者

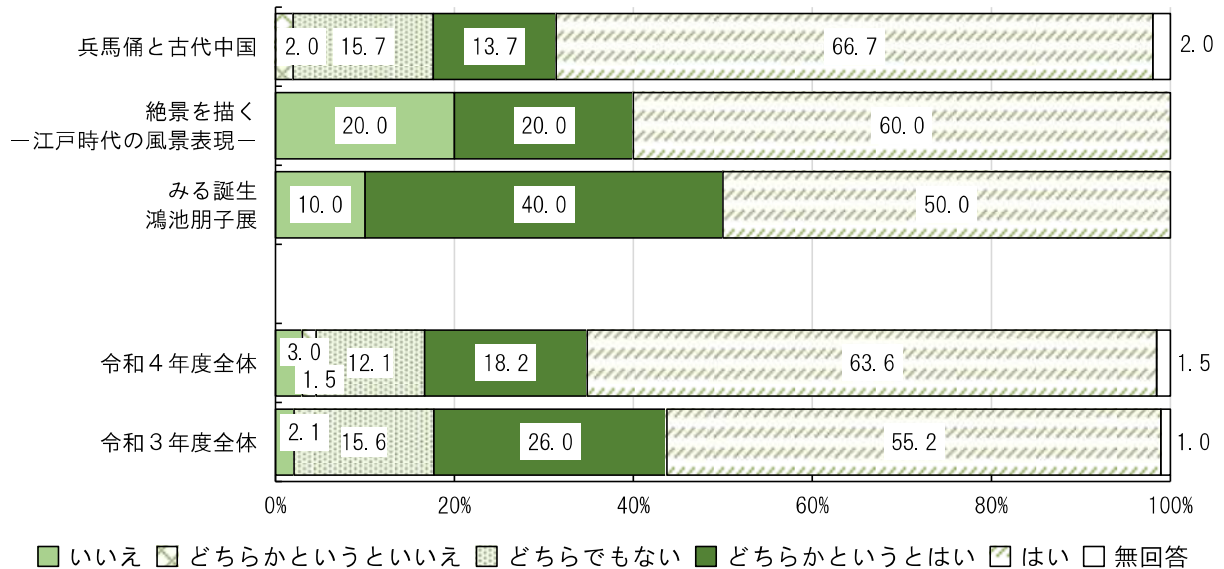
		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうとはいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	0.0	2.0	15.7	13.7	66.7	2.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	20.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	10.0	0.0	0.0	40.0	50.0	0.0
経年	令和4年度全体	66	3.0	1.5	12.1	18.2	63.6	1.5
	令和3年度全体	96	2.1	0.0	15.6	26.0	55.2	1.0
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	11.1	66.7	22.2	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	0.0	23.1	7.7	69.2	0.0
	古代エジプト展	74	2.7	0.0	14.9	24.3	56.8	1.4

単位：％

<全体>



<新規来館者>



展覧会のことを勧めたいかについて、令和4年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が81.3%となっている。肯定的評価は『兵馬俑と古代中国』82.8%、『みる誕生 鴻池朋子展』76.9%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』72.7%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は6.1%となっている。

新規来館者の令和4年度全体は、肯定的評価が81.8%となっている。肯定的評価は『みる誕生 鴻池朋子展』90.0%、『兵馬俑と古代中国』80.4%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』80.0%の順となっている。

否定的評価は4.5%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

5 情報の入手しやすさ

Q5 ⑤当美術館に関する情報は入手しやすかったですか。

全体

		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうと いいえ	ない どちらでも	どちらかと いうと はい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	2.1	4.7	15.9	19.3	56.7	1.3
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	0.0	4.5	9.1	27.3	59.1	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	2.6	2.6	23.1	20.5	46.2	5.1
経年	令和4年度全体	294	2.0	4.4	16.3	20.1	55.4	1.7
	令和3年度全体	576	2.3	4.0	12.2	27.3	52.8	1.6
令和3年度	ストーリーズ	72	0.0	8.3	8.3	27.8	55.6	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	2.8	0.9	13.1	23.4	56.1	3.7
	古代エジプト展	397	2.5	4.0	12.6	28.2	51.4	1.3

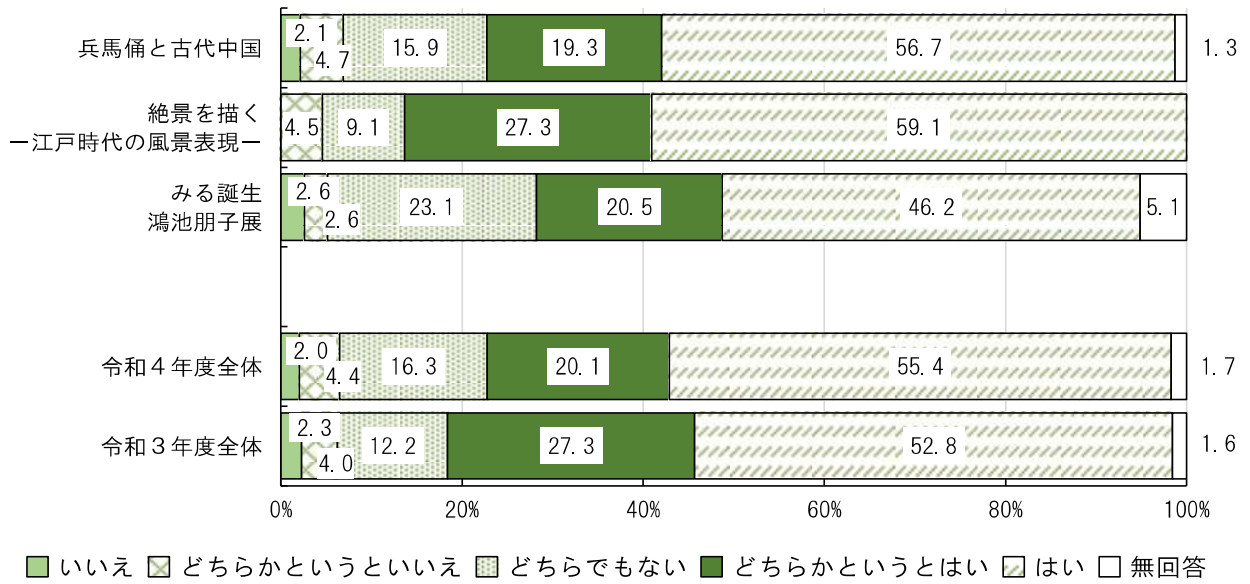
単位：％

新規来館者

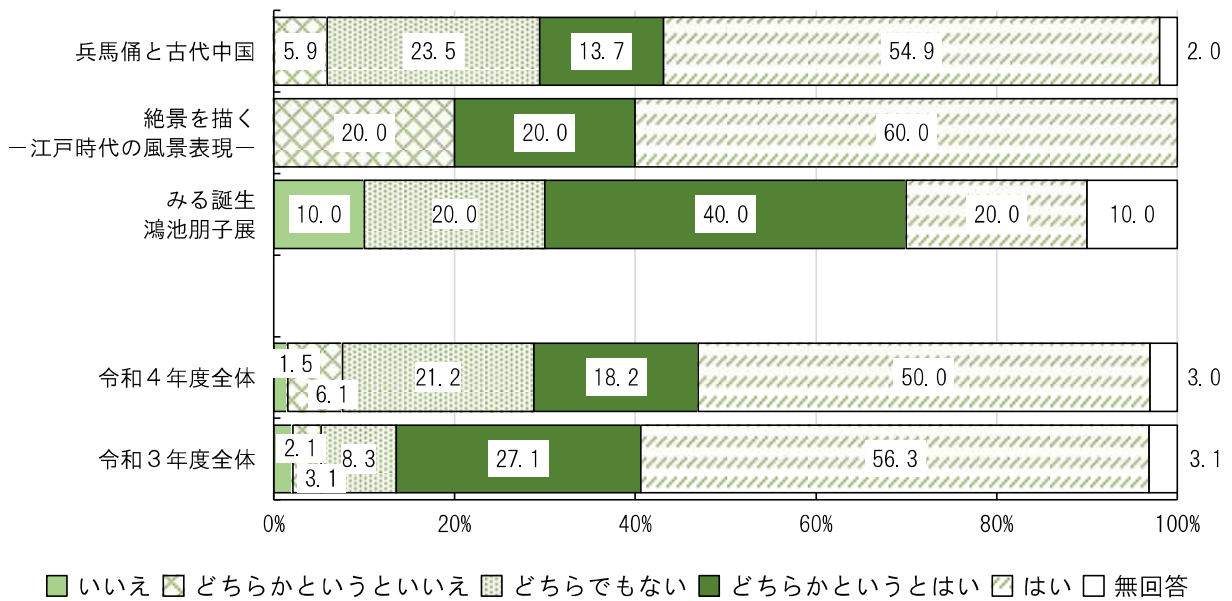
		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうと いいえ	ない どちらでも	どちらかと いうと はい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	0.0	5.9	23.5	13.7	54.9	2.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	0.0	20.0	0.0	20.0	60.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	10.0	0.0	20.0	40.0	20.0	10.0
経年	令和4年度全体	66	1.5	6.1	21.2	18.2	50.0	3.0
	令和3年度全体	96	2.1	3.1	8.3	27.1	56.3	3.1
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	11.1	44.4	44.4	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	0.0	23.1	38.5	30.8	7.7
	古代エジプト展	74	2.7	4.1	5.4	23.0	62.2	2.7

単位：％

<全体>



<新規来館者>



情報の入手しやすさについて、令和4年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が75.5%となっている。肯定的評価は『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』86.4%、『兵馬俑と古代中国』76.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』66.7%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は6.4%となっている。

新規来館者の令和4年度全体は、肯定的評価が68.2%となっている。肯定的評価は『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』80.0%、『兵馬俑と古代中国』68.6%、『みる誕生 鴻池朋子展』60.0%の順となっている。

否定的評価は7.6%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

6 来館の際の主な交通手段

Q5 ⑥当美術館においでになる際には、どのような交通機関を利用しましたか。
※回答者ご本人がご利用になった主なものに○を1つお付けください。

全体

		件数 (件)	J R	静 鉄 電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	自 家 用 車	そ の 他	無 回 答
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	233	9.9	4.7	4.7	0.4	71.2	8.6	0.4
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	9.1	13.6	0.0	0.0	63.6	4.5	9.1
	みる誕生 鴻池朋子展	39	25.6	10.3	5.1	2.6	35.9	15.4	5.1
経 年	令和4年度全体	294	11.9	6.1	4.4	0.7	66.0	9.2	1.7
	令和3年度全体	576	12.8	7.3	4.7	0.5	68.6	5.4	0.7
令 和 3 年 度	ストーリーズ	72	9.7	15.3	2.8	0.0	62.5	9.7	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	19.6	9.3	9.3	0.9	52.3	7.5	0.9
	古代エジプト展	397	11.6	5.3	3.8	0.5	74.1	4.0	0.8

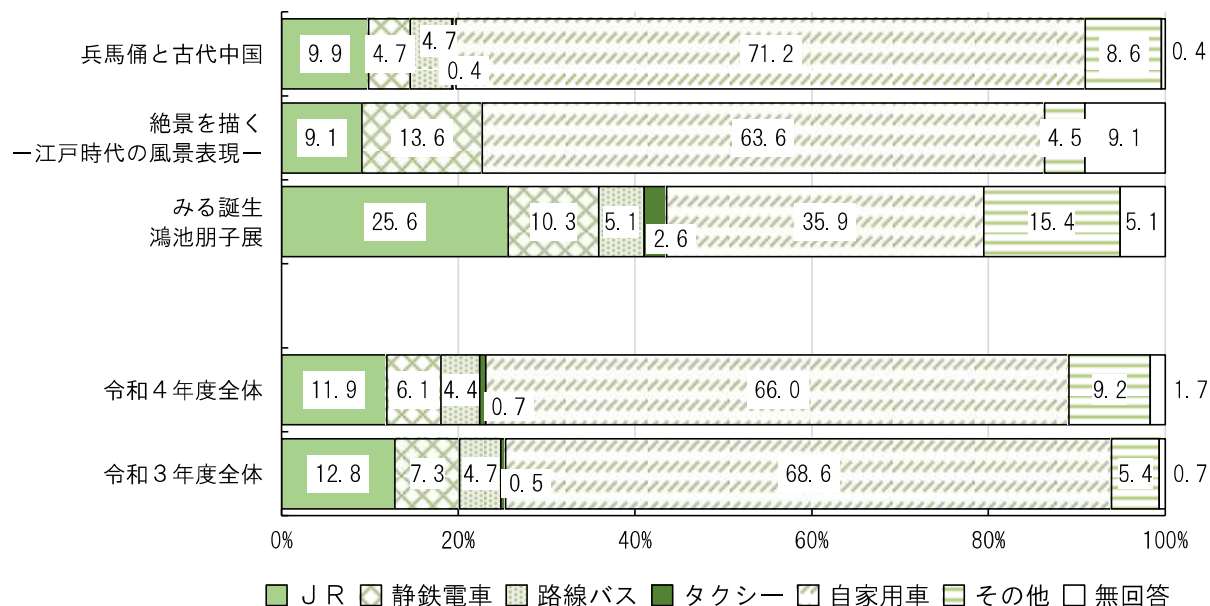
単位：％

新規来館者

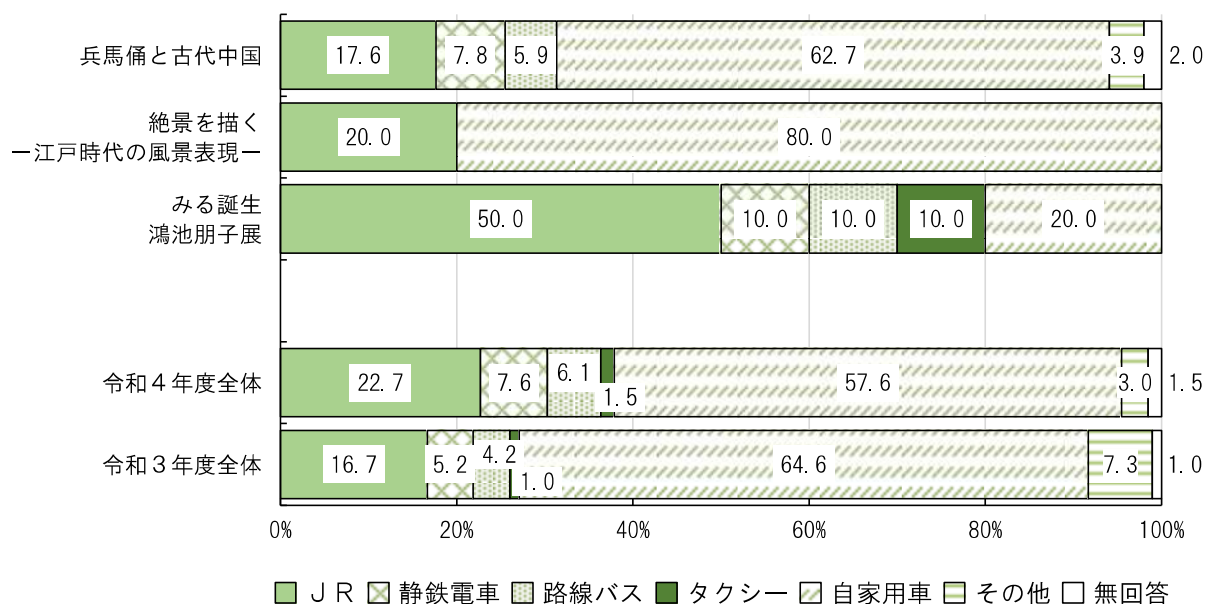
		件数 (件)	J R	静 鉄 電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	自 家 用 車	そ の 他	無 回 答
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	51	17.6	7.8	5.9	0.0	62.7	3.9	2.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	50.0	10.0	10.0	10.0	20.0	0.0	0.0
経 年	令和4年度全体	66	22.7	7.6	6.1	1.5	57.6	3.0	1.5
	令和3年度全体	96	16.7	5.2	4.2	1.0	64.6	7.3	1.0
令 和 3 年 度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	0.0	0.0	88.9	11.1	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	30.8	0.0	15.4	0.0	38.5	15.4	0.0
	古代エジプト展	74	16.2	6.8	2.7	1.4	66.2	5.4	1.4

単位：％

<全体>



<新規来館者>



来館の際の主な交通手段について、令和4年度全体は、「自家用車」66.0%と最も高く、次いで「JR」11.9%、「静鉄電車」6.1%の順となっている。

展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「自家用車」71.2%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「自家用車」63.6%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「自家用車」35.9%といずれの展覧会でも「自家用車」が最も高くなっている。

新規来館者の令和4年度全体は、「自家用車」が57.6%と最も高く、次いで「JR」22.7%、「静鉄電車」が7.6%の順となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「自家用車」62.7%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「自家用車」80.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「JR」50.0%が最も高くなっている。

7 公共交通機関の利用のスムーズさ

Q5 ⑦公共交通機関の利用はスムーズでしたか。

全体 ※公共交通機関を利用した方を母数として集計をしています。

		件数 (件)	いいえ	どちらかとい うといいえ	ない どちらでも	どちらかとい うとはい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	46	2.2	6.5	13.0	13.0	65.2	0.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	17	0.0	0.0	17.6	11.8	70.6	0.0
経年	令和4年度全体	68	1.5	4.4	13.2	11.8	69.1	0.0
	令和3年度全体	146	2.1	5.5	5.5	16.4	51.4	19.2
令和3年度	ストーリーズ	20	0.0	5.0	0.0	5.0	40.0	50.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	42	0.0	11.9	4.8	28.6	54.8	0.0
	古代エジプト展	84	3.6	2.4	7.1	13.1	52.4	21.4

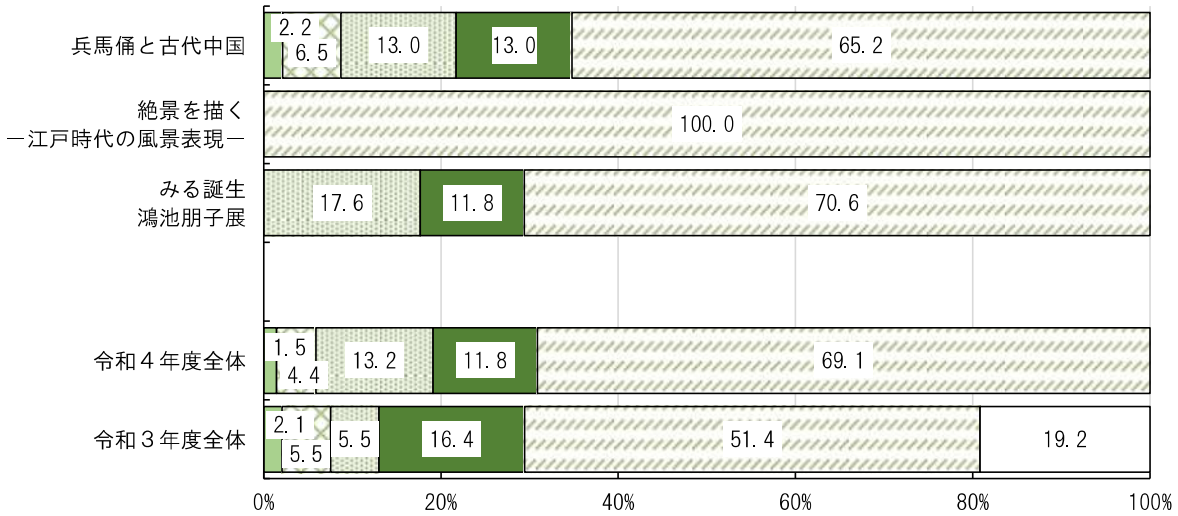
単位：％

新規来館者

		件数 (件)	いいえ	どちらかとい うといいえ	ない どちらでも	どちらかとい うとはい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	16	0.0	0.0	18.8	18.8	62.5	0.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	8	0.0	0.0	12.5	12.5	75.0	0.0
経年	令和4年度全体	25	0.0	0.0	16.0	16.0	68.0	0.0
	令和3年度全体	26	3.8	7.7	0.0	7.7	53.8	26.9
令和3年度	ストーリーズ	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	6	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0
	古代エジプト展	20	5.0	0.0	0.0	0.0	60.0	35.0

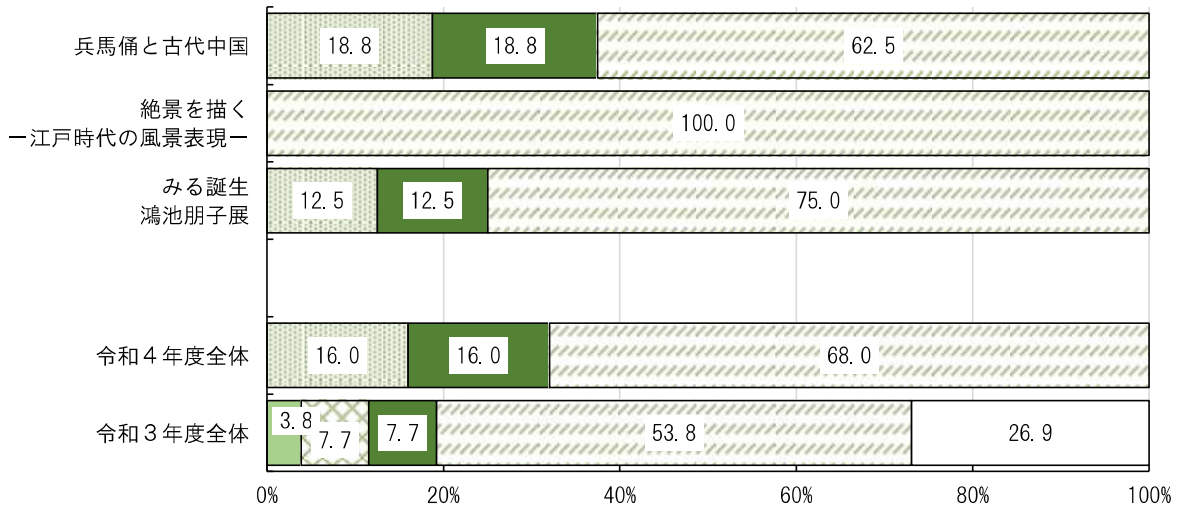
単位：％

<全体>



■ いいえ □ どちらかというといいえ ▨ どちらでもない ■ どちらかというとはい □ はい □ 無回答

<新規来館者>



■ いいえ □ どちらかというといいえ ▨ どちらでもない ■ どちらかというとはい □ はい □ 無回答

公共交通機関の利用のスムーズさについて、令和4年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が80.9%となっている。肯定的評価は『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』100.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』82.4%、『兵馬俑と古代中国』78.2%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は5.9%となっている。

新規来館者の令和4年度全体は、肯定的評価が84.0%となっている。肯定的評価は『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』100.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』87.5%、『兵馬俑と古代中国』81.3%の順となっている。

否定的評価は0.0%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

8 満足度

Q5 ⑧全体的に見て、今回のご来館はご満足いただけましたか。

全体

		件数 (件)	いいえ	どちらかと いってはいえ	ない どちらでも	どちらかと いってはい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	2.1	2.1	3.9	22.3	64.8	4.7
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	0.0	4.5	4.5	18.2	68.2	4.5
	みる誕生 鴻池朋子展	39	2.6	5.1	5.1	10.3	66.7	10.3
経年	令和4年度全体	294	2.0	2.7	4.1	20.4	65.3	5.4
	令和3年度全体	576	1.9	1.0	4.3	19.3	68.8	4.7
令和3年度	ストーリーズ	72	1.4	0.0	2.8	15.3	76.4	4.2
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	3.7	0.9	2.8	21.5	66.4	4.7
	古代エジプト展	397	1.5	1.3	5.0	19.4	68.0	4.8

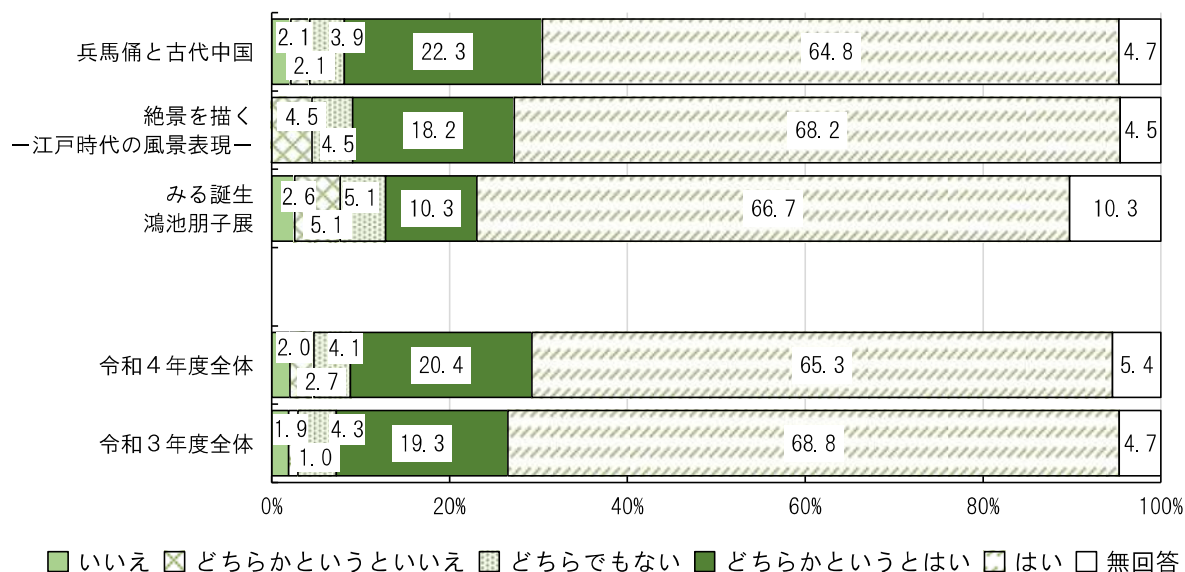
単位：％

新規来館者

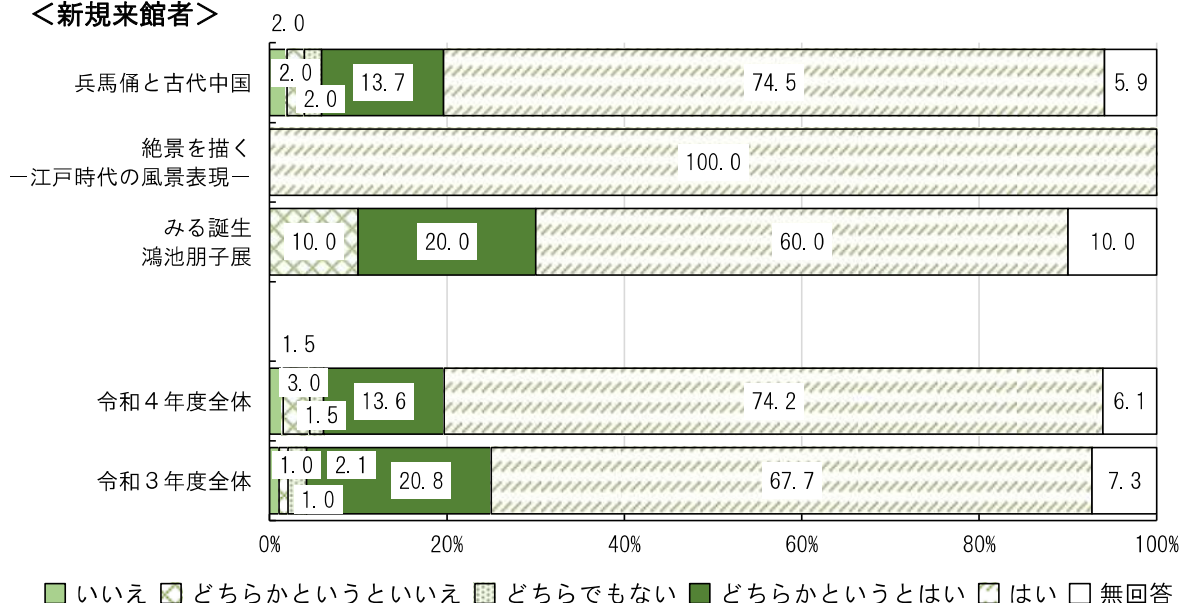
		件数 (件)	いいえ	どちらかと いってはいえ	ない どちらでも	どちらかと いってはい	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	2.0	2.0	2.0	13.7	74.5	5.9
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	0.0	10.0	0.0	20.0	60.0	10.0
経年	令和4年度全体	66	1.5	3.0	1.5	13.6	74.2	6.1
	令和3年度全体	96	1.0	1.0	2.1	20.8	67.7	7.3
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	0.0	22.2	66.7	11.1
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	0.0	0.0	23.1	61.5	15.4
	古代エジプト展	74	1.4	1.4	2.7	20.3	68.9	5.4

単位：％

<全体>



<新規来館者>



満足度について、令和4年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が85.7%となっている。肯定的評価は『兵馬俑と古代中国』87.1%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』86.4%、『みる誕生 鴻池朋子展』77.0%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は4.7%となっている。

新規来館者の令和4年度全体は、肯定的評価が87.8%となっている。肯定的評価は『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』100.0%、『兵馬俑と古代中国』88.2%、『みる誕生 鴻池朋子展』80.0%の順となっている。

否定的評価は4.5%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

9 「風景とロダンの美術館」としての認知度

Q4 当美術館は、「17世紀以降の東西の山水・風景画」や「ロダンと近代の彫刻」などをコレクションの柱にしている「風景とロダンの美術館」ですが、このことをご存じでしたか。
○を1つお付けください。

全体

		件数 (件)	いいえ	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	31.3	66.5	2.1
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	18.2	77.3	4.5
	みる誕生 鴻池朋子展	39	25.6	71.8	2.6
経年	令和4年度全体	294	29.6	68.0	2.4
	令和3年度全体	576	30.0	69.8	0.2
令和3年度	ストーリーズ	72	29.2	70.8	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	28.0	71.0	0.9
	古代エジプト展	397	30.7	69.3	0.0

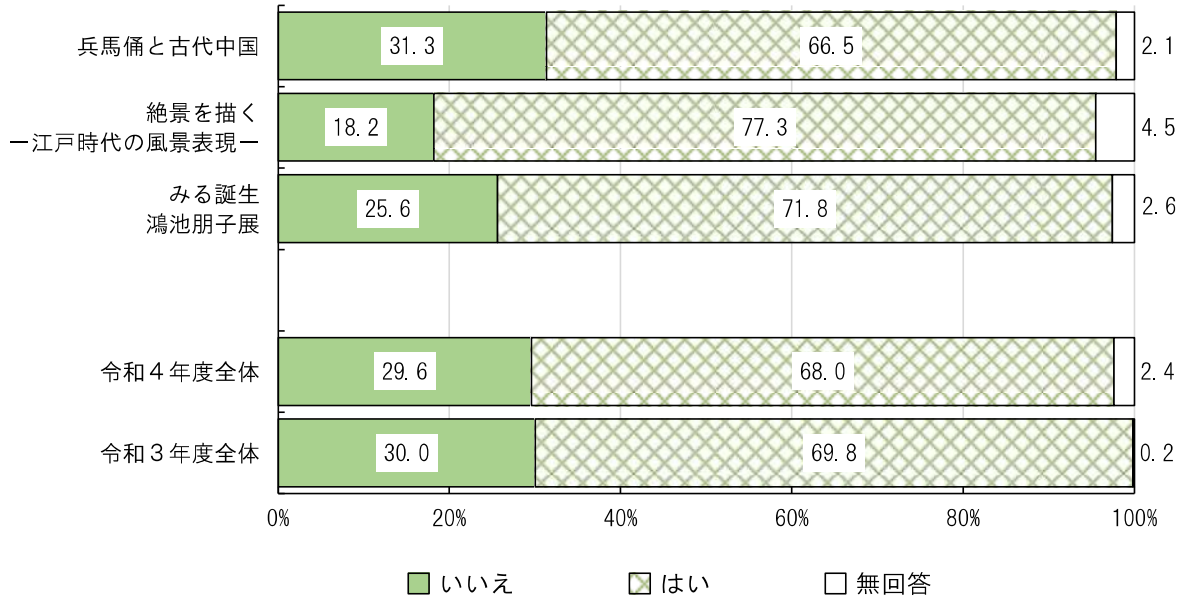
単位：%

新規来館者

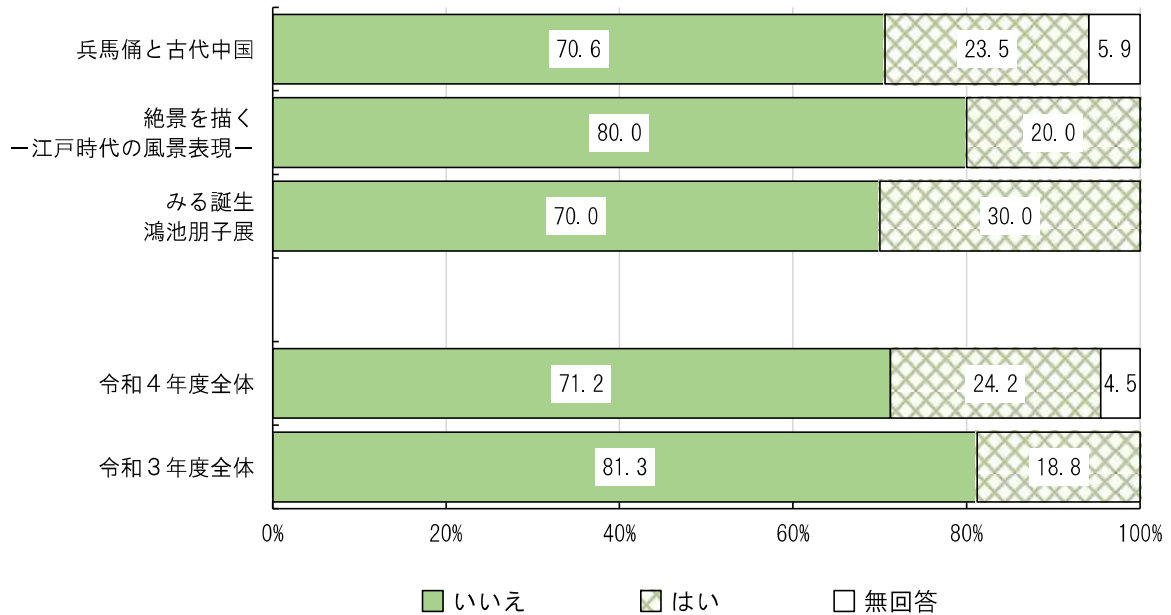
		件数 (件)	いいえ	はい	無回答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	70.6	23.5	5.9
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	80.0	20.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	70.0	30.0	0.0
経年	令和4年度全体	66	71.2	24.2	4.5
	令和3年度全体	96	81.3	18.8	0.0
令和3年度	ストーリーズ	9	77.8	22.2	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	92.3	7.7	0.0
	古代エジプト展	74	79.7	20.3	0.0

単位：%

＜全体＞



＜新規来館者＞



「風景とロダンの美術館」としての認知度について、令和4年度全体は、「はい」68.0%、「いいえ」29.6%となっている。

展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「はい」66.5%、『絶景を描く－江戸時代の風景表現－』では「はい」77.3%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「はい」71.8%となっている。

新規来館者の令和4年度全体は、「はい」24.2%、「いいえ」71.2%となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「はい」23.5%、『絶景を描く－江戸時代の風景表現－』では「はい」20.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「はい」30.0%となっている。

(5) レストラン、ミュージアム・ショップアンケート結果

1 レストランの満足度

Q7 レストランを利用された満足度について、それぞれに○を1つお付けください。

全体

		件数 (件)	利用 レスト ラン	利用 して ない	無 回 答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	26.6	48.1	25.3
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	9.1	72.7	18.2
	みる誕生 鴻池朋子展	39	17.9	46.2	35.9
経 年	令和4年度全体	294	24.1	49.7	26.2
	令和3年度全体	576	18.1	62.2	19.8
令和3年度	ストーリーズ	72	12.5	70.8	16.7
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	20.6	59.8	19.6
	古代エジプト展	397	18.4	61.2	20.4

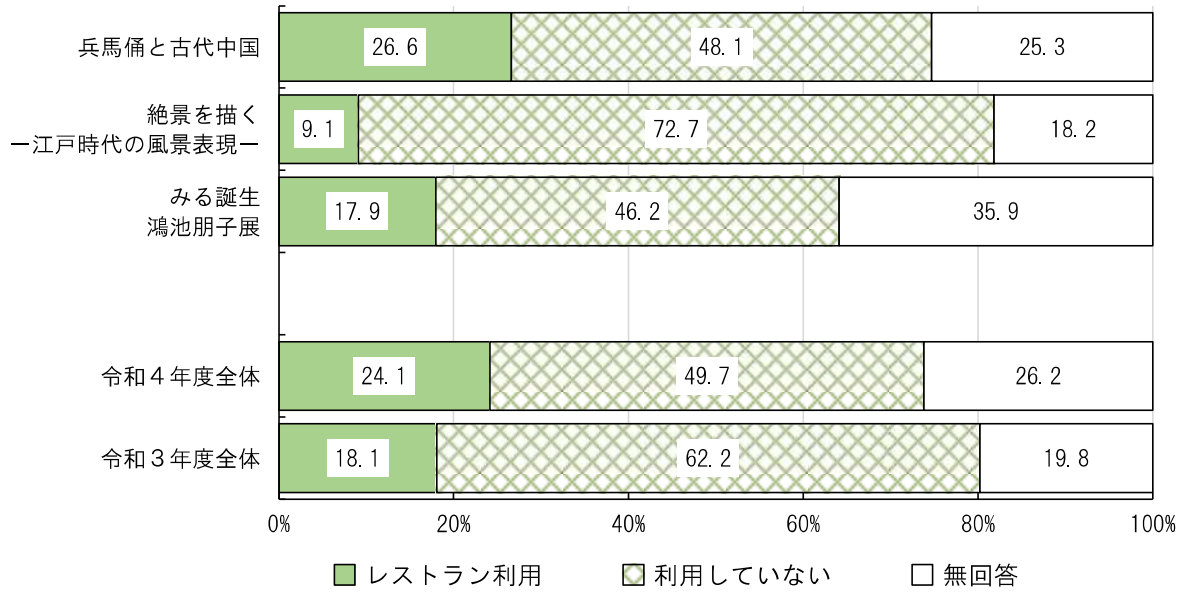
単位：%

新規来館者

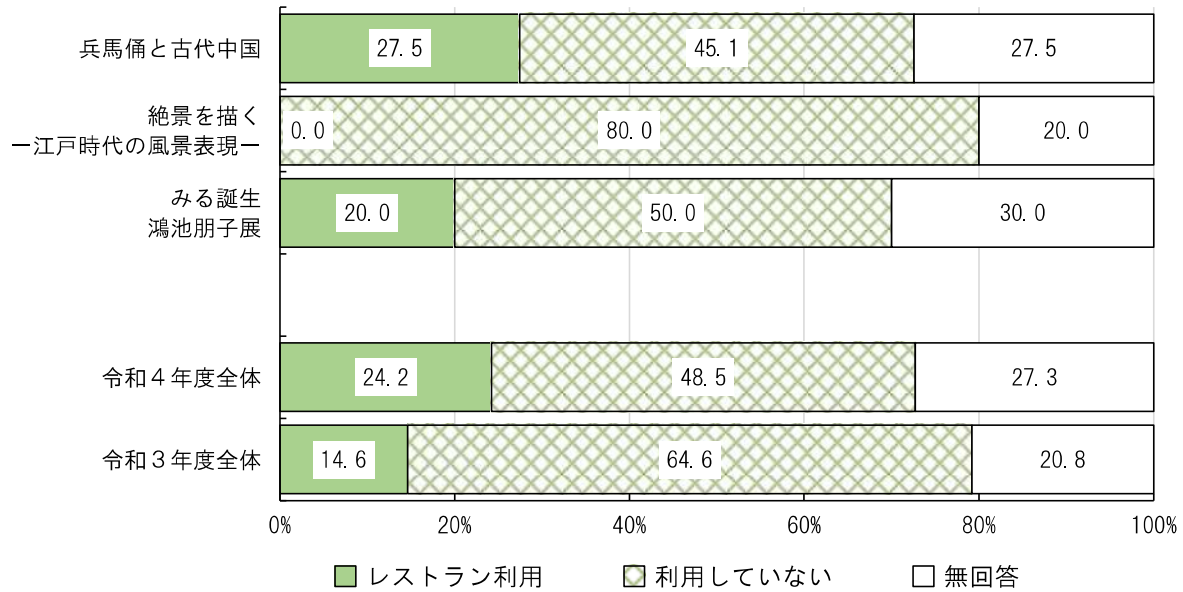
		件数 (件)	利 用 レスト ラ	利 用 して ない	無 回 答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	27.5	45.1	27.5
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	0.0	80.0	20.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	20.0	50.0	30.0
経 年	令和4年度全体	66	24.2	48.5	27.3
	令和3年度全体	96	14.6	64.6	20.8
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	77.8	22.2
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	7.7	53.8	38.5
	古代エジプト展	74	17.6	64.9	17.6

単位：%

<全体>



<新規来館者>



レストラン利用の有無について、令和4年度全体は、「レストラン利用」24.1%、「利用していない」49.7%となっている。

展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「レストラン利用」26.6%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「レストラン利用」9.1%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「レストラン利用」17.9%となっている。

新規来館者の令和4年度全体は、「レストラン利用」24.2%、「利用していない」48.5%となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「レストラン利用」27.5%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「レストラン利用」0.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「レストラン利用」20.0%となっている。

レストランを利用された人の満足度

全体

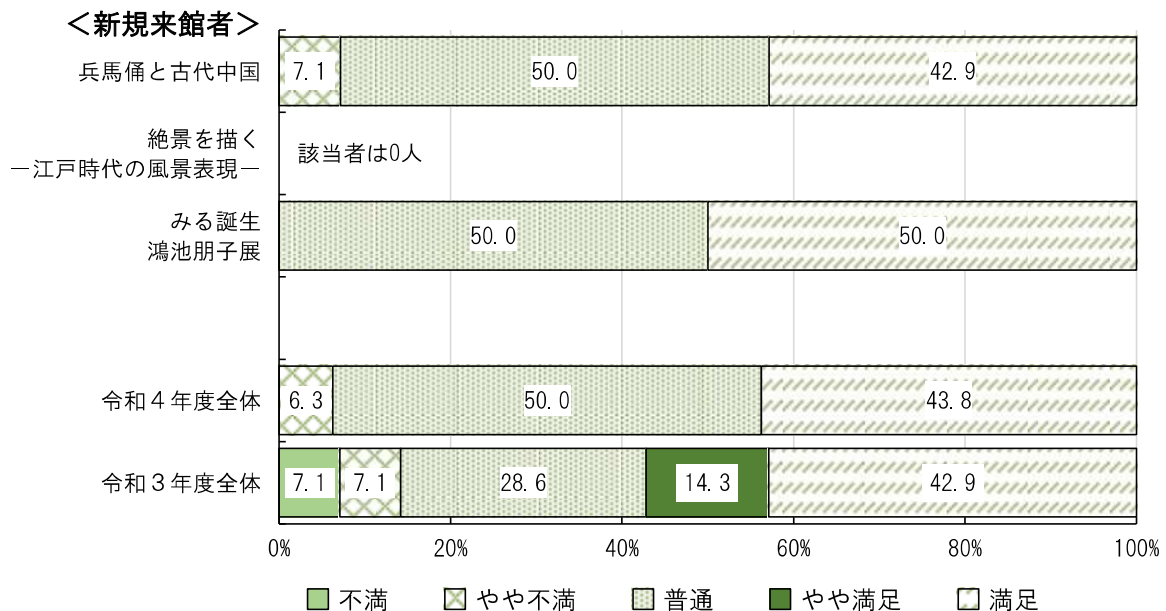
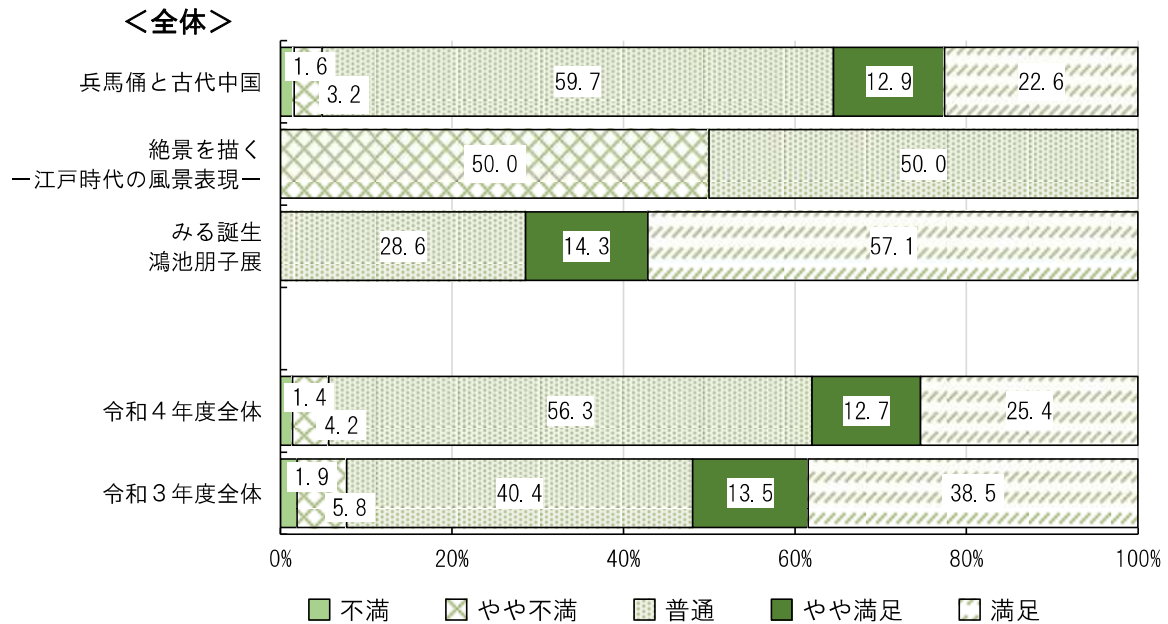
		件数 (件)	不 満	やや 不 満	普 通	やや 満 足	満 足
令和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	62	1.6	3.2	59.7	12.9	22.6
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	7	0.0	0.0	28.6	14.3	57.1
経 年	令和4年度全体	71	1.4	4.2	56.3	12.7	25.4
	令和3年度全体	104	1.9	5.8	40.4	13.5	38.5
令和 3 年 度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	44.4	11.1	44.4
	忘れられた江戸絵画史の本流	22	4.5	13.6	22.7	18.2	40.9
	古代エジプト展	73	1.4	4.1	45.2	12.3	37.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	不 満	やや 不 満	普 通	やや 満 足	満 足
令和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	14	0.0	7.1	50.0	0.0	42.9
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	0	-	-	-	-	-
	みる誕生 鴻池朋子展	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
経 年	令和4年度全体	16	0.0	6.3	50.0	0.0	43.8
	令和3年度全体	14	7.1	7.1	28.6	14.3	42.9
令和 3 年 度	ストーリーズ	0	-	-	-	-	-
	忘れられた江戸絵画史の本流	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	古代エジプト展	13	7.7	7.7	30.8	15.4	38.5

単位：%



レストランを利用された人の満足度について、令和4年度全体は、「やや満足」と「満足」を合わせた肯定的評価が38.1%となっている。肯定的評価は『みる誕生 鴻池朋子展』71.4%、『兵馬俑と古代中国』35.5%、『絶景を描くー江戸時代の風景表現ー』0.0%の順となっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた否定的評価は5.6%となっている。

新規来館者の令和4年度全体は、「やや満足」と「満足」を合わせた肯定的評価が43.8%となっている。肯定的評価は『みる誕生 鴻池朋子展』50.0%、『兵馬俑と古代中国』42.9%、『絶景を描くー江戸時代の風景表現ー』0.0%の順となっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた否定的評価は6.3%となっている。

※「やや満足」と「満足」を合わせた比率、「不満」と「やや不満」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

2 ミュージアムショップの満足度

Q7 ミュージアムショップを利用された満足度について、それぞれに○を1つお付けください。

全体

		件数 (件)	シ ミ ヨ ー ッ プ 利 用	利 用 し て い な い	無 回 答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	33.0	27.9	39.1
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	54.5	36.4	9.1
	みる誕生 鴻池朋子展	39	41.0	28.2	30.8
経年	令和4年度全体	294	35.7	28.6	35.7
	令和3年度全体	576	58.2	24.7	17.2
令和3年度	ストーリーズ	72	56.9	26.4	16.7
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	61.7	23.4	15.0
	古代エジプト展	397	57.4	24.7	17.9

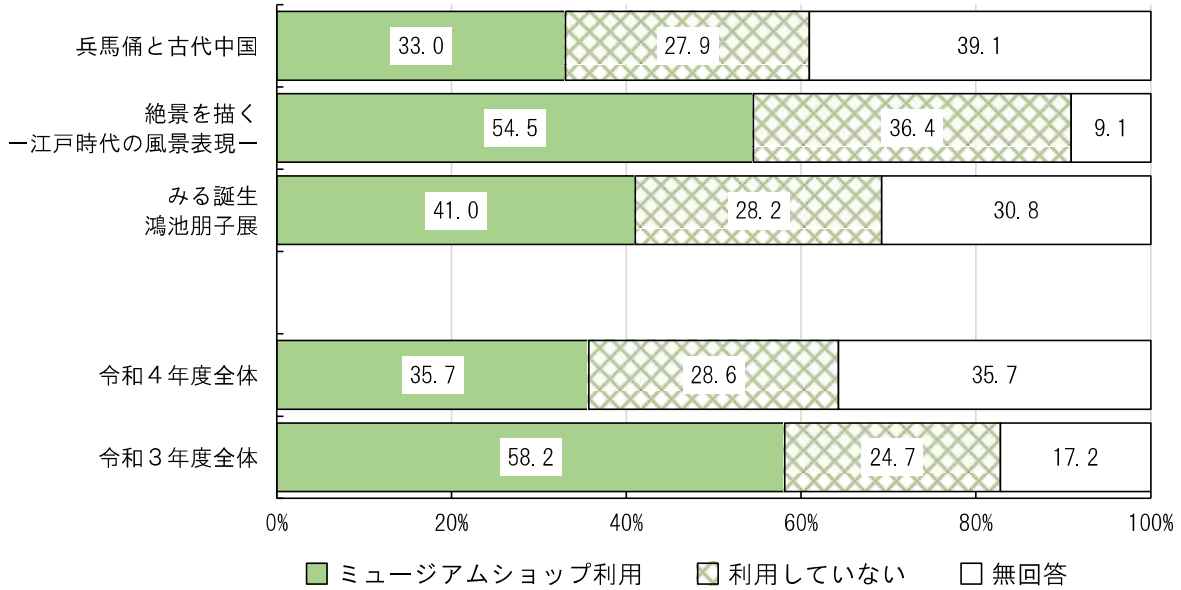
単位：%

新規来館者

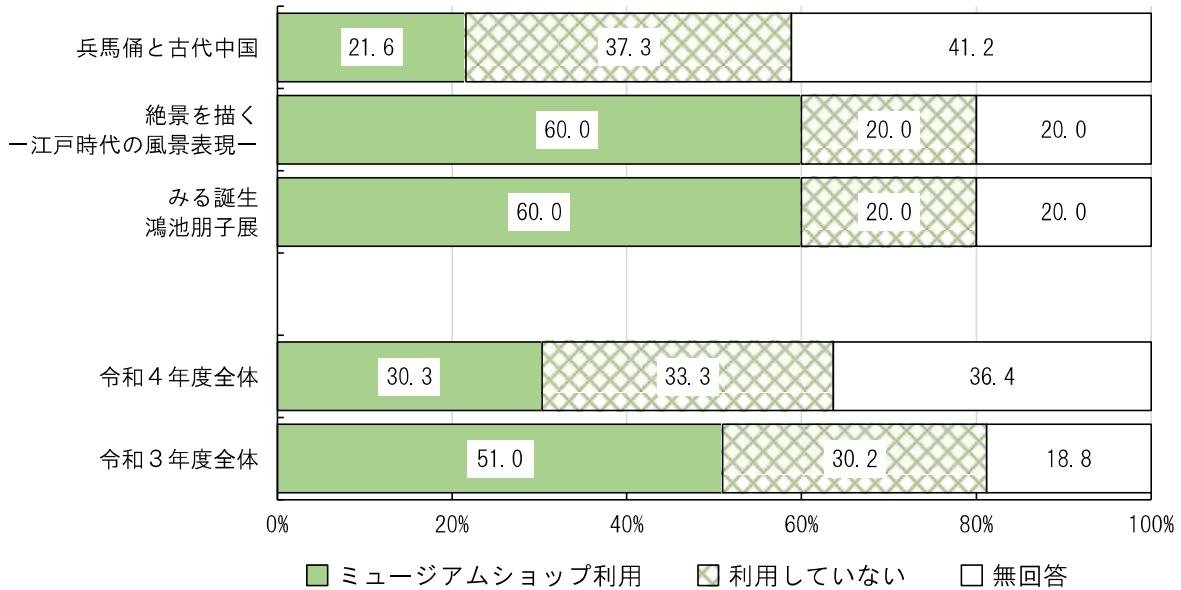
		件数 (件)	シ ミ ヨ ー ッ プ 利 用	利 用 し て い な い	無 回 答
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	21.6	37.3	41.2
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	60.0	20.0	20.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	60.0	20.0	20.0
経年	令和4年度全体	66	30.3	33.3	36.4
	令和3年度全体	96	51.0	30.2	18.8
令和3年度	ストーリーズ	9	11.1	66.7	22.2
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	61.5	15.4	23.1
	古代エジプト展	74	54.1	28.4	17.6

単位：%

<全体>



<新規来館者>



ミュージアムショップ利用の有無について、令和4年度全体は、「ミュージアムショップ利用」35.7%、「利用していない」28.6%となっている。

展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「ミュージアムショップ利用」33.0%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「ミュージアムショップ利用」54.5%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「ミュージアムショップ利用」41.0%となっている。

新規来館者の令和4年度全体は、「ミュージアムショップ利用」30.3%、「利用していない」33.3%となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『兵馬俑と古代中国』では「ミュージアムショップ利用」21.6%、『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』では「ミュージアムショップ利用」60.0%、『みる誕生 鴻池朋子展』では「ミュージアムショップ利用」60.0%となっている。

ミュージアムショップを利用された人の満足度

全体

		件数 (件)	不満	やや不満	普通	やや満足	満足
令和4年度	兵馬俑と古代中国	77	1.3	0.0	48.1	15.6	35.1
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	12	0.0	0.0	33.3	25.0	41.7
	みる誕生 鴻池朋子展	16	6.3	6.3	31.3	18.8	37.5
経年	令和4年度全体	105	1.9	1.0	43.8	17.1	36.2
	令和3年度全体	335	0.9	2.1	29.6	20.3	47.2
令和3年度	ストーリーズ	41	2.4	2.4	39.0	17.1	39.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	66	0.0	0.0	31.8	15.2	53.0
	古代エジプト展	228	0.9	2.6	27.2	22.4	46.9

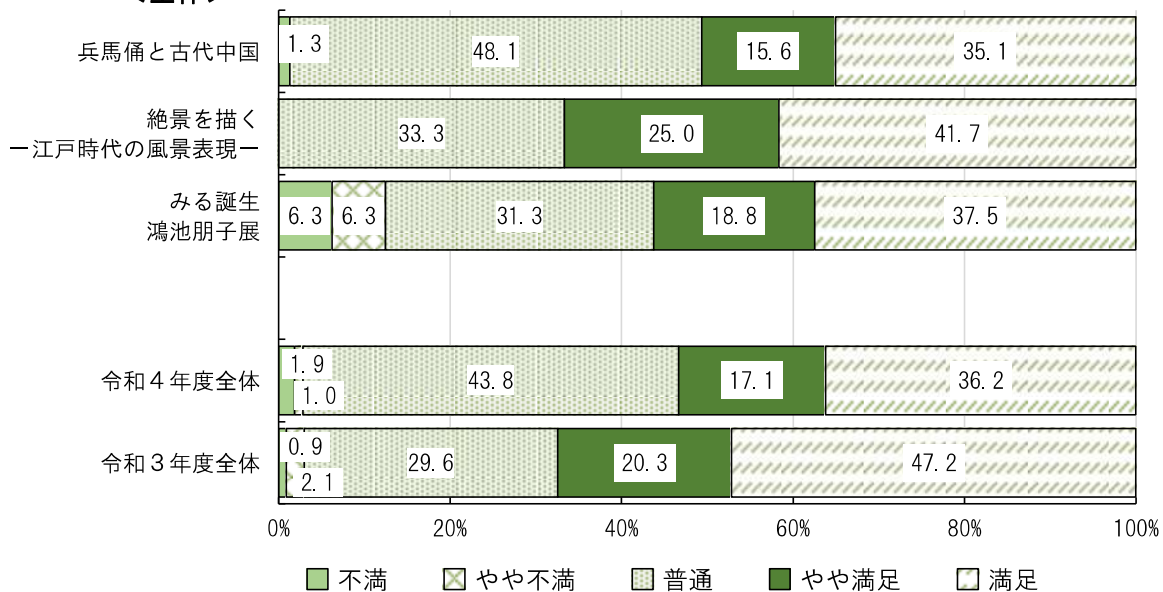
単位：%

新規来館者

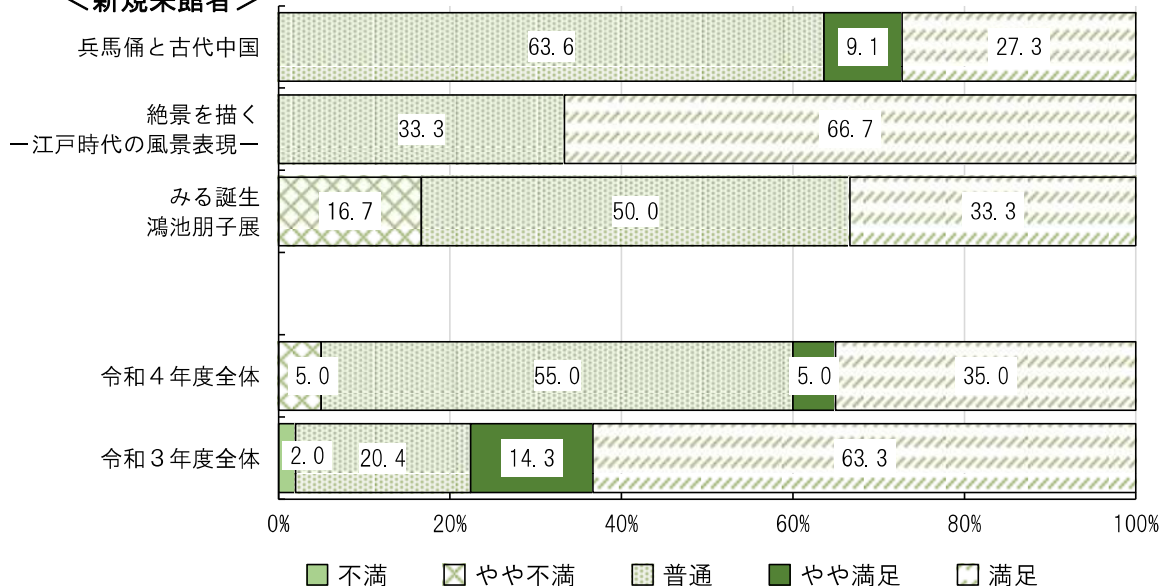
		件数 (件)	不満	やや不満	普通	やや満足	満足
令和4年度	兵馬俑と古代中国	11	0.0	0.0	63.6	9.1	27.3
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
	みる誕生 鴻池朋子展	6	0.0	16.7	50.0	0.0	33.3
経年	令和4年度全体	20	0.0	5.0	55.0	5.0	35.0
	令和3年度全体	49	2.0	0.0	20.4	14.3	63.3
令和3年度	ストーリーズ	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	8	0.0	0.0	25.0	0.0	75.0
	古代エジプト展	40	2.5	0.0	20.0	15.0	62.5

単位：%

<全体>



<新規来館者>



ミュージアムショップを利用された人の満足度について、令和4年度全体は、「やや満足」と「満足」を合わせた肯定的評価が53.3%となっている。肯定的評価は『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』66.7%、『みる誕生 鴻池朋子展』56.3%、『兵馬俑と古代中国』50.7%の順となっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた否定的評価は2.9%となっている。

新規来館者の令和4年度全体は、「やや満足」と「満足」を合わせた肯定的評価が40.0%となっている。肯定的評価は『絶景を描く—江戸時代の風景表現—』66.7%、『兵馬俑と古代中国』36.4%、『みる誕生 鴻池朋子展』33.3%の順となっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた否定的評価は5.0%となっている。

※「やや満足」と「満足」を合わせた比率、「不満」と「やや不満」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

V 自由意見

この展覧会または当美術館についてのご指摘やご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。とたずねたところ、139件の自由意見があり、分類・性質別に整理をし掲載する。

自由意見の分類・性質別件数

	1			2			3			4			5		
	今回の展覧会			企画全般			展示方法			施設・環境			運営・スタッフ		
	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情
兵馬俑と古代中国 ～秦漢文明の遺産～	29	1	1	4	6	0	6	12	10	5	7	3	2	7	9
絶景を描くー江戸時 代の風景表現ー	1	0	0	0	1	0	2	3	1	0	2	2	0	0	0
みる誕生 鴻池朋子展	9	0	2	2	1	0	5	3	1	0	0	2	0	0	0
全 体	39	1	3	6	8	0	13	18	12	5	9	7	2	7	9

単位：件

A 感想

【1 今回の展覧会】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
また期待しています。	男性	50歳代
コロナの影響さえなければと思いたい。	男性	50歳代
約40年前にツインメッセで観ました。なつかしく拝見しました。県外に住んでいる子どもにも伝えました。きっと観に来ると思います。	女性	60歳代
中国古代の息づかいが感じられる、良い展示会でした。	男性	30歳代
兵馬俑のサイズが190センチほどありましたが、秦人の身長がそれほど高かったのでしょうか。	男性	40歳代
あまり美術館に行かないのですが、また来たいと感じました。	男性	30歳代
俑の大きさに驚きました。新しい佐藤さんの近づく線、遠くだと人物の絵が面白い。	男性	12歳以下
ものすごく美しい空間に浸ることが出来てとても満足しています。	女性	40歳代
すごく勉強になりました。これからも頑張ってください。	男性	20歳代
ずっと観たかったので間近で見られてうれしかった。	女性	30歳代
とても良かったのでまた来ようと思います。	男性	13～19歳
とても楽しかったです。撮影OKなもの嬉しかったです。	女性	20歳代
自分が知らなかった発見があって面白かった。	女性	50歳代
兵馬俑の展示がこんなに近くで見られて感動しました。	女性	40歳代

内容	性別	年齢
キングダムが好きなので良かった！！ただ見学の際、障がい者スペースがあると良い。	女性	30 歳代
昔、西安で見てきたのでとても関心がありました。	女性	70 歳以上
以前西安で本物を見てきました。懐かしかったです。	女性	50 歳代
予約制で良かった。並ぶ時間が少なかった。混みすぎでなくて良い。	女性	40 歳代
中国文化が好きなので面白かったです。	女性	30 歳代
最初は興味がなかったけれど見たら楽しかったです。	男性	12 歳以下
有意義な時間になりました。	女性	13～19 歳
兵馬俑は何度も見ているが今回はより時代背景や細やかな装備の実物に触れてよかったですと思います。発見されたのは子どもの頃、その時も大きいと思いましたが、大人になった今も「大きい」と思います。	女性	60 歳代
兵馬俑だけでなく超一級の発掘品が展示されていて驚きました。	男性	60 歳代
はじめてですが快く見られました。	男性	50 歳代
約 40 年前に東京で見て以来の兵馬俑展でとても感慨深かったです。	男性	50 歳代
兵馬俑展、40 年ほど前にも静岡に来てたいへん感動し、今回子どもにも見てほしいと思ってきました。良かったです。	男性	50 歳代
20 数年前位に西安で観た実際の兵馬俑は数も多く圧倒され、まさに背筋がぞくぞくという感じだった。あの時ほどの感動はないけれど、間近で見られたことや大きさなど変遷もわかり非常に興味深く拝見しました。	女性	50 歳代
とても見やすいものでした。幼い頃に写真で見た兵馬俑がこんなに大きいとは圧巻でした。初めて音声ガイドを利用しましたが、また利用したいです。	女性	30 歳代
ぜひまた開催していただきたい。	男性	30 歳代
絶景を描く－江戸時代の風景表現－		
現在の景観と比較することができてとても楽しかったです。	女性	20 歳代
みる誕生 鴻池朋子展		
糸にぶつかりそうになったのが怖かったですが、それもまた芸術なのだろうと楽しかったです。	女性	30 歳代
どうして沖六鵬さんの書が展示されていたのか？わかりませんでした。	男性	70 歳以上
50～60 年前、熊本県住みの頃、「菊池川療養所」と呼ばれていた（トラウマ……）ことを思い出した。	女性	60 歳代
狂気を感じる展覧会でした。作品はもちろんのこと、展示のセンスが素晴らしかったです。	女性	20 歳代
現代美術などの意欲的な企画展、楽しませてもらっています。	男性	50 歳代

内容	性別	年齢
ユニークかつ意欲的な企画でたいへん面白かった。最近、美術の意義や「権威」、また美術館の意味を再検討する企画が多いような気がするが、これも時代のトレンドなのだと思う。その点でも良かった。いつか機会があれば来館してみたいと思っていたので、来ることができて良かったです。ありがとうございます。	男性	50歳代
ぐるぐるまわる顔が面白かった。顔は石みたいだった。長いひもがうらやましかった。うんちがあったことがすごい。どこから持ってきたんですか。	男性	12歳以下
来て良かったです。特に野外の展示が最高でした。	女性	40歳代
新型コロナの影響もあると思いますが、来場者が少ない分落ち着いて楽しめました。	男性	60歳代

【2 企画全般】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
学芸員さんのスライドトークの声が小さく聞き取りづらく残念だった。	女性	50歳代
楽しかったです。ロダン館が面白かったです。	女性	13～19歳
石田徹也展とかボックスアート展など、非常に興味のある展示をやってくれるので今後ともわくわくするような企画を期待しています。庵野さんの時はすごくわくわくしました。	男性	50歳代
「シベリア抑留展」や「古代ローマ」などいつもテーマ性があり、次はなにかなど期待しています。	男性	40歳代
みる誕生 鴻池朋子展		
引き続き頑張れ。	男性	20歳代
ロダンのクイズラリーが面白かった。	女性	30歳代

【3 展示方法】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
音声ガイドに興味があって見に来ましたが展示もとてもよかったです。	女性	40歳代
展示の仕方が工夫が見られた。説明がわかりやすい。漫画なども良い。	女性	70歳以上
キャプションが複数あり、見やすかったです。	女性	20歳代
照明が展示台のすぐ上にあるのが印象的でした。	女性	20歳代
表示方法がとてもわかりやすく立派だった。ゆっくり作品の間があったのでゆったり見学できとても良かった。	女性	70歳以上
入口付近に撮影スポットをかねて等身大の俑のレプリカなどを設置してもう少しわくわく感を演出しても良かったのかなと思います。	女性	50歳代
絶景を描く－江戸時代の風景表現－		
精密日本画の時はもっと近くで見られるように展示していた。	男性	60歳代

内容	性別	年齢
大きな絵の細部がやや見にくいところがありました。仕方がないのはわかっています。	男性	60 歳代
みる誕生 鴻池朋子展		
外の展示場が予想以上にワイルドで作品を見つけた時喜びました。	女性	30 歳代
今回の屋外展示の森の中の展示がすごく新鮮だった。歩きにくいところも含めて笑っちゃいました。	男性	50 歳代
みる誕生で美術館の裏山の奥まで行ったのは初めてです。良かった。	男性	70 歳以上
裏山を活用する企画はたいへん良いと思います。これからもやってください。	男性	70 歳以上
ひもがあることで動線があって十分楽しめました。	女性	50 歳代

【4 施設・環境】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
とてもきれいな美術館でよかった。	女性	30 歳代
ミュージアムショップも含めてゆっくり見たかったです。広くて少し疲れしました。	女性	20 歳代
人が多かったからか？少し騒がしかったかな？	女性	30 歳代
静かできれいなのでゆっくりと美しい作品が見られました。	女性	12 歳以下
こちらの県立美術館はとてもきれいでわかりやすかったです。	女性	12 歳以下

【5 運営・スタッフ】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
はじめて予約してきました。便利です。	男性	60 歳代
予約制はスムーズで良い。	男性	30 歳代

B 要望

【1 今回の展覧会】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
考古学に無知な私。展示の仕方に一言。入場後すぐに2号銅車馬がほしい。兵馬俑ですから。横並びの兵馬俑ではなく正面からすべてが見える兵馬俑が見たかった。古代中国のちまちましたものは間に挟んでほしい。	男性	70歳以上

【2 企画全般】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
あまりないですが、他にもいろいろな中国の展示が見たいですね。	男性	13～19歳
Perfumeの展示会ときゃりーぱみゅぱみゅの展覧会を開催してほしいと思います。	女性	20歳代
若冲展をやってください。動植さい絵が見たいです。	女性	40歳代
ギリシャ、ローマ時代のコレクションを見たい。	女性	60歳代
ぜひまた開催していただきたい。	男性	30歳代
また中国の展覧会をしてください。	男性	12歳以下
絶景を描くー江戸時代の風景表現ー		
きゃりーぱみゅぱみゅの展覧会を開催してほしいと思います。	女性	20歳代
みる誕生 鴻池朋子展		
きゃりーぱみゅぱみゅの展覧会を開催してほしいと思います。	女性	20歳代

【3 展示方法】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
No. 30の説明に底部に簀の子があるとあるので上方に鏡を設けてみる事が出来るともっと良いと思いました。上から写真を撮ると見れました。	女性	30歳代
一番最後のフロアにも椅子がほしかった。展示物の配分とスペース的に無理だったのかなとは思っていますが。	女性	30歳代
写真撮影が気になり作品に集中できなかつた。せめて撮影禁止時間を設けてほしい。多方面からじっくり作品や展示物を見たい人にとっては構図を気にする写真とは相いれない。せまい展示品、他者の写真に写る可能性も高い。せめて観覧人数が少ない時にしてほしい。	女性	40歳代
できれば照明をもう少し明るくしてほしい。展示が見にくい。	男性	70歳以上
漢字にふりがなをふってほしい。小学生などにはわからない。	女性	60歳代
解説プレートの位置が低すぎ。展示ケースから距離を取るとケースのフレームに最下段行が隠れて読めなかつた展示があつたので以降ご配慮いただけるとうれしいです。	男性	30歳代

内容	性別	年齢
音声ガイドの案内番号設置場所が高すぎる。何個か通り過ぎ途中で気づいて戻りました。あれだと気づかない人も多いのでは？説明文の位置をもう少し下げてください。	女性	30 歳代
椅子が多いと助かります。立ちっぱなしで疲れなくて良い。	男性	40 歳代
解説をもう少し充実させてほしい。	男性	13～19 歳
子ども用のフォトスポットがほしい。(顔出しパネルなど)	男性	40 歳代
展示物の音声ガイドマークの場所がわかりづらい。できるものなら2ヶ所に置いてほしかった。あと、アンケートの鉛筆が書きづらい。	女性	30 歳代
スマホによる撮影は禁止された方が良くと思います。	男性	60 歳代
絶景を描くー江戸時代の風景表現ー		
展示空間が安っぽい。もう少しグレードを上げてください。「絶景を描く」というタイトルではなく「富士山を描く」に近い。ネーミングに無理がある。	男性	40 歳代
律詩や和歌のついている絵は隣に語訳を置いてほしいです。	女性	13～19 歳
説明の漢字にできるだけ読みがなをふっていただくと読みやすかったです。「禾+垂」の字が読めなかった……。	女性	20 歳代
みる誕生 鴻池朋子展		
鴻池さんの作品は好きなのですが、どれもただ置いただけな感じです。この場所で現代アートの展示は難しいと思いますが頑張ってください。現代アートの展示をもっと見たいです。	女性	40 歳代
屋外のコース、私は 23 分で一周しました。「小一時間かかる」とおどかすのはやめてください。ひるんで行かない人も多いと思います。また、⑤だけすすめる方法もあったはずですが。②がいつまでも竹林に設置されているといいなと思いました。FRP だし。	男性	60 歳代
「輞川図巻」に来ましたが、外の音楽(民謡か?)がずっと聞こえていて気になりました。静かに鑑賞したい。	女性	70 歳以上

【4 施設・環境】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
いつもガラガラの印象。こういう話題性のあるものをやると人は呼べる。周りの草取りの手入れが悪い。県立なのだから顔らしく手入れしてほしい。	女性	70 歳以上
水分補給をするコーナーが展示室内になかった。とにかく暑かったので。	女性	60 歳代
椅子がもう少しほしかった。	女性	12 歳以下
美術館に近くて多くの台数が停められる駐車場があるとありがたいです。	女性	30 歳代
駐車場が少ない。遠い駐車場ではなく近いところを増やして。	女性	40 歳代
前回の展示に比べてクーラーも効いていて熱中症にならなくて良かった。もう少し車いすの気持ちに寄り添ってほしい。	女性	30 歳代

内容	性別	年齢
今回はレストランを利用したが、鑑賞中にちょっと途中で手軽にコーヒーが飲める場所（お茶できる場所）がほしい。	女性	60歳代
絶景を描くー江戸時代の風景表現ー		
駐車場をもっと広くした方が良いと思う。	その他	13～19歳
コロナなので仕方ないが空調がうるさい。もう少し何とか静かにしてほしい。	男性	60歳代

【5 運営・スタッフ】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
おしゃべりが過ぎる方への注意をひんばんにしてほしい。	女性	40歳代
マスクを外しておしゃべりしているカップルやフラッシュをたいていた年配者、展示ケースをべたべた触って大声で話す親子。久しぶりの開館でしかも有名な兵馬俑展ということで美術館のマナーがわかっていない人が多すぎました。もう少し全体に目を配ってください。	女性	50歳代
とても貴重な兵馬俑なのにフラッシュを使う人やケースに触れる人がいました。スタッフも指摘しませんでした。とても心配です。世界の宝なのでぜひお願いします。	女性	20歳代
予約制であることを知らなかった。わかりやすくしてほしい。	女性	30歳代
展覧の中にいるスタッフさんが立ちっぱなしなのが気になるので、椅子に座ってください。	女性	20歳代
この規模の展覧会で都市部では来場者がこんなに少ないとはあり得ない。静岡はPRの仕方が残念過ぎる。もっと県民に美術・芸術へのPRをしてほしい。	女性	50歳代
WEBサイト上の事前予約の説明をもう少し丁寧にしてください。	女性	60歳代

C 苦情

【1 今回の展覧会】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
作品目録がないのが最悪でした。見ながら確認したりしたいのに電波もあまり良くないかデジタルのみは不親切。かつ最悪な改悪です。	男性	30 歳代
みる誕生 鴻池朋子展		
触るといふこと、動物を材料にしかも吊るすといふことは今の時代どうでしょう。	女性	60 歳代
動物を吊るす意味は？でした。展示に統一感がなく、素人には不明と感じたり動物の皮や毛の作品は少々不快でした。	無回答	無回答

【3 展示方法】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
写真撮影の音が気になった。撮る人も撮ることが目的になってしまい、お互い作品に向き合えなかったのが残念。漢代の展示や詰め込みで椅子もなく高齢者には厳しい。本企画自体は満足。	男性	40 歳代
音声ガイドを楽しみにしていたのに借りられなかった。	女性	60 歳代
音声ガイドの表示がわかりにくい。	女性	60 歳代
音声ガイドを利用したが、No. 19 以降のものが何回やっても途中で電源が落ちてしまい、最後まで聞けなかったのが残念。	女性	40 歳代
音声ガイドを利用したが作品の展示のところの表示がガラスケースの情報に貼ってあり、気づきにくい。はじめ見つけられず、数点聞き逃していた。通常ならば作品の紹介の提示の横あたりにあるものなのに……。(私が行く美術館はそうです) 不親切に感じました。作品を見ている目線としてはかけ離れた上部にそっと音声ガイドのシールを貼られている……。せめてガイドプログラムの音声番号の書いてある用紙に作品番号を書いてくれてあればわかるのに……。いろいろ残念。会場は暗く、背の低い人では見落としてしまう可能性は大です。使う人の気持ちになって表示も考えた方が良くと思います。また一つ気になったのは、音声ガイド 20 の陶倉の表示で、建物の下の部分に鏡と思われるものが置かれていましたが、あれは何なのでしょう？鏡で展示品の見にくい部分を映して見えるようにするものだったのか？	女性	50 歳代
音声ガイドマークの位置が高すぎます。目線は展示物とその説明を見るために下に行くので、しばらくマークの存在に気付かなかった。	男性	50 歳代
密で見にくく、事前予約の意味があるのかな？音声ガイドの人優先みたいでとても嫌。	男性	50 歳代

内容	性別	年齢
TV と椅子の距離感に少々問題がある気がします。椅子に座って映像を見ていたら、目の前に人が来て立ち見を始めてしまい、映像説明が見づらかったです。	女性	40 歳代
写真撮影の音がうるさかった。	男性	13～19 歳
矢印の案内がわかりにくかった。	女性	13～19 歳
絶景を描く－江戸時代の風景表現－		
説明の文字が小さく読みづらいです。富士の特集はわかりますが、右隻・左隻をバラバラに置くセンスはいただけません。	女性	60 歳代
みる誕生 鴻池朋子展		
見る人が自由に考える目的の展示なのに役員がついてきて自由さがありません。トイレが故障。別のトイレは予備の紙がない。もう来ないつもり。	男性	60 歳代

【4 施設・環境】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
駅から遠い。	男性	20 歳代
駐車場が不便。	女性	50 歳代
駐車場からの坂がきつい。館内に入っても階段。	男性	50 歳代
絶景を描く－江戸時代の風景表現－		
空調の音がうるさい。作品のガラスの反射が気になる。山梨のように国内の若手の作品もぜひ見たい。	男性	50 歳代
空調の音が「かみなり」みたいで気になった。	男性	70 歳以上
みる誕生 鴻池朋子展		
駅から 18 分は嘘。もっと遠かった。バスがあればまた来ることもあるかも。	女性	60 歳代
館内が暖かすぎる。	女性	20 歳代

【5 運営・スタッフ】

内容	性別	年齢
兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～		
案内入口でのスタッフの人数が少ない。担当者 1 人では気の毒です。	男性	70 歳以上
QR コード予約しても多くの人だったのでゆっくり見れない。	男性	40 歳代
最近出品リストをスマホで見るようになったが、まだ持っていない人もいます。初めからスマホありきの考え方には納得いかない。持っていない人はどうすれば良いのか。いつもリストを見ながら作品を見ているのに。その点を考えてほしい。	女性	60 歳代
同伴の高齢の母はチケット購入の際、聞こえないと言っていた。また、予約など WEB の苦手な母にはできなかったのでは。	女性	50 歳代
予約制。人数が多く、ゆっくり見られない。	女性	40 歳代

内容	性別	年齢
高齢者の多い地域なので事前予約のシステムが上手に動いているか疑問に感じた。予約していない高齢者で混雑している。	男性	20 歳代
事前予約制なのに密がすごく、予約の意味を感じなかった。	女性	40 歳代
事前予約の説明の時、入口のスタッフの人が冷たく、少し落ち込んだ。	女性	40 歳代
広報のやり方が悪いと思います。コンテンツは良いのにもったいない。	男性	20 歳代

令和4年度 静岡県立美術館評価業務 報告書
令和5年3月

発行 静岡県立美術館
〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2
TEL 054-263-5755

委託先 株式会社浜名湖国際頭脳センター
〒432-8003 浜松市中区和地山 3-1-7
浜松イノベーションキューブ2F
TEL 053-416-4000

静岡県立美術館50年計画《概要版》

～創造的で多様性に富んだ社会の実現～

2022～2026年度（開館40周年）

基本理念

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

実施方針

1 収集 ～コレクションの持続性～

- 作品の収集方法
 - ・コレクションの継続的な調査研究に基づいた、静岡県にゆかりのある作品等の収集
 - ・収集は、購入、寄贈により行い、財源の継続的な確保、外部資金、等の検討
- 開館40周年記念作品の収集
 - ・山水・風景画を中心に広く情報を集め、県民に愛される作品を収集

2 保存 ～アーカイブの構築～

- 作品の保管、管理
 - ・館内外の環境の維持、収蔵庫の改修、拡張を検討
- 作品の修理、修復
 - ・40周年に向けて計画的な修復
- 情報の保存とアーカイブの構築
 - ・作品、書籍等のデジタルアーカイブの構築による検索利便性向上、作品情報の検証

3 展示 ～コレクションを核とした企画～

- 企画展
 - ・コレクションを核とした企画の重視、学芸員の自主企画による展覧会の実施
 - ・過去と現在を踏まえて未来に向かう40周年の記念展の開催に向けた計画的な準備
- 収蔵品展
 - ・各ジャンルの作品をバランスよく展示、コレクションの新たな楽しみ方のプログラムの実施
- 移動美術展
 - ・特別版の大規模展示、これまででない施設での展示など、新たな開催方法の検討

4 教育普及 ～Webコンテンツの拡充～

- 館内での取り組み
 - ・利用者に合わせたトークイベント、創作活動プログラム等の実施
 - ・学校教育活動の重要な要素となるプログラムの提供、特別支援学校との連携促進
- 館外での取り組み
 - ・学芸員の知見を活かしたわかりやすいアウトリーチ活動、Web上のコンテンツの拡充

5 調査研究 ～研究成果の公表～

- 調査研究
 - ・学芸員の調査研究の一層の充実、成果の発表
 - ・収集、保管、展示、教育普及などに関する専門的な研究の実施、国内外の研究者との交流
- 書庫・図書室
 - ・図書、作品資料の収集の確保、デジタルアーカイブとの連動による図書データの公開

6 広報 ～戦略的な広報展開～

- 広報体制の充実
 - ・文化施設の広報についての専門知識やメディアに精通した者を加えるなど広報体制の検討
- 情報発信機能の強化
 - ・最新の情報をHP、SNS等での発信、デジタルアーカイブの構築・公開等
- 教育機関との連携
 - ・県内小中高等学校への効果的な情報提供、県内大学と連携した情報提供、情報発信
- 観光業界、アーツカウンシルしずおか等との連携
 - ・観光デジタルプラットフォームとの連携、多様な文化芸術活動団体との連携

7 環境・施設整備 ～安心安全な鑑賞環境の維持～

- 施設の適切な管理と快適な環境の整備
 - ・施設の維持保全、改修の速やかな対応
- 来館者の満足度向上
 - ・来館者や第三者評価委員会からの意見、アンケート分析により速やかに対応
 - ・館内の通信環境の向上、キャッシュレス決済のデジタル化の促進
- 駐車場、収蔵庫の整備

8 運営 ～運営基盤の強化～

- 運営基盤の拡充
 - ・継続的な通常予算、国等からの補助金、民間協賛金等外部資金等の確保
- 業務の効率化
 - 企業との連携強化による運営の充実
 - ・企業の研修、顧客セミナーへの学芸員の派遣による美術館への理解

静岡県立美術館5ヵ年計画

～創造的で多様性に富んだ社会の実現～

2022年3月

静岡県立美術館

目 次

I	計画の位置付け	
1	策定の趣旨	1
2	計画期間	1
II	計画策定にあたって	
1	開館から35年	1
2	これからの県立美術館	2
III	基本理念（県立美術館の目指す姿）	3
IV	重点方針	3
V	基本方針（基本理念を具体化する方針）	
1	収集	4
2	保存	5
3	展示	6
4	教育普及	7
5	調査研究	8
6	広報	9
7	環境・施設整備	10
8	運営	11
VI	年度別計画	別紙

I 計画の位置付け

1 策定の趣旨

静岡県立美術館は、1986年（昭和61年）の開館から2021年（令和3年）で35周年を迎えました。この間、美術品の収集と展示を通じて、広く県民に美術作品の鑑賞と創作活動の場を提供してきました。

本計画は、これまでの実績と課題を踏まえ、2026年（令和8年）の開館40周年に向けての運営指針として策定します。

2 計画期間

2022年度（令和4年度）から2026年度（令和8年度）までの5年間を計画期間とします。

II 計画策定にあたって

1 開館から35年

静岡県立美術館は、県議会百年記念事業の一環として建設計画が進められ、1986年（昭和61年）4月に開館しました。静岡県の風土性に鑑み作品収集の基本方針を山水・風景画と定め、現代の美術状況や県ゆかりの作家・作品などにも目配りのうえ、特徴あるコレクション形成に努めてきました。展示活動においては、開館記念展「東西の風景画」を皮切りに、幅広い時代の美術を対象とした多様な展覧会を開催し、これまでに620万人を超える観覧者を迎えています（2020年度末）。また、1994年（平成6年）に新設したロダン館は、ロダンを中心とした近代の西洋彫刻の常設展示スペースとして、風景表現と並び静岡県立美術館を特徴づける重要な柱となっています。

創作と鑑賞をつなぐ多彩な教育普及プログラムも、静岡県立美術館の特色のひとつです。とりわけ近年整備を進めてきた学校向け事業においては、コレクションを元にした様々なプログラムを通して学習を支援し、連携を強化してきました。

今年度、静岡県立美術館は開館35周年を迎えました。収集、保管、公開、教育普及、そしてそれらすべての根幹となる調査研究、これら基盤活動を充実させ、美術館本来の役割を着実に果たすことで静岡県の文化振興に寄与してきましたが、35年を経て、美術館を取り巻く情勢は大きく変化してきており、その対応が急務となっております。

2 これからの県立美術館

現代社会においては、美術の表現ばかりでなく、その発表のスタイルもメディアも多様化しています。美術館は教育から学習の場が変わり、利用者が多様な美術に出会い、考え、理解し合う場となることが求められています。また、急速なデジタル技術の進展は、美術と人間、美術と社会との関係を変え、展覧会を中心としたこれまでの美術館活動に変容を迫っています。

また、2019年末から世界を脅かしている新型コロナウイルスにより、私たちの生活は一変し、美術館においては、感染拡大を受け企画展の来館者の減少、体験を伴う講座の中止など、大きな影響を受けてきました。今後、体験を重視したこれまでの美術館の運営にも大きな見直しが迫られている中、当館においては本年度デジタルアーカイブを進め、作品をどこからでも閲覧できるシステムを構築しております。

アフターコロナに向けては、デジタル社会に主体的に関わっていくと同時に、本物と出会い五感で感じるリアルな体験の場として機能してきたことの意義を再確認し、デジタルとリアルの融合を図っていく必要があります。

さらに、SDGsに対応した持続可能な社会の実現に向けて、多様性についての理解につながる展示活動や開かれた質の高い教育機会の提供など、美術館活動を通じた貢献が期待されております。長らく静岡県立美術館が収集方針としてきた山水・風景画について、今日的な視点に基づいてその意義を捉え直し、発信していく必要もあります。

以上のことを踏まえ、時代に左右されない美術館の本質的な意義と、この時代の美術館として果たすべき役割を常に考えながら、持続的に活力ある美術館活動を展開するために本計画を策定しました。

また、新たな基本理念を定め、美術館の目指すところを、より実践的な形で表現することとしました。

人間の営為の記録として受け継がれる、あるいは同じ時代を生きる人によって生み出される美術表現に触れることは、現在から過去を振り返り、同時に過去から現在を照らし出し、未来を見通す手がかりとなります。美術館は、そのような体験を提供することで、人々がそれぞれに創造的に生きるための勇気を得られる場でありたいと考えます。5ヵ年計画の実践を通して、その実現を目指してまいります。

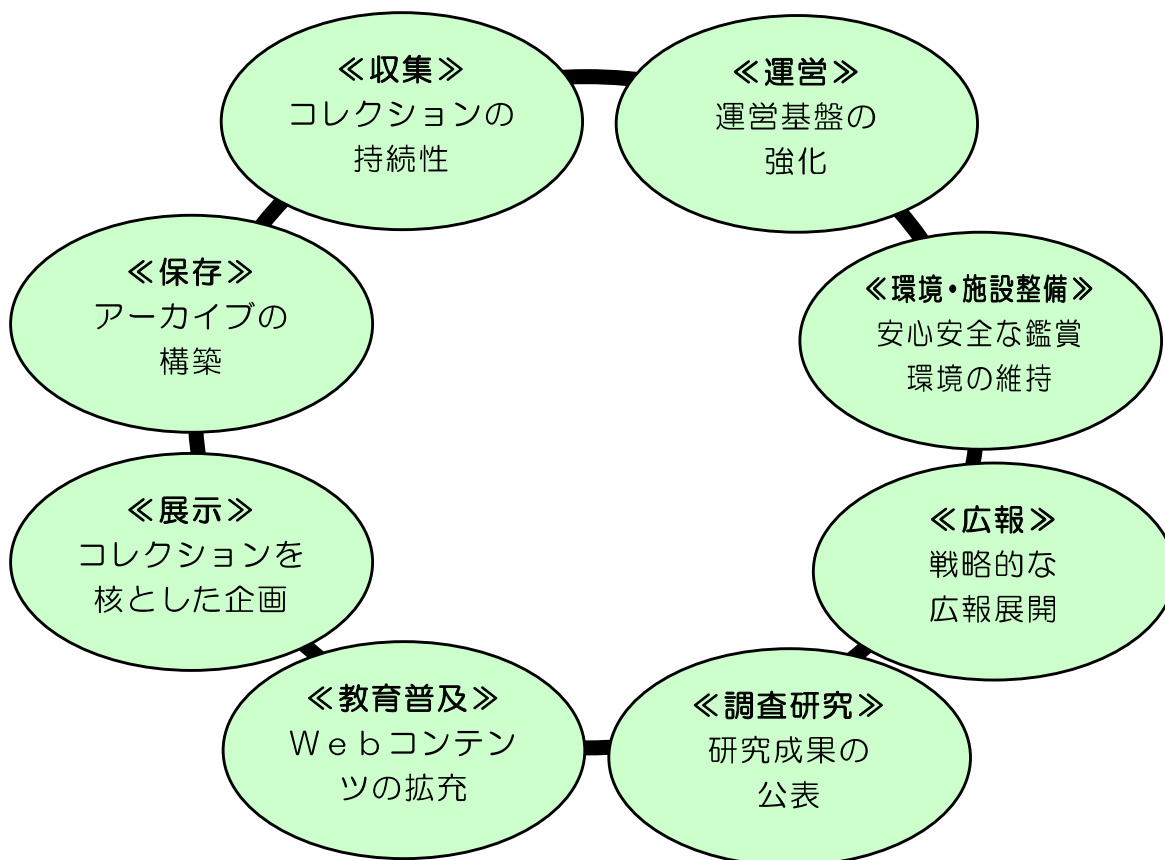
Ⅲ 基本理念（県立美術館の目指す姿）

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。

そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。

その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

Ⅳ 重点方針



V 実施方針（基本理念を具体化する方針）

1 収集

コレクションは美術館活動の基盤であり、作品を持続的に収集することでコレクションを成長させ、未来へ伝えていくことは、現代を生きる美術館の責務であると考えます。収集方針に則り、今後も優れた作品の収集を適正に行い、美術館の核となるコレクションの充実に努めます。

（1）作品の収集方法

コレクションの継続的な調査研究に基づいて、静岡県にゆかりのある作品や、既存のコレクションと関連の深い作品に関する情報を集めます。そのなかから、美術館の活動の幅を広げる作品、新たな価値が見出された作品を収集の対象としていきます。

作品の収集は、購入、寄贈により行い、購入にあたっては財源に留意し、継続的な通常予算の確保に努めるとともに、寄付金等の外部資金や来館者収入に応じた購入経費の確保などについても検討します。

（2）開館 40 周年記念作品の収集

開館 40 周年事業として、記念となる作品の収集を目指します。収集方針を踏まえ、山水・風景画を中心として広く情報を収集し、長く静岡県立美術館の顔として県民の皆様にも愛される作品の収集へと結びつけます。

2 保存

県民の貴重な財産である美術作品・資料を後世に継承するために、作品を適宜修復し、館内外の保存環境を適切に維持し、デジタルアーカイブ化を推進します。

(1) 作品の保管、管理

県民の財産である作品を良好な状態で保存するために、展示室を始めとする館内外の環境を適切に維持します。

収蔵品を適切に管理するため、収蔵庫の改修、拡張を検討します。

(2) 作品の修理、修復

通常の作品修復に加え、修復にあたって複数年を要する収蔵品をリストアップし、40周年に向けて計画的に修復していきます。

(3) 情報の保存とアーカイブの構築

美術館で所蔵する作品・作家資料、書籍等の情報を継続的に収集し、デジタル化して整理します。作品等のデジタルアーカイブの構築により、美術情報の検索利便性を高めるとともに、作品にまつわる情報を不断に検証し、後世へと伝えます。

3 展示

美術館における作品収集や調査研究の成果は、展覧会活動を通して広く開かれ、共有されることで、現代を生きる人々の糧となって社会に息づいていきます。

これまでの展覧会の組み立てや運営方法を踏まえつつ、企画展の開催規模や時期についてより柔軟に対応するなど開催手法を再検討し、魅力的な展示事業につなげていきます。

(1) 企画展

コレクションを核とした企画を重視しつつ、学芸員の自主企画による展覧会の充実を図ります。

40周年記念展の開催に向けて、計画的に準備を進めます。これまでの調査研究や収集・展示活動の成果を御覧いただき、今後の発展につなげる展示、多様性に重きを置いた新しい切り口による展示など、過去と現在を踏まえて未来に向かう、周年にふさわしい展覧会を目指します。

(2) 収蔵品展

各ジャンルの作品をバランスよく御覧いただくとともに、シンポジウムの開催や関連普及イベントの開発など、コレクションの新たな価値や楽しみ方を発見していただくためのプログラムを実施します。

また、2024年（令和6年）に30周年を迎えるロダン館についても、記念事業や県民の財産としての認知を更に深めていただけるような展示を検討していきます。

(3) 移動美術展

今後も県内の美術館や公共施設での開催を継続するとともに、特別版の大規模展示、これまでにないタイプの施設での展示など、新しい開催方法を検討します。

4 教育普及

IoTやAIなどをはじめとする技術革新が進展し、社会や生活が大きく変化し予測困難な時代の中、これまで以上に美術の鑑賞や制作体験を通して感性を働かせる体験は、豊かで柔軟な心を育み、健やかな生活の実現につながります。県立美術館では、美術をより深く理解し、感じていただくため、講演会や美術講座等に加え、創作活動プログラムなどにより、美術の教育普及に積極的に取り組んでいきます。

(1) 館内での取り組み

美術に関する関心や習熟度には幅があることから、利用者に合わせたトークイベントや創作活動プログラム等を実施します。また、来館する学校に対しては、教育活動の重要な要素となるようなプログラムを提供するほか、特別支援学校との連携もさらに進めていきます。

区分	取組内容
一般向け	<ul style="list-style-type: none">• 企画展ごとの有識者講演、館長講演• 学芸員による美術講座、アーティストトーク、ボランティアによるギャラリートour• ロダン館デッサン会• 実技講座、ちょこっと体験• ねんど開放日、えのぐ開放日
学校向け	<ul style="list-style-type: none">• ねんど教室、えのぐ教室、ロダン館ななふしぎ、ロダン館デッサン、美術館裏方ツアー、ボランティアスタッフとの鑑賞• 学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れ

(2) 館外での取り組み

学芸員の知見を活かしたわかりやすいアウトリーチ活動を行うとともに、Web上のコンテンツを拡充し、さらに幅広く県民へサービスを提供します。

区分	取組内容
一般向け	<ul style="list-style-type: none">• 移動美術展での関連イベント実施• 出張講座• Webコンテンツの開発
学校向け	<ul style="list-style-type: none">• 粘土、アートカード、作品レプリカなどオリジナル教材キットの貸出• 出張美術講座• 図工・美術をはじめとした授業への協力• 教員研修協力

5 調査研究

調査研究は、県立美術館の活動を特徴付ける基盤と考え、展示や収集、教育普及とも関連することから、引き続き重点的に取組み、その成果については広く公表することで質の向上を図ります。

(1) 調査研究

学芸員の調査研究をより一層充実させ、展覧会、図録、教育普及事業などを通して、その成果を広く発表します。調査研究の基礎を支えるため、毎年の研究紀要の刊行、月1回の研究会の実施を継続し、内容を深めていきます。

また、収蔵作品の内容に関する学術的な調査研究のみならず、収集、保管、展示、教育普及などに関する専門的な研究を実施します。国内外の研究者とも交流するなど、幅広く情報を収集し、研究につなげ、これらの成果を県民に広く提供します。

(2) 書庫・図書室

調査研究の基礎となる図書や作品資料の収集を質、量とともに確保し、デジタルアーカイブと連動し、図書データを公開します。

また、図書室運営については、定期的に司書が図書の管理を行うことを検討するほか、美術館ボランティア等の協力により常時閲覧できる体制を整え、県民の利便性向上を図っていきます。

6 広報

県立美術館に親しみを感じ、新たな価値を見出す快適な場であることを広く県民に周知するため、マスメディアの活用、Webサイトの充実、SNSを活用した情報発信などを進めるとともに、教育機関、観光業界、アーツカウンシルしずおかなど地域との連携を行い、積極的な広報を展開します。

(1) 広報体制の充実

美術館情報を効果的に広報していくため、文化施設の広報について専門的な知識を有しメディア等に精通した者を加え、職員で組織する広報委員会と連携して広報体制を検討し、戦略的な広報を展開します。

(2) 情報発信機能の強化

企画展や収蔵品情報など、常に最新の情報をホームページやSNS等で発信するほか、マスメディアにも積極的に情報発信します。

また、県立美術館デジタルアーカイブを構築し、ホームページで公開し、いつでもどこにいても美術館の作品を楽しめる取り組みを進め、本物を見たいという来館動機につなげていきます。

(3) 教育機関との連携

未来を担う創造性豊かな人材を育成するため、県内すべての小中高等学校に学校教育の中で美術館を活用していただくよう定期的に効果的な情報提供を行います。

また、県内大学においては、学生への情報提供や学生からの情報発信ができるしくみを構築するほか、授業等で学芸員の講義を行うなど連携強化を検討します。

(4) 観光業界、アーツカウンシルしずおかな等との連携

地域における文化財の保存・活用を趣旨とした2018年の文化財保護法の一部改正を踏まえ、観光業界と地域等との連携を促進するため、観光デジタルプラットフォームと連携した情報提供やマスメディア等へ撮影誘致を行います。また、アーツカウンシルしずおかが支援する県下の多様な文化芸術活動、美術館周辺地域の団体等と連携を図っていきます。

7 環境・施設整備

開館から35年が経過し、施設の老朽化が進行しています。引き続き施設の適切な維持管理に努め、中期維持保全計画に基づき、施設の改修を行います。

また、美術館園地についても、安心安全な鑑賞環境の維持に努めます。

(1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備

館内施設については、日常及び定期点検を実施し、施設の維持保全に努めるとともに、来館者の安全を守るための改修については速やかに対応します。

ロダン館も開館から25年以上が経過しているため、照明の改善など必要な改修を行い、その魅力をより一層高めます。

美術館園地内には、多くの樹木があり、木々に囲まれた県立美術館の景観の一部となっていますが、35年の間に大きく成長したため、枝打ちなどによる適正な管理を行います。

(2) 来館者の満足度向上のための取り組み

来館者や第三者評価委員会等の外部有識者からの御意見、毎年度実施しているアンケート調査の分析により、美術館に対する要望を的確に把握し、可能なところから速やかに対応するよう努めます。

また、館内の通信環境の改善、キャッシュレス決済の導入など、デジタル化に関しては、様々な来館者に配慮しながら取り組んでいきます。

(3) 駐車場、収蔵庫の整備

観覧者の多い企画展開催時の駐車場不足、現代美術の大型化などに伴う収蔵スペースの不足など、活動の拡大に施設が対応できなくなっています。

隣接する県立中央図書館が令和8年度末(予定)に移転することから、跡地の利用について、積極的に関与していきます。

8 運営

当館の使命をより円滑かつ効率的に達成するため、運営基盤の強化を目指します。

(1) 運営基盤の拡充（収入の確保）

作品収集、作品展示、環境維持、イベント開催等当館経営の基盤となる財源として、継続的な通常予算の確保に努めるとともに、国や財団法人からの補助金や民間企業からの協賛金など外部資金の確保や法人会員メンバーシップによる支援等について検討します。

(2) 業務の効率化

業務内容の見直しや事業の費用対効果を検証するなど、業務の効率化や経費の節減に努めます。

(3) 企業との連携強化による運営の充実

美術館は、学芸員の知見を活かし、企業内研修や企業が主催する顧客向けのセミナーの講師として派遣し、企業は美術館の展覧会のチケット購入や寄附を行うことで、企業においては、社員教育や福利厚生の実施、顧客へのサービス向上等、美術館においては、美術館の理解を深め来館者の増加につなげるなど、今まで以上に企業との連携強化を図ります。

VI 年度別計画

別紙のとおり。

なお、年度別計画については、美術館を取り巻く状況の変化に合わせ、適時適切に見直しを行います。

年度別計画

項目	R4(2022)		R5(2023)		R6(2024)		R7(2025)		R8(2026)			
	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4
1 収集	(1) 作品の収集方法 調査研究に基づく継続的な収集											
	(2) 開館40周年記念作品の収集 調査、選定 → 基金を活用し、設定金額の範囲内で収集											
	(1) 作品の保管、管理 展示室を始めとする館内外の環境の維持、改修											
2 保存	(2) 作品の修理、修復 通常の作品修復											
	(3) 情報の保存とアーカイブの構築 修復に複数年を要する作品の計画的な修復											
	R3(2021) アーカイブ分公開 所蔵作品、書籍等の美術関係資料のデジタル化・データの更新											
3 展示	兵馬俑と古代中国 ～秦漢文明の遺産～ ↑ 絶景を描く ～江戸時代の風景表現～ ↑ 鴻池朋子展(仮) ↑ 近代の誘惑 ～日本画の実践～											
	(1) 企画展 コレクションを核とした展覧会、学芸員の自主企画による展覧会を実施 40周年記念企画展の準備											
	(2) 収蔵品展 各ジャンルの作品をバランスよく展示 コレクションの新たな価値や楽しみ方への発見に結びつくプログラムの実施											
(3) 移動美術展 県内美術館、公共施設で開催(年間1～2回)												
40周年記念 企画展 収蔵品展												

年度別計画

項目	R4(2022)		R5(2023)		R6(2024)		R7(2025)		R8(2026)			
	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四
4 教育普及	<p>(1) 館内での取り組み</p> <p>【一般向け】講演会、美術講座、ポランティアによるギャラリートーク、ロダン館デッサン会、実技講座、ねんど・えのぐ開放日 などの実施</p> <p>【学校向け】ねんど・えのぐ教室、ロダン館デッサン、ポランティアスタッフとの鑑賞学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れ などの実施</p>											
	<p>(2) 館外での取り組み</p> <p>【一般向け】移動美術展での関連イベントの実施、出張講座 などの実施</p> <p>【学校向け】オリジナル教材キットの貸出、出張美術講座、図工・美術などの授業への協力 教員研修協力</p>											
5 調査研究	<p>(1) 調査研究</p> <p>展覧会、教育普及事業等を通じた学芸員の調査研究結果の発表</p>											
	<p>(2) 書庫・図書室</p> <p>図書、作品資料の収集 図書データのデジタル化及び公開</p>											
6 広報	<p>(1) 広報体制の充実</p> <p>外部専門家を活用した広報の展開</p>											
	<p>(2) 情報発信機能の強化</p> <p>SNS等で常に最新情報を発信、デジタルアーカイブを活用した情報発信</p>											
	<p>(3) 教育機関との連携</p> <p>県内すべての小中高への美術館情報の定期的な提供 県内大学との連携、学生への情報提供、学生による情報発信を検討</p>											
	<p>(4) 観光業界、アーツカウンシルしずおか等との連携</p> <p>観光デジタルプラットフォームを活用した情報の提供 県下の多様な文化芸術活動、美術館周辺地域の団体等との連携</p>											

年度別計画

項目	R4(2022)		R5(2023)		R6(2024)		R7(2025)		R8(2026)			
	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4
7 環境・施設整備	(1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備											
	<p>中期維持保全計画(R3~R7)に基づく施設の改修</p> <p>次期中期維持保全計画策定のための劣化診断</p> <p>次期中期維持保全計画策定</p> <p>施設の修繕、美術館園地の整備</p>											
	<p>館内の通信状況の改善</p> <p>キャッシュレス決済の導入</p> <p>来館者の意見等に対する対応</p> <p>来館者の満足度向上のための取り組み</p>											
8 運営	(3) 駐車場、収蔵庫の整備											
	<p>収入確保の取組(外部資金の確保、法人メンバーシップ)</p> <p>駐車場、収蔵庫整備の検討</p> <p>事業の効率化及び経費削減の取組</p> <p>事業実施(企業等への学芸員の派遣)</p>											
	<p>県立中央図書館移転(予定)</p> <p>実施内容の検討</p>											

ようこそ!文化が花開くふじのくに芸術回廊へ!

Welcome to the "Open Garden Theatre" of Culture and Art!

東アジア文化都市 2023 静岡県ガイド

おいでの
世界があるよ



東アジア
文化都市
2023 静岡県

Culture City of East Asia
2023 SHIZUOKA



©猪熊康夫



©MIURA Koichi

宮城嶋遥加
(SPAC俳優)

東アジア文化都市って？



永岡文部科学大臣(右)から選定証書を授与される川勝静岡県知事(左)

「東アジア文化都市」は「欧州文化首都」をモデルに、2014年に日本・中国・韓国の3カ国により開始されました。日中韓文化大臣会合での合意に基づき、文化芸術による発展を目指す都市を毎年原則1都市選定し、文化交流、文化芸術イベント等を実施する国家的プロジェクトです。これにより、アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指します。

また、東アジア文化都市に選定された都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として継続的に発展することも目的としています。

「東アジア文化都市」が10年目の節目を迎える2023年には、中国四川省の省都・成都市、中国広東省の梅州市、韓国の全州市の3都市とともに、静岡県が選定されました。

本県が選定されたのは、富士山の世界文化遺産登録10周年や国際オペラコンクールの実施など、2023年が世界に文化を発信するタイミングにあたり、また、この10年で134件の世界クラスの地域資源や人材を積み上げてきたことが認められたものと考えています。

Concept	東アジア文化都市の目的
---------	-------------

“ふじのくに”づくり

静岡県の有する世界クラスの資源群などを生かし、独自の多彩な文化の魅力を国内外に発信し、文化のブランド力で「憧れ」を呼ぶ文化首都“ふじのくに”づくりを進めます。

創造的な地域社会づくり

文化都市を契機に、県民が自らの地域の文化を再発見し、文化首都としての誇りを抱くとともに、自らが表現者として様々な形で文化活動に親しむことにより、創造的な地域社会づくりを推進します。

多彩な価値観を認め合う

1年を通じて、集中的に文化による交流や発信を行うことにより、国内・東アジア域内の相互理解と連帯感の形成を促進し、多様な価値観を認め合う環境を育みます。

アフターコロナ時代に向けて

来たるべきアフターコロナ時代に向け、静岡県の文化活動を再び活性化し、観光価値の向上やインバウンドの拡大、国際競争力の強化を図ります。

Welcome to the “Open Garden Theatre” of Culture and Art !

「ようこそ!文化が花開くふじのくに芸術回廊へ!」

静岡県を持つ豊かな文化的魅力とは、東西南北に広がる美しい自然環境の下で、古来よりそれぞれの地域が多彩な文化の特色を持っていること。静岡県を訪れると、まるで回廊を巡るかのようになり、次々に新たな感動や刺激に出会えることから、静岡県の文化振興基本計画の基本目標を「ふじのくに芸術回廊」の実現としています。

東アジア文化都市の期間中には、県内各地を自然豊かな「庭園」(Garden)のような「劇場」(Theatre)と見立て、美術、スポーツ、食文化、産業文化など、様々な文化イベントを集中して実施し、県民や訪れる人々に回廊のように県内を巡っていただきます。

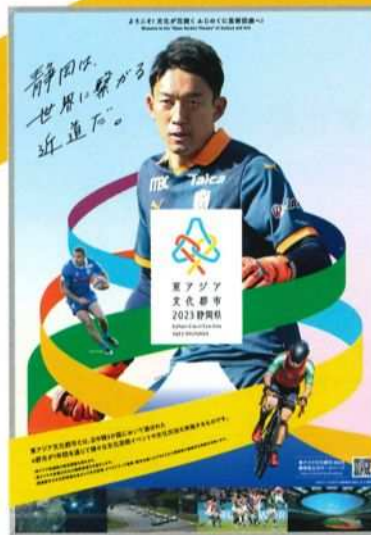
2023年は日本の文化の代表都市として、静岡から日本文化の魅力を実証する役割を積極的に担い、開かれた芸術回廊(Open Garden Theatre)として、「文化首都」の使命を実現してまいります。

3連オフィシャルポスター



おいで。世界があるよ。

静岡県には世界クラスの文化資源と人材を生み出す力があります。静岡県を訪れると、世界トップレベルの劇団SPACをはじめ、数々の「最高峰」に触れることができることをイメージして制作しました。



静岡は世界に繋がる近道だ。

静岡県は、スポーツ王国でもあり、文化・産業分野でも海外へ繋がっています。そんなスタートアップになっていることを日本代表の権田選手でイメージしました。



地元より世界で有名なSHIZUOKA

富士山やお茶など世界的にも評価が高い文化資源がある静岡県。県民の皆様への再認識を促し、東アジア文化都市事業への参画を目指します。

東アジア文化都市 2023 選定都市の紹介

東アジア文化都市とは、
日本・中国・韓国の3カ国において選ばれた都市が、
一年間を通じてさまざまな文化芸術イベントや文化交流を実施する事業です。
EU加盟国による「欧州文化首都」をモデルに、東アジアの相互理解や連帯感の形成や、
多様な文化の国際発信を目的として、2014年にスタートしました。

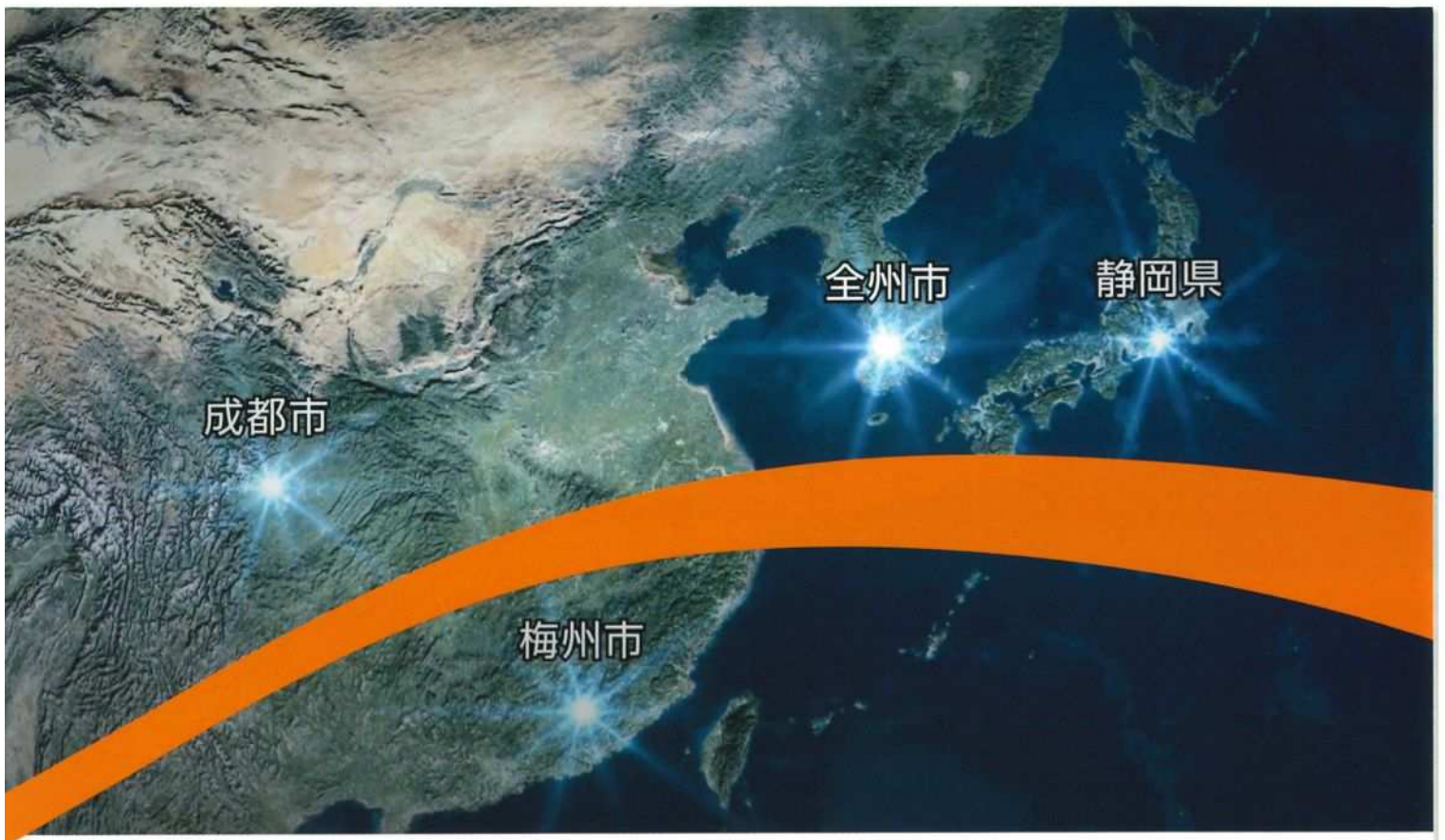
10年の節目となる今年は
静岡県、成都市、梅州市、全州市が選定されています。



SPAC俳優：宮城嶋遥加

東アジア文化都市のこれまでの開催都市

開催年	日本	中国	韓国
2014年	横浜市	泉州市	光州広域市
2015年	新潟市	青島市	清州市
2016年	奈良市	寧波市	済州特別自治道
2017年	京都市	長沙市	大邱広域市
2018年	金沢市	哈爾浜市	釜山広域市
2019年	東京都豊島区	西安市	仁川広域市
2020年	北九州市	揚州市	順天市
2021年	北九州市	紹興市・敦煌市	順天市
2022年	大分県	温州市・済南市	慶州市
2023年	静岡県	成都市・梅州市	全州市



中国・成都市

人口：2,119万人

面積：14,380平方キロメートル

四川省の中央部に位置する大都市で、「天府の国」の異名を持つ豊かな平原の中にあります。三国志の舞台としても有名で、三国時代にまつわる遺跡などの歴史スポットがあり、3,000年もの間、都市の名前が変わっていないことが、その歴史の深さを物語っています。



中国・梅州市

人口：544万人

面積：15,860平方キロメートル

広東省東端の山間部にある都市で、製鉄、科学、食品、紡績、酒造などの産業が盛んです。かつては海外に進出する華僑を多く輩出していました。客家(ハッカ)語を使用する人が多く、他にも特色のある家屋など、独特な文化が伝わっています。



韓国・全州市

人口：65万人

面積：206平方キロメートル

首都ソウルの南、約200kmに位置する全羅北道の中部にある都市。後百済の王都であり、朝鮮王朝の発祥の地であった歴史の面影を残し、観光スポットが豊富なため多くの観光客が訪れます。「食の都」としても知られ、特産品は「全州八味」と称されています。



「文化の首都 静岡県」スタート

1月
4都市同時開幕

2月15日～3月31日
SPAC演劇アカデミー
3期生募集

2月23日
東アジア文化都市宣言・
富士山の日フェスタ
会場／プラサヴェルデ(沼津市)

2月23日～3月19日
UNMANNED
無人駅の芸術祭／大井川
会場／大井川鉄道無人駅とその集落、
川越街道、JR島田駅周辺
(島田市・川根本町)

3月5日
～東アジア文化都市2023「全州へようこそ!」～
セミナー・工芸体験会
会場／グランシップ9階(静岡市駿河区)

3月12日
伊豆文学フェスティバル
会場／修善寺生いきプラザ(伊豆市)

3月12日
おもしろい人に会いたい!!2023
-しずおかアートプロジェクト見本市-
会場／グランシップ 大ホール・海
(静岡市駿河区)

3月18日・19日
第24回すぱっくこども大会
会場／静岡芸術劇場(静岡市駿河区)

3月25日～26日
浜松吹奏楽大会2023
【第11回全国中学生交流コンサート/
第35回全日本高等学校選抜吹奏楽大会】
会場／アクトシティ浜松
中ホール、大ホール(浜松市中区)

3月25日
グランシップ文化講座
新型コロナウイルスとは何か
会場／グランシップ11階会議ホール・風
(静岡市駿河区)

3月26日
SPAC演劇アカデミー2期生
成果発表会・修了式
会場／静岡芸術劇場(静岡市駿河区)

3月27日
第9回 あいのうた短歌コンテスト
表彰式・トークセッション
会場／札の辻クロスホール(静岡市葵区)

3月30日～4月2日
ヤマハレディースオープン葛城
会場／葛城ゴルフ倶楽部 山名コース
(袋井市)

3月31日～4月2日
第67回静岡まつり
会場／駿府城公園、
静岡市市街地 ほか
(静岡市葵区)

4月2日
静岡県オペラ協会公演
オペリアと
「コジファントウツテ」
会場／静岡音楽館AOI
(静岡市葵区)

4月5日～10日
第28回駿府各流大茶会
会場／静岡伊勢丹8階 大催事場
(静岡市葵区)

4月22日～24日
静波パラサーフィンフェスタ
会場／静波サーフスタジアム
(牧之原市)

4月29日～5月7日
ふじのくにごせかい演劇祭
会場／静岡芸術劇場、
舞台芸術公園 ほか
(静岡市駿河区)

5月2日
東アジア文化都市2023
静岡県春の式典
会場／グランシップ
(静岡市駿河区)



今年、富士山の世界遺産登録が10周年を迎える年でもあります。
 期間中、県内各地を自然豊かな「庭園(Garden)」のような「劇場(Theatre)」に見立て、
 ふじのくにごせかい演劇祭や静岡国際オペラコンクールといったイベントが行われる他、
 スポーツ、食、ファッション、芸能、温泉、花・庭、モビリティ、多文化共生など、期間中500本以上のイベントにより、
 幅広い分野にわたる日本文化の魅力を世界に発信していきます。
 また、中国、韓国との文化交流を深め、
 相手を理解することで、東アジアの平和の構築にもつなげます。

5月3日・4日

グランシップ

東アジア文化交流フェア

会場/グランシップ
 (静岡市駿河区)

5月3日～5日

浜松まつり

(凧揚げ/御殿屋台)

会場/中田島凧揚げ会場
 (遠州灘海浜公園白羽球技場)、
 市内中心会場(JR浜松駅周辺)

5月3日～6日、
 5月27日・28日

ふじのくに野外芸術フェスタ
 SPAC『天守物語』

会場/駿府城公園(静岡市葵区)、
 浜松城公園(浜松市中区)

5月4日～6日

ストリートシアターフェス
 ストレンジシード静岡

会場/駿府城公園、
 静岡市役所・葵区役所など
 (静岡市葵区)

5月13日・14日

静岡ホビーショー

会場/ツインメッセ静岡
 (静岡市駿河区)

5月24日

静岡県・韓国忠清南道
 友好協定締結10周年記念公演

会場/グランシップ
 (静岡市駿河区)



6月7日～11日

シズオカ(KAGU)メッセ2023

会場/ツインメッセ静岡
 (静岡市駿河区)

6月22日

富士山世界遺産登録
 10周年記念式典

会場/東京国際フォーラム
 (東京都千代田区)



10月29日～

静岡国際オペラコンクール

会場/アクトシティ浜松
 (浜松市中区)

12月
 閉幕



9月～11月

中韓との交流を含む
 文化芸術イベントを
 集中的に実施

11月

秋の式典

7月1日～3日

富士山世界遺産10周年記念
 国際シンポジウム

会場/富士市文化会館
 (富士市)



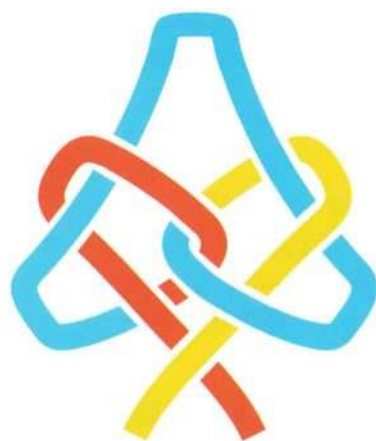
SPAC俳優:
 宮城嶋運加

ここに掲載の他、年間を通じて
 500本以上のイベントを展開します。

今後行われる各イベントについては、
 順次掲載・更新を予定しています。

詳細は
 HPまで





東 ア ジ ア
文 化 都 市
2023 静 岡 県

Culture City of East Asia

2023 SHIZUOKA

本事業のロゴマークは、静岡文化芸術大学デザイン学部の学生たちの手によって作られています。

このロゴマークは、日本の飾り結びのうち、結びつきの象徴として縁起が良いとされる「あげまき結び」の、結ぶ前の形状をモチーフとしています。

3国で交流するため3色を使い、特に青色で富士山の形を、赤と黄色でハートの形を連想させており、また、完全に結ぶ直前の形にすることで、文化振興や東アジアの交流が、今後発展し確実に実を結んでいく意味を込めています。

制作：静岡文化芸術大学デザイン学部 入江七海さん

Interview インタビュー

東アジア文化都市2023静岡県の広報アンバサダーに
SPAC-静岡県舞台芸術センターが就任。
総合芸術プロデューサーでもある
SPACの宮城聡芸術総監督にお話をうかがいました。

世界に誇る富士山がある静岡県から 日本をリブランディングしていく

— 静岡県が東アジア文化都市に選定されましたが、そのことについてどう思われますか？

争いが多い中、文化交流を行い、相手の文化をリスペクトすることで、共通のアイデンティティを形成し、交流の大切さを実感しようというのがこの取り組み。日本では東アジア文化都市という言葉自体がまだあまり知られていないのですが、実は中国や韓国では多くの都市が立候補するほど広く認知されています。静岡には世界文化遺産である富士山があり、富士山静岡空港には中国・韓国から多くの方が訪れます。また、静岡国際オペラコンクールや、地方都市を拠点とする日本で唯一の公立の劇団SPACもある。日本一高い山・富士山と日本一深い湾・駿河湾があることで、農産物、海産物も豊富で産業も盛ん。景観も見事です。東アジアでの交流を考える中でも分かりやすくてよい場所ではないでしょうか。

ちなみに私自身の演劇観を形成するうえで、中国・韓国からは大きな影響を受けており、両国は重要なファクターであります。演劇人同士、互いの国を行き来することがあるのですが、彼らが日本に来ると必ず富士山を見たいと言いますね。歴史的には軋轢(あつれき)もありますが、富士山は地球の傑作であり虚心に美しいと思ってきているんです。美は共有し合える。日本は日本をリブランディングしていく必要があると感じています。

— 文化交流をどう始めていきますか？

日本・中国・韓国は歴史的に争いも多く、時には互いの文化を排除しようという動きもありました。でも、私たちの生活の中から中華料理やキムチを排除することはできないでしょうか？これも食文化という文化交流の一つなのです。そういう分かりやすいものから目を向けてもらえればと思います。



東アジア文化都市2023静岡県 総合芸術プロデューサー
SPAC-静岡県舞台芸術センター 芸術総監督

宮城 聡 Satoshi Miyagi



— 最後に皆さんに向けて、メッセージをお願いします
文化というと、古典芸能のイメージもあり、もちろんそれらも世界に広く知られています。しかし、人間が美しいと思うものが芸術です。日本独特の環境の中で育まれた芸術・文化の中には、観光ガイドに載っていないような小さなものもあります。静岡県は東京オリンピック・パラリンピックに際し、オリンピック憲章に定められた「文化の祭典」として、「静岡県文化プログラム」というものを開催。「地域とアートが共鳴する」をテーマに、音楽や美術、演劇、伝統芸能、産業、ものづくり、福祉、まちづくり、食など様々な分野と連携した多彩なプログラムを行ってきました。中には極めてローカルなものもありましたが、地域と一体になった文化イベントならではの面白さが詰まっていたと思います。今回の東アジア文化都市でも、一年を通じて世界トップレベルからローカルなものまで、様々なプログラムを実施していきますが、そこにはまだ見たことがない日本があるはず。ぜひ東アジア文化都市をお楽しみいただければ幸いです。



宮城聡演出「アンティゴネ」 ©Christophe Raynaud de Lage

PROFILE | 宮城 聡

1959年東京生まれ。演出家。東京大学で演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督に就任。17年『アンティゴネ』をアヴィニオン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演。世界で大きな反響を呼んだ。

SPAC-静岡県舞台芸術センター

静岡県が設立した公立劇団として、1997年より活動を開始。静岡芸術劇場と静岡県舞台芸術公園を拠点に、国内外で舞台作品の創造・上演をするほかにも、教育機関として公立劇場のあり方を重視し、乳幼児からシニアまで全世代に向けて事業を広げている。



プログラムCALENDAR

期間中、県内各地で文化交流、文化芸術イベント等が行われます。
プログラムは随時追加されているので、
詳しくは「東アジア文化都市2023静岡県」のホームページでご確認ください。



演劇・ダンス [静岡市]

ふじのくに ⇄ せかい演劇祭

日時: 2023年4月29日(土祝)～5月7日(日)
会場: 静岡芸術劇場、舞台芸術公園 ほかに
料金: 有料
問合せ: SPACチケットセンター
TEL.054-202-3399

“ふじのくに(静岡県)と世界は演劇を通じてダイレクトに繋がっている”というコンセプトのもと、国内外の最先端の舞台芸術を静岡で広く体験できる演劇の祭典。今年是中国・韓国の話作やフランスからはオリヴィエ・ピエの注目作が来日を果たす。



展示会・イベント [静岡市]

グランシップ 東アジア文化交流フェア

日時: 2023年5月3日(水祝)・5月4日(木祝)
会場: グランシップ
料金: 無料
問合せ: グランシップチケットセンター
TEL.054-289-9000

見て、知って、味わって
五感で楽しむ文化交流。
ステージイベント、東アジアグルメコーナー、中国・韓国文化体験のできるワークショップなど、子供から大人まで、気軽に文化交流を楽しめるイベント。



お祭り [浜松市]

浜松まつり(凧揚げ・御殿屋台)

日時: 2023年5月3日(水祝)～5月5日(金祝)
会場: 中田島凧揚げ会場(遠州海浜公園白羽球技場)
市内中心会場(JR浜松駅周辺)
料金: 無料
問合せ: 浜松まつり組織委員会事務局
(公財)浜松・浜名湖ツーリズムビューロー
TEL.053-458-0011

初子の誕生を祝う「浜松まつり」。子どもたちの健やかな成長を願って、地域みんなで祝い合うイベント。昼間は中田島の凧揚げ会場を舞台に子どもの誕生を祝う初凧が天高く揚げられ、庄巻の風景が広がる。

写真提供: 浜松・浜名湖ツーリズムビューロー



演劇・ダンス [静岡市・浜松市]

「東アジア文化都市2023静岡県」春の式典上演作品 ふじのくに野外芸術フェスタ 『天守物語』

【静岡公演】
日時: 2023年5月3日(水祝)～5月6日(土)
会場: 駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場

【浜松公演】
日時: 2023年5月27日(土)～5月28日(日)
会場: 浜松城公園 中央芝生広場 特設会場
問合せ: SPACチケットセンター TEL.054-202-3399

宮城聰演出の『天守物語』は、1996年春に利賀村の野外劇場での初演以来、国内外30都市で上演され、各地で大きな反響を呼んだ代表作のひとつ。アジアの多様な演劇の伝統を現代の新しい創作につなぐ趣向が随所にちりばめられている。

©MIURA Koichi



[Woman_with_Flower]

演劇・ダンス [静岡市]

ストリートシアターフェス ストレンジシード静岡

日時:2023年5月4日(木祝)~5月6日(土)
会場:駿府城公園、静岡市葵区役所など静岡市内
料金:無料(一部有料の場合あり)
問合せ:SPACチケットセンター
TEL.054-202-3399

公園の芝生で新緑を背景にした演劇や、街角にダンサーが現れ人々が行き交うなかはじまるパフォーマンス。突然降り出した雨や風、観客までも取り込んで演出にってしまう“ストリートシアター”のフェスティバル。



展示会・イベント [静岡市]

第61回 静岡ホビーショー

日時:2023年5月13日(土)~5月14日(日)
会場:ツインメッセ静岡
(静岡市駿河区)
料金:無料



問合せ:静岡模型教材協働組合
TEL.054-287-5931

日本の模型メーカーが一堂に会し今年のトレンドとなる新製品を発表・展示を行う日本最大級の模型展示会。隣の静岡市南部体育館では実車メーカー各社による「RCカーフェスティバルinホビーのまち静岡」が開催される。



演劇・ダンス [静岡市]

静岡県・韓国忠清南道 友好協定締結10周年 記念公演

日時:2023年5月24日(水)
会場:グランシップ 中ホール
料金:無料
問合せ:静岡県地域外交課
TEL.054-221-3066

静岡県と韓国忠清南道との友好協定締結10周年を記念した舞台公演を開催します。忠清南道舒川郡立伝統舞踊団による伝統音楽サムルノリと華やかな踊りほか。



講座・講演・シンポジウム [富士市]

富士山世界遺産登録10周年記念 国際シンポジウム 世界の聖なる山と富士山

日時:2023年7月1日(土)~7月3日(月)
会場:富士市文化会館 ロゼシアター 小ホール
料金:無料
問合せ:静岡県富士山世界遺産センター
TEL.0544-21-3776

本シンポジウムは、富士山が世界遺産登録10周年を迎えることを契機に、今後の富士山の保安全管理や世界遺産としての富士山の顕著な普遍的価値についての重要性について周知を図ることを目的として開催。

東アジア文化都市2023静岡県公式ホームページ

プログラムは随時追加されております。
詳しくは「東アジア文化都市2023静岡県」のホームページでご確認ください。



「東アジア文化都市 2023 静岡県」宣言

静岡県は、霊峰富士を象徴として東西南北に広がる美しい自然環境に恵まれ、古来よりそれぞれの地域が歴史を重ね、多彩な特色ある文化を育んでまいりました。本県を訪れると、まるで回廊を巡るかのように次々と新たな感動や刺激に出会うことができます。

2023年、静岡県は文化の日本代表として、静岡及び日本の文化の魅力を東アジアや世界に発信する国内唯一の「東アジア文化都市」の大役を担うこととなりました。

私たちは、類い稀な豊かな文化資源を最大限に活かし、日本の文化首都としての責務を県民総がかりで実現することをここに誓い、東アジアの平和を希求し世界に輝ける「東アジア文化都市 2023 静岡県」を創造することを宣言します。

2023年2月23日

静岡県

東アジア文化都市 2023 静岡県

期間：2023年1月～12月

会場：グランシップ、静岡県立美術館ほか県内各所・施設

都市：【日本】静岡県 【中国】成都市、梅州市 【韓国】全州市

主催：東アジア文化都市2023静岡県実行委員会、文化庁、静岡県

公式ホームページ： <https://culturecity-shizuoka.jp>



お問い合わせ

東アジア文化都市 2023 静岡県実行委員会事務局
(静岡県文化政策課内)

TEL.054-221-3271(代表) 受付時間/9時～17時(平日)





ふじのくに
文化教育
プログラム

静岡県の教員の皆様へ

皆様、学校生活の中で児童や生徒に文化芸術の魅力や楽しさを伝えられていますか？

校内の授業で音楽や美術の知識や技巧を教えることは大切ですが、やはり芸術のプロの生きた技やエネルギーに触れ、体感することから得る刺激は格別です。将来プロを目指したり、ファンとして鑑賞を楽しむ人となるきっかけは、本物のプロの技を実際に見た経験が大きな割合を占めるのではないのでしょうか。

最近の子どもたちは、芸術をデジタルで疑似体験できる時代に生きていますが、本当の文化芸術の価値を理解できる感性豊かな人の育成には、五感を使って本物に感動する体験を子どもの頃から提供して、刺激することが欠かせないものと思います。

県の文化機関である県立劇団SPAC、グランシップ、県立美術館、ふじのくに地球環境史ミュージアム、富士山世界遺産センター、埋蔵文化財センターでは、学校の学習プログラムや、休日でも子どもたちが学べる多くのイベントを用意し、本物の経験ができる機会を提供しています。一部の機関では教員から派遣された職員が、学校の支援や活用の営業マンとして活動しています。しかし実際は、特定の先生だけが活用していたり、訪れる学校が毎年決まっていたり、学校教育界全体への普及は不十分だったと反省しています。

そこで、県文化局では、下記のとおり第5期静岡県文化振興基本計画において、県の文化機関が行う学校向け文化体感プログラムを一体化し、「文化教育プログラム」としてまとめ、冊子化（ホームページにも掲載）して、学校現場の皆様にお届けすることといたしました。本書の内容は、各機関が学校向けにお勧めしている内容を簡潔に掲載し、学習への活かし方も紹介しています。

教員の皆様が、本書を有効に活用し、本物の持つ生の文化芸術に触れる感動を貴校の児童、生徒に伝える学習を多くの選択肢の中から選んで頂き、授業や生徒への紹介に活用頂ければ幸いです。

令和5年3月 静岡県理事 渋谷 浩史

「第5期静岡県文化振興基本計画（令和4年3月策定）」抜粋

「ふじのくに文化教育プログラム」の展開

将来の本県を担う子どもたちが、様々な文化芸術に触れることで、豊かな感性や創造性を養うため、第4期計画では「子どもが文化と出会う機会の充実」を重点施策として子ども向け事業を充実させました。結果、県事業だけでも年間約9万人（令和元年度）の子どもに対して実施してきましたが、個別事業ごとに募集、実施することが多く、学校現場への周知が十分に図れず、実施校が偏るなど、まだ活用の余地が十分あります。

本計画では、基本目標で「子どもたちを感性豊かに育み」と掲げ、引き続き、子どもたちの育成に力を入れていきます。

そこで、子ども向け事業の全てを1つのプログラムとして体系付け、学校に「ふじのくに文化教育プログラム」として届けます。教員に対して学校カリキュラムの多様な選択肢を示し、また、個人参加事業の児童・生徒の参加勧奨につなげることで、効率的に参加者を増やし、次代の本県の文化芸術を担う人材の育成を学校現場との連携を密にして推進します。

目次

あいさつ	P.01
県有文化施設MAP	P.03
PROGRAM 01	P.04
SPAC-静岡県舞台芸術センター	
PROGRAM 02	P.10
ふじのくに地球環境史ミュージアム	
PROGRAM 03	P.16
静岡県立美術館	
PROGRAM 04	P.22
静岡県富士山世界遺産センター	
PROGRAM 05	P.27
静岡県埋蔵文化財センター	
PROGRAM 06	P.29
静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	
PROGRAM 07	P.40
子どもが文化と出会う機会創出事業／音楽 地域訪問プログラム	
PROGRAM 08	P.41
静岡国際オペラコンクール 「中学生・高校生オペラ鑑賞教室事業」	
PROGRAM 09	P.42
ふじのくに子ども芸術大学	
PROGRAM 10	P.43
ふじのくに芸術祭 静岡県障害者芸術祭	
施設別一覧	P.44

東静岡周辺地区に集積する「学術・文化・芸術・スポーツ」関連施設



東静岡駅周辺地区から、
日本平周辺地区、さらには三保地区へと繋がる「場の力」

東静岡駅周辺地区

- 日本平周辺地区、さらには三保地区へと繋がる玄関口
- 県を代表する「文化とスポーツの殿堂」にふさわしい
たぐいまれを持った拠点地区

日本平周辺地区

- 世界遺産「富士山」をはじめ、周囲360度を眺望できる
名勝日本平
- 有度山山麓に集積する学術・文化・芸術・スポーツ関連
施設

三保地区

- 富士山世界文化遺産構成資産としての三保松原の顕著
な普遍的価値
- 富士山の雄大な姿の全容を一望。富士山、松原、砂浜が
織り成す風致景観

ご案内

公益財団法人静岡県舞台芸術センター(Shizuoka Performing Arts Center : SPAC)は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。

2007年より宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。



アクセス情報

SPAC-静岡県舞台芸術センター

静岡芸術劇場

- 〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2丁目3-1(グランシップ内)
- TEL:054-203-5730 FAX:054-203-5732

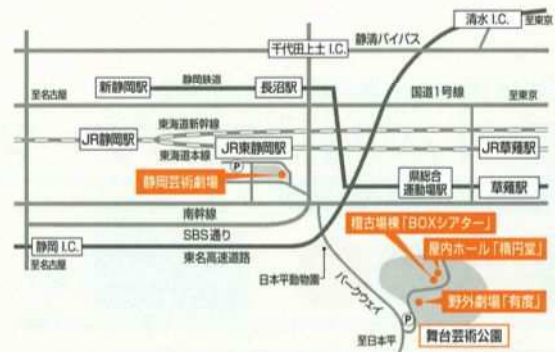
舞台芸術公園

- 〒422-8003 静岡市駿河区平沢100-1
- TEL:054-208-4008 FAX:054-208-4014

- E-mail: mail@spac.or.jp
- https://spac.or.jp

Twitter @_SPAC_ Facebook SPACShizuoka

Instagram @spac_shizuoka



本誌掲載の事業以外にも、SPACでは人材育成・アウトリーチ活動を多数行っています。詳細は、SPAC公式HPを御覧ください。

公式HP▶



メッセージ

SPAC芸術総監督 宮城聡から 中高生の皆さんへ

みなさんは、いま自分がどういう時代に生きていて感じていますか？
そう、地域社会が崩壊し、価値観が流動化し、自殺者は増え続け、そして若者は「ひとり遊び」ばかりしていて孤独のなかに閉じこめられている、そういう「精神的危機」の時代に生きている…と感じる人が多いかもしれません。

でも演劇をやっている僕から見ると、すこし違って感じます。なぜなら、演劇は何百年間も、孤独にさいなまれる精神や、なにが正しいのかの基準をなくして迷子になっている精神をえがいてきたからです。

つまりどうやら、世界が人間にとって生き易かったことなど一度もなかったらしいのです。でもそのなかでがむしゃらにあがく人間が、演劇には登場します。がむしゃらにあがく彼らは、しばしば悲しい結末を迎えるし、人間とかこの世というものについてはっきりした解答を出してくれません。ですが、それでも演劇を見るとなんだか励まされる気がします。どうしてでしょう？

きっとそれは彼らが「わからない」ことに耐える力を、すこし観客に手渡してくれるからだ、僕は思っています。「わからない」ことに耐える力。それは「孤独と向き合う力」でもあります。

人間はいまも昔も孤独です。だから少しでも人とつながるように、一生懸命ことばとからだを研ぎすましてきました。それが演劇です。



宮城 聡 (みやぎさとし)

- 演出家
- SPAC静岡県舞台芸術センター 芸術総監督

中高生舞台芸術鑑賞事業 スペースシップ (SPACeSHIPげきとも!)

- 参加者募集時期 / 例年、前年11月頃
- お問い合わせ / TEL : 054-203-5735 (SPAC事務局)

学校等団体向け

10月~3月頃

中学生

高校生

特別
支援

鑑賞型

参加
無料

「劇場は世界を見る窓である」

SPAC-静岡県舞台芸術センターでは、この理念のもと、劇場を広義の教育の場と捉え、静岡県内の中高生を対象とした鑑賞事業を続けています。

世界に通用する上質の演劇作品を、ここ静岡でご覧いただける画期的な事業として、県内の学校関係者はもとより、広く全国からの注目を集めています。

- 中高生と引率者の鑑賞料金は無料
- 学校から劇場までのバスのチャーター料金の補助あり
(中学校は全額補助、高校は借上額の1/2かつ1台あたり4万円が上限)

演技の表情が一つ一つきれいで、繊細に表現されていて、まばたきすることさえ忘れるくらい迫力がありました。
(2019年「パール・ギュントたち〜わくばらの夢〜」/高校1年生)



前説の様子

何よりも舞台を生で見ると役者さんの思いやエネルギーをひしひしと感
じることが出来る。
(2020年「病は気から」/中学1年生)

子どもが文化と出会う機会創出事業

ひらけ! パフォーミングアーツのとびら

- 実施校募集時期 / 例年2月頃
- お問い合わせ / TEL : 054-203-5730
E-mail : recafe@spac.or.jp

学校等団体向け

6月~翌年3月頃

小学生

中学生

高校生

特別
支援

鑑賞型

参加型

参加
無料

子どもたちの「チカラ」を刺激する体験を

SPACの俳優・スタッフが各学校を訪れ、演劇やダンスといったパフォーミングアーツ(舞台芸術)に触れていただく機会を提供します。

- 参加型 / 「学ぼう! えんげき教室」
舞台俳優が講師となり「伝えるチカラ」を育むワークショップを、授業の目的、環境、参加者の年齢にあわせて行います。「大きくはっきりした声で堂々と発言できるようになりたい」「表現力を豊かにするには?」「コミュニケーションをとることが苦手…」など児童・生徒が抱える課題に演劇を用いて向き合うプログラムです。

- 参加型 / 「育てよう! ダンスの種」
コンテンポラリーダンスの自由な発想と広い視野を用いて、各々の身体感覚や思考の違いに目を向け、言葉では表しがたい事柄を直感的に伝える力を育むワークショップです。
決められた振付を覚えて踊るだけではなく、子どもたちのなかに眠っている「身体表現の多様性」「想像/創造する力」に焦点を当てます。

- 鑑賞型 / 「味わおう! 出前劇場」
迫力満点!プロの俳優による本格的な演劇作品を、学校へお届けします。世界の名作から、その地域に伝わる民話や昔話など、対象学年にあわせた作品を出張上演。



身体表現のような活動は日常の学校生活には少なく、大きな刺激となった。最初はとまどいを見せたが、徐々に自己を解放していく様子が見られ自分のなかの壁を破った生徒が多かった。(中学校教員)

子どもたちにとってわかりやすく取り組みやすいものだった。からだを動かす楽しさをそれぞれが感じていた。自分で動きを考えたり、友達の気持ちを考えて動いたりしながら、自分の良さや友達の良さに気づき、充実した時間になりました。(小学校教員)

生徒は楽しんで見ている様子があり、演者さんに引き込まれている様子だった。(教員)

対話することの楽しさ、表現の仕方など、対話をすることで得られるものがたくさんあることを知ることができて良かった。(教員)

SPAC 1日演劇学校

- 参加者募集時期／例年1月～2月頃
- お問い合わせ／TEL：054-203-5730 E-mail：mail@spac.or.jp

学校等団体向け

2月頃

中学生 高校生

参加型

参加
無料

やってみて、かんがえて、舞台の奥深さに迫る1日!

県内の中学・高校演劇部員が、それぞれ他校の生徒と交流しながら、SPACの俳優と一緒に、“やってみて、かんがえて”をテーマに舞台の奥深さに迫る講座です。

●プログラム

- 一限目／劇場や稽古場の見学
- 二限目／演劇ワークショップ



基礎を1から見直すいい機会になりました。コロナ禍でなかなか観劇に行けないのでプロの俳優さんの身体表現が参考になりました。(高校生)

放課後えんげき教室

- 実施校募集時期／例年2月頃
- お問い合わせ／TEL：054-203-5730 E-mail：recafe@spac.or.jp

学校等団体向け

6月～翌年3月頃

小学生 特別
支援

鑑賞型

参加型

参加
無料

こどもたちが、舞台芸術に触れる

「放課後こども教室」や「放課後児童クラブ」において、子どもたちの活動の充実を図ることを目的に、SPACの俳優・スタッフが演劇の上演やワークショップを実施します。

楽器やリズム遊びが盛り沢山でユーモアがあり、不思議な世界にあっていう間に入り込んでしまいました。(児童クラブ指導員)



放課後えんげき教室 「音芝居」上演 @船越児童クラブ (撮影/中尾栄治)

YouTube教科書朗読

- 申し込み不要
- <http://www.youtube.com/@spacreading2765>

学校等団体・個人向け

通年

小学生 中学生 高校生 特別
支援

鑑賞型

参加
無料

噂のSPAC俳優が教科書朗読に挑戦!

～こいつら本気だ～

県内の小・中・高校で使用されている国語の教科書の掲載作品をSPAC俳優が朗読、その動画をYouTubeで無料配信しています。

授業の一環としての利用をはじめ、部活動の練習教材等としてご活用ください。

●作品例

- 宮沢賢治作／「永訣の朝」「注文の多い料理店」「やまなし」
- 芥川龍之介作／「蜘蛛の糸」「トロッコ」「羅生門」
- 夏目漱石作／「こころ」「夢十夜」／太宰治作：「走れメロス」



登場人物の揺れ動く内面が、朗読を通して繊細に表現されていて、聞き入ってしまった。(教員)

新しい単元の導入時に使用し、良い形で入れた。(教員)

SPAC演劇アカデミー

●参加者募集時期／例年2月頃
●お問い合わせ／TEL：054-203-5730 E-mail：academy@spac.or.jp

個人向け

通年

高校生

参加型

参加
無料

世界にはばたけ、Teenagers!

2021年度に開校した<世界で活躍できる演劇人>を目指す若者の感性を育むことを目的とした高校生対象の1年制の演劇塾です。劇場に通いながら、SPACの創作現場の“熱”をじかに感じられる環境の中で、少数精鋭の高校生たちが切磋琢磨する——そんな場をつくります。SPACの俳優・スタッフらによる指導のもとで演劇を学び、名作戯曲の上演に向けての稽古に取り組むと同時に、教養・英語・小論文の学習にも力を入れ、思考力・対話力を身につけていきます。

自分にとってアカデミーは宝石箱のようなもの。活動、講師からの言葉、アカデミーで過ごす1秒1秒が貴重なものだった。頭の中の扉がいくつも開いて、人生が変わった。(高校2年生/女子)

講師の言葉がヤスリみたいに、自分の「考える」という宝石を磨いてくれた気がする。経験を活かして、この先も自分が崩れてしまわないように生きていきたい。(高校1年生/男子)

知識や技術といった基礎能力はもちろん、1つの目標に皆で向かっていくことの尊さを学んだ。(高校2年生/女子)



実技の様子



集中講習での小論文の様子

異才・天才・奇才 SPACこども大会

●参加者募集時期／例年1月頃
●お問い合わせ／TEL：054-203-5730
E-mail：kodomotakai@spac.or.jp

個人向け

3月頃

小学生

特別
支援

参加型

参加
無料

おとなになんて、まねできない! オンリーワナパフォーマンス!

生き生きとした子どもたちの個性をはぐくみ、応援することを目的に、2001年からスタートしました。学校の授業の枠を超えてしまうような歌、ダンス、演奏など、子どもたちがさまざまな特技を静岡芸術劇場で披露します。大きな舞台上でマイクを使わず表現する子どもたちの姿に、大人も元気をもらいます。当日はリハーサル～本番まで、各出演者をSPACメンバーがサポート。毎年どんな出会いが生まれるかドキドキ・ワクワクです!

ぶたいに立つことは初めてでしたが、とてもワクワクして、楽しく演奏することができました。(参加者)

四年前に初めて出演させていただいてから、チューターだった方の舞台を何度も観に行かせていただき、それも貴重な体験になりました。私自身も舞台上に興味を持ちました。(保護者)



第23回すばっくこども大会(2022年3月) @静岡芸術劇場
(撮影/猪熊康夫)

SPACシアタースクール

●参加者募集時期／例年6月頃
●お問い合わせ／TEL：054-203-5730 E-mail：mail@spac.or.jp

個人向け

7月～8月頃

中学生

高校生

特別
支援

参加型

参加
無料

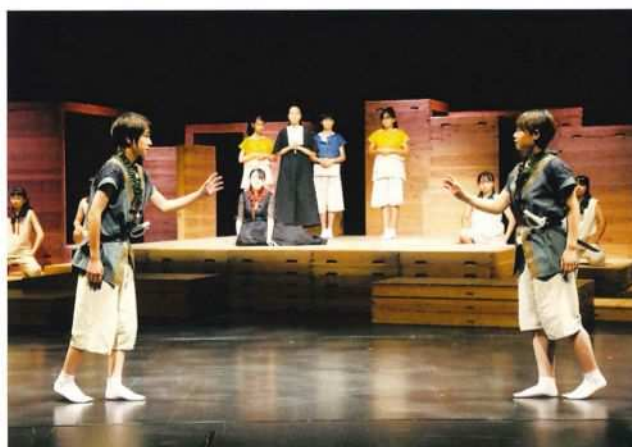
演劇の奥深さに触れる!

学校教育の中では触れることのできない演劇の面白さ、奥深さを県内の中高生とその保護者の方々に知ってもらうことを目的に、2007年にスタート。

参加者は、からだ・こえに関するプログラムに取り組み、演劇をつくるプロセスを体験していきます。

舞台に立つための身体づくりを行う中で、普段の日常生活では見えてこないさまざまな身体感覚を養い、最後にはひとつの舞台作品を「発表会」という形で広く公開します。

私は、自分に自信がありませんでした。ですが、シアタースクールで自分好きになることができたのです。絶対に新しい自分に出会えます。面白い友達も増えて、貴重な経験もできる!一石二鳥、いや、一石三鳥です!(2008年～2012年参加/女性)



シアタースクール2018発表会「十二夜」
(撮影/猪熊康夫)

中2～高2の夏を過ごしたシアタースクールでは、最初は「周りと違うことをしないように」とばかり考えていましたが、演劇を通して「個性があるから面白いんだ」ということを教わりました。(2008年～2011年参加/女性)

スパカンファン・プラス [SPAC-ENFANTS-PLUS]

●メンバー募集時期／未定(8月にオーディション実施可能性あり)
●お問い合わせ／TEL：054-203-5730
E-mail：mail@spac.or.jp

個人向け

7月下旬～8月頃

中学生

高校生

参加型

参加
無料

世界に通用するメッセージを持った ダンス・パフォーマンスに挑む!

SPAC-ENFANTS*(スパカンファン)は、オーディションで選ばれた静岡県の中高生とともに新しい舞台を創造する、SPACによる国際共同制作プロジェクトです。フランスを拠点に国際的な活動を展開する振付家・ダンサーのメルラン・ニヤカム氏を迎え、2010年にスタートしました。「世界中の子どもたちが未来への希望を取り戻すことができるダンス」をコンセプトに、芸術表現として世界に通用するメッセージを持ったダンス作品を目指します。

2019年からは55歳以上のメンバーも加わり、スパカンファン・プラスとして、世代をこえたダンスの可能性を探ります。

※ENFANTS=フランス語で「子どもたち」の意味



スパカンファン・プラス2022「Reborn-灰から芽吹く-」
(撮影/松本和幸)

中学に入ってから、まわりに合わせることを気にしてダンススタジオでのダンスを楽しめなくなってしまっていたけれど、ここでは自分自身でいられた。こういう場所があってよかったです。(2021～2022年参加/中学生)

大病をしてお休みしたけれど皆に励まされて復帰して舞台に立つことができ、ラッキーでハッピーでした。ニヤカムさんのダンスで健康を取り戻すことができました。(2019～2022年参加/over55)

すばっく おやこ小学校

個人向け

6月～7月頃

小学生

参加型

参加
無料

親子、ときどき同級生。親と子のための小学校

すばっくおやこ小学校は、親子が2人1組で参加するアートプロジェクトです。様々な専門家の方に講師となってもらい、手を動かしたり話し合ったり、親子間での共同作業や対話中心の授業を行います。親と子が「同級生」として同じ立場になって時間を過ごすことで、一緒に学び、互いに発見するための学校です。

●プログラム例（2022年／静岡会場）

- | | |
|---------|---|
| 1時間目／算数 | 親子で駄菓子屋さんを運営するとしたら？
協力し合って実際にやってみよう！ |
| 2時間目／国語 | ことばを話す体ってどんなもの？
いつもとちがう発声と体をもつてよう。 |
| 3時間目／社会 | ご家庭の新ルールを親が提案し、
子と討論を繰り広げる爆笑白熱バトル。 |
| 4時間目／図工 | 親子でお互いの未来が楽しみになる
贈り物を作りあおう！ |

学校での様子を見るコトができました。一緒に生徒なんておもしろかったです。一緒に考えて一緒に課題に取り組み、仲間（相談できる相手なんだなと気づきました）になれました。（30代・女性／静岡会場）

●募集時期／例年4月頃

●お問い合わせ／TEL：054-203-5730 E-mail：oyako@spac.or.jp



すばっくおやこ小学校 in 静岡@静岡芸術劇場
(撮影／山本陸)

初めて会った人たちと色んなことができてうれしかった。お母さんだから色々知っているけど、こんなに楽しそうにしている所を久しぶりに見ることができました。（小学4年生・女子／浜松会場）

SPAC インクルーシブシアター てあとるてをとる

学校等団体向け

6月～翌年3月頃

小学生

中学生

高校生

特別
支援

鑑賞型

参加
無料

てあとる(=シアター)で手を取りあい め、みみ、からだ、こころでふれる

赤ちゃんからお年寄り、障がいのあるなしに関わらず全ての人に「えんげき体験」をお届けするSPACの新しいプロジェクト。

2022年に創作・上演した『ちかくにあるとおく～鏡の国のアリスより～』は、心弾む仕掛けが満載の美術とともに、美しく優しい作品世界が五感に働きかけます。俳優の歌や心地よい演奏に導かれながら、観客自身が主人公となって「日常のなかに広がる不思議な空想世界」を旅する音楽劇です。特別支援学校での上演のほか、静岡芸術劇場ロビーにて一般公演（ベイベー向け／バリアフリー）も行っています。

親子ともにとっても楽しませていただきました。3歳の娘も何度も声をあげて笑っていました。（女性／20代）

●募集時期／例年2月頃

●お問い合わせ／TEL：054-203-5730 E-mail：recafe@spac.or.jp



SPAC インクルーシブシアター てあとるてをとる
『ちかくにあるとおく～鏡の国のアリスより～』
静岡芸術劇場ロビー公演@静岡芸術劇場
(撮影／平尾正志)

赤ちゃんが喜ぶ仕掛けがいっぱいで、まだ0歳の息子も興味津々で見入っていました。吸収力の高い乳児期に一流の演劇に触れられるのはとても素晴らしいです。（女性／30代）

ふじのくに地球環境史ミュージアム

PROGRAM 02

ご案内

ふじのくに地球環境史ミュージアムは、高校校舎をリノベーションした全国でも珍しい県立自然系博物館で、平成28年3月に開館しました。

地球環境史とは、人と自然の関係の歴史のことで、当館はこれまでの歴史を振り返り、そして、これからの豊かな未来の在り方を考える博物館です。

常設展示では、90万点を超える収蔵資料の中から厳選した約3,000点の動植物や化石などの標本を展示しており、本物を直に観察できる環境の中で、年代に応じた様々な学習ができます。



施設情報

施設概要	来館者ゾーン / 常設展示室11室・企画展示室2室
開館時間	午前10時～午後5時30分(最終入館は午後5時まで)
休館日	月曜日(月曜が祝日の場合は次の平日)・年末年始
観覧料	児童・生徒 / 無料 教育課程に基づく教育活動で観覧される場合、引率の先生も無料です(減免申請手続きが必要)
無料駐車場	自家用車 / 約200台 大型バス / 5台

アクセス情報

ふじのくに地球環境史ミュージアム

- 〒422-8017 静岡市駿河区大谷5762 (旧県立静岡南高等学校)
- TEL: 054-269-7111 FAX: 054-238-5870
- E-mail: info@fujimu100.jp
- https://www.fujimu100.jp

fujinokuni_NEM fujinokuninaturemuseum

fujimu100



- 自家用車で
お越しの
場合
- 東名高速道路 / 日本平久能山スマートICから5分
 - 東名高速道路 / 静岡ICから15分
 - JR静岡駅から20分
国道150号バイパスから「大谷放水路東」左(右)折し、消防署前交差点を右折してください。

公共
交通機関で
お越しの場合

- 静岡駅北口バスターミナル8B乗り場から「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行きで終点下車
(開館時間帯に1時間に1本程度)

ご利用ガイド

遠足や校外学習などでのミュージアムのご利用を検討されている場合は、それぞれの学校に合わせた幅広いお手伝いをしますので、お気軽にお問い合わせください。

より深い学習をするため、事前に職員と現場で打合せしながら、ミュージアムを視察することをおすすめします。



展示室3 / ふじのくにの海



展示室6 / ふじのくにの成り立ち

ポイント 1

博物館には、本物がいっぱい

博物館には、幅広いテーマの展示や本物の標本が多数あります。本物を見ることで自然の不思議さや偉大さに触れることができ、学習への動機づけが期待されます。また、展示ガイドやワークシートを利用することで、教科書の内容から一歩踏み込んだ学習ができます。

ポイント 3

雨天時や昼食場所に困りません

雨天時のみの利用予約も可能です。また最大で180名の方々がお弁当を食べることができる部屋をご用意しています。



視聴覚室

ポイント 2

観覧料は無料です

教育課程に基づく利用につきましては、観覧料が発生する場合、児童・生徒及び引率の先生ともに減免承認申請書をご提出していただければ、観覧料は無料になります。(※保護者の方は対象外です)

ポイント 4

全国初の対話型展示「地球家族会議」

地球家族会議とは、ミュージアムスタッフと来館者が一緒になってこれからの未来について考える会議で、所要時間は20分程度です。イメージとしては学級会に近く、ミュージアムスタッフの話を聞くだけでなく、来館者が自ら自分の考えを述べる機会でもあります。議題となるテーマは、「気候変動」「生物多様性」「水」「金属資源」「エネルギー」「食料」「人口」「自然災害」の8つの中から1つ選んで行われます。

どのテーマも2030年には深刻な状況となる可能性があり、その状況を想定しながら自分たちが心豊かに暮らす方法を考えていきます。

授業の場として、ミュージアムをご利用ください

以下の学習指導要領の内容に対応しています。

小学校 3 年生

理科

- 昆虫の成長と体のつくり (展示室4・ミドルヤード)
- 植物の成長と体のつくり (展示室7・ミドルヤード)

社会科

- 地域に見られる生産や販売の仕事 (展示室10)
- 地域の安全を守る働き (展示室2)



小学校 4 年生

理科

- 人の体のつくりと運動 (展示室8)
- 季節と植物 (展示室7・ミドルヤード)

社会科

- 自然災害から人々を守る活動 (展示室2)
- 県内の伝統や文化、先人の働き (展示室10)
- 県の特徴ある地域の様子 (展示室6)

小学校 6 年生

理科

- 人の体のつくりと働き (展示室8)
- 食べ物による生物の関係 (展示室4)
- 人と環境 (展示室10)
- 生物と環境 (展示室4・10)
- 土地のつくりと変化 (展示室2・9)

家庭科

- 快適な住まい方 (展示室10)
- 環境に配慮した生活 (展示室9・10)

小学校 5 年生

理科

- 植物の発芽、成長、結実 (自然観察路・ミドルヤード)
- 動物の誕生 (展示室8)

社会科

- 我が国の農業や水産業における食料生産 (展示室3・4)

家庭科

- 快適な住まい方 (展示室10)
- 環境に配慮した生活 (展示室9・10)



中学校 1 年生

理科

- 生物の観察と分類の仕方 (自磁碑路・ミドルヤード)
- 植物の体の共通点と相違点 (展示室7)
- 動物の体の共通点と相違点 (展示室8)

社会科

- 人類の誕生 (人類史ライブラリー)
- 世界各地の人々の生活と環境 (展示室10)
- 日本の地域的特色と地域区分 (展示室6)
- 古代までの日本 (展示室1・5)

技術・家庭科

- 生物育成の技術 (展示室10)
- エネルギー変換の技術 (展示室9・10)

中学校 2 年生

理科

- 植物の体のつくりと働き (展示室7・ミドルヤード)
- 動物の体のつくりと働き (展示室8)
- 生物の種類の多様さと進化 (展示室7)
- 自然の恵みと気象災害 (展示室2)

社会科

- 世界各地の人々の生活と環境 (展示室10)
- 日本の地域的特色と地域区分 (展示室6)
- 古代までの日本 (展示室1・5)

技術・家庭科

- 生物育成の技術 (展示室10)
- エネルギー変換の技術 (展示室9・10)

中学校 3 年生

理科

- 生物の種類の多様性と進化 (展示室7・8)
- 生物と環境 (展示室9・10)
- 自然環境の保全と科学技術の利用 (展示室9・10)
- 科学技術の発展 (展示室10)

社会科

- 世界各地の人々の生活と環境 (展示室10)
- 日本の地域的特色と地域区分 (展示室6)
- 古代までの日本 (展示室1・5)

技術・家庭科

- 生物育成の技術 (展示室10)
- エネルギー変換の技術 (展示室9・10)

ミュージアムではこんな学習ができます



展示室で
食物連鎖や静岡県の
自然環境について
調べる学習

自然と人間の
共生を目指した
環境教育

本物の岩石や
化石を見ながら、
静岡県全域の
地質について
学ぶ学習

生物の骨格標本を
見比べながら
進化の過程や
人体について
学ぶ学習

見学の形式

団体見学の方法として下の3つのコースをご用意しております。学校での学習内容、児童・生徒の興味・関心に合わせて自由に見学していただくことも可能です。

音声ガイドで見学コース

必要時間 / 45分以上

タブレットでQRコードを読み取って、音声ガイドを聞きながら見学します。展示室のテーマや見所を聴くことで展示の理解が深まります。大人数や限られた時間でのご来館に適しています。
※ご利用の際にはタブレット・イヤホンをご持参ください。

ワークブックで見学コース

必要時間 / 45分～60分程度

当館オリジナルのワークブックを使用しながら、館内を見学します。ワークブックには各展示室の問題があり、その問題を解きながら見学していきます。グループで協力しながら、楽しく見学することもできます。

ガイドツアーで見学コース

必要時間 / 75分以上

ガイドに解説をしてもらうことにより解説文にはない面白い情報などを得ることができます。学年・学習内容に対応した表現でわかりやすく説明します。
※1グループ15名程度、最大で100名程度までご対応が可能です。

※企画展をご覧になる場合は、さらに30分程度必要となります。

+20分で地球家族会議への参加もおすすめ!

ご来館
前に

バーチャルミュージアム(デジタルコンテンツ)ではVR映像やストリートビューによるミュージアムの類似体験ができます。施設の下見、事前学習としてご利用ください。 <https://www.fujimu100.jp/virtual-museum/>



地球家族会議

「気候変動」「生物多様性」「水」「金属資源」「エネルギー」「食料」「人口」「自然災害」について、インタープリンターが学校授業内容と関連付けて話をします。



展示室9 / ふじのくにと地球

総合的な学習の時間

観察・見学などの活動を通して、ふじのくにに特有な知識や情報に出会ったり、持続可能な社会について意識することはできます。



展示室9 / ふじのくにと未来

ボランティアスタッフによるガイドについて(学校団体向け)

ガイドの料金は無料です。

雨天時のみ利用の場合は、
ガイドでの対応をご遠慮ください。

同日に複数の団体が希望する場合は
申込順にて対応させていただきます。

ガイドの可否に関するお問合せは、来館日の3日前より
お電話での問合せにて対応させていただきます。

滞在時間が1時間未満の場合や、対応できるボランティアスタッフが少ない場合は、
展示室ごとのボランティア及びスタッフによるガイドにて対応させていただきます。

担当/企画総務課 TEL:054-260-7111

※詳細のお問い合わせの電話も受け付けています。

来館利用に必要な手続き

1. 来館予約ページに進む

ミュージアム来館予約ページ
<https://fujimul.00.f-reserve.jp> を開いてください。



2. 必要事項を記入し 予約を行う

希望日、ガイドツアー・昼食会場・地球家族会議の希望など、必要事項を記入し
てください。※他の団体と重なった場合、昼食場所・ガイド等のご利用ができないこともあります。

3. 予約完了メールを 確認する

団体予約を登録していただくと、「予約完了メール」が届きます。メールが届か
ない場合はミュージアム企画総務課(054-260-7111)までご連絡ください。

4. 観覧料等減免申請書を 提出する

予約ページの「学校情報」をご記入いただくことで「引率教員観覧料減免申請書」
も作成されます。作成していただいた「引率教員観覧料減免申請書」はFAX
(054-238-5870)にて送信していただくか、メール添付でご送付していただく
ことで先生方の一観覧料も無料となります。
[メールアドレス/museum-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:museum-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp)

●参加者の声(一部抜粋)

人と自然のシーソーでのあrawし方がとてもわかりやすかったです。
(小学生)

地球家族会議では実演して説明して下さったので、とてもわかりやす
かったです。(中学生)

食物連鎖のことや自然と生活のバランスなどのことを知ることができ
ました。(小学生)

食物連鎖の関係性を表した展示室が良かったです。人間も例外ではない
ことに驚きました。(中学生)

建物のおもかげに興味を持ちました。学校を改造した施設というのが、
またおもしろかったです。自然の問題についてもとても興味深いと感
じました。自然を大切にすることを大切にして生活していきたい
と思えるようになりました。(小学生)

ツアーガイドの方が大変わかりやすく説明して下さったので、展示の意
図や繋がりを知ることができ、学びが深まりました。「自然と人間の関係の歴史」
を学ぶことは、環境学習のテーマとしても大変ふさわしかったです。(教員)

ミュージアムキャラバン

2015(平成27)年6月からスタートした移動ミュージアムです。

ミュージアムの雰囲気も一緒にまるごと届けたいという思いから、デザインや照明にこだわって新しく誕生したのが、「ミュージアムキャラバン」です。組立式の展示ケースを小中学校の教室に運び込み、簡単な準備をするだけで、見慣れた教室がミュージアムの展示室に変身します。



テーマ1 「昆虫の世界」

全部で約400種1000個体以上を展示しています。

- 静岡県のチョウ
- 静岡県の甲虫など
- 世界のチョウ
- 世界の甲虫など
- 映像



テーマ2 「化石の世界」

掛川市の200万年前の地層から見つかった深海生物「オオブソクムシ」など、約200点の化石標本を展示しています。

- 静岡県の化石
- 掛川層群の化石
- アンモナイト
- いろいろな化石
- 始祖鳥



テーマ3 「魚の世界」

川魚から駿河湾の深海ザメまで、静岡県で見られる様々な魚の標本120点以上を展示しています。

- 静岡県の淡水魚・海産魚
- 絶滅危惧種・外来種
- 静岡にちなむ魚
- 透明標本
- ヨロイザメ



テーマ4 「植物の世界」

静岡県を特徴付ける植物、植物らしからぬ変わった形の植物などを集めた展示です。

- 植物の花と葉
- 植物標本
- 静岡県の植物
- 植物らしからぬ植物



申込方法

年度開始前(3/31)までのお申し込みをお願いしております。

1. 毎年2月頃にミュージアムホームページにて申し込み方法をお知らせします。PCまたはスマートフォンにてお申し込みください。
※申込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。

2. 結果をメールにてお知らせします。(5月末に通知予定)実施校には日程調整の上、実施日もお伝えします。

3. ミュージアムスタッフが電話などで事前打ち合わせを行います。

4. 設置または解体当日、作業スタッフが伺います。

担当/企画総務課 TEL:054-260-7111 FAX:054-238-5870

※詳細のお問い合わせの電話も受け付けています。

ご案内

静岡県立美術館は県議会100年記念事業の一環として1986年4月に開館しました。『開かれた美術館』を目指し、企画展や収藏品展のほか、講演会、講座、シンポジウムなどを開催しています。

1994年3月には新館としてロダン館がオープンしました。ここではロダンの《地獄の門》を中心とする32体の彫刻を、明るい大空間を散策しながら鑑賞することができます。



施設情報

開館時間	10:00~17:30 (展示室の入室は17:00まで)	休館日	毎週月曜日(祝日、または振替休日にあたる場合は開館し、翌日休館)。年末年始。その他展示替え等のために休館する場合があります。								
駐車場	約400台 (第二駐車場に大型バス駐車可)	バリアフリー情報	貸出車椅子をご用意しています。インフォメーションでおたずねください。身体障害者用駐車場・トイレ・エレベーターがあります。身体障害者用駐車場から入口までスロープがあります。								
観覧料	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>個人</th> <th>団体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般</td> <td>300円</td> <td>200円</td> </tr> <tr> <td>大学生以下・70歳以上</td> <td colspan="2">無料</td> </tr> </tbody> </table>	区分	個人	団体	一般	300円	200円	大学生以下・70歳以上	無料		※企画展の観覧料は、展覧会ごとに異なります。 (中学生以下は無料です。) ※引率教員の減免規定あり。
区分	個人	団体									
一般	300円	200円									
大学生以下・70歳以上	無料										

飲食について 美術館内は作品保護のため原則**飲食禁止**です。昼食場所については、各園や学校でご計画いただくようお願いいたします。

アクセス情報

静岡県立美術館

- 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2
- TEL: 054-263-5755 FAX: 054-263-5767
- E-mail: soumuPMA-shizuoka@pref.shizuoka.lg.jp
- https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp



トップページ ▶ [アートを学ぶ・体験する](#) ▶ [学校・先生向けプログラム](#)

[@shizuokakenbi](#) [@shizuokakenbi](#)

[@shizuokakenbi](#)



車・タクシー を利用する 場合

- 東名高速道路/静岡IC、清水ICから約25分、日本平久能山スマートICから約15分。
- 新東名高速道路新静岡ICから約25分。
- 静岡駅南口から南幹線経由で約20分。
- 草薙駅から約5分。

電車を 利用する 場合

- JR東海道線「草薙」駅東大・美術館口から、徒歩約25分またはバス約6分
- 静岡鉄道「県立美術館前」駅から、徒歩15分またはバス約3分

学校向け 美術館教室一覧

美術館教室とは、園児・児童・生徒を対象とした学校連携の教育普及プログラムです。

当館では、実技・鑑賞・職場体験・総合的な学習の時間における取り組みなど、様々な学習活動を学芸員や普及スタッフがお手伝いします。また、学芸員や普及スタッフが学校をお訪ねし、レプリカや教材キットを使用して行う出張プログラムもあります。子どもたちの来館が難しい学校には、粘土やレプリカ・教材キット貸出、講習会や教育研修などにより、先生方への支援を続けていきたいと考えております。

ここに示した利用方法以外でも、ご希望がありましたら検討させていただきますので、ぜひお問い合わせください。

NO	プログラム名	主な対象					定員	所要時間	
		保育園 幼稚園	小学生	中学生	高校生	特別支援			
1	ねんど教室・えのぐ教室	○	○	○		○	35名	110分 (準備から片付けまで)	
2	ボランティアスタッフとの鑑賞	○	○	○	○	○	応相談	50-90分	
3	ロダン館ななふしぎ		○	○		○	40名程度	50-60分	
4	美術館の秘密を探れ!		○	○	○	○	35名程度	50-60分	
5	音のかけらワークショップ		○	○	○	○	20名程度	30-45分※	
6	ロダン館デッサン			○	○	○	30名	応相談	
	ロダン館スケッチ・クロッキー		○				40名程度		
7	出張美術講座		○	○	○	○	応相談	40-60分	
8	教員研修協力						応相談	応相談	
9	貸出(アートカード)	○	○	○	○	○	貸出から返却まで2-4週間程		
10	貸出(レプリカ・教材キット)		○	○	○	○			
11	貸出(粘土)	○	○	○	○	○	貸出から返却まで2週間程		
12	オンライン鑑賞教育プログラム		○	○			応相談	-	45-50分

※「音のかけらワークショップ」は作品の準備の都合上11:00-15:00の時間帯でご計画ください。

お申込みの手順

- 1 電子メールまたは FAXにて(応募期間内)募集 ▶ 抽選 ▶ 電子メールまたはFAXにて 抽選結果を返信
-
- 2 3 4 5 6 希望日の**1か月前まで**に電話で相談してください。詳細確定後、申し込み確認書(ホームページからダウンロードできます)をFAXでお送りください。
-
- 11 希望日の**1か月前まで**に電話で相談してください。詳細確定後、粘土貸出申込用紙(ホームページからダウンロードできます)をFAXにて送付いたします。
-
- 12 申し込み不要です。ホームページよりご利用ください。

減免申請について

展覧会を団体観覧する際、減免申請書をご提出いただくことで引率教員の観覧料を免除いたします。事前に当館ホームページから申請書をダウンロードし、必要事項を記入して当日ご持参ください。(教員のみ)

※ご不明な点がありましたら企画総務課(054-263-5755)までお問い合わせください。

学芸課の担当が豊富な実績をもとにご相談に応じます。また毎年、年度末には学校向けのメニューを掲載した「美術館教室のしおり」を各学校に送付しておりますので、是非ご利用ください。

問い合わせ

静岡県立美術館 学芸課 実技室担当

●TEL:054-263-5857 ●FAX:054-263-5742

●<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/> トップページ ▶ [アートを学ぶ・体験する](#) ▶ [学校・先生向けプログラム](#)

※月曜日は美術館が休館日のため、実技室担当がお問い合わせに対応できない場合があります。

1 ねんど教室・えのぐ教室

●ねんど教室

陶芸などに使われるにおいの少ない水粘土を使用し、粘土と触れ合う「体感遊び」に始まり、個人制作から共同制作へと進めていきます。大量の粘土との出会いは、子ども達にとって非日常的な体験となるはずです。



定員	35名まで
対象	3歳児から中学生
参加費	無料
持ち物	汚れてもよい服装(半袖・半ズボン、体操着が望ましい) 足を拭くタオル・着替え

●えのぐ教室

水をかければきれいに落ちる絵の具を使用し、屋内で「透明ビニールに描こう」を実施します。(施設整備のため、今年度は屋外では実施しません。)のびのびと身体を動かし、カラフルな絵の具で遊ぶことは、子ども達にとって新鮮な体験となるはずです。

定員	35名まで
対象	3歳児から中学生
参加費	1人350円(絵の具代として)
持ち物	汚れてもよい服装(半袖・半ズボン、体操着が望ましい) 足を拭くタオル・着替え

※持ち物は引率者も同様です。カメラをご持参の場合、実技室内は写真撮影可能です。

プログラムのながれ

- 集合時刻に、スタッフが美術館正面入口までお迎えに参ります。
- 作品保護のため、館内は飲食禁止です。開放できる場所はありませんので、雨天時の昼食の場合は、各園・各学校でお願いします。
- 美術館教室の終了後、展示室を通過してロダン館から退館するプランも可能です。(所要時間10～20分程度)

	ねんど教室		えのぐ教室	
	午前の部	午後の部	午前の部	午後の部
集合時間 (美術館正面入口)	9:50	12:55	9:50	12:55
制作時間	10:00 }	13:00 }	10:00 }	13:00 }
	11:20	14:20	11:20	14:20
片付け	11:20 }	14:20 }	11:20 }	14:20 }
	11:50	14:50	11:50	14:50
鑑賞 (企画展・収蔵品展)	12:00 }	15:00 [※] }	12:00 }	15:00 [※] }
	12:20	15:30	12:20	15:30

※教室が始まる前の鑑賞も可能です。

お申込みの方法(ねんど教室・えのぐ教室)

受付期間

4月3日(月)～4月10日(月)

- 年度内の全日程について左記期間で受付いたします。
- 他校・他園との合同でお申し込みいただくことはできません。

1回の定員は
35名まで

- ねんど教室(午前)、ねんど教室(午後)、えのぐ教室(午前)、えのぐ教室(午後)、それぞれ定員は最大35名です。
 - 参加児童の総数が36名以上になる場合は、午前・午後、または複数日に分けてご計画ください。
- ※複数日に分かれる場合も申込書は1通でお願いします。

申込み方法

当館ホームページより専用の申込書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、指定の期間内に電子メールまたはFAXにてお申し込みください。

※電子メールでのお申し込みの際は、必ずPDFでお送りください。

申込書は
こちら▶



抽選結果のお知らせ

4月24日(月)までに、メール返信またはFAXで各園、学校にお知らせいたします。

※上記日付までに抽選結果のメールまたはFAXが届かない場合、担当までお問い合わせください。

2 ボランティアスタッフとの鑑賞

当館のボランティアスタッフと一緒に、展示作品を対話しながら鑑賞するプログラムです。作品を前にして思ったことや感じたことを、友達や先生、ボランティアスタッフと話をしてみましょう。

ボランティアスタッフの参加調整が必要となるため、必ず希望日の1ヶ月前までにお電話でご相談ください。



3 ロダン館ななふしぎ

ロダン館の彫刻作品を、楽しみながらクイズ形式で鑑賞するプログラムです。最初に受け取る7枚のカードには、それぞれロダンの作品についてクイズが書かれています。カードの裏は作品解説シートになっているので、それもヒントにしながら答えを探します。答え合わせでは、スタッフと一緒に作品について考えてみます。

別室での解説となります。



4 美術館の秘密を探れ!

美術館の展示の工夫や施設の様々な場所に隠された作品保護のための設備など、展示室や普段は入れない施設の裏側を見学していきます。社会科見学や総合的な学習の時間、キャリア教育学習と絡めた利用も増えています。



5 音のかけらワークショップ

当館収蔵品、金沢健一《音のかけらI》を使用した鑑賞ワークショップです。この作品は厚さ9mm、直径2.2mの円形の鉄板をさまざまな形に熔断し、ゴムの足をつけて並べた彫刻作品で、マレット(ばち)等で叩くと、鉄琴のように音を出すことができます。表現活動や音で交わすコミュニケーション活動としても機能する作品といえます。また、難解と思われている現代美術に、体感的に触れ親しむ機会としても有効です。

床に座って実施します。動きやすい服装でお越しください。



6 ロダン館デッサン・スケッチ・クロッキー

ロダン館で、ロダン作品を中心とした彫刻作品を素描していただけます。描くことでロダン作品を細部までじっくり観察し、鑑賞を深める貴重な体験になるはずです。

※原則、技術的な指導は行っておりません。予めご了承ください。

- デッサン(素描)…………… 物体の形体や明暗をとらえる。
- スケッチ(写生)…………… スケッチブックや画板を手で持って描く。
- クロッキー(速写)…………… 短時間で素早く形を捉える。

●持ち物/鉛筆(色鉛筆)・練り消しゴム・画用紙、画板など

※木炭、プラスチック消しゴム等、粉や削りカスが出るものは使用できません。シャープペンシルもご遠慮ください。

※デッサンの場合はイーゼル・椅子・カルトン(画板)を貸し出します。



7 出張美術講座

当館教育普及スタッフや学芸員が学校をお訪ねし、レプリカや教材キットなどを使って先生と当館のねらいを照合した上で授業を行います。具体例としては、

- 当館所蔵作品や展覧会出品作品、作家についての解説
(収蔵品掲載先 <https://spmoea.shizuoka.shizuoka.jp>
トップページ → [デジタルアーカイブ](#))
- 美術館や学芸員の仕事について
- 来館前の事前学習

などですが、授業の展開に合わせてご相談ください。講義形式や対話型鑑賞形式など、授業形態についてもご相談に応じて実施いたします。



- ※当日、車から会場まで荷物の運搬のお手伝いをお願いする場合があります。
- ※遠方の学校では当日の移動の都合上11:00～15:00の時間帯をお願いする場合があります。

実践例 1 屏風のレプリカを使って / 1

「屏風の見方を知ろう」

ねらい

- 屏風絵を鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高めます。
- 屏風の鑑賞を通して、日本画の基本的な見方や知識を身につけます。

ながれ

- 屏風とは?学芸員から説明
- レプリカ鑑賞 気付いたことを付箋に書く、貼る
- 学芸員が解説・回答 付箋の内容や生徒の様子を見ながら
- 感想の共有・まとめ



実践例 2 屏風のレプリカを使って / 2

「屏風の正しい使い方?」

ねらい

- 具体的な使い方を考えることで、美術作品の多面的な見方を身につけます。
- 屏風の使い方を考える活動を通して、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めます。

ながれ

グループ活動

- クジ引きで屏風配置の条件決め 作品/使う人(殿様・家来)/部屋の広さ
- 作品を実際に配置 使用者の気持ちや用途を想像しながら
- 発表会 配置の意図を発表、学芸員から屏風の解説
- 感想の共有・まとめ



実践例 3 「考える人」小型像レプリカ「地獄の門」バナーを使って

「考える人を考える」

ねらい

- 彫刻の造形的なよさや美しさを感じ取り、作業の意図や工夫について考えます。
- 近代彫刻の父といわれるロダンの代表作を通して、彫刻について基本的な見方を身に付けます。

ながれ

- 小型像レプリカを観察
- ポーズを真似してみる 自然な人体のポーズではない?
- 形の特徴を発見する 作者の意図と工夫に気付く(ロダンの彫刻の歴史)



8 教員研修協力

アートカード実践や当館の出張授業体験、学校対象事業の紹介など、県内各地区の図工・美術教員研修等への協力も行っています。内容については、電話でご相談ください。

9 貸出(アートカード)

当館収蔵品のアートカードです。ゲームをしながら、楽しく鑑賞活動を行うことができます。48枚1セットでの貸出で、遊び方ガイドと作品の解説本をお付けします。

※受け渡しは来館による手渡しの基本ですが、遠方の学校で来館が難しい場合は、宅配便の利用もできますのでご相談ください。(送料は利用校負担)



10 貸出(レプリカ・教材キット)

出張美術講座で使用しているレプリカや教材キットを貸し出します。過去に実施した先生から提供された授業例の資料があるものもあります。

貸出対象物例(一部)

- レプリカ各種／屏風・掛軸・洋画・彫刻(考える人)
- 鑄造ビデオ
- 素材別立方体
- ロダン体操DVD など

※運搬は利用団体に行っていただきます。



11 貸出(粘土)

ねんど教室を自園・自校で実施したいという幼稚園・保育園、学校等を対象に、粘土や必要な資材の貸出を実施しています。

※約5kgの円筒形の粘土が、3本入って一袋です。一袋当たり約15～18kg入った状態で貸出します。

※運搬と使用後の粘土の練り直し作業は、利用団体に行っていただきます。



12 オンライン鑑賞教育プログラム

学校からオンラインで利用できる鑑賞教育プログラムです。「地獄の門」VRや、池大雅が描いた屏風の超高精細画像について、個々の端末を通して鑑賞し、表現の意図や特徴を感じ取ったり考えたりする内容です。利用申請やお申込みは不要です。当館ホームページに実施手順を掲載しており、いつでもご利用いただけます。(所要時間は授業1コマ分です。)



詳しくは当館ホームページをご覧ください。

※職場体験についてはお電話でご相談ください。

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

トップページ ▶

アートを学ぶ・体験する ▶

学校・先生向けプログラム

ご案内

静岡県富士山世界遺産センターは、世界遺産「富士山」の自然や歴史、文化等を展示や映像を通して学べる施設です。世界的に有名な坂茂氏による設計で、逆さ富士型の展示棟が目の前の水盤に映り込むことで正富士が現れます。富士山に関する研究成果を発表する企画展も開催しています。



開館案内

開館時間 9:00～17:00(7,8月は9:00～18:00)
※最終入館は閉館の30分前まで

休館日 毎月第3火曜日及び施設点検日/年末
※詳しくは当センター公式ホームページをご確認ください。

見学情報

富士登山疑似体験をお楽しみいただけます!
(館内らせんスロープで5F展望ホールまで)

4Kシアターで迫力の富士山映像をお楽しみいただけます!

※電話でのお問い合わせ、相談にも対応いたします。

館内展示の多くはデジタル展示(タブレット等)!
こころゆくまで「富士山学習」を。

団体観覧の事前予約は当センター公式ホームページの「予約システム」をご利用ください!

支援対策

教育旅行

- 学生(15歳未満(幼稚園、保育園、小学校、中学校))、高等学校及び大学の在学者、並びにこれらに準ずる方は無料で入館いただけます。
- 引率される先生も、減免制度により無料でご入館いただけます。
- 学年にあわせた観覧シート(クイズシート、ワークシート等)がごございます。
- 当センタースタッフが館内をご案内いたします。

出前講座

- 学校に出向いての出前講座を行っております。「世界文化遺産 富士山」に関する初歩的な内容から専門的な内容まで、幅広い学習のニーズに対応いたします。(※講師料等無料、オンライン対応可)
- 来館と併せて、事前・事後学習としてもご利用いただけます。

アクセス情報

静岡県富士山世界遺産センター

- 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町5-12
- TEL:0544-21-3776 FAX:0544-23-6800
- E-mail: mtfuji-whc@pref.shizuoka.lg.jp
- <https://mtfuji-whc.jp>



バス お車で お越しの 場合

- 新東名高速道路新富士ICから約10分
- 東名高速道路富士ICから約15分
- 道の駅朝霧高原から約35分
- バス、お車等でお越しの場合、近隣の「富士宮市神田川観光駐車場」をご利用ください(1,000円/バス1台1回)。



I、来館にあたり

学校活動の様々な場面でご利用いただける施設です。
例／総合学習(富士山学習)校外学習、遠足、修学旅行、部活動等

センター
予約システム▶



予約の流れ

学校団体でのご来館については、来館日の5日前までに当センター公式ホームページ内の予約システムから、ご予約をお願いします。

1	予約システムから 申込	<ul style="list-style-type: none"> ●予約サイトの「学校団体」の予約フォームに必要事項を入力の上、「予約確定」ボタンを押してください(来館日の5日前まで)。 ※来館日まで5日を切った場合のご予約については、電話にて、当センター団体予約担当(TEL/0544-21-3776)までご連絡ください。
2	予約完了メール 確認	<ul style="list-style-type: none"> ●予約確定と同時に、入力いただいたメールアドレスあてに予約完了メールが送信されます。予約内容と予約番号を確認してください。 ※確認できなかった場合は、当センター団体予約担当(TEL/0544-21-3776)までお問合せください。
3	下見・事前打合せ 調整	<ul style="list-style-type: none"> ●予約時に下見・事前打ち合わせ等のご希望をいただいた方については、申込完了後、当センターから詳細の確認のため、ご連絡させていただきます。 ※予約完了後に下見を希望される場合は予約サイトで変更の手続きをしていただくとともに、当センター教育普及スタッフ(TEL/0544-21-3776)までご連絡ください。 ※希望時間が集中した場合等は、時間の調整をお願いする場合があります。
4	引率者観覧料 減免承認書 交付	<ul style="list-style-type: none"> ●予約時に、教員等引率者の観覧料減免申請(予約フォームでのチェック<input checked="" type="checkbox"/>)をいただいた方については、来館日当日までに、予約申込者あて「観覧料減免承認書」を送付します。 ※送付先について、予約申込者以外を希望される場合は、予約申込時に、予約フォームの連絡事項欄に送付先をご入力ください。
5	来館当日	<p>(1)当日までに、予約完了メールに記載してあるURLから、「団体観覧者年齢等承認書」をダウンロードし、当日、催行人数等を記載し、送付された引率者観覧料減免承認書とあわせて、受付で提出してください。</p> <p>(2)観覧料の精算をし、チケットをお受け取りください。</p> <p>※来館時間が予約日時より30分以上前後する場合や、予約人数を10人以上変更する場合は、直接当センター団体予約担当(TEL/0544-21-3776)までご連絡ください。</p>
6	変更または キャンセル (※予約完了後)	<ul style="list-style-type: none"> ●予約内容の変更またはキャンセルは来館日の5日前までをお願いします。予約サイトの「変更・取消フォーム」に予約時に入力していただいたメールアドレスと予約完了時に発行される予約番号を入力し、ログイン後、変更または取消の手続きを行ってください。 ※来館日の4日前から当日までに、変更またはキャンセルの必要が生じた場合は、電話にて当センター団体予約担当(TEL/0544-21-3776)までご連絡ください。

引率の先生方へ
お願い

- 当センターには、昼食をとるスペースがございません。
 - 館内では、展示物の保護・湿度管理等のため、次に挙げる行動や持込みを禁止しております。事前に児童・生徒の皆さんへのご指導をお願いいたします。
- ① 鉛筆・シャープペンシル以外の筆記用具(ボールペン・マジック等)の使用は禁止です。
 - ② 1Fカフェスペース、5F展望ホール以外での飲食は禁止です。
 - ③ 傘や濡れたものの持込みは禁止です。
- ※観覧シートの実施、観覧メモなどを記入する際にはバインダー等をご準備ください。

II、来館～観覧

様々な切り口から“世界文化遺産「富士山」”の展示を行っております。

1 富士登山疑似体験

館内図▶1

まずは5F展望ホールまで登りましょう。内部はらせんスロープになっており、緩やかなスロープを登りながら映像、音声による「富士登山疑似体験」ができます。

- 富士山の自然、環境、景観



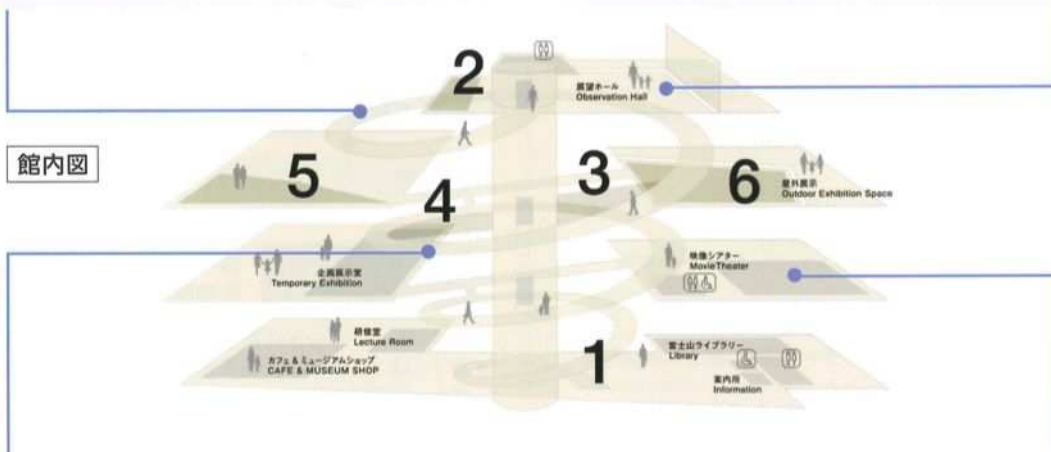
らせんスロープ

2 5F 展望ホール

お天気の良いと、美しい富士山の姿を眺めることができます。また、ホールには「富士山の可視領域」、「ふるさと富士（見立て富士）」の展示があります。



展望ホール



館内図

3 下山(自由観覧)

らせんスロープを「下山」しながら、各展示ブースをご覧ください。

- 5F 荒ぶる山／館内図▶2……………富士山のなりたち(自然・地学)
- 4F 聖なる山／館内図▶3……………「信仰の対象」としての富士山
- 3F 美しい山／館内図▶4……………「芸術の源泉」としての富士山
- 3F 育む山／館内図▶5……………富士山の自然(動植物)
- 受け継ぐ山／館内図▶6……………富士山の保全・防災 富士塚



聖なる山

各展示ブースでは、タッチパネルでコンテンツをご覧ください。興味のある分野をとことん学べます!

4 2F 映像シアター

4K映像シアターで迫力の富士山映像を!(1時間に4回上映)

- 天(テン)の巻／毎時00分
富士山の四季の変化を追った空撮映像
- 田(ソラ)の巻／毎時15・45分
富士山を“竜の目”で眺めたダイナミックな映像
- 地(チ)の巻／毎時30分
海拔0m～頂上まで現代の登拝の姿を追った映像



映像シアター

※映像シアター視聴のタイミングは、教育普及スタッフにご相談ください。
※当日の利用団体数や団体人数によっては、観覧行程内で映像シアター視聴ができない場合があります(シアター定員72名)。

5 各種観覧シート

来館しての活動をより充実したものにできるように、年齢、学年に応じた「観覧シート」を準備しております。事前学習にもご利用いただけます。



団体に応じた観覧モデル

団体(人数)に応じた観覧モデルをご用意しております。
当日の団体予約状況によっては希望に応じられないこともあります。

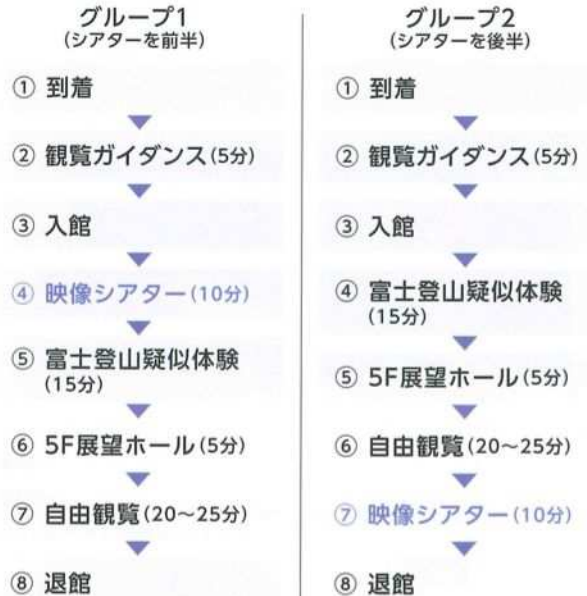
モデル例／1

団体人数／72名以下
所要時間／1時間から1時間半程度



モデル例／2

団体人数／73名以上
●シアター(定員72名)観覧希望あり
所要時間／1時間から1時間半程度
※2グループ以上に分かれての観覧となります。



モデル例／3

団体人数／201名以上
所要時間／2時間から3時間程度

- 複数グループに分かれての来館をおすすめしております。
- 富士山本宮浅間大社(徒歩圏内)を見学地に追加していただき、富士山学習の充実を。

※富士山本宮浅間大社では、富士宮市観光協会の観光ガイドボランティアが対応可能です(有料)。

Ⅲ、出前講座

センター職員が多様な切り口から
“世界文化遺産「富士山」”の講座を行っております。

1 無料で実施します!

県内の実施では、講師料や交通費等の費用は無料

- スクリーン、プロジェクター等は学校でご準備をお願いいたします。
- ZOOM等を利用したのオンライン講座も可能です。



活用方法	対象	活用方法(例)
	小・中学校 高等学校 大学 各種学校	<ul style="list-style-type: none"> ●静岡県富士山世界遺産センター来館の事前学習・事後学習 ●総合的な学習の時間(富士山学習、地域研究、環境学習等) ●世界遺産富士山を学ぶ講話・講座 ●課外活動(校外学習、部活動等) (朝霧野外活動センター等、外部施設へも出張します。) ●各種研修(教職員に対する研修も行います。)

質疑応答にも
対応します。

- 小学生低学年向けから、高校生、大学生等に向けての富士山を究める内容まで対応いたします。

2 充実したラインナップ!

	担当	タイトル(目的・内容等)例
富士山 入門	教育普及スタッフ	世界遺産の富士山を学ぼう ●世界文化遺産「富士山」の文化的価値について、わかりやすく解説します。

	分野(担当)	タイトル(目的・内容等)例
専門講座	文化・芸術 (松島教授)	海を越えた富士山—外国に遣わされた絵画と工芸 ●近世・近代に日本から外国にもたらされた富士山をかたどった美術・工芸品を紹介し、その背後にある知られざる“歴史秘話”をひもときます。
	火山・地質・防災 (小林教授)	静岡県の活火山を比較してみよう ●静岡県の大地の成り立ちのほか、県内の3つの活火山を比較しながら、富士山の特徴を解説します。
	歴史・信仰 (大高教授)	富士山信仰を歴史から学ぶ ●原始・古代から中世、近世、近代にかけて移り変わる時代の中で、富士山への信仰を遙拝(ようはい)・登拝(とはい)・巡拝(じゅんぱい)・近代登山といった流れから学んでいきます。
	民俗 (井上准教授)	富士山のふもとで生きる ●富士山麓で見られる多様な生業や産業から、人々の暮らしと富士山との関わりについて解説します。

Ⅳ、個人向けプログラム

他にも以下のように講座、イベント等を行っております。
また、ホームページもコンテンツを充実させております。

	名称	参加費	内容	備考
1	公開講座	無料	当センター1階研修室で、富士山の自然や文化・歴史、世界文化遺産富士山についてなど、幅広い内容について学習していただく講座を実施。	実施／毎月1回程度 ●詳細は当センター公式ホームページから。 ●予約システムにより事前に予約が必要。
2	ファミリーイベント	無料	富士山の自然や文化、世界文化遺産富士山について楽しく学習していただくために、来館した子どもや子ども連れのご家族向けに、クイズシートを配布し、クイズラリーなどを実施。	実施／ゴールデンウィーク、夏休み、お正月など ●詳細は当センター公式ホームページから。 ●事前予約不要。
3	センターホームページ各種コンテンツ	—	(1)富士山ライブカメラ in 静岡県富士山世界遺産センター (2)おうちで体験!VR富士山世界遺産センター (3)SNS、メールマガジン等の配信	(1)当センター屋上にライブカメラを設置し、富士山映像を配信中。過去に遡っての「富士山」もご覧いただけます。 (2)当センター館内の3Dマップをおうちに居ながらにして、ご覧いただけます。 (3)各種SNSやメールマガジンで富士山や当センターの企画展・イベント等の情報発信中。

問合せ先

静岡県富士山世界遺産センター
企画総務課

●TEL:0544-21-3776 FAX:0544-23-6800
●E-mail:mtfujj-whc@pref.shizuoka.lg.jp
●https://mtfujj-whc.jp

センター
HPは
こちら▶



※掲載の情報は令和4年度時点のものです。詳細はホームページでご確認ください。

静岡県埋蔵文化財センター

ご案内

当センターでは、出土文化財の展示、講座や講演会など**歴史学習を支援する活動**をしています。特に、本物の土器に触れての「土器分類体験」や石器(黒曜石)による「試し切り体験」、舞錐式火起こし器を使っての「火起こし体験」など「見て・聞いて・触れる」体験型の学習プログラムを用意しました。広く**学校や地域と連携**し、当時の人々の暮らしや歴史を楽しみながら学ぶことができる**体験・出前授業**に取り組んでいます。また、埋蔵文化財の遺跡や発掘調査について学ぶ機会として**職業体験学習**や成人向けの各種**考古学体験講座**も実施しています。

さらに、当センター周辺には沢山の学習スポットがあります。それらの見学や体験と併せた学習プランの御案内もさせていただきます。是非、多くの皆さんのお越しをお待ちしています。なお、当センターにお越しいただけない場合は、従来どおり出前授業も行います。



開館案内

開館時間	午前9時30分～午後4時30分
休館日	土日祝日、年末年始(第3土曜日を除く)
観覧料	無料

アクセス情報

静岡県埋蔵文化財センター

- 〒421-3203 静岡市清水区蒲原5300-5
- TEL:054-385-5500 FAX:054-385-5506
- E-mail: maibun_tyosa@pref.shizuoka.lg.jp
- <https://www.smaibun.jp>



- @5kXwcatbbVGC1wH
- ID:1584782278556513
- shizumaibun



徒歩

トライアルパーク蒲原北側

- JR「新蒲原」駅より東へ約30分
- ※駅から臨時バスの運行もできます。御相談ください。(こども100円、おとな190円)

自動車

- 国道1号線蒲原東ICより約3分

その他

- マイクロバス、大型バスでの来館も可能

1 体験授業

実施日	火・木曜
実施場所	静岡県埋蔵文化財センター
実施内容	土器や石器等の出土文化財を活用した体験授業 (体験授業・出前授業プログラムから選択)
申込方法	①E-mail又はFAXで申請書提出(4月1日以降随時) ②予約確定後、電話連絡します。 ※ウェブサイトの「体験・出前授業カレンダー」で空いている日程を御確認のうえ、お申し込みください。

2 出前授業

実施日	火・木曜
実施場所	申込みのあった学校・公共施設
実施内容	土器や石器等の出土文化財を活用した体験授業 (体験授業・出前授業プログラムから選択)
申込方法	①E-mail又はFAXで申請書提出 (4月10日以降随時) ②予約確定後、電話連絡します。 ※ウェブサイトの「体験・出前授業カレンダー」で空いている日程を御確認のうえ、お申し込みください。

出前授業の人気メニュー 4クラスローテーションの場合
(2時間コース)※移動休憩は5分毎

- 土器分類……………25分
- 火起こし……………25分
- 石器の試切……………25分
- 講話……………25分

● 体験授業・出前授業プログラム

プログラム	内容	所要時間	
① 展示室見学 ※体験授業のみ実施	職員のガイドによる展示室の見学	30～50分	
② 整理・保存処理事業見学 ※体験授業のみ実施	職員のガイドによる埋文センターの業務見学	20～30分	
③ 発掘調査と地域の遺跡	発掘調査と学校周辺の遺跡についての学習	20～30分	
④ 職業講話	埋蔵文化財発掘調査の仕事についての職業学習	20～30分	
体験メニュー	⑤ 土器分類体験	本物の縄文土器片や弥生土器片等の分類体験	25～30分
	⑥ 石器試し切り体験	石器の学習と黒曜石の剥片で物を切る体験	25～30分
	⑦ 火起こし体験	人類と火の関係を学習し、昔の火起こしを体験	25～30分
	⑧ 勾玉作り体験	勾玉の学習と石材を削り出して勾玉を作る体験	90～120分
	⑨ ミニはにわ作り体験	古墳やはにわの学習と粘土でミニはにわ作りの体験	90～120分
	⑩ 古代織物体験	古代織物の学習と実際に織物を織る体験	60～90分
	⑪ 弓矢体験	古代の狩猟について学び、擬似獲物(的)を狙う弓矢体験	60～90分

● 御利用いただいた学校からの声

体験授業がきっかけとなり、身の回りの歴史に興味をもつ児童が増えました。長期休業中に市内の古墳を見に行ったり、インターネットで検索した家庭もありました。

専門家ならではの詳しくわかりやすい解説で、子供たちは非常に興味をもつことができました。また、活動に入ってから、子供の様子に合わせて助言や手助けをいただき、安全に取り組むことができました。

3 体験用具の貸出

実施日	平日(土日祝日、年末年始を除いた日)
実施場所	静岡県埋蔵文化財センター
実施内容	火起こしキット/土器分類キット/ 石器試し切りキット/弓矢(狩猟)キットの貸出
申込方法	①E-mail又はFAXで申請書提出 (4月1日以降随時) ②予約確定後、電話連絡します。

4 フェスタ埋文

実施日	8月
実施場所	静岡県埋蔵文化財センター
実施内容	火起こし体験や勾玉作り、弓矢体験など古代の人々が行っていた作業を実体験できるイベント。 実施する体験プログラムは年により異なります。
申込方法	火起こし体験・勾玉作り体験など予約が必要なプログラムとセンター探検隊など当日参加できるプログラムがあります。詳細はセンターウェブサイト参照。

5 その他

1～4の他に各種研修会も行なっています。御相談ください。

※雨天等は当センター内で昼食場を提供することができます。御相談ください。
※業務の都合上、御希望に添えない場合があることをあらかじめ御了承ください。

社会科の授業で学習した内容に沿ったもので、本物に触れることができたことは、とてもよい経験になりました。

学習が済んでいても体験できていないことでしたので、よかったです。

実際に体験することで苦労や工夫、知恵を実感することができて、心に響く体験になりました。

静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

ご案内

グランシップは、「文化創造と交流の拠点」として、静岡県が設置する県立複合文化施設です。

現在は令和4年度から5年間、公益財団法人静岡県文化財団がグランシップの指定管理者として、グランシップ主催事業の企画の他、貸館事業、大規模コンベンションや各種学術会議等を通じ、静岡県の文化振興の一翼を担っています。

理念・目的・基本方針等

グランシップは、人、もの、文化、情報が交わり、人々が集い憩う“県民の心のオアシス”となることを理念として運営しています。



大ホール



中ホール

施設情報

沿革	平成10年8月31日	竣工
	平成11年3月13日	開館
	平成18年4月1日	指定管理者制度導入

指定管理者 (公財) 静岡県文化財団(平成18年～)

主要施設

大ホール／中ホール／会議ホール／交流ホール／展示ギャラリー／映像ホール／グランシップ広場 等

アクセス情報

静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

- 〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1
- 文化事業課／TEL:054-203-5714
(施設予約:利用サービス課／TEL:054-203-5713)
- E-mail: info@granship.or.jp
- https://www.granship.or.jp

@GRANSHIP_ @granship.shizuoka

@granship

電車で お越しの 場合

- JR東静岡駅南口隣接
- 東海道新幹線(ひかり)で東京から1時間、
新大阪から2時間
JR静岡駅乗換、東海道本線で上り方面、
JR東静岡駅まで3分
- 静岡鉄道長沼駅から徒歩10分

車で お越しの 場合

- 東名高速道路／静岡I.C.から10分
／日本平久能山I.C.から10分
- 新東名高速道路／新静岡I.C.から15分
- 静清バイパス／千代田上土I.C.から10分



グランシップ 子どもアート体験! 学校プログラム

学校で実施

グランシップでは、「グランシップ 子どもアート体験! 学校プログラム」として、国内外の第一線で活躍するアーティストや、静岡ゆかりの音楽家と共に静岡県内の小中学校等に出向き、本物の文化芸術をお届けするアウトリーチ事業を実施しています。子どもの時から本物に触れる体験を通して豊かな感性や創造性を育み、新しい世界に触れるとともに、県民の皆様幅広くグランシップの活動や、グランシップの目指す「はじめての劇場しずおか」の取り組みを知っていただくために、2006年度より積極的に実施しています。

募集期間 毎年12月上旬～1月末

※募集要項は毎年この時期にホームページで公開しているほか、全学校にも郵送しております。

募集事業

1. 音楽 …… グランシップ登録アーティスト ミニコンサート
2. 伝統芸能 …… 「人形浄瑠璃 文楽」出前講座
3. 伝統芸能 …… 狂言ワークショップ
4. 伝統芸能 …… 六代目宝井馬琴監修 講談教室
5. 伝統芸能 …… 玉川奈々福の浪曲教室
6. 美術 …… アート⇄心のジャンプ 貼り絵ワークショップ

※1～6は令和5年度事業の内容です。詳細は、その年度の募集要項をご確認ください。

**費用負担、
役割分担に
ついて**

グランシップ

出演者にかかる費用(出演料・交通費・宿泊費等)を負担します。

実施校

(準備いただくもの、
負担など)

- 出演者とグランシップスタッフの控室、駐車場
- 出演者と随行スタッフ(出演者側のマネージャーや所属事務所スタッフ等)の昼食と控室内の湯茶等(1～10名程度、プログラムにより異なります。グランシップスタッフ分は不要です)
- ピアノ調律費(電子ピアノでは実施ができません)なお、より良い演奏環境で音楽を届けられるよう、できるだけ実施日の1か月以内の調律をお願いしています

その他

- 公演、ワークショップ終了後には、教職員・アーティスト・グランシップスタッフの三者による「交流会」を開きます。質問や意見交換等アーティストと直接対話出来る機会です
- 参加された児童生徒、教員の皆様にはアンケートのご協力をお願いしています
- プログラムによって文化施設等からの視察や報道機関の取材が入る場合があります

問合せ等

メール

info@granship.or.jp

FAX

054-203-5716

**開催までの
流れ**

(令和5年度の場合)

申込書受取の連絡をグランシップ担当者からメールでお知らせします。

採択・不採択のいずれの場合も書面にて通知します。

グランシップスタッフが学校に伺います。担当窓口の先生ほか、参加学年の先生も可能な範囲でご同席をお願いします。

お申込み

実施校決定

開催日調整

事前打合せ

本番
※終了後、交流会

1月31日まで

2月下旬

3月

開催3～1ヶ月前

6月～翌年3月

1 グランシップ登録アーティスト ミニコンサート

音楽

静岡ゆかりの音楽家
「グランシップ登録アーティスト」による
45分間の参加型ミニコンサート

対象 小学4～6年生／特別支援学校の小中高生

- 特徴**
- 演奏者はオーディションにより選ばれ、アウトリーチに関する研修を経たグランシップ登録アーティスト
 - 少人数(クラス単位など)での実施により、参加者全員が間近に生演奏を体感
 - アーティストも事前打ち合わせに参加し、実施校の実情に合わせたクラシックの楽曲を中心としたオリジナルのプログラムを作成

概要

所要時間	45分 (1校につき、午前・午後の2回まで実施可能)
場所	音楽室・多目的室・体育館 等
人数	1回につき最大60名程度まで(要相談)
出演	下記 A～D の 登録アーティストの中から選定 (学校からの希望を調整して決定)



令和4年度コンサートの様子

● グランシップ登録アーティスト (第1期/2022-2024年度登録) ※2023年4月現在

A	ALBOSTリオ (アルボストリオ) マリンバ/ピアノ パーカッション	マリンバ/望月恵(静岡市在住) ピアノ/久米涼子(吉田町出身) パーカッション/古川春美(静岡市在住) 豊かな響きを奏でる木琴マリンバ、種類豊富で迫力があるパーカッション、そして学校のピアノで、クラシックをメインに様々なジャンルの音楽をお届けします。それぞれの楽器の「魅力」が伝わるアンサンブルをお楽しみください。
B	Duologue (デュオローグ) フルート/ピアノ	フルート/大川美南(島田市在住) ピアノ/田中亚希子(島田市在住) グループ名のDuologueとは英語で「対話」という意味です。フルートとピアノの2つの楽器の対話、2人の対話、音との対話、皆さんとの対話を大切にしています。音楽を通じて心に寄り添えるような演奏を心がけます。
C	Trio WINGS (トリオウイングス) サクソフォン/ピアノ	サクソフォン/三浦玲太(南南町出身) 戸村愛美(沼津市出身) ピアノ/村上夢子(焼津市在住) サクソフォン×サクソフォン×ピアノによるアンサンブル。サクソフォンならではの柔軟性で、クラシックのみならず様々なジャンルの楽曲を演奏します。
D	ミナトニカ ピアノ/ヴァイオリン サクソフォン	ピアノ/金原麻美(浜松市在住) ヴァイオリン/西川奈穂(富士宮市在住) サクソフォン/池谷隼人(藤枝市在住) 2008年に静岡県出身の音楽家で結成。ヴァイオリン・サクソフォン・ピアノという性質の異なる楽器で、様々なジャンルの音楽を奏でます。

● 参加者の声(実施校アンケートより)

楽譜も読めないし、音楽は好きではなかったけど、はじめて「すてきな」と思いました。(小学生)

音楽が好きですが、音楽の授業には苦手意識があり自信をもってできません。だからこそ、今回のような本物に触れる機会がとてもありがたい思いました。(教員)

音は見えないけど、本当はそこにあると分かりました。(小学生)

いつもは発表しない生徒が自分から自分の言葉で感想を言えました。(特別支援学校教員)

知らない曲にも生徒が自分から体を動かして表現するなど楽しんでいました。(特別支援学校教員)

にんぎょうじょう り ぶん らく

2 「人形浄瑠璃 文楽」出前講座

伝統芸能

ユネスコ無形文化遺産であり、
日本が誇る「人形浄瑠璃 文楽」を
わかりやすく実演付きで解説&鑑賞

対象 小学5～6年生 / 中学生

特徴

- 文楽を構成する太夫(たゆう)・三味線・人形遣い(にんぎょうつかい)がそれぞれの役割や道具を解説
- 人形遣いの体験、文楽人気演目のミニ実演鑑賞(あらすじを紹介したプログラムを全員へ配布します)

概要

所要時間	90分程度
場 所	体育館
人 数	100名程度(最大300名程度まで可)
出 演	人形浄瑠璃 文楽座 ※出演者6名程度+随員スタッフ3名程度

● 文楽とは

江戸時代の大坂で生まれた、浄瑠璃という音楽と人形芝居が結びついた舞台芸術。物語を語る太夫、情景や心情を表現する三味線、3人で1体の人形を操る人形遣いの三業(さんぎょう)によって成立する世界に誇る伝統芸能。



● 参加者の声(実施校アンケートより)

うれしいときと悲しいときの三味線の音が全く違って驚きました。(小学生)

人生で人形遣いの体験をすることはなかったと思ったので、いい経験になりました。(中学生)

事前指導として文楽について触れたものの、実際に見たり聴いたりする中でより「そうだったのか」「すごい」という気持ちになりとても勉強になりました。交流会でもたくさん知ることができうれしかったです。(教員)

息を合わせて舞台を作るということに興味がわきました。僕たちの世代が文楽の素晴らしさと伝統を伝えていく必要があると思いました。(中学生)

人形遣いが人形に命を吹き込むように表現していたのに感動して体がぞわぞわしました。(中学生)

学校で体験しなければ、一生知らずに終わる生徒も少なくないと思います。(教員)

3 グランシップ伝統芸能普及プログラム 狂言ワークショップ

～触れてみよう能楽師～

伝統芸能

6年生の国語の教科書で
扱われている狂言を、
狂言方自らが先生となり解説する特別授業

対象 小学6年生

特徴

- 狂言方が、実際に学校で使用している教科書を用いて能・狂言の歴史、能舞台のつくり等、狂言の基本を解説
- 狂言独自の言い回しや教科書に登場する動物の鳴き声の体験に加え、演者による実演(狂言「棒縛」)を通して狂言を学びます

概要

所要時間	90分程度
場 所	教室・体育館 等
人 数	30名～90名程度
出 演	和泉流狂言方・三宅右矩 ほか ※3名程度



● 参加者の声(実施校アンケートより)

小さな舞台と少ない道具で様々な状況を表現していて驚きました。(小学生)

室町時代からずっと続いていることがすごいと思いました。(小学生)

プロの生のパフォーマンスは、映像とはちがう迫力があり心に残ります。大変幸運だったと思います。(教員)

難しい言葉や分からない表現があっても、子どもたちが舞台に引き込まれていた様子が印象的でした。(教員)

たからいばきん

こうだん

4 六代目宝井馬琴監修 講談教室

伝統芸能

日本の話芸・講談をみんなで声に出して体験!
講談を知る・体験する・聴く、参加型プログラム

対象 小学4～6年生

特徴

- 講談の歴史や他の話芸との違い、独特な表現、張扇(はりおうぎ)や釈台(しゃくだい)などの道具について講談の基本を実演を交えて解説
- 講談の様々なテキストに声を出してチャレンジ 講談ならではの表現や言葉の面白さを体感
- 静岡県出身の講談師、故・六代目宝井馬琴の一番弟子である宝井琴星による実演で、本物の講談を鑑賞

概要

所要時間	100分程度
場所	教室・体育館等
人数	10名～160名程度(相談可)
出演	宝井琴星(たからい きんせい) 宝井琴鶴(たからい きんかく)

下記内容は過去実施例です。最終的な内容は開催校との打合せにより決定します。

講談ってなに?

- 講談と落語の違い、使用する道具など講談の特徴を実演を交えて解説
- 講談の特徴的なリズムを手拍子で体感

実施内容

チャレンジ!講談

- 様々なテキストを用いて講談に挑戦
- 全員で声を出すほか、張扇で釈台を叩きながら発表するなど様々な形態で講談を体験
- 学校のオリジナル講談を作成

本物の講談を聴こう!

- 徳川家康が登場するなど、分かりやすい演目でプロの講談をじっくりと鑑賞
- ※最後に質問コーナーを設けます

● 講談とは

会話によって成り立つ落語に対して、講談は“話を読む芸”と言われる。単なる朗読ではなく、独特の抑揚のあるしゃべり調子で、張扇という道具で釈台をたたきながらリズムカルに語ります。



講談師

宝井 琴星

たからい きんせい

- 講談師
昭和22年、神奈川県横浜市生まれ
- 昭和48年 宝井馬琴門下入門
- 昭和54年 ニツ目昇進
- 昭和60年 真打昇進



● 参加者の声(実施校アンケートより)

すごく講談に興味がわきました。張扇や扇子、手ぬぐいでいろんな表現ができてすごいと思いました。もっともっと講談を知って興味をもちたいし楽しいのでまたやってもらいたいです。(小学生)

実際に壇上へ上がって体験できたのが本当に楽しかったです。全く知らない世界でした。(小学生)

聞く、体験のプログラム構成が素晴らしいかったです。(教員)

普段声の小さな児童も手を挙げて舞台上で読んでいた姿には驚きました。(教員)

日本語のすばらしさを感じました。講談師の先生の言葉と手さばきでの話し方がとても心地よかったです。(教員)

たまたがわ な な ふく ろうきょく

5 玉川奈々福の浪曲教室

伝統芸能

日本の話芸・浪曲の迫力を間近で体験！
三味線の生の音にも触れられます。

対象 小学5～6年生

特徴

- 浪曲について、他の伝統芸能と比較し、解説や実演を通してわかりやすく紹介
- 浪曲の節回しや掛け声を練習
実際に声に出して浪曲の面白さを体感

概要

所要時間	90分程度
場 所	教室・音楽室 等
人 数	20～60名程度
出 演	玉川奈々福／曲師1名

実施内容

解説

- 浪曲の歴史、成り立ち、特徴を紹介
- なぜ浪曲師を目指したのか、職業としての浪曲師についてのおはなし(キャリア教育の一環として好評を得ています)

実演

- 童話「シンデレラ」を題材にしたオリジナル浪曲を鑑賞

三味線解説

- 三味線の音の聞こえ方や構造を紹介

浪曲に挑戦!

- 浪曲の名乗りや掛け声を体験
- 浪曲独特の節回しやリズムを練習、三味線に合わせて発表

● 浪曲とは

落語は「話す」・講談は「読む」・浪曲は「語る」と言われ、浪曲は三味線の伴奏にのせて「節」と「啖呵」で物語を語る芸。節とは、登場人物の心情や場面を歌詞にして歌う部分で、啖呵は、登場人物を演じて台詞を話す部分。



浪曲師

玉川 奈々福

たまたがわ ななふく



神奈川県横浜市生まれ。平成7年に玉川福太郎に入門。師の勧めにより平成13年より浪曲師として活動開始。様々な浪曲イベントをプロデュースするほか、自作の新作浪曲も手がけ、多ジャンルの芸能・音楽との交流も多岐にわたって行う。これまで「グランシップ子どもアート体験!」に出演していた浪曲師・故 国本武春の自称一番弟子として、浪曲を次代に継承するために積極的に活動している。

● 参加者の声(実施校アンケートより)

浪曲は昔のような感じもあるけれど、今のようでもあり不思議な感じだった。(小学生)

奈々福さんは声量がすごくて、聞いているとだんだんとワクワクしてきてすごく面白かった。(小学生)

浪曲はとても楽しく新しい世界に入れた気がしました。(小学生)

「浪曲」という名前を一度も聞いたことがなくて、「どういう感じなんだろう」と思っていたけれど、聞いているうちにどんどん続きが気になって、終わったときは「もう終わりか」と感じた。(小学生)

奈々福さんの、子どもたちとのやりとりがとても素敵でした。(教員)

普段とても内気な子が進んで発表をしていたことに驚きました。その子にとって大きな自信になったようです。クラスの皆からもほめられ、自分自身で新しい自分に気づくことができたのではないかと思います。(教員)

6 アート⇔心のジャンプ 貼り絵ワークショップ

美術

1～2m四方の大きさの段ボールに様々な形や色のフェルトを自由に貼り、講師との対話を通して一人一人の表現を引き出します。

対象 特別支援学校中等部・高等部

- 特徴
- 作品の完成や技術向上を目的としないアプローチを大切にし、アートを通して互いの魅力に気づきます
 - 講師の問いかけから、それぞれの表現を引き出します

所要時間	授業3コマ分(2時間目～4時間目)
場所	体育館、または作業ができる広い教室
人数	1クラス10～15名程度 (グループごとの参加は最大30名まで)
出演	福井 揚(現代アート作家)

アーティストの紹介

- 講師の紹介
- 福井揚さんの作品を近くで見る

材料に触ってみる

- 色とりどりのフェルトなど、貼り絵の材料に触って、自由に選ぶ

実施内容

貼り絵に挑戦

- 様々な色や形の材料を、段ボールに自由に貼り付ける
- 創作途中の作品の角度を変えたり、他の作品を見ながら、アーティストとともに意見交換

完成作品を発表しあう

- グループまたは個人の作品を発表しあい、感想を共有する



● 参加者の声(実施校アンケートより)

貼り絵とは、自分のインスピレーションと勇気で取り組むことだと分かりました。(生徒)

頭で考えるのではなく、感じたことを作品にすることができました。(生徒)

制作の途中で作品を見せ合うのも大変面白いと思い、今後の指導に生かしたい。(教員)

ワークショップ後の表情が、マスク越しでもとても良かった。(教員)

日頃から教員が生徒に構いすぎていると実感した。自然と影響し合っていた姿をみて、表現の授業を在り方を見つめたいとなりました。(教員)

福井先生の声がけが優しく、生徒たちが安心してのびのびと表現していました。(教員)

グランシップ主催公演 中高生鑑賞プラン

グランシップ等劇場で鑑賞

教員の引率による団体鑑賞で
チケット料金が特別価格に!

概要

静岡県内の中学生及び高校生を対象に、学校単位(クラス、部活動単位)のお申込みに関し、グランシップ主催公演を特別価格で鑑賞できる制度です。必ず先生の引率をお願いします。

対象公演

- ホームページでご確認ください
(「グランシップ中高生鑑賞プラン」で検索)
- 特に中高生向けに毎年実施している公演
 1. 国立劇場歌舞伎鑑賞教室(6月開催)
 2. グランシップ中高生のためのオーケストラ(11月開催)

料金

1公演・1生徒あたり800円(通常1,000円)
1グループ(クラスまたは部活等の単位)につき、引率の先生1人は無料。

申込方法

ホームページ掲載の申込書に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXにてお申込みください。
最終締切日は、各公演の2週間前とします。
(チケットの販売状況によっては締切前に受付終了となる場合がございます)



交通費支援制度 中高生鑑賞プランを利用してグランシップ主催公演を鑑賞する際の交通費を支援します。

支援対象となる交通手段

- 公共交通機関(電車、バス)／貸切バス
● 徒歩、自転車、自家用車は支援の対象となりません。

支援額

学校から公演会場までに生徒及び引率の教員が要した交通費

- 交通費は学校と公演場所の往復にかかるものを対象とします。
- 学校から公演場所までの直線距離が2km未満の学校については、対象外となります。
- JR利用の場合は原則として団体割引乗車券(学生団体)を支援金の対象とします。(8名以上対象)
ただし、規定人数に達しない場合や団体申込期限を過ぎている場合は、通常の料金を支援の対象とします。
- 新幹線は片道50km以上、特急は片道70km以上、座席は自由席のみ支援の対象とします。
- 貸切バス利用の場合は2社以上の見積りの中で金額が低い方を採用するものとします。(手配は学校側をお願いします)
- 貸切バスで公演会場の有料駐車場を利用した場合、駐車料金も支援の対象とします。

申請の流れ

申請書類ダウンロードはこちらから ▶

https://www.granship.or.jp/granship/for_kids/plan.html



1 中高生鑑賞プランの利用を、指定の申込書でメールまたはFAXで申し込む。

2 事務局からの予約確定の連絡の際に交通費支援制度利用希望の有無をお伝えください。

3 鑑賞予定の公演の前日までに、交通費支援制度申請書に必要事項を記入し、郵送にて御提出ください。(申請書は公演日前日必着)

4 利用者数の実績に基づき、支援額を確定。後日学校ご指定の口座に振り込みます。

お申込み
お問い合わせ

公益財団法人静岡県文化財団(グランシップ指定管理者)
文化事業課 〒422-8019 静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号
TEL/054-203-5714 FAX/054-203-5716 メール/info@granship.or.jp

1 国立劇場 歌舞伎鑑賞教室

ユネスコ無形文化遺産で、日本が世界に誇る伝統芸能のひとつ「歌舞伎」。グランシップでは、中学生や高校生にも気軽に生の舞台に触れていただく場として、「国立劇場 歌舞伎鑑賞教室」を毎年開催しています。学生のみなさんが本物の伝統芸能に触れ、日本文化を知り、自ら世界へ日本の文化を発信できるよう、ぜひ学校の芸術鑑賞の機会としてご活用ください。

公演内容

長時間で複数の演目が上演される一般的な歌舞伎とは異なり、前半にはわかりやすい解説と後半は歌舞伎の名作上演の2部構成で鑑賞するスタイルです。

※一般のお客様、他校の生徒の方々と一緒に鑑賞していただけますのでご了承ください。

令和4年度は
8校の中学校・高校から
1,150人が参加しました。

● **第一部：「解説 歌舞伎のみかた」** / 30分程度
歌舞伎のイロハや第二部の演目の見どころをわかりやすく解説します。

● **第二部：「歌舞伎の鑑賞」** / 60～90分程度
はじめての鑑賞におすすめの名作、名場面などわかりやすい演目をお届けします。

● 人気俳優が勢ぞろい!過去の上演演目

年度	第二部の演目	出演者
22	歌舞伎十八番の内 鳴神	片岡 孝太郎 / 片岡 愛之助 ほか
23	義経千本桜 河連法眼館の場	中村 扇雀 / 中村 壱太郎 ほか
24	平家女護島 俊寛 鬼界ヶ島の場	中村 橋之助 ほか
25	新歌舞伎十八番の内 紅葉狩	中村 扇雀 / 中村 錦之助 ほか
26	ぢいさんばあさん	中村 扇雀 / 中村 橋之助 ほか
27	壺坂靈験記	片岡 孝太郎 / 坂東 亀三郎 ほか
28	新皿屋舗月雨傘 -魚屋宗五郎-	中村 橋之助 ほか
29	歌舞伎十八番の内 毛抜	中村 錦之助 / 片岡 孝太郎 ほか
30	連獅子	中村 又五郎 / 中村 歌昇 ほか
R1	神靈矢口渡 頓兵衛住家の場	中村 鷹治郎 / 中村 壱太郎 ほか
R4	彦山権現警助刺 -毛谷村-	中村 又五郎 / 片岡 孝太郎 ほか

● 学校での学習にも活用できます

当日

はじめての鑑賞を音声でサポート!イヤホンガイド

舞台の進行に合わせて、あらすじや歌舞伎ならではの約束事を音声で解説。※希望する学校のみ、有料での貸出です。

(チケット代とは別/イヤホンガイドと直接契約していただけます)

事前・事後

鑑賞をより深める!歌舞伎読本・公演プログラム

歌舞伎の歴史などが掲載されている読本と、出演者のメッセージやあらすじがまとめられたプログラムを来場者全員へ無料配布。

※希望があれば事前の配布も可能(完成は公演日直前です)



過去の公演の様子

● 参加者の声(終了後アンケートより)

伝統芸能を鑑賞する機会をもっと生徒たちに与えてあげたいと感じました。今回の歌舞伎鑑賞教室は我々教員にとっても価値あるものでした。(先生)

本格的な劇場で鑑賞のマナーや醍醐味を体験できる機会はなかなかないので続けてほしい。(先生)

交通費支援制度は遠方からの学校にはとてもうれしい制度です。(先生)

歌舞伎は自分が思っていたよりもかっこよくすごきれいだった。役を演じている人のメイクがとても素敵だったし、もっと歌舞伎について知りたかった。(生徒)

全く歌舞伎の知識がなく、楽しめる自信がなかったが、公演前の丁寧かつ楽しい解説や、華々しくかっこいい舞にすごく感激した。(生徒)

2 グランシップ中高生のためのオーケストラ

グランシップでは、県内の中学生に本格的なオーケストラコンサートを毎年お届けしていきます。令和2年度より県内東部・中部・西部を1年ごとに巡回する出前公演をはじめ、令和5年度から対象を広げ、高校生の皆さんもご参加いただけるようになりました。

本事業では、クラシックの曲をまるごと聴く機会が少ない学生の皆さんに向けて、毎年交響曲や管弦楽曲といった大曲を取り上げ、国内の一流オーケストラの本物の音に触れていただく貴重な機会となっています。指揮者もオーケストラも、学生の皆さんに必ず何かを感じてもらえるように全力で演奏に臨みます。ぜひご期待ください!

●過去の公演プログラム

年度	指揮	管弦楽	曲名	会場
22	広上 淳一	京都市交響楽団	グリムカ/歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲 ブラームス/交響曲第1番	グランシップ 中ホール・大地
23	川瀬 賢太郎	日本フィルハーモニー交響楽団	チャイコフスキー/歌劇「エフゲニー・オネーギン」からポロネーズ 交響曲第5番	グランシップ 中ホール・大地
24	大植 英次	大阪フィルハーモニー交響楽団	グリムカ/歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲 シェスタコーヴィチ/交響曲第5番	グランシップ 中ホール・大地
25	飯森 範親	東京交響楽団	ハイドン/交響曲第94番「驚愕」第2楽章 ベートーヴェン/交響曲第5番	グランシップ 中ホール・大地
26	三ツ橋 敬子	新日本フィルハーモニー交響楽団	ファンパーディング/歌劇「ヘンゼルとグレーテル」序曲 ムソルグスキー(ラヴェル編曲)/組曲「展覧会の絵」	グランシップ 中ホール・大地
27	川瀬 賢太郎	神奈川フィルハーモニー管弦楽団	ハイドン/交響曲第45番「告別」 メンデルスゾーン/交響曲第4番「イタリア」	グランシップ 中ホール・大地
28	円光寺 雅彦	名古屋フィルハーモニー管弦楽団	ラヴェル/ピアノ協奏曲 ト短調 (ピアノ/菊地裕介) チャイコフスキー/幻想的序曲「ロミオとジュリエット」	グランシップ 中ホール・大地
29	井上 道義	大阪フィルハーモニー交響楽団	ピゼー/組曲「子供の遊び」 プロコフィエフ/バレエ音楽「シンデレラ」セレクション	グランシップ 中ホール・大地
30	松村 秀明	神奈川フィルハーモニー管弦楽団	メンデルスゾーン/「夏の夜の夢」序曲 ドヴォルザーク/交響曲第9番「新世界より」	グランシップ 中ホール・大地
R1	本名 徹次	静岡交響楽団	ベートーヴェン/「エグモント」序曲 ドヴォルザーク/交響曲第8番	グランシップ 中ホール・大地
R2	角田 鋼亮	オーケストラ・アンサンブル金沢	ドビュッシー/小組曲 モーツァルト/歌劇「フィガロの結婚」序曲 交響曲第41番	三島市民文化会館 大ホール
R3	ジョン・ アクセルロッド	京都市交響楽団	チャイコフスキー/歌劇「エフゲニー・オネーギン」からポロネーズ 交響曲第4番	菊川文化会館 大ホール
R4	角田 鋼亮	オーケストラ・アンサンブル金沢	ドビュッシー/小組曲 モーツァルト/歌劇「フィガロの結婚」序曲 交響曲第41番	三島市民文化会館 大ホール

※R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。R4年度に同じ出演者・プログラムで実施。

●コンサートをより楽しむためのパンフレット

楽曲の背景や聴きどころについてのわかりやすい解説や楽器紹介が掲載されたパンフレットを公演当日に無料配布します。



令和4年度の様子

▼令和4年度パンフレットより一部抜粋



●参加者の声(令和3年度アンケートより)

スマホで聴くのと違ってどの音も目立っていた。高音はスマホの何倍も透き通っていて気持ち良く、低音もしっかりひびき、客席で音の震動を体を感じるほど迫力があつた。やっぱり生で演奏を聴くのがいいなと感じた。(生徒)

聴いている時間が魔法で消えたかと思うほど、一瞬の出来事のようなだった。一人一人の音が力強く、手に持つ紙が震えるのを感じるくらいすごかった。(生徒)

オーケストラのコンサートは学校行事以外でほとんどの生徒が見たことがなく(クラス29人中27人)、間近で見て、その迫力と音色に圧倒されたようだった。生徒たちにとってとても良い経験になった。(先生)

静岡県高校生アートラリー

概要

静岡県の高校生が、本物の文化芸術に触れる機会に出合えるために、グランシップと県内の公立文化施設が協力し、実施している静岡県高校生アートラリー。

「高校生にこそ、本物の文化芸術やアートにたくさん触れて、色々な世界を知ってほしい。」ホールや劇場で働く私たちは、そう願っています。

対象公演を鑑賞し、ポイントを集めたらチケットをプレゼント。ぜひ、身近な施設でアートを体感してください。

- 1 県内の公立文化施設で行われる公演を掲載したパンフレットを新学期に配布します。
- 2 対象公演に来場するごとに1ポイントを贈呈。集めたポイントは高校在学中有効です。
- 3 3ポイントためると、高校生本人とご家族の2人で希望の対象公演を鑑賞できる「ファミリーチケット」をプレゼント!

P

ポイントの集め方(方法は2つ)



LINEで集める



LINE公式アカウント
「静岡県高校生アートラリー」を
友だち登録。

LINE QRコード▶



ポイント対象公演に来場し、
会場内のQRコードを
読み取ってポイントを獲得。



パンフレットで集める

アートラリーパンフレットを
ポイント対象公演の鑑賞時に持参する



会場内にある
スタンプを下記に押す。



特典応募

- ポイントの集め方によってLINEトーク、またはどちらの場合でも、メール、電話のいずれかで申込みできます。
- ポイント対象公演と「ファミリーチケット」対象公演、詳しい応募方法は、グランシップホームページでご確認ください。

静岡県高校生アートラリーに関する問合せ・「ファミリーチケット」特典申込先

グランシップ内「静岡県高校生アートラリー」係

●E-mail: info@granship.or.jp ●TEL:054-203-5714



子どもが文化と出会う機会創出事業／音楽 地域訪問プログラム

PROGRAM 07

オーケストラが県内各地の学校等を訪問し、
多様な音楽プログラムを実施します。

- 学校等で行う音楽鑑賞のほか、
学校等の希望により、
- 鑑賞講座／指揮者体験／演奏体験
 - 部活動指導、合同演奏
 - 地域住民への鑑賞機会の提供 等

ご案内

- 演奏形態は、オーケストラ又は室内楽です。
- プログラムの実施時間は、1時限～2時限（45分～100分）を目安とします。
- 会場設営及びリハーサルは、原則としてプログラム当日に行います。
- 鑑賞講座等については、必要に応じ、プログラム実施日以外でも実施します。
- 部活動指導や合同演奏は、当該プログラムに付随して行うものに限ります。
- 学校等の希望により、**保護者や地域の方も鑑賞**いただけます。（保護者等への周知は学校等で行ってください。）



実施対象となる学校施設等

実施会場

※複数の学校が合同で実施する場合や全校児童・生徒を収容できる施設がない場合等は、**学校等が確保（費用負担を含む。）する県内公立文化施設等**でも実施します。

実施回数

20回程度／年

経費

無料

※県内公立文化施設等で行う場合は、会場使用料等は学校等で負担してください。
※学校施設以外で行う場合に発生する児童・生徒等の交通費も、学校等で負担してください。

実施主体

県内に活動拠点を置く
プロフェッショナル・オーケストラ

実施対象

県内の小学校／中学校／高等学校／
義務教育学校／特別支援学校
※国及び政令指定都市が所管する学校を除く。

- プログラムの応募にかかる情報は、毎年1月頃に各校にお知らせしています。

申込方法

提出期限

毎年1月末頃

提出先

校 種	提出先
公立小／中学校	市町教育委員会所管課
県立高等学校	県教育委員会高校教育課
県立特別支援学校	県教育委員会特別支援教育課
上記以外(私立学校／市立高等学校)	事務局(静岡県文化財団)

※提出ルートは今後変更する場合があります。

問合せ先

静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課

- 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
- TEL : 054-221-2252
- E-mail : arts@pref.shizuoka.lg.jp

公益財団法人静岡県文化財団文化事業課

- 〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2丁目3番1号
- TEL : 054-203-5714
- E-mail : info@granship.or.jp

静岡国際オペラコンクール 「中学生・高校生オペラ鑑賞教室事業」

PROGRAM 08

ご案内

「中学生・高校生オペラ鑑賞教室事業」は、静岡国際オペラコンクール実行委員会(以下「実行委員会」という)が、オペラ歌手を県内の中学校・高等学校・特別支援学校に派遣し、生徒にオペラを鑑賞する機会を提供する事業です。この教室を体験することで、本物に触れた感動を味わうとともに、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育て、豊かな情操を培うことを目的とし実施しています。

※コンクール実施年度(3年毎)、コンクール本番(10月下旬～11月上旬)の鑑賞機会を提供・支援する事業として実施予定。



概要

日程	6～12月中
内容	オペラ歌手によるアリアや重唱、オペラの1シーンなどの演奏
派遣先	静岡県内の国立・公立・私立の中学校・高等学校及び、特別支援学校中学部・高等部において、上記期間内で3校程度を予定
派遣者	県内のオペラ団体に所属している歌手・ピアニストを予定
会場・時間	<ul style="list-style-type: none"> ●各学校に訪問して実施しますので、換気ができ、距離をとって鑑賞できる会場を御用意ください。 ●時間は御希望に沿いますが、1授業単位から2授業単位を超えない範囲でお考えください。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>会場例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 体育館や講堂等歌唱に適した室内、公共のホール等(ホール借用の場合の使用料等は負担しません) ● 音楽室等 <p>※ピアノが必要となります(調律の費用は、負担いたしません)。会場のレイアウト(いすや机の準備等)は各校において実施してください。その他の準備物は、実施決定後に御連絡いたします。</p> </div>
費用負担	派遣に伴う報償金及び旅費は実行委員会が負担するため、学校の負担はありません。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染防止には、充分配慮して訪問いたします。また、県の警戒レベルや周辺市町の感染状況により、開催が中止される可能性があることを予め御了承ください。 ●鑑賞後、オペラ歌手等による助言が必要な場合がありますら、決定後に御相談ください。

申込先 所定の申込書により、期日(毎年1月頃)までに実行委員会事務局にご提出ください。

決定 毎年3校程度を予定しています。申込み多数の場合には、選定結果により採択されない場合があります。

報告書等 鑑賞後1ヶ月以内に、報告書とアンケートを実行委員会事務局にご提出ください。アンケートは学校で鑑賞したすべての教員及び生徒等を対象に実施していただけます。

問合せ先

静岡国際オペラコンクール実行委員会事務局

- 〒430-8533 浜松市中区中央 2-1-1 (静岡文化芸術大学内)
- TEL: 053-457-6446 ● FAX: 053-457-6447
- E-mail: opera@suac.ac.jp ● <https://www.suac.ac.jp/opera/>

ご案内

県文化振興基本計画における重点施策「文化芸術に触れる機会の拡充と人材育成の促進」に基づき、第一線で活躍するアーティスト等との交流を通じ、優れた文化芸術に出会い身近に親しむ機会を提供するため、県内の小・中学生を対象とした個人参加の体験・創造講座を実施しています。



● 講座の概要

区分	特別講座	公募型講座
概要	実行委員会が企画・実施	県内の文化活動団体や市町等から企画を募集し、実行委員会が選定
特長	三枝成彰学長が中心となって調整し、各界一流のアーティスト等を講師として招聘	地域の文化資源を活用した内容とするなど、実施団体の創意工夫を生かして実施
日程	7～8月	7～11月
会場	県内3会場 (静岡市／浜松市／沼津市)	県内各地
分野／講師	各分野の第一線で活躍するアーティストやクリエイター等 ●ピアノ／横山幸雄氏 ●ゲーム／増田順一氏 ●製菓／鏝塚俊彦氏 ●指揮／三ツ橋敬子氏 ●イラスト／わたせせいぞう氏 など	演劇／美術／工芸／舞踊／伝統芸能等の各分野
対象	県内在住在学の小・中学生	
参加申込み	毎年5月中旬頃から県内小・中学校へ配布するチラシ、ホームページ等で募集、参加者個人で申込み	

お申込み 問合せ先

ふじのくに子ども芸術大学実行委員会事務局

- 〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6 静岡県文化政策課内
- TEL：054-221-2252
- FAX：054-221-2827
- E-mail：arts@pref.shizuoka.lg.jp
- ホームページ：https://www.fkac.jp/

▼HPで検索

ふじのくに子ども芸術大学 🔍 検索

ふじのくに芸術祭

ご案内

「ふじのくに芸術祭」は、広く県民に芸術作品の発表や鑑賞をする機会を提供し、県民自ら行う文化活動を支え、静岡県の文化向上発展を図ることを目的として開催しています。

下表では、応募資格が小中高校生以上の部門をご紹介します。

詳しくは、毎年5月頃に専用WEBサイトで公開する募集要項をご確認願います。

事業名	応募資格	種別	募集時期	展覧会会期 会場(R5参考)	作品集
美術展	高校生以上	平面(油彩画、日本画、水彩画、版画、デザイン、工芸) 立体(デザイン、工芸、彫刻、造形)	6月～10月頃	11月～12月頃 グランシップ	入賞作品は 「優秀作品集」 に掲載し、 入賞者全員に 配布
写真展		単写真または組写真 スマートフォンでの撮影写真可		11月頃 県立美術館	
書道展		漢字、かな、調和体、近代詩文、少字数、 篆刻、刻字、前衛		9～10月頃 クリエート浜松	
事業名	応募資格	種別	募集時期	作品集	
文芸コンクール	高校生以上	小説、児童文学、評論、随筆、戯曲・シナリオ、 詩、短歌、俳句、川柳	6月～9月頃	入賞・入選作品は 「県民文芸」に掲載し、 応募者全員に配布	
高校生短歌・俳句・ 川柳コンクール	高校生以上 (19歳未満)	短歌・俳句・川柳			
事業名	応募資格	種別	募集時期	コンクール開催時期	
合唱コンクール	年齢制限 なし	<ul style="list-style-type: none"> ●ジュニア(9名以上で中学生以下の団体) ●アンサンブル(3～8名、その他の条件は不問) ●一般(9名以上、その他の条件は不問) 	7月～9月頃	11月頃 会場(R5参考)グランシップ	

ふじのくに芸術祭事務局(静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課 / 静岡県文化協会)

お申込み 問合せ先

- 〒420-8601 静岡県葵区追手町9-6
- TEL:054-221-2254 ●FAX:054-221-2827
- E-mail: arts@pref.shizuoka.lg.jp

▼HPで検索

ふじのくに芸術祭

静岡県障害者芸術祭

ご案内

県内の障害のある人による絵画、工芸、書道などの作品を募集しての展覧会を県内3カ所で開催しています。

毎年、特別支援学校・学級からも多くのご応募をいただいております。出品料は無料です。

詳細は専用Webサイトで公開する募集要項をご確認ください。

応募資格	応募方法	募集時期	展覧会会期
障害のある人 (個人またはグループ)	公式サイト上の 申込フォームにて 応募(予定)	秋～冬頃 <参考(令和4年度)> ●西部会場 R4.9.30～10.14 ●中部会場 R4.10.17～11.18 ●東部会場 R4.12.5～R5.1.13	秋～冬頃 <参考(令和4年度)> ●西部会場 R4.10.29～11.6 ●中部会場 R4.12.14～12.18 ●東部会場 R5.2.10～2.12

お申込み 問合せ先

- 静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課
- 〒420-8601 静岡県葵区追手町9-6
 - TEL:054-221-3109 ●FAX:054-221-2827
 - E-mail: arts@pref.shizuoka.lg.jp

▼HPで検索

静岡県障害者芸術祭

ふじのくに文化教育プログラム／学校等団体向け

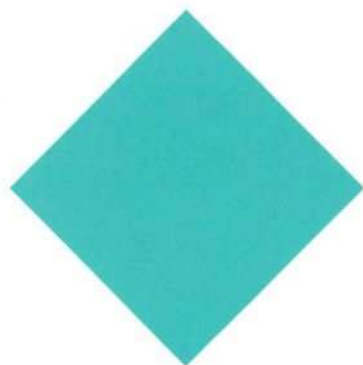
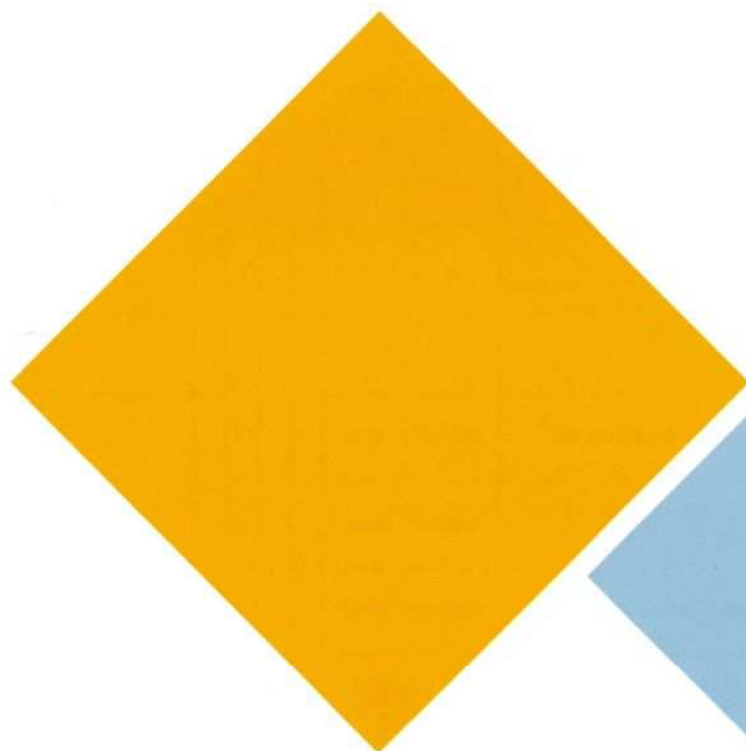
実施機関	事業名	事業の概要	実施時期	対象				問合せ先 (電話番号)	参照ページ
				小学生	中学生	高校生	特別支援		
各文化施設	学校等団体 教育旅行受入 ●スタッフによる施設案内 ●児童・生徒の観覧料無料 ●引率教員観覧料の減免 ※施設によって対応の有無が異なります	<静岡県立美術館(静岡市)> クイズを交えた彫刻鑑賞、展示の工夫や作品保護など施設の裏側を学ぶ見学など	通年	○	○	○	○	県立美術館企画総務課 (054-263-5755)	P.16
		<ふじのくに地球環境史ミュージアム(静岡市)> 「自由見学」、「マイ・ミュージアムノート」、「ガイドツアー」を利用した学校団体受け入れ	通年	○	○	○	○	ふじのくに地球環境史ミュージアム (054-260-7111)	P.10
		<静岡県富士山世界遺産センター(富士宮市)> クイズシートやワークシートにより、世界文化遺産である富士山について学ぶ機会を提供	通年	○	○	○	○	静岡県富士山世界遺産センター (0544-21-3776)	P.22
		<静岡県埋蔵文化財センター(静岡市)> 文化財を用いた体験活動(本物の土器に触れての土器分類や火起こしなど)を通じて、歴史や文化財に対する興味を喚起	毎週火・木	○	○	○	○	静岡県埋蔵文化財センター (054-385-5500)	P.27
静岡県文化政策課	ふじのくに芸術祭合唱コンクール	合唱団を対象としたコンクールジュニア部門(中学生以下)有	募集:7月~9月頃	○	○	○	○	県文化政策課 文化振興班 (054-221-2254)	P.43
	静岡県障害者芸術祭	障害のある人の公募作品展やワークショップ等を実施(個人参加も可)	募集:秋~冬頃				○	県文化政策課 文化振興班 (054-221-3109)	P.43
	中学生オペラ鑑賞教室事業	県内の中学・高校・特別支援学校に、県内オペラ団体所属歌手・ピアニストを派遣して、オペラ鑑賞機会を提供	6月~12月中		○	○	○	静岡国際オペラコンクール実行委員会事務局 (053-457-6446)	P.41
	子どもが文化と出会う機会創出事業(音楽)	子どもの頃から多様な文化に出会い、体験する機会の拡大を図るため、県内プロオーケストラが、小中高校等を訪問して、音楽プログラム(コンサート等)を実施	5月~2月	○	○	○	○	県文化政策課 文化政策班 (054-221-2252)	P.40
SPAC 静岡県舞台芸術センター	中学生舞台芸術鑑賞事業 SPACeSHIPIげきとも!	中学生を対象とした舞台芸術鑑賞事業	10月~3月頃		○	○	○	SPAC事務局 (054-203-5735)	P.5
	ひらけ!パフォーミングアーツの とびら	SPACの俳優・スタッフが県内の学校を訪れ、上演やワークショップを実施	通年	○	○	○	○	SPAC制作部 (054-203-5730)	
	SPAC1日演劇学校(演劇部員対象)	中学・高校演劇部員を対象に、他校の生徒と交流しながら、SPACの俳優と一緒に舞台の奥深さに迫る講座	2月頃		○	○			P.6
	放課後えんげき教室	小学生の子どもが過ごす「放課後こども教室」や「放課後児童クラブ」にて、子どもたちの活動の充実を図る目的で、演劇の上演やワークショップを実施	6月~翌年3月頃	○			○		P.6
	YouTube教科書朗読	県内の小中高校で使用されている国語の教科書の掲載作品をSPAC俳優が朗読	通年	○	○	○	○		
	てあとるてをとる	年齢や障がいのあるなしに関わらず、全ての人に「えんげき体験」をお届けする音楽劇	6月~翌3月頃	○	○	○	○		P.9
ふじのくに地球環境史ミュージアム	ミュージアムキャラバン	県内小・中学校に設置する出張展示	通年	○	○		○	ふじのくに地球環境史ミュージアム (054-260-7111)	P.15
静岡県立美術館	オンライン鑑賞教育プログラム	小中学校がオンラインで実施可能な鑑賞教育のプログラム	通年	○	○			県立美術館学芸課 (054-263-5857)	P.16
	美術館教室	幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラム。実技や鑑賞、総合的な学習の時間における取組など、美術館で実施できる様々な学習活動を、スタッフがお手伝いするもの。わんど教室、えのぐ教室、出張美術講座など。	通年	○	○	○	○		
静岡県富士山世界遺産センター	出前講座	講師を派遣し、富士山の自然や文化、世界文化遺産富士山についての基礎的な内容について学習できる講座。オンラインでの実施にも対応。	通年	○	○	○	○	静岡県富士山世界遺産センター (0544-21-3776)	P.25
静岡県埋蔵文化財センター	体験授業 出前授業	体験授業にお越しいただけない場合は、出前による体験授業(土器分類や火起こしなど)	毎週火・木	○	○	○	○	静岡県埋蔵文化財センター (054-385-5500)	P.28
ブランチシップ	ブランチシップ子どもアート体験! 学校プログラム	小中(特支含む)学校等を訪問して行うミニコンサート、伝統芸能教室	通年	○	○		○	県文化財団文化事業課 (054-204-5714)	P.30
	ブランチシップ主催公演 中学生鑑賞プラン	中学生・高校生を対象に、クラスや部活動単位で、ブランチシップ主催公演を1公演800円/人(通常1,000円)で鑑賞可能。交通費支援制度有り	通年		○	○			P.36

ふじのくに文化教育プログラム／個人向け

実施機関	事業名	事業の概要	実施時期	対象				問合せ先 (電話番号)	参照ページ
				小学生	中学生	高校生	特別支援		
SPAC 静岡県舞台芸術センター	SPAC演劇アカデミー	〈世界で活躍できる演劇人〉を目指す若者の感性を育むことを目的とした高校生対象の1年制の演劇塾	通年			○		SPAC制作部 (054-203-5730)	P.7
	異才・天才・奇才 SPACこども大会	小学生を対象として、歌唱、舞踊、演奏、その他様々な特技を発揮する「こども大会」	3月頃	○			○		P.8
	SPACシアタースクール	演劇の魅力を身体づくりから発表会を通じてより深く体験することを目的として、夏休み期間に実施	7月～8月頃		○	○	○		
	スパカンファンプラス [SPAC-ENFANTS-PLUS]	フランスを拠点に国際的な活動を展開する振付家を迎え、中高生と55歳以上のダンサーによる、世代をつなぐ新たなダンスプロジェクト	7月下旬～8月頃		○	○			
	すばっくおやこ小学校	参加する親と子が同級生、SPAC俳優や様々な専門家が先生を演じる親子教室	6月～7月頃	○					P.9
ふじのくに地球環境史ミュージアム	ふじミュ-GWのイベント	GW期間に幼児・小・中・一般向けの自然科学系のイベント・講演会	4月下旬～5月上旬	○	○	○	○	ふじのくに 地球環境史ミュージアム (054-260-7111)	P.10
	ふじミュ-夏のイベント	夏期休業期間に幼児・小・中・一般向けの自然科学系のイベント・講演会	7月下旬～8月下旬	○	○	○	○		
	ふじミュ-秋のイベント	シルバーウィーク付近に幼児・小・中・一般向けの自然科学系のイベント・講演会	10月下旬～11月上旬	○	○	○	○		
	ふじミュ-冬のイベント	冬季休業期間に幼児・小・中・一般向けの自然科学系のイベント・講演会	12月中旬～1月上旬	○	○	○	○		
	富士山の日特別イベント	富士山の日に幼児・小・中・一般向けの自然科学系のイベント・講演会	2月23日	○	○	○	○		
	ふじミュ-春のイベント	春季休業期間に幼児・小・中・一般向けの自然科学系のイベント・講演会	3月中旬～4月上旬	○	○	○	○		
	写真コンテスト・写真展	「しずおかに育まれる生命(いのち)」をテーマにした写真作品の公募展高校生以下を対象としたジュニア部門あり	募集:7月頃 展示:9月～11月頃	○	○	○	○		
	ミュージアムでまなぶ 自然科学教室	先進的なプログラムを学びたい方向け 年中～小2と小3～6年の2コース	募集:4月～5月 実施:通年	○			○		
	オムニバス“地球環境史学”	最先端の研究成果を伝えるオムニバス授業	通年	○	○	○	○		
	連続講座“天地に在りて、 道を究める”	文化・芸術・スポーツなどの第一人者のトークショー	通年	○	○	○	○		
静岡県 富士山世界遺産センター	公開講座	センターで、富士山の自然や文化、世界文化遺産富士山についての基礎的な内容について学習する講座。	毎月1回程度 具体的な日程は センターHPに掲載	○	○	○	○	静岡県富士山世界遺産センター (0544-21-3776)	P.26
	ファミリーイベント	富士山の自然や文化、世界文化遺産富士山について楽しく学習していただくために、来館した子どもや子ども連れのご家族向けに、クイズシートを配布し、クイズラリー。	ゴールデンウィーク、 夏休み、 お正月など	○	○	○	○		

ふじのくに文化教育プログラム／個人向け

実施機関	事業名	事業の概要	実施時期	対象				問合せ先 (電話番号)	参照ページ
				小学生	中学生	高校生	特別支援		
静岡県埋蔵文化財センター	フェスタ埋文	県民の日に、主に小学生以下の児童を対象に火起こしや勾玉作りなどの体験を行うイベント	8月頃	○	○	○	○	静岡県埋蔵文化財センター (054-385-5500)	P.28
グランシップ	高校生アートラリー	県内の文化施設と連携し、県内各地のホールや劇場で行われる対象公演に会場ごとに1ポイントがつき、3ポイントためると、「ファミリーチケット」(ペアチケット)をもらえなくプレゼント	通年			○		県文化財団事業課 (054-204-5714)	P.39
静岡県文化政策課	ふじのくに子ども芸術大学	第一線で活躍するアーティスト等との交流を通じ、優れた文化芸術に出会い身近に親しむ体験・創造講座	7月～11月	○	○			ふじのくに子ども芸術大学 実行委員会(県文化政策課) (054-221-2252)	P.42
	ふじのくに芸術祭 美術部門 (美術展・書道展・写真展)	15歳以上(中学生除く)対象の公募展	募集:6月～10月頃			○	○	県文化政策課文化振興班 (054-221-2254)	P.43
	ふじのくに芸術祭 文芸コンクール	15歳以上(中学生除く)対象の文芸コンクール(散文・韻文、計9種目)	募集:6月～9月頃			○	○		
	ふじのくに芸術祭 高校生短歌・俳句・川柳コンクール	高校生対象の短歌・俳句・川柳コンクール	募集:6月～9月頃			○	○		
	伊豆文学賞	静岡県内を題材・素材にした文学作品を全国から募集	募集:5月～9月末	○	○	○	○		



発行 静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課
〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6
TEL/054-221-2252 FAX/054-221-2827
E-mail/arts@pref.shizuoka.lg.jp

発行日 令和5年3月